

平成 21 年度 大阪湾広域廃棄物処理場整備事業

海生生物育成調査

報 告 書

平成 2 2 年 3 月

(財) ひょうご環境創造協会

目 次

第1章 調査概要

1. 調査目的	1
2. 調査実施日	1
3. 調査場所	1
4. 調査内容	3
5. 調査方法	4

第2章 春季調査結果

1. 水質調査	
(1) 一般観測	7
(2) 機器測定	9
2. 生物調査	
(1) 目視観察	14
(2) 枠取り採取および分析	32

第3章 秋季調査結果

1. 水質調査	
(1) 一般観測	36
(2) 機器測定	38
2. 生物調査	
(1) 目視観察	43
(2) 枠取り採取および分析	63

第4章 考察

1. 水質と付着生物の分布	
(1) 相対光量と海藻の分布	67
(2) DOと付着動物の分布	68
2. 生物調査結果に基づく総合評価	
(1) 評価対象	70
(2) 評価項目	70
(3) 評価方法	70
(4) 評価結果	70
3. まとめ	
(1) 水質と付着生物	75
(2) 総合評価	75
(3) 全体評価	75

資料編

- ・ 枠取り分析結果
- ・ 写真集

第1章 調査概要

1. 調査目的

本調査は、神戸沖、大阪沖、泉大津沖の各処分場において、潜水による生物の目視観察および採り採取を実施し、海生生物の生息状況、神戸沖処分場および大阪沖処分場に導入した緩傾斜式石積み護岸が有する「海生生物の生息環境の保全・創造効果」を検討することを目的とする。

2. 調査実施日

- ・ 春季調査 平成 21 年 5 月 23 日～平成 21 年 5 月 27 日
- ・ 秋季調査 平成 21 年 11 月 8 日～平成 21 年 11 月 21 日

3. 調査場所

(1) 神戸沖処分場

調査地点は、緩傾斜護岸である 1 地点（A-2）、傾斜護岸である 1 地点（A-4）、直立護岸である 2 地点（A-5、7）の計 4 点に設定した（図 1-3-1）。

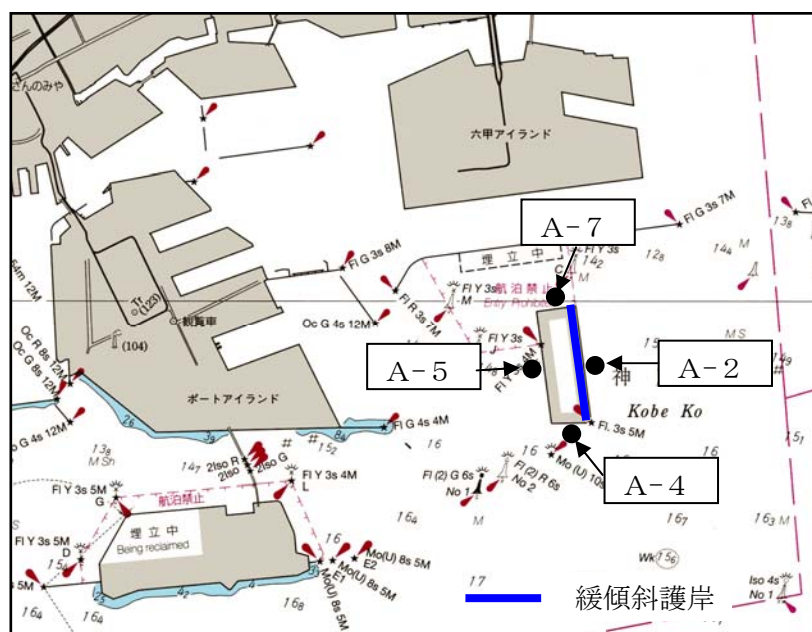


図 1-3-1 神戸沖処分場調査地点

(2) 大阪沖処分場

調査地点は、直立護岸である2地点（C-1、5）、傾斜護岸である1地点（C-2）、緩傾斜護岸である2地点（C-3、4）の計5点に設定した（図1-3-2）。

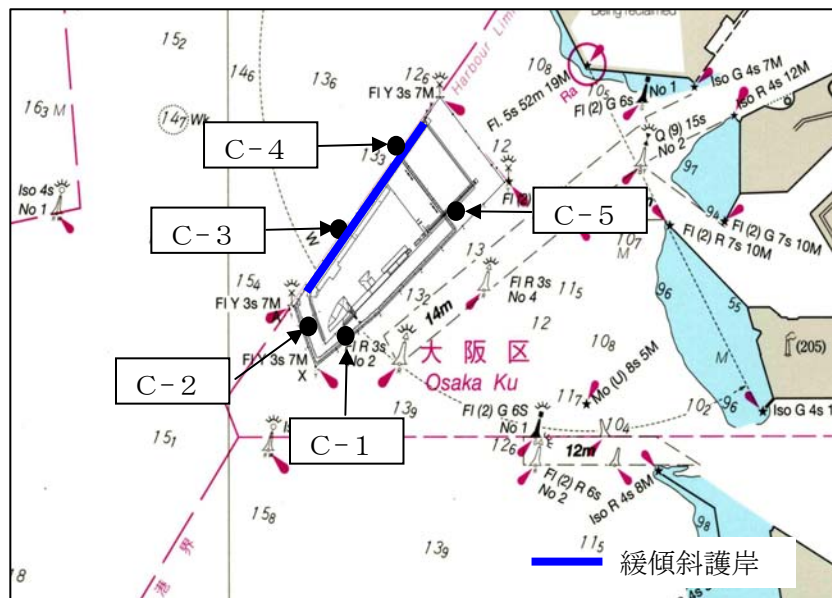


図1-3-2 大阪沖処分場調査地点

(3) 泉大津沖処分場

調査地点は、直立護岸である1地点（D-3）、傾斜護岸である1地点（D-2）、エコ岸壁2地点（D-5、6）の計4点に設定した。（図1-3-3）

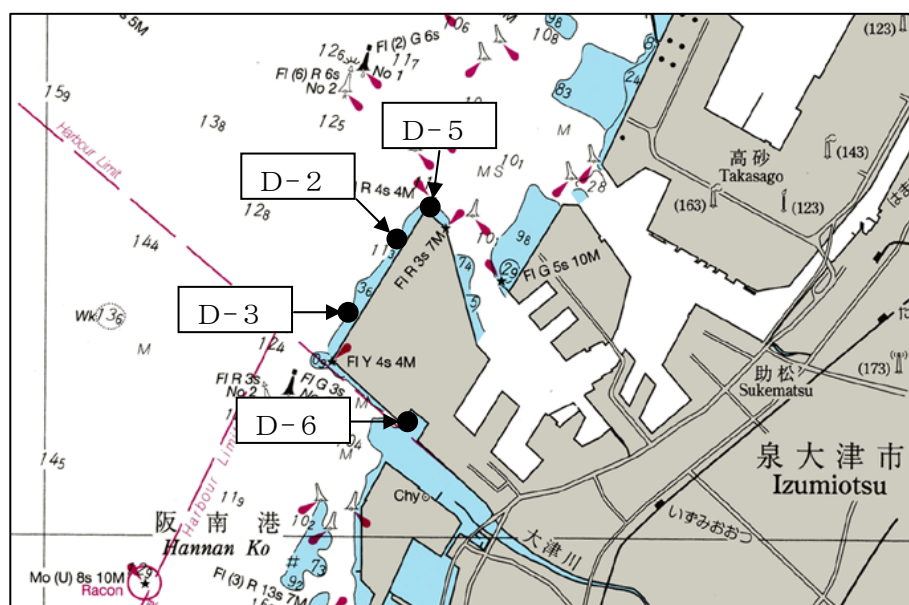


図1-3-3 泉大津沖処分場調査地点

4. 調査内容

調査内容は、各調査地点における水質環境を把握するための水質調査（一般観測・機器測定）、生物の分布状況を把握するための生物調査（目視観察・採取り試料の分析）とした。

調査内容および項目を表 1－4－1 に示した。

表 1－4－1 調査内容および項目

調査内容		調査項目	調査方法	地点数（地点名）
水質	一般観測	天候・雲量・気温 風向・風速・風浪階級 水色・透明度	目視観測・機器観測	10地点 （A－2、4、5、7） （C－1、2、3） （D－2、5、6）
	機器測定	水温・塩分・DO・光量	機器観測 （海面下0.5m、以深1m間隔）	
生物	目視観察	植物（種類・被度） 動物（種類・個体数・被度） 魚類（種類・個体数）	目視観察・写真撮影 ビデオ撮影	13地点 （A－2、4、5、7） （C－1、2、3、4、5） （D－2、3、5、6）
	採取り採取 および分析	植物（種類・湿重量） 動物（種類・個体数・湿重量）	採取り採取・写真撮影 室内分析	

5. 調査方法

(1) 水質調査

水質調査は神戸沖処分場の4地点、大阪沖処分場の3地点および泉大津沖処分場の3地点において行った（表1-4-1参照）。

① 一般観測

天候および雲量、風浪階級を船上で目視観測によって記録した。このほかに、気温をアスマン乾湿計で、風向・風速をビラム通風計で、水色を標準色カードで、透明度を透明度板で船上から測定した。

② 機器測定

水温、塩分、DO（溶存酸素）、光量（光量子束密度）の4項目について、水質測定機器を使用し、船上から機器のセンサーを海中に投下し、海面下0.5m層、海面下1m以深については1m間隔の各層の測定を行った（図1-5-1）。

光量では、海面上の光量子束密度を100%として海面下各層の相対光量（%）の値を算出した。

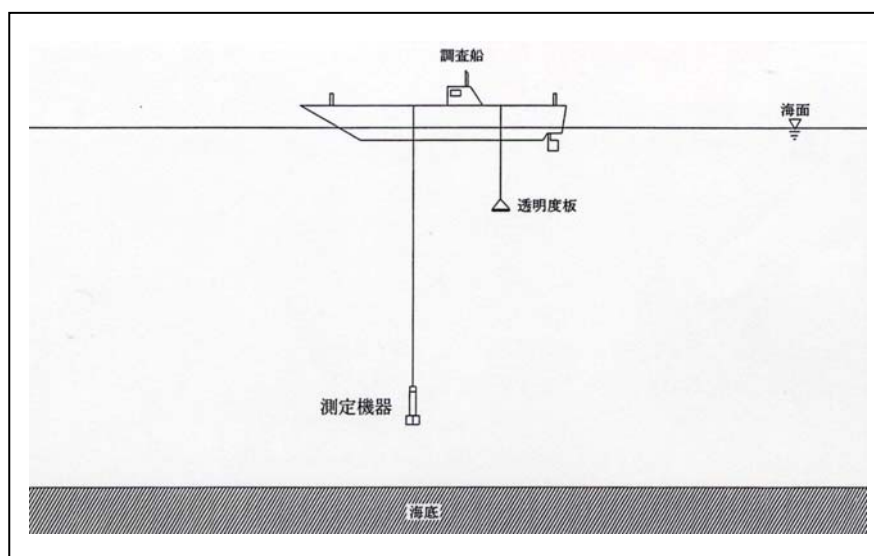


図1-5-1 機器測定状況

(2) 生物調査

生物調査は神戸沖処分場（目視観察調査4地点、枠取り試料の分析1地点）、大阪沖処分場（目視観察調査5地点、枠取り試料の分析1地点）および泉大津沖処分場（目視観察調査4地点、枠取り試料の分析2地点）で実施した（表1-4-1参照）。

① 目視観察調査

目視観察調査では、平均海面＋1 mより海底面まで水深1 m間隔で50×50 cmの方形枠を設置し、方形枠内の植物（種類、被度）、動物（種類、個体数、被度）を潜水により観察し、写真撮影を行った。また、護岸周辺の魚類については±0 mより水深－2 mごとに水深2 m範囲内に確認される種類と大きさを記録し、個体数をCR法（表1－5－1参照）によって概略的に把握した（図1－5－3）。

D－5とD－6のエコ岸壁においては、図1－5－2に示すように、水深＋1 mより海底まで幅50 cm×高さ100 cmの範囲で連続的に動植物の目視観察と写真撮影を行った（図内↑部）。また、6つの遊水室のうち、中央部上下の2箇所をそれぞれ上室と下室として、可能な限りで動植物の潜水目視観察と写真撮影を行った（図内■部）。魚類については、エコ岸壁の遊水室内、周辺、および貫通孔の3つに分けて観察を行った。

これらの生物の目視観察と同時に、原則として表1－5－2の類型区分に従って底質の性状の観察を行った。

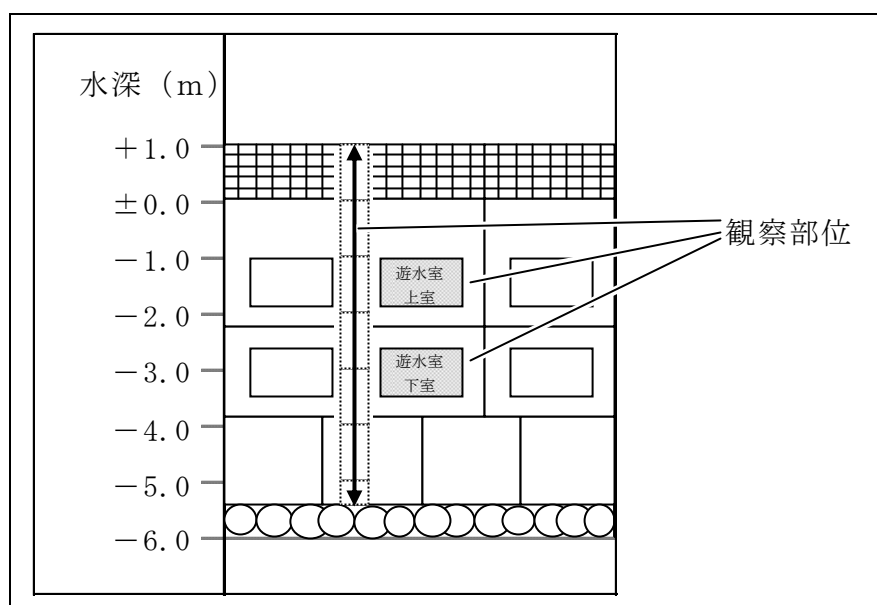


図1－5－2 D－5とD－6のエコ岸壁における観察部位

表1－5－1 CR法による個体数区分

記号	個体数区分
rr	1～2個体
r	3～10個体
c	11～50個体
cc	51個体以上

表 1－5－2 底質の類型区分

記号	区分の基準
B (ブロック)	－
R (岩盤)	－
S (転石)	等身大以上
Pl (巨礫)	等身大～大人の頭
Pm (大礫)	大人の頭～こぶし大
Ps (小礫)	こぶし大～米粒大
Sd (砂)	米粒大以下～粒子が認められる程度
Md (砂)	粒子が認められない

② 枠取り試料の分析

枠取り試料の分析では、調査地点の上層（平均海面±0 m）、中層（平均海面－2 m）、下層（平均海面－4 m）の3層より 50×50cm 枠内の付着生物試料を潜水士によって採取した。採取した試料は 10%ホルマリン溶液で固定して持ち帰り、1 mm ふるい上に残った生物の種類、個体数（動物のみ）、湿重量の分析を行った。

③ 目視および分析結果の表記

目視観察および枠取り採取による分析で出現した植物の分類は、吉田・吉永・中嶋編「日本産海藻目録（2000 年改訂版）」に従った。動物の分類は、門については「新日本動物図鑑（上・中・下）（1982）」、綱以下については、軟体動物門では奥谷編「日本近海産貝類図鑑（2000）」、節足動物門と棘皮動物門では西村編「原色検索日本海岸動物図鑑（Ⅱ）（1995）」、魚類では中坊編「日本産魚類検索（Ⅰ・Ⅱ）（2000）」、その他は原則として「新日本動物図鑑（上・中・下）」に従った。

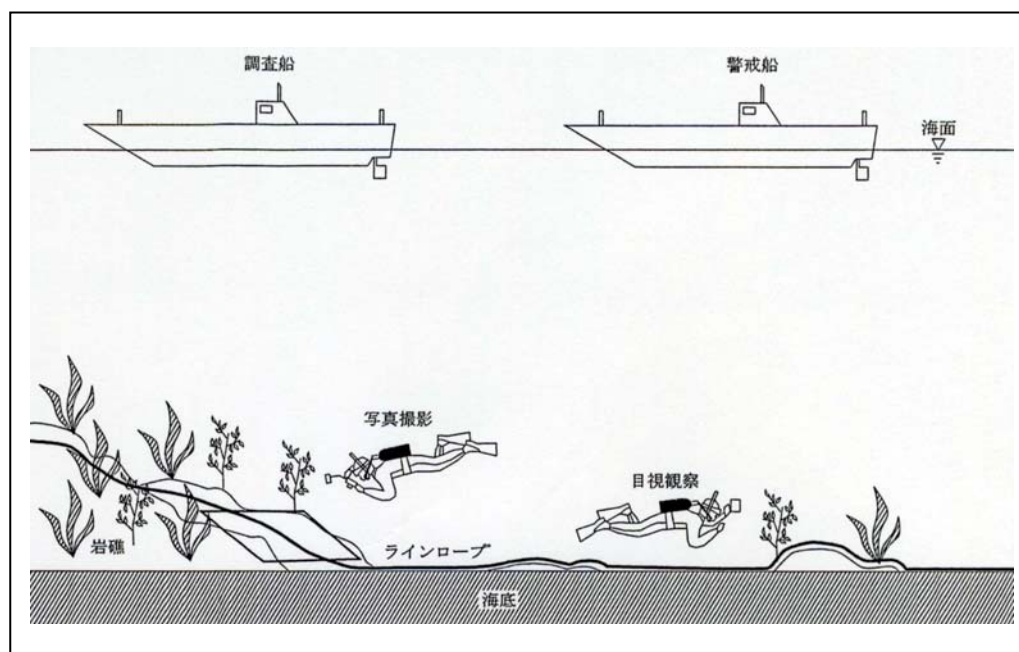


図 1－5－3 潜水作業状況

第2章 春季調査結果

1. 水質調査

(1) 一般観測

一般観測結果を表2-1-1に示した。

① 神戸沖処分場（平成21年5月24日）

神戸沖処分場の天気はくもりのち晴、雲量は4～10、気温は21.3～24.8℃、風浪階級は1、風速は0.0～2.7m/sで風向は西のち南西であった。透明度は2.1～2.5m、水色はすべての調査地点でボトルグリーンであった。

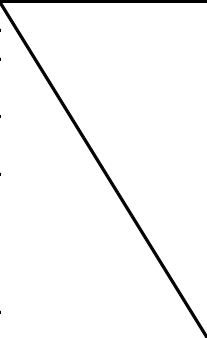
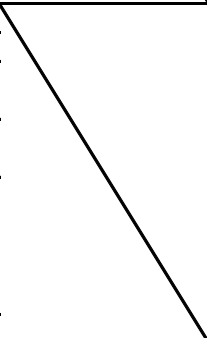
② 大阪沖処分場（平成21年5月27日）

大阪沖処分場の天気は晴のちくもり、雲量は8～10、気温は22.6～23.8℃、風浪階級は1、風速は0.0～3.2m/sで風向は南西であった。透明度は2.7～3.0m、水色はすべての調査地点でボトルグリーンであった。

③ 泉大津沖処分場（平成21年5月23日）

泉大津沖処分場の天気は晴、雲量は3～6、気温は21.6～26.4℃、風浪階級は0～1、風速は0.0～3.7m/sで風向は西であった。透明度は2.3～2.7m、水色はすべての調査地点でオリーブグリーンであった。

表 2 - 1 - 1 一般観測結果

神戸沖 (5月24日)	調査地点	A-2	A-4	A-5	A-7
	調査時間	11:35~12:01	9:07~9:27	10:11~10:29	11:00~11:18
	天気・雲量	晴・4	くもり・10	晴・5	晴・4
	気温	24.6℃	21.3℃	23.5℃	24.8℃
	風浪階級	1	1	1	1
	風速・風向	2.7m/s・南西	1.1m/s・西	calm	2.3m/s・南西
	透明度	2.1m	2.1m	2.4m	2.5m
	水色	ホトケグリーン 3G 3.0/4.5 	ホトケグリーン 3G 3.0/4.5 	ホトケグリーン 3G 3.0/4.5 	ホトケグリーン 3G 3.0/4.5 
大阪沖 (5月27日)	水深	15.7m	16.3m	12.1m	10.6m
	調査地点	C-1	C-2	C-3	
	調査時間	10:18~10:41	12:15~12:38	13:57~14:28	
	天気・雲量	晴・8	晴・8	くもり・10	
	気温	22.6℃	23.0℃	23.8℃	
	風浪階級	1	1	1	
	風速・風向	calm	1.0m/s・南西	3.2m/s・南西	
	透明度	2.7m	3.0m	2.9m	
	水色	ホトケグリーン 3G 3.0/4.5 	ホトケグリーン 3G 3.0/4.5 	ホトケグリーン 3G 3.0/4.5 	
泉大津沖 (5月23日)	水深	13.7m	14.8m	11.9m	
	調査地点	D-2	D-5	D-6	
	調査時間	9:40~10:07	11:40~12:05	13:55~14:30	
	天気・雲量	晴・3	晴・5	晴・6	
	気温	21.6℃	25.4℃	26.4℃	
	風浪階級	1	0	1	
	風速・風向	3.0m/s・西	calm	3.7m/s・西	
	透明度	2.7m	2.3m	2.5m	
	水色	オリーブグリー 3GY 3.5/5.0 	オリーブグリー 3GY 3.5/5.0 	オリーブグリー 3GY 3.5/5.0 	
	水深	12.0m	11.8m	11.4m	

(2) 機器測定

機器測定結果の概要を表 2-1-2 に、鉛直分布図を図 2-1-1 (1) ~ (3) に示した。

① 神戸沖処分場

神戸沖処分場の水温は 14.8~20.0℃、塩分は 26.9~32.5、DO は 3.4~12.4mg/L、相対光量は 0.1~95.7% (光量子束密度 1.0~2191.0 $\mu\text{E}/\text{m}^2/\text{sec}$) の範囲であった。各調査地点の水温と塩分の範囲には大きな差がみられなかったが、水温の最低値は A-2 で最も低く、かつ最高値も A-2 で最も高かった。塩分の最低値は A-2 で最も低かった。DO の最低値は A-2 で最も低く、最高値も A-2 でやや高い値を示した。相対光量の最高値は、A-2、5 で高く、A-4、7 で低かった。

鉛直分布をみると、水温は 4 地点とも深くなるにつれて徐々に低くなる傾向がみられたが、A-2 では、表層でやや高い値を示し、水深 2~3 m で急激に低下した。塩分は 4 地点とも深くなるにつれて徐々に上昇する傾向がみられたが、A-2 では、水深 2~3 m で上昇が顕著であった。DO は 4 地点とも深くなるにつれて減少する傾向がみられた。相対光量は 4 地点とも底層にかけて減少していた。相対光量は A-2、4、5 の水深 11m で 1% 未満となったが、A-7 では水深が浅く底層でも 1% 以上あった。

② 大阪沖処分場

大阪沖処分場の水温は 16.0~18.8℃、塩分は 29.3~32.5、DO は 5.9~10.1mg/L、相対光量は 0.1~73.0% (光量子束密度 0.9~882.7 $\mu\text{E}/\text{m}^2/\text{sec}$) の範囲であった。各調査地点の水温・塩分・DO の範囲にはほとんど差がみられなかったが、水温の最高値は C-3 でやや高かった。

鉛直分布をみると、水温は 3 地点とも深くなるにつれて徐々に低くなる傾向がみられた。塩分は 4 地点とも深くなるにつれて徐々に上昇する傾向がみられたが、C-1 では、水深 3~4 m で上昇が顕著であった。DO は 3 地点とも概ね深くなるにつれて減少する傾向がみられた。相対光量は 3 地点とも底層にかけて減少し、減衰傾向はほぼ同じであった。相対光量は C-1 の水深 9 m、C-2 の水深 10m で 1% 未満となったが、C-3 では水深が浅く底層でも 1% 以上あった。

③ 泉大津沖処分場

泉大津沖処分場の水温は 15.1~21.5℃、塩分は 26.5~32.2、DO は 2.4~12.3mg/L、相対光量は 0.3~96.0% (光量子束密度 5.1~2134.5 $\mu\text{E}/\text{m}^2/\text{sec}$) の範囲であった。各調査地点の水温の範囲にはほとんど差がみられなかったが、塩分の最低値は D-6 でやや低かった。

鉛直分布をみると、水温は 3 地点とも深くなるにつれて低くなる傾向がみられたが、D-6 では、表層から水深 3 m まで急激に低下した。塩分は 3 地点とも深くなるにつれて徐々に上昇する傾向がみられたが、D-6 では、表層から水深 3 m で上昇が顕著であった。DO は 3 地点とも深くなるにつれて減少する傾向がみられたが、D-5 では水深 2~3 m で急激な低下が見られた。相対光量は 3 地点とも底層にかけて減少し、減衰傾向はほぼ同じであった。相対光量は D-2、5 の水深 10m、D-6 の水深 8 m で 1% 未満となった。

表 2－1－2 水質測定結果概要表

項目(単位) 調査地点		水温 (℃)	塩分 (－)	D O (mg/L)	相対光量 (%)	光量子束密度 ($\mu\text{E}/\text{m}^2/\text{sec}$)
神戸沖	A－2	14.8 ～ 20.0	26.9 ～ 32.5	3.4 ～ 12.4	0.2 ～ 95.7	4.7 ～ 2191.0
	A－4	15.8 ～ 18.5	28.1 ～ 32.4	6.6 ～ 10.2	0.1 ～ 43.7	1.0 ～ 337.1
	A－5	15.9 ～ 18.6	28.8 ～ 32.3	6.5 ～ 10.7	1.0 ～ 93.2	12.0 ～ 1140.1
	A－7	15.1 ～ 19.0	27.9 ～ 32.2	4.9 ～ 11.1	1.3 ～ 52.0	27.6 ～ 1114.0
大阪沖	C－1	16.0 ～ 17.5	29.3 ～ 32.5	6.4 ～ 9.5	0.1 ～ 52.0	1.0 ～ 784.0
	C－2	16.1 ～ 17.8	30.8 ～ 32.5	6.4 ～ 9.8	0.1 ～ 73.0	0.9 ～ 882.7
	C－3	16.1 ～ 18.8	30.6 ～ 32.5	5.9 ～ 10.1	1.2 ～ 62.4	7.2 ～ 368.1
泉大津沖	D－2	15.1 ～ 18.9	29.2 ～ 32.2	2.8 ～ 11.2	0.6 ～ 96.0	20.5 ～ 2134.5
	D－5	15.3 ～ 20.3	29.1 ～ 32.1	4.0 ～ 12.3	1.0 ～ 92.9	22.2 ～ 2080.3
	D－6	15.2 ～ 21.5	26.5 ～ 32.1	2.4 ～ 9.6	0.3 ～ 81.7	5.1 ～ 1544.0

調査場所：神戸沖処分場
調査日：平成21年5月24日

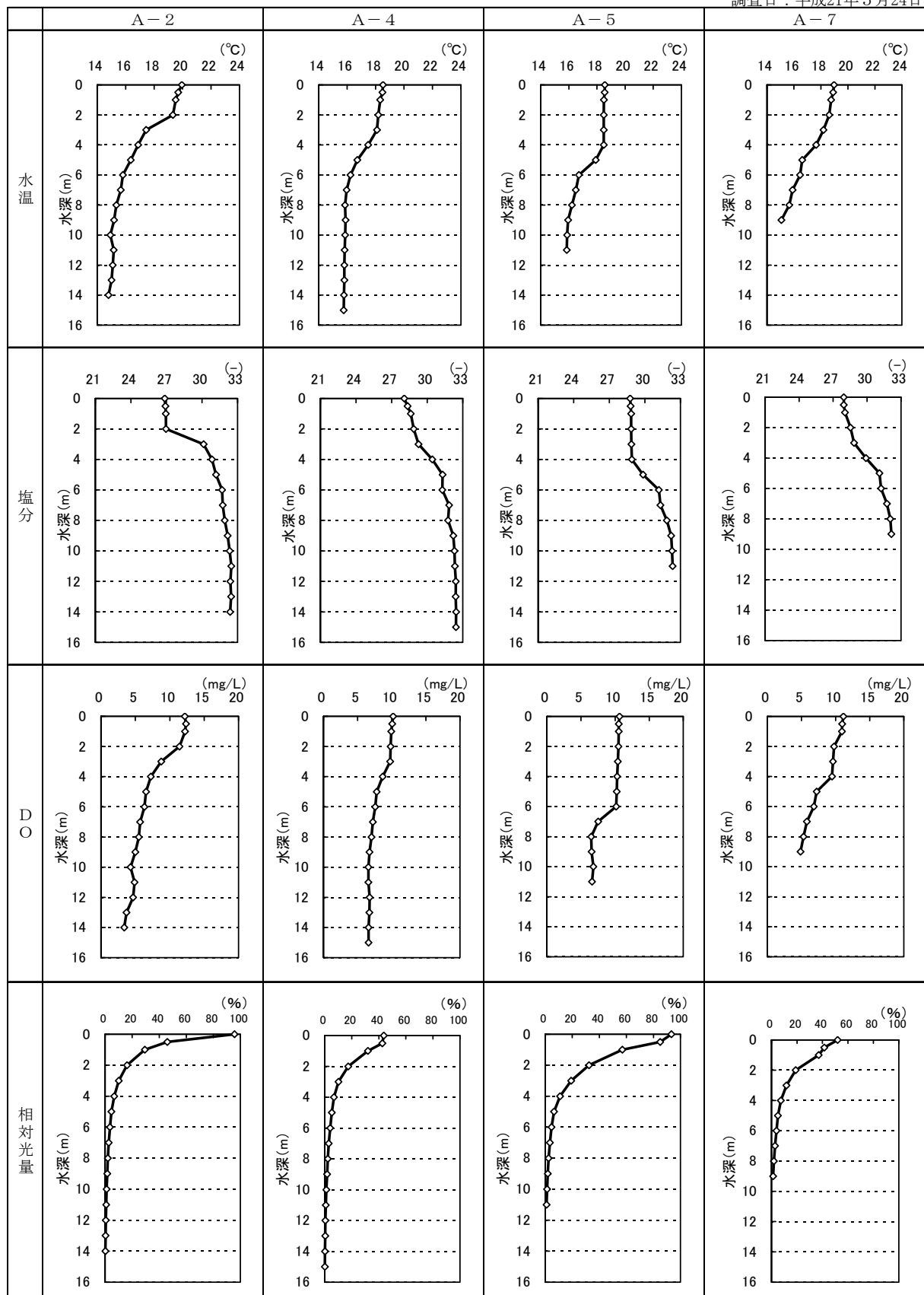


図2-1-1 (1) 水質の鉛直分布

調査場所：大阪沖処分場
調査日：平成21年5月27日

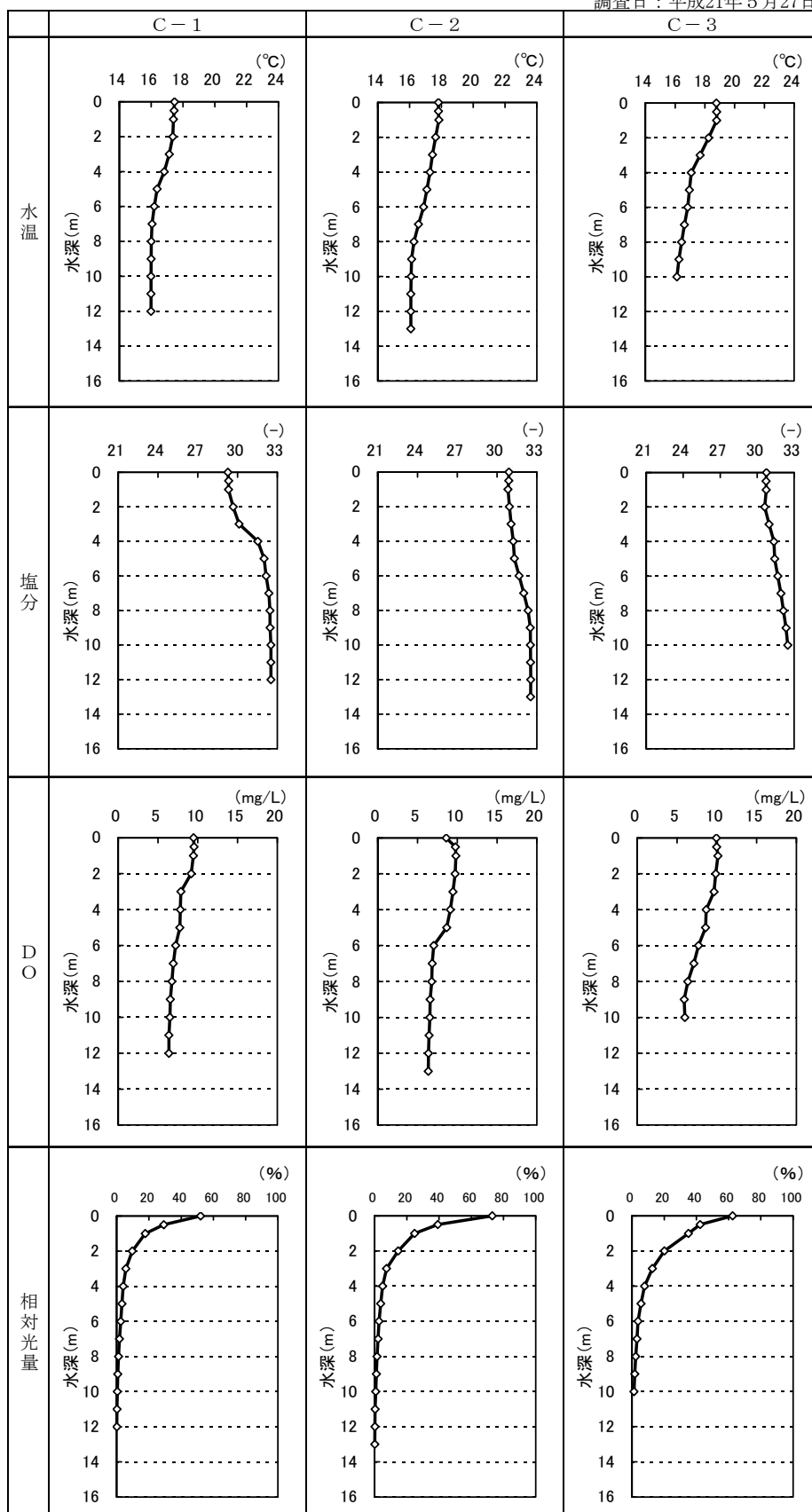


図2-1-1(2) 水質の鉛直分布

調査場所：泉大津沖処分場
調査日：平成21年 5月23日

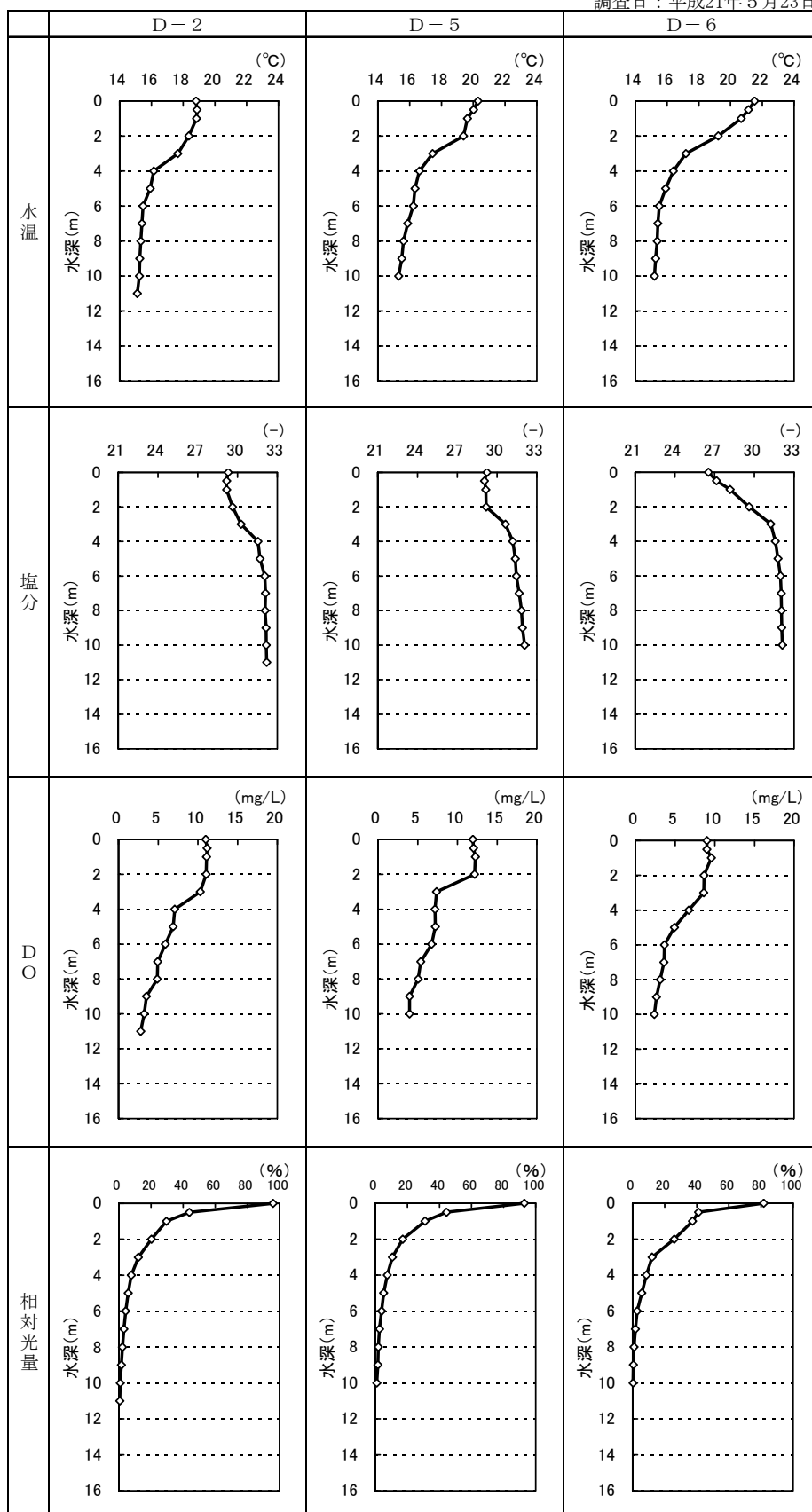


図 2-1-1 (3) 水質の鉛直分布

2. 生物調査

(1) 目視観察

① 植物

A. 神戸沖処分場

神戸沖処分場の植物の目視観察結果を表2-2-1(1)～(4)に示した。

調査地点A-2では、平均海面+1～-9mに分布し、15種類が確認された。種類数が多かったのは-4mで7種類であった。被度30%以上の種類は、+1mで緑藻綱のアオサ属が90%、-1mと-4mで紅藻綱のベニスナゴが75%と50%、-5～6mで紅藻綱のススカケベニが80～90%であった。藻場構成種は-1mで褐藻綱のタマハハキモクが5%未満で確認された。

調査地点A-4では、平均海面±0～-9mに分布し、11種類が確認された。種類数が多かったのは-3mと-5mで6種類であった。被度30%以上の種類は、-4mでアオサ属が40%、-3～6mでベニスナゴが30～75%、-6mと-8mでススカケベニが40%と50%であった。藻場構成種は-3mと-5mでタマハハキモクが5%未満で確認された。

調査地点A-5では、平均海面±0～-9mに分布し、6種類が確認された。種類数が多かったのは-4m、-7mおよび-9mで3種類であった。被度30%以上の種類は、-2mでアオサ属が30%であった。藻場構成種は確認されなかった。

調査地点A-7では、平均海面±0mと-3～8mに分布し、7種類が確認された。種類数が多かったのは-4mと-6mで3種類であった。被度30%以上の種類は、-4mでベニスナゴが30%であった。藻場構成種は確認されなかった。

C. 大阪沖処分場

大阪沖処分場の植物の目視観察結果を表2-2-1(5)～(9)に示した。

調査地点C-1では、平均海面±0～-9mに分布し、11種類が確認された。種類数が多かったのは-3mで9種類であった。被度30%以上の種類は、-1～2mで紅藻綱のフダラクが30～40%、-3m、-6mおよび-7mでススカケベニが30～65%、-5mでベニスナゴが35%であった。藻場構成種は-3～6mで褐藻綱のシダモクが5%未満～15%、-3mでタマハハキモクが5%未満で確認された。

調査地点C-2では、平均海面±0～-10mに分布し、13種類が確認された。種類数が多かったのは-2m、-4mおよび-5mで7種類であった。被度30%以上の種類は、-1mでフダラクが55%、-5～9mでススカケベニが45～85%であった。藻場構成種は-3mでタマハハキモクが10%、-3～4mでシダモクが5%未満～5%で確認された。

調査地点C-3では、平均海面±0～-10mに分布し、10種類が確認された。種類数が多かったのは-3mで5種類であった。被度30%以上の種類は、±0～-1mでアオサ属が35～40%、-1mでフダラクが40%、-5～9mでススカケベニが45～70%、-3～4mでベニスナゴが60～65%であった。藻場構成種は-2mでタマハハキモクが

10%で確認された。

調査地点C-4では、平均海面±0～-10mに分布し、8種類が確認された。種類数が多かったのは-4mで5種類であった。被度 30%以上の種類は、±0～-3mでアオサ属が35～85%、-1mでフダラクが30%、-4mでベニスナゴが30%、-5～8mでススカケベニが30～70%、-5mで紅藻綱のイギス科が30%であった。藻場構成種は-2mでタマハハキモクが5%で確認された。

調査地点C-5では、平均海面±0m～-9mに分布し、7種類が確認された。種類数が多かったのは-3mで5種類であった。被度 30%以上の種類は、-1～2mでアオサ属が35～70%、-3～8mでススカケベニが50～80%であった。藻場構成種は-3mでタマハハキモクが5%未満で確認された。

D. 泉大津沖処分場

泉大津沖処分場の植物の目視観察結果を表2-2-1(10)～(13)に示した。

調査地点D-2では、平均海面±0～-9mに分布し、17種類が確認された。種類数が多かったのは-4mで8種類であった。被度 30%以上の種類は、-1～2mでフダラクが30～85%、-4mで紅藻綱のツノマタ属が60%、-5～6mで紅藻綱のカバノリが45～55%であった。藻場構成種は-1～3mで褐藻綱のワカメが5%未満～25%で確認された。

調査地点D-3では、平均海面±0～-9mに分布し、7種類が確認された。種類数が多かったのは-8mで4種類であった。被度 30%以上の種類は、-6mで紅藻綱のイトグサ属が60%であった。藻場構成種は-3～4mでワカメが5%未満で確認された。

調査地点D-5では、壁面の平均海面+1～-5.5mに分布し、9種類が確認されたが、遊水室内では確認されなかった。種類数が多かったのは、壁面の+1～±0m、±0～-1m、-2～3m、-3～4mで3種類であった。被度 30%以上の種類は、+1mで緑藻綱のアオノリ属が70%であった。藻場構成種は-5～5.5mでワカメが5%未満で確認された。

調査地点D-6では、壁面の平均海面+1～-5mに分布し、6種類が確認されたが、遊水室内では確認されなかった。種類数が多かったのは、壁面の-1～2m、-2～3m、-3～4mで3種類であった。被度 30%以上の種類は、+1～±0mでアオサ属が35%であった。藻場構成種は-2～3mでワカメが5%未満で確認された。

表 2-2-1 (1) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-2)

平成21年 5月24日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂 小礫
緑藻綱	アオサ属	90	20	+	10	+	+	+	+				
	シオグサ属				+								
褐藻綱	タマハハキモク			+									
	フクロノリ				+								
紅藻綱	ヒメテングサ	+											
	フダラク		10										
	ツルツル		+										
	ベニスナゴ												
	ムカデノリ			75	25	20	50	+					
	イギス科				+	+	+			5	+	+	
	マクサ					5	+	+					
	ススカケベニ					+	10	80	90	10	+		
	カバノリ						+						
	ミリン								+				
	イワノカワ科									+			
出現種類数 (15)		2	3	3	6	6	7	4	3	3	2	1	-

注：数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

表 2-2-1 (2) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-4)

平成21年 5月24日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名		基質											
		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	砂 小礫
緑藻綱	アオサ属		+	+	+	10	40						
	タマハハキモク					+		+					
紅藻綱	ツノマタ属		+			+							
	フダラク			20	25	5	+						
	オキツノリ				+								
	ベニスナゴ					75	50	75	30	+			
	イギス科					+				+		+	
	ススカケベニ						+	+	40	+	50	+	
	マクサ							+	+				
	マサゴシバリ							+	+				
	サビ亜科							10	+	+	+	+	
	出現種類数 (11)		-	2	2	3	6	4	6	5	4	2	3

注：数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

表 2-2-1 (3) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-5)

平成21年 5月24日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	
種類名		基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	砂 大礫	
緑藻綱	アオサ属		+	20	30									
紅藻綱	イワノカワ科					+	+	+	+			+		
	ベニスナゴ						+							
	サビ亜科						+	+	+	+				
	イギス科									+	25	+		
	ススカケベニ									+		+		
出現種類数 (6)			-	1	1	1	1	3	2	2	3	1	3	-

注：数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

表 2-2-1 (4) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-7)

平成21年 5月24日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8
種類名		基質	ケーソン	矢板	矢板	矢板	小礫砂	小礫砂	小礫砂	小礫砂	小礫砂
緑藻綱	アオサ属		10								
紅藻綱	ススカケベニ					+	+	10	5	+	
	マクサ						+				
	ベニスナゴ						30			+	
	ミリン							+			
	カバノリ								+		
	イギス科								+		+
出現種類数 (7)		-	1	-	-	1	3	2	3	2	1

注：数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

表 2-2-1 (5) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-1)

平成21年 5月27日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-3	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑藻綱	アオノリ属		+												
	シオグサ属		+	+											
褐藻綱	アオサ属			10	5		+	+	+	+	+		+		
	フクロノリ					+	+	+	+	+	+				
紅藻綱	シダモク					+	+	15	+	+	+				
	タマハハキモク					+	+	+	+	+	+				
紅藻綱	フダラク			30	40	15	15	5							
	イギス科			+		10	+	+	15	5	+	10	+	5	
紅藻綱	ススカケベニ					30	10	10	15	15	65	45	10	+	
	ベニスナゴ						25	15	25	35	5				
紅藻綱	ムカデノリ						+	+	+	+	+				
	イギス科														
出現種類数 (11)		-	2	5	2	4	8	9	5	6	5	2	3	2	-

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 2-2-1 (6) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-2)

平成21年 5月27日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
質	基	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑藻綱	アオサ属		10	15	+		5	5					
	シダモク					+	5						
褐藻綱	タマハハキモク					10							
	フダラク				55	5	15	10					
紅藻綱	ベニスナゴ				15	20	15	5					
	ススカケベニ				10		15	80	75	50	85	45	+
紅藻綱	ツノマタ属				+				+				
	ムカデノリ				+	+		+	+				
紅藻綱	イギス科				+		10	+					
	ヒメコザネ					+	5	10					
紅藻綱	イワノカワ科							+	20	15	15	10	
	タオヤギソウ									10			
紅藻綱	サビ亜科									+			
出現種類数 (13)		-	1	2	7	6	7	7	4	4	2	2	1

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 2-2-1 (7) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-3)

平成21年 5月27日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑藻綱	アオサ属		40	35	+	+	+	+					
	フクロノリ			+									
褐藻綱	タマハハキモク				10								
	フダラク			40	15	15							
紅藻綱	ススカケベニ				10	5	10	45	70	70	55	65	+
	ベニスナゴ					60	65	20					
紅藻綱	イワノカワ科					+							
	カバノリ						5						
藍藻綱	イギス科							5	10	20	25	15	
	藍藻綱		+										
出現種類数 (10)		-	2	3	4	5	4	4	2	2	2	2	1

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 2-2-1 (8) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-4)

平成21年 5月27日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑藻綱	アオサ属		35	85	70	75	10	+	+				
	タマハハキモク				5								
褐藻綱	フダラク			30	20								
	カバノリ				5	15	15	5					
紅藻綱	ベニスナゴ					5	30						
	ススカケベニ					10	10	55	70	55	30	20	+
紅藻綱	タオヤギソウ						+		+	10	+	5	
	イギス科							30	25	15	10	5	
出現種類数 (8)		-	1	2	4	4	5	4	4	3	3	3	1

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 2-2-1 (9) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-5)

平成21年5月27日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9
種類名		基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑藻綱	アオサ属		5	35	70	20	+	10					
	アオノリ属		+										
褐藻綱	タマハハキモク					+							
紅藻綱	フダラク			+		5							
	ハイウスパノリ属					+							
	ススカケベニ					25	65	55	80	50	70	65	+
	ベニスナゴ						15	25					
出現種類数 (7)		-	2	2	1	5	3	3	1	1	1	1	1

注：数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

表 2-2-1 (10) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-2)

平成21年5月23日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
種類名		基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
緑藻綱	アオサ属		+		+	+	+									
	シオグサ属		+													
	ミル			+												
	アオノリ属			+												
褐藻綱	ワカメ			25	10	+										
紅藻綱	フダラク		15	30	85		5									
	ベニスナゴ			+					20							
	ムカデノリ			+			+									
	ススカケベニ					15				10	5	+				
	タオヤギソウ					+	+	5	15	10						
	ツノマタ属					+	60	+								
	カバノリ						+	45	55	+						
	イトグサ属					15	+	+	+		+					
	イワノカワ科						+	+								
	マクサ							+								
	イギス科							+		+	5	+				
	タジテ属											+				
出現種類数 (17)		-	3	6	4	6	8	7	4	4	3	3	-	-	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

表 2-2-1 (11) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-3)

平成21年5月23日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
種類名		基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
緑藻綱	シオグサ属		+													
	アオノリ属			+												
褐藻綱	ワカメ					+	+									
紅藻綱	イギス科			+	+	+	10	20		+	+					
	ススカケベニ								25		+	+				
	イトグサ属								60		10					
	タオヤギソウ										5					
出現種類数 (7)		-	1	2	1	2	2	1	3	1	4	1	-	-	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

表 2-2-1 (12) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-5)

平成21年5月23日

観察場所		エロ岸壁										遊水室					
平均海面 (m)		+1	+1~±0	±0~-1	-1~-2	-2~-3	-3~-4	-4~-5	-5~-5.5	上室			下室				
種類名		基質または部位	ケーソン	綱金網石	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	上面	側面	下面	上面	側面	下面		
緑藻綱	アオノリ属		70	15	+												
	アオサ属			+	+	+	+										
	シオグサ属				+		+										
	ワカメ								+								
紅藻綱	フダラク			+													
	ムカデノリ					+											
	イギス科					+											
	タオヤギソウ						+	+	+								
藍藻綱	藍藻綱			+													
出現種類数 (9)			1	3	3	2	3	3	1	2	-	-	-	-	-	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

表 2-2-1 (13) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-6)

平成21年5月23日

観察場所		エコ岸壁								遊水室					
平均海面 (m)		壁面								上室			下室		
基質または部位		+1	+1～±0	±0～-1	-1～-2	-2～-3	-3～-4	-4～-5	-5～-5.5	上面	側面	下面	上面	側面	下面
種類名		ケーソン	鋼金網石	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン						
緑藻綱	アオサ属		35		+	+	+								
	アオノリ属			+											
	シオグサ属				+										
褐藻綱	ワカメ					+									
紅藻綱	イギス科				+	+	+	+							
	タオヤギソウ						+								
出現種類数 (6)		-	1	1	3	3	3	1	-	-	-	-	-	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

② 動物

A. 神戸沖処分場

神戸沖処分場の動物の目視観察結果を表 2-2-2 (1) ~ (4) に示した。

調査地点 A-2 では、平均海面 +1 ~ -10m に分布し、9 種類が確認された。種類数が多かったのは -3 m、-5 m、-6 m で 4 種類であった。被度 30% 以上の種類は、-2 m で環形動物門のカンザシゴカイ科が 80%、±0 ~ -1m で軟体動物門のムラサキイガイが 70~100% であった。個体数で一桝 (0.25 m²) あたりに最も多かった種類は、棘皮動物門のイトマキヒトデで、-7 m で 3 個体であった。

調査地点 A-4 では、平均海面 +1 ~ -7 m と -9 m に分布し、13 種類が確認された。種類数が多かったのは ±0 m と -2 m で 6 種類であった。被度 30% 以上の種類は、-1 ~ -2 m でカンザシゴカイ科が 70%、-1 m でムラサキイガイが 75%、+1 m で節足動物門のイワフジツボが 30% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類は、+1 m で軟体動物門のアラレタマキビが 110 個体、±0 m で軟体動物門のカラマツガイが 30 個体、±0 m で軟体動物門のイボニシが 16 個体であった。

調査地点 A-5 では、平均海面 +1 ~ -10m に分布し、23 種類が確認された。種類数が多かったのは -1 m で 7 種類であった。被度 30% 以上の種類は、-1 m でムラサキイガイが 60%、±0 m でイワフジツボが 30% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類は、+1 m でアラレタマキビが 30 個体、-1 m で軟体動物門のレイシガイが 10 個体であった。

調査地点 A-7 では、平均海面 +1 ~ -8 m に分布し、10 種類が確認された。種類数が多かったのは -6 m で 4 種類であった。被度 30% 以上の種類は、-2 ~ -3 m でカンザシゴカイ科が 30~95%、±0 ~ -1 m でムラサキイガイが 75~100% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類は、+1 m でアラレタマキビが 30 個体、-1 m と -3 m でイトマキヒトデが 22 個体と 20 個体であった。

C. 大阪沖処分場

大阪沖処分場の動物の調査結果を表 2-2-2 (5) ~ (9) に示した。

調査地点 C-1 では、平均海面 ±0 ~ -10m に分布し、24 種類が確認された。種類数が多かったのは -3 m と -6 m で 7 種類であった。被度 30% 以上の種類は、-2 m で海綿動物門が 30%、-3 ~ -5 m でカンザシゴカイ科が 60~95%、±0 ~ -1 m でムラサキイガイが 70~75% であった。個体数で一桝あたりの個体数が最も多かった種類は、軟体動物門のムギガイが -3 m で、棘皮動物門のマナマコが -6 m でそれぞれ 3 個体であった。

調査地点 C-2 では、平均海面 +1 ~ -10m に分布し、26 種類が確認された。種類数が多かったのは -4 m で 8 種類であった。被度 30% 以上の種類は、-2 ~ -5 m でカンザシゴカイ科が 35~100%、±0 ~ -1 m でムラサキイガイが 65% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類は、+1 m でアラレタマキビが 56 個体であった。

調査地点 C-3 では、平均海面 +1 ~ -10m に分布し、21 種類が確認された。種類数が多かったのは -6 m で 8 種類であった。被度 30% 以上の種類は、-2 ~ -3 m でカンザシゴカイ科が 30~95%、-1 m でムラサキイガイが 70%、±0 m でイワフジツボが 70% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類は、±0 m でカラマツガイが 11

個体であった。

調査地点C-4では、平均海面+1～-10mに分布し、19種類が確認された。種類数が多かったのは-2mで7種類であった。被度30%以上の種類は、-1mでカンザシゴカイ科が30%、±0～-2mでムラサキイガイが55～80%、-3mで節足動物門のサンカクフジツボが30%であった。個体数で一桝あたり10個体以上みられた種類は、+1mでアラレタマキビが43個体、±0mでカラマツガイが15個体であった。

調査地点C-5では、平均海面±0～-9mに分布し、20種類が確認された。種類数が多かったのは-6mで11種類であった。被度30%以上の種類は、-1～3mでカンザシゴカイ科が75～100%、±0mでムラサキイガイが70%であった。個体数で一桝あたりに最も多かった種類はレイシガイで、-1mで4個体であった。

D. 泉大津沖処分場

泉大津沖処分場の動物の調査結果を表2-2-2(10)～(13)に示した。

調査地点D-2では、平均海面+1～-12mに分布し、22種類が確認された。種類数が多かったのは±0mで10種類であった。被度30%以上の種類は、±0と-2mでムラサキイガイが70%と45%であった。個体数で一桝あたり10個体以上みられた種類は、+1mでアラレタマキビが27個体であった。

調査地点D-3では、平均海面+1～-13mに分布し、17種類が確認された。種類数が多かったのは-2mで8種類であった。被度30%以上の種類は、-3～4mでカンザシゴカイ科が50～85%、±0～-2mでムラサキイガイが35～75%、±0mでイワフジツボが55%であった。個体数で一桝あたり10個体以上みられた種類は、+1mでアラレタマキビが21個体、±0mでカラマツガイが12個体であった。

調査地点D-5では、壁面の平均海面+1～-5.5m、遊水室の上室および下室に分布し、21種類が確認された。種類数は壁面では19種類、遊水室内では上室において12種類、下室において9種類で、種類数が多かったのは壁面の-1～2mと遊水室の上室上面で9種類であった。被度30%以上の種類は、壁面の-1～4mでカンザシゴカイ科が70～85%、壁面の+1～-1mでムラサキイガイが35～90%、遊水室内の上室の上面と側面でムラサキイガイが85～90%、下室の上面と側面で触手動物門のコケムシ綱が30～70%、下室の上面でムラサキイガイが60%であった。観察範囲に個体数が10個体以上みられた種類は、壁面では±0～-1mでムギガイが11個体、遊水室内では下室の上面にレイシガイが15個体であった。

調査地点D-6では、壁面の平均海面+1～-5.5m、遊水室の上室および下室に分布し、17種類が確認された。種類数は壁面では13種類、遊水室内では上室において10種類、下室において7種類で、種類数が多かったのは遊水室内の上室上面で8種類であった。被度30%以上の種類は、壁面の±0～-4mでカンザシゴカイ科が95～100%、+1～±0mで軟体動物門のマガキが40%、遊水室内の上室の上面と側面、下室の上面と側面でカンザシゴカイ科が85～100%であった。観察範囲に個体数が最も多かった種類は、壁面では-5～5.5mで棘皮動物門のキヒトデが2個体、遊水室内では下室の下面にマナマコが2個体であった。

表 2-2-2 (1) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-2)

平成21年 5月24日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂 小礫
種類名	海綿動物門				+								
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+										
環形動物門	カンザシゴカイ科			20	80	20	+	+	+				
触手動物門	コケムシ綱							+	+		+		
軟体動物門	ムラサキガイ	5	100	70									
	レイシガイ			(1)									
節足動物門	サンカクフジツボ					+	+	+	+				
棘皮動物門	イトマキヒトデ				(1)	(2)		(1)		(3)	(2)	(1)	
	キヒトデ					(1)	(2)		(1)	(2)	(1)		(1)
出現種類数(9)		1	2	3	3	4	3	4	4	2	3	1	1

注 1: 数値は被度 (%) を示し、+は 5%未満を示す。

注 2: () 内の数値は個体数を示す。

表 2-2-2 (2) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-4)

平成21年 5月24日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	砂 小礫
種類名	タテジマイソギンチャク		+										
腔腸動物門	イソギンチャク目			+	+								
	チギレイソギンチャク				+								
環形動物門	カンザシゴカイ科			70	70	25	+	+	+				
触手動物門	コケムシ綱				+								
軟体動物門	アラレタマキビ	(110)											
	カラマツガイ		(30)										
	イボニシ		(16)	(5)									
	レイシガイ		(1)	(1)									
	ムラサキガイ		25	75	10								
節足動物門	イワフジツボ	30	20										
棘皮動物門	キヒトデ				(1)	(1)	(1)	(4)					
	イトマキヒトデ					(1)	(1)	(1)		(1)		(2)	
出現種類数(13)		2	6	5	6	3	3	3	1	1	-	1	-

注 1: 数値は被度 (%) を示し、+は 5%未満を示す。

注 2: () 内の数値は個体数を示す。

表 2-2-2 (3) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-5)

平成21年 5月24日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	砂 大礫
種類名	タテジマイソギンチャク		+										
腔腸動物門	カンザシゴカイ科			10	+	5	5	+					
環形動物門	フサコケムシ科			+									
触手動物門	コケムシ綱			+	+								
軟体動物門	アラレタマキビ	(30)											
	ムラサキガイ		25	60	25								
	カラマツガイ		(5)										
	コガモガイ		(1)										
	レイシガイ			(10)									
	イボニシ			(3)									
	サザエ						(1)		(1)				
	コシダカガングラ						(5)	(3)	(2)	(1)			
節足動物門	イワフジツボ		30										
	サンカクフジツボ					+							
棘皮動物門	イトマキヒトデ			(2)	(1)	(4)	(4)	(3)			(1)	(3)	
	キヒトデ				(3)	(1)		(1)				(1)	(1)
	コケムシ綱				+	+							
	マナマコ					(1)		(1)	(3)		(2)		
	ムラサキウニ						(1)						
	サンショウウニ					(2)	(1)			(1)			
原索動物門	エボヤ								+		+		
	マボヤ									+	+		
	ホヤ綱 (単体性)									+			
出現種類数(23)		1	5	7	6	6	6	6	3	2	2	2	1

注 1: 数値は被度 (%) を示し、+は 5%未満を示す。

注 2: () 内の数値は個体数を示す。

表 2-2-2 (4) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-7)

平成21年5月24日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8
基質		ケーソン	矢板	矢板	矢板	矢板	小礫砂	小礫砂	小礫砂	小礫砂	小礫砂
種類名											
腔腸動物門	タデジマイソギンチャク		+								
環形動物門	カンザシゴカイ科				95	30	+	+	+		
触手動物門	コケムシ綱							+	+		+
軟体動物門	アラレタマキビ	(30)									
	ムラサキイガイ		75	100							
節足動物門	イワフジツボ		10								
棘皮動物門	イトマキヒトデ			(22)	(6)	(20)	(1)	(3)	(1)		
	キヒトデ			(4)					(1)	(1)	
	マナマコ				(1)						
原索動物門	エボヤ					+					
出現種類数 (10)		1	3	3	3	3	2	3	4	1	1

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

注2: () 内の数値は個体数を示す。

表 2-2-2 (5) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-1)

平成21年5月27日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-3	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
種類名															
海綿動物門	海綿動物門			+	30	5	+	10	25	10	+				
腔腸動物門	タデジマイソギンチャク			+											
	<i>Anthopleura</i> sp.			+	+										
	シオガマサンゴ												+	+	+
環形動物門	カンザシゴカイ科			15	25	95	15	90	60	65	+				
	ミズヒキゴカイ科								+	+					
	ウズマキゴカイ科										+	+		+	
触手動物門	コケムシ綱				10				+						+
軟体動物門	ムラサキイガイ		70	75											
	コシダカガンガラ						(1)								
	レイシガイ						(1)	(1)							
	シマメノウフネガイ						(1)								
	ムギガイ						(3)								
	イタボガキ科						+								
節足動物門	イワフジツボ		25												
棘皮動物門	マナマコ								(1)	(3)			(2)	(1)	(2)
	キヒトデ									(1)	(1)	(2)	(1)	(1)	(1)
	イトマキヒトデ									(1)	(2)			(1)	(1)
原索動物門	サンショウウユニ														(1)
	ホヤ綱 (群体性)			+	+	10			+						
	エボヤ				+	+									
	ホヤ綱 (単体性)					+				+					
	ナツメボヤ						+								
-	卵塊													+	
出現種類数 (24)		-	2	6	6	4	7	4	5	4	7	2	3	4	6

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

注2: () 内の数値は個体数を示す。

表 2-2-2 (6) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-2)

平成21年5月27日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
種類名													
海綿動物門	海綿動物門			10		5	5						
腔腸動物門	<i>Anthopleura</i> sp.			+									
	シオガマサンゴ									+			
環形動物門	カンザシゴカイ科				100	90	75	35	+				
	ミズヒキゴカイ科							+	+				
	ウズマキゴカイ科									+			
触手動物門	コケムシ綱							+	+				+
軟体動物門	タマキビ	(7)											
	アラレタマキビ	(56)											
	ムラサキイガイ		65	65									
	カラマツガイ		(5)										
	ヨメガカサ		(8)										
	レイシガイ			(5)		(4)							
	ムギガイ			(4)									
	イワガキ			+									
	コシダカガンガラ						(2)				(1)	(2)	
	ナミマガシワ科						+						
	シマメノウフネガイ						(2)					(1)	
節足動物門	イワフジツボ		+										
	ヤドカリ科					(1)	(1)		(1)				
	サンカクフジツボ						+		+		+		
棘皮動物門	イトマキヒトデ					(3)	(2)	(2)	(2)	(1)			
	マナマコ								(1)	(2)	(1)	(1)	(1)
	キヒトデ										(1)	(1)	(1)
-	卵塊		+		+	+						+	
	泥巢												
出現種類数 (26)		2	5	6	2	6	8	5	7	5	4	5	3

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

注2: () 内の数値は個体数を示す。

表 2-2-2 (7) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-3)

平成21年 5月27日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
腔腸動物門	シオガマサンゴ												+
環形動物門	カンザシゴカイ科			+	30	95	10	+	+	+	+		
触手動物門	コケムシ綱			+	+		+	+	5	+	+	5	
軟体動物門	アラレタマキビ	(4)											
	ムラサキイガイ		15	70	+								
	カラマツガイ		(11)										
	キクノハナガイ		(1)										
	イボニシ		(3)										
	レイシガイ		(1)										
	ムギガイ			(2)	(4)								
	シマメノウブネガイ						(1)						
	サザエ								(1)				
節足動物門	イワフジツボ		70										
	サンカクフジツボ						+	+	+				
	ヤドカリ科							(1)					
棘皮動物門	キヒトデ			(1)	(3)		(2)	(3)	(1)	(3)	(2)		(1)
	イトマキヒトデ					(1)		(1)	(4)			(2)	(6)
	マナマコ								(1)	(1)			
原索動物門	エボヤ								+				
-	卵塊		+			+							
	泥巢				+			+					
出現種類数 (21)		1	7	5	6	3	5	7	8	4	3	3	3

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

注2: () 内の数値は個体数を示す。

表 2-2-2 (8) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-4)

平成21年 5月27日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
環形動物門	カンザシゴカイ科			30	15		5						
	ウスマキゴカイ科						+	+		+			
触手動物門	コケムシ綱			+	+	+	5	+	15	20	25	20	+
軟体動物門	アラレタマキビ	(43)											
	ムラサキイガイ		75	80	55								
	カラマツガイ		(15)										
	イボニシ		(4)										
	イタボガキ科		+										
	コシダカガンガラ						(2)						
節足動物門	イワフジツボ	+											
	サンカクフジツボ				+	30	+						
	ヤドカリ科										(2)		
棘皮動物門	イトマキヒトデ			(1)	(1)	(2)			(1)	(2)			
	キヒトデ				(5)	(3)		(4)	(1)	(3)			
	サンショウウニ						(1)						
	マナマコ							(1)		(1)	(3)	(1)	
原索動物門	ホヤ綱 (群体性)				+								
-	卵塊		+										
	泥巢							+		+	+	+	
出現種類数 (19)		2	5	4	7	4	6	5	3	6	4	3	1

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

注2: () 内の数値は個体数を示す。

表 2-2-2 (9) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-5)

平成21年 5月27日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
海綿動物門	海綿動物門					+	+	5	+	+	+	+	
腔腸動物門	イソギンチャク目						+						
環形動物門	カンザシゴカイ科			85	100	75	90	15	20	5	15	+	
	ウスマキゴカイ科							+	+	+			
	ケヤリ科									+			
触手動物門	コケムシ綱			10		+	5	+	+		10	5	
軟体動物門	ムラサキイガイ		70	5									
	レイシガイ			(4)				(3)					
	シマメノウブネガイ					(1)			(2)				
	ムギガイ												
節足動物門	イワフジツボ	+											
	サンカクフジツボ							+					
	ミネフジツボ									+			
棘皮動物門	キヒトデ					(1)	(1)	(2)		(1)			(2)
	マナマコ									(1)			
原索動物門	エボヤ				+			+		+			
	ホヤ綱 (群体性)				+			10					
	ホヤ綱 (単体性)									+			
-	卵塊						+						
	泥巢				+		+	+	+	+	5	+	10
出現種類数 (20)		-	2	4	4	5	7	10	6	11	4	4	2

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

注2: () 内の数値は個体数を示す。

表 2-2-2 (10) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-2)

平成21年 5月23日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
海綿動物門	海綿動物門			+												
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+													
	シオガマサンゴ										+		+		+	
環形動物門	カンザシゴカイ科			+	+	10	+									
触手動物門	コケムシ綱				5	10	15	15	+	5	+	10	15	20		
軟体動物門	アラレタマキビ	(27)														
	タマキビ	(3)														
	ムラサキイガイ		70	15	45											
	カラマツガイ		(4)													
	レイシガイ		(1)	(4)	(1)	(1)										
	ヨメガカサ		(1)													
	シマメノウツネガイ		(1)													
	キクノハナガイ		(2)													
	イボニシ		(4)													
	コシダカガンガラ						(1)									
	キクザルガイ科										+					
節足動物門	イワフジツボ		20													
	サンカクフジツボ							+								
棘皮動物門	イトマキヒトデ				(1)	(1)	(1)			(1)					(1)	
	キヒトデ									(1)				(1)	(1)	
-	卵塊		+													
	泥巢															
出現種類数 (22)		2	10	4	5	4	4	1	2	5	+	+	+	+	+	-

注 1：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。
 注 2：() 内の数値は個体数を示す。

表 2-2-2 (11) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-3)

平成21年 5月23日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+													
	チギレイソギンチャク			15	+											
	シオガマサンゴ													+		
環形動物門	カンザシゴカイ科			20	+	50	85	5	+							
触手動物門	コケムシ綱				+	20	15	15	+							
軟体動物門	アラレタマキビ	(21)								20	25	15	5	+	+	
	カラマツガイ		(12)													
	ムラサキイガイ		35	75	65											
	イボニシ		(4)													
	55															
節足動物門	イワフジツボ															
	サンカクフジツボ											+				
棘皮動物門	キヒトデ				(7)				(8)	(1)	(1)	(2)	(1)	(3)	(1)	(1)
	イトマキヒトデ				(2)		(1)		(6)	(2)	(1)		(1)			
原索動物門	ホヤ綱 (群体性)			5	+	+										
	シロボヤ			+	+	+										
-	卵塊		+			+										
	泥巢							+	+	+						
出現種類数 (17)		1	6	5	8	5	3	10	4	6	3	3	3	3	2	2

注 1：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。
 注 2：() 内の数値は個体数を示す。

表 2-2-2 (12) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-5)

平成21年 5月23日

観察場所		エコ岸壁										遊水室					
平均海面 (m)		壁面								上室			下室				
種類名	基質または部位	ケーソン	網金網石	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	上面	側面	下面	上面	側面	下面		
海綿動物門	海綿動物門					+			+	+							
腔腸動物門	チギレイソギンチャク		+							+							
	ヒドロ虫綱									+			+				
環形動物門	カンザシゴカイ科		+		70	85	70			+	+			15			
触手動物門	コケムシ綱			+	+	5	25	25	20	+			30	70			
軟体動物門	マガキ	+	15														
	ムラサキイガイ	35	90	85	25	+				85	90	5	60				
	レイシガイ		(2)		(1)						(3)		(15)				
	ムギガイ			(11)													
	ミドリイガイ					+											
	ウミフクロウ						(5)	(6)									
節足動物門	イワフジツボ	10															
棘皮動物門	キヒトデ		(2)	(2)	(1)						(1)		(1)	(2)	(2)		
	マナマコ							(1)	(1)						(1)		
原索動物門	イトマキヒトデ									(1)							
	ホヤ綱 (群体性)		+		5	10	+	5	+		+			+			
	エボヤ		+				+										
	ユウレイボヤ属			+	+		+	+									
	シロボヤ				+	+	+			+	+						
-	卵塊	+			+	+	+			+				+			
	泥巢							5	20								
出現種類数 (21)		4	8	5	9	7	7	6	6	9	6	1	5	5	2		

注 1：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。
 注 2：() 内の数値は個体数を示す。

表 2-2-2 (13) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-6)

平成21年5月23日

観察場所		エコ岸壁										遊水室					
平均海面 (m)		+1	+1～±0	±0～-1	-1～-2	-2～-3	-3～-4	-4～-5	-5～-5.5	上室			下室				
種類名	基質または部位	ケーソン	鋼金網石	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	上面	側面	下面	上面	側面	下面		
海綿動物門	海綿動物門			+	+					+	+						
腔腸動物門	イソギンチャク目			+													
	チゲレイソギンチャク									+			+				
環形動物門	カンザシヨカイ科			95	100	100	100	15	5	90	100		85	100			
触手動物門	コケムシ綱				+	+			+		+						
軟体動物門	ムラサキイガイ		10	+						+							
	マガキ		40														
	ウミフクロウ						(1)										
節足動物門	イワフジツボ	5															
棘皮動物門	キヒトデ							(1)	(2)								
	マナマコ															(2)	
原索動物門	群体ボヤ			+	+					+	+						
	シロボヤ				+	+				10	+		+	+			
	ユウレイボヤ属				+	+	+	+	+	10	+		10				
	エボヤ				+												
-	卵塊									+	+	+		+	+		
	結果																
	出現種類数 (17)	1	2	5	7	4	3	3	4	8	7	2	4	4	3		

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。
 注2: () 内の数値は個体数を示す。

③ 魚類

A. 神戸沖処分場

神戸沖処分場の魚類の目視観察結果を表 2-2-3 (1) ~ (4) に示した。

調査地点 A-2 では 3 種類が確認され、平均海面 -2 ~ 4 m で 3 種類と最も多かった。個体数が 11 個体以上みられた種類はメバルで、± 0 ~ -4 m で 51 個体以上であった。

調査地点 A-4 では 3 種類が確認され、-6 ~ 8 m で 2 種類と最も多かった。個体数が 11 個体以上みられた種類はメバルとスズメダイで、それぞれ 11 ~ 50 個体が確認された。

調査地点 A-5 ではキュウセンのみが確認され、-4 ~ -6 m で 11 ~ 50 個体が確認された。

調査地点 A-7 では 6 種類が確認され、-2 ~ 4 m、-4 ~ 6 m、-6 ~ 8 m でそれぞれ 2 種類と最も多かった。個体数が最も多かったのはメバルで、± 0 ~ -2 m で 11 ~ 50 個体であった。

C. 大阪沖処分場

大阪沖処分場の魚類の目視観察結果を表 2-2-3 (5) ~ (9) に示した。

調査地点 C-1 では -2 ~ 4 m で 2 種類が確認されたのみであった。個体数が 11 個体以上みられた種類は、キュウセンで 11 ~ 50 個体であった。

調査地点 C-2 では 3 種類が確認され、-2 ~ 4 m、-4 ~ 6 m、-6 ~ 8 m でそれぞれ 1 種類ずつ確認された。個体数はいずれも 1 ~ 2 個体であった。

調査地点 C-3 ではメバルのみが確認され、-4 ~ 6 m で 11 ~ 50 個体であった。

調査地点 C-4 ではメバルのみが確認され、-4 ~ 8 m で 3 ~ 50 個体であった。

調査地点 C-5 ではメバルのみが確認され、-2 ~ 6 m で 11 ~ 50 個体であった。

D. 泉大津沖処分場

泉大津沖処分場の魚類の目視観察結果を表 2-2-3 (10) ~ (13) に示した。

調査地点 D-2 では 2 種類が確認され、-4 ~ 6 m、-6 ~ 8 m でそれぞれ 1 種類であった。個体数が 11 個体以上みられた種類はメバルで、-6 ~ 8 m で 51 個体以上であった。

調査地点 D-3 では 3 種類が確認され、-6 ~ 8 m で 2 種類と多かった。個体数が 11 個体以上みられた種類はメバルで、-6 ~ 8 m で 11 ~ 50 個体であった。

調査地点 D-5 では 8 種類が確認され、エコ岸壁の周辺で 6 種類と最も多かった。個体数が 11 個体以上みられた種類はメバルで、遊水室内とエコ岸壁の周辺において、それぞれ 11 ~ 50 個体と 51 個体以上であった。

調査地点 D-6 ではメバルのみが確認され、遊水室内とエコ岸壁の周辺では 11 ~ 50 個体であった。

表 2-2-3 (1) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-2)

平成21年 5月24日

平均海面 (m)		±0～-2	-2～4	-4～6	-6～8	-8～10
種類名	基質	ブロック	ブロック 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 小礫 砂
	魚類					
	メバル(3～15)	cc	cc		rr	
	ウミタナゴ(15)		rr			
	クサフグ(10～12)		rr		rr	
出現種類数(3)		1	3	-	2	-

注1: rr=1～2個体、r=3～10個体、c=11～50個体、cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 2-2-3 (2) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-4)

平成21年 5月24日

平均海面 (m)		±0～-2	-2～4	-4～6	-6～8	-8～10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック 砂 小礫
	魚類					
	メバル(2～3)		c			
	スズメダイ(6～8)				c	
	キュウセン(10)				rr	
出現種類数(3)		-	1	-	2	-

注1: rr=1～2個体、r=3～10個体、c=11～50個体、cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 2-2-3 (3) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-5)

平成21年 5月24日

平均海面 (m)		±0～-2	-2～4	-4～6	-6～8	-8～10
種類名	基質	ケーソン	ケーソン 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 砂 大礫
	魚類					
	キュウセン(10～12)			c		
出現種類数(1)		-	-	1	-	-

注1: rr=1～2個体、r=3～10個体、c=11～50個体、cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 2-2-3 (4) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-7)

平成21年 5月24日

平均海面 (m)		±0～-2	-2～4	-4～6	-6～8
種類名	基質	矢板	矢板	小礫 砂	小礫 砂
	魚類				
	メバル(2～3)	c			
	ホシササノハベラ(15)		rr		
	アナハゼ(10)		rr		
	キュウセン(8～10)			r	
	ウマヅラハギ(25)				rr
その他	マダコ(30～40)			rr	rr
出現種類数(6)		1	2	2	2

注1: rr=1～2個体、r=3～10個体、c=11～50個体、cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 2-2-3 (5) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-1)

平成21年5月27日

平均海面 (m)		±0～-2	-2～4	-4～6	-6～8	-8～10
基質		ケーソン	ケーソン 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
種類名	魚類	キュウセン (18～20)	c			
		メバル (3)	r			
出現種類数 (2)		-	2	-	-	-

注1: rr=1～2個体、r=3～10個体、c=11～50個体、cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 2-2-3 (6) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-2)

平成21年5月27日

平均海面 (m)		±0～-2	-2～4	-4～6	-6～8	-8～10
基質		ブロック	ブロック 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
種類名	魚類	スズメダイ (10)			rr	
		メバル (12)		rr		
		キュウセン (20)	rr			
出現種類数 (3)		-	1	1	1	-

注1: rr=1～2個体、r=3～10個体、c=11～50個体、cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 2-2-3 (7) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-3)

平成21年5月27日

平均海面 (m)		±0～-2	-2～4	-4～6	-6～8	-8～10
基質		ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫
種類名	魚類	メバル (3)		c		
		出現種類数 (1)	-	1	-	-

注1: rr=1～2個体、r=3～10個体、c=11～50個体、cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 2-2-3 (8) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-4)

平成21年5月27日

平均海面 (m)		±0～-2	-2～4	-4～6	-6～8	-8～9
基質		ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫
種類名	魚類	メバル (3)		r	c	
		出現種類数 (1)	-	1	1	-

注1: rr=1～2個体、r=3～10個体、c=11～50個体、cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 2-2-3 (9) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-5)

平成21年5月27日

平均海面 (m)		±0～-2	-2～4	-4～6	-6～8	-8～9
種類名	基質	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫
	魚類	メバル (3～4)	c	c		
出現種類数 (1)		-	1	1	-	-

注 1 : rr=1～2 個体、r=3～10 個体、c=11～50 個体、cc=51 個体以上を示す。

注 2 : 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 2-2-3 (10) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-2)

平成21年5月23日

平均海面 (m)		±0～-2	-2～4	-4～6	-6～8	-8～10	-10～12	-12～14	14～
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 大礫	泥
	魚類	メバル (3)			cc				
出現種類数 (2)		-	-	1	1	-	-	-	-

注 1 : rr=1～2 個体、r=3～10 個体、c=11～50 個体、cc=51 個体以上を示す。

注 2 : 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 2-2-3 (11) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-3)

平成21年5月23日

平均海面 (m)		±0～-2	-2～4	-4～6	-6～8	-8～10	-10～12	-12～14	14～
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
	魚類	ボラ (40)			rr				
出現種類数 (3)		-	-	-	2	1	-	-	-

注 1 : rr=1～2 個体、r=3～10 個体、c=11～50 個体、cc=51 個体以上を示す。

注 2 : 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 2-2-3 (12) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-5)

平成21年5月23日

観察部位		エコ岸壁		
		遊水室内	周辺	貫通孔
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン
	魚類	メバル (3～6)	c	cc
出現種類数 (8)		3	6	2

注 1 : rr=1～2 個体、r=3～10 個体、c=11～50 個体、cc=51 個体以上を示す。

注 2 : 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 2－2－3 (13) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D－6)

平成21年 5 月23日

観察部位		エコ岸壁		
		遊水室内	周辺	貫通孔
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン
	魚類 メバル(3～4)	c	c	rr
出現種類数(1)		1	1	1

注 1 : rr=1～2 個体、r=3～10 個体、c=11～50 個体、cc=51 個体以上を示す。

注 2 : 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

(2) 粹取り採取および分析

神戸沖処分場および大阪沖処分場において実施した植物の粹取り分析結果を表 2-2-4、動物の粹取り分析結果を表 2-2-5 に示した。

① 植物

A. 神戸沖処分場

A-2 では、上層から下層で 8~12 種類が出現し、総湿重量は 165.81~525.47 g/0.25 m² であった。種類数は下層で多く、上層で少なかったが、湿重量は中層で多く、下層で少なかった。

優占種をみると、上層では紅藻綱のフダラクが全体の 42%、中層では紅藻綱のベニスナゴが全体の 81%、下層では紅藻綱のススカケベニが全体の 49% を占めた。

C. 大阪沖処分場

C-2 では、上層から下層で 3~13 種類が出現し、総湿重量は 207.05~249.33 g/0.25 m² であった。種類数・湿重量ともに下層で多く、上層で少なかった。

優占種をみると、上層では緑藻綱のアオサ属が全体を占め、中層ではベニスナゴが全体の 70% を、下層では藻場構成種である褐藻綱のシダモクが全体の 69% を占めた。

D. 泉大津沖処分場

D-2 では、上層から下層で 3~10 種類が出現し、総湿重量は 7.60~392.15 g/0.25 m² であった。種類数・湿重量ともに下層で多く、上層で少なかった。

優占種をみると、上層ではアオサ属が全体の 99% を、中層ではフダラクが全体の 69% を、下層では紅藻綱のタオヤギソウが全体の 55% を占めた。

D-3 では、上層から下層で 4~8 種類が出現し、総湿重量は 0.07~1.43 g/0.25 m² であり、いずれも少なかった。種類数は中層で多く、上層で少なかったが、湿重量は中層で多く、下層で少なかった。

優占種をみると、上層では紅藻綱のキヌイトフタツガサネが全体の 62% を、中層ではタオヤギソウが全体の 41% を、下層では紅藻のイトグサ属が全体の 57% を占めた。

表 2-2-4 枠取り分析結果(植物)

調査地点 (調査日)	層	上 (M. W. L ±0.0m)	中 (M. W. L-2.0m)	下 (M. W. L-4.0m)
神戸沖 A-2 (5月24日)	出現種類数	8	9	12
	総湿重量 (g/0.25m ²)	371.37	525.47	165.81
	優占種 第1位	フタ ^ラ ク 154.53 (42)	ベ ^ニ スナコ ^コ 424.89 (81)	スサケベ ^ニ 81.19 (49)
	第2位	アサ ^サ 属 136.64 (37)	フタ ^ラ ク 38.99 (7)	マクサ 45.90 (28)
	第3位	ベ ^ニ スナコ ^コ 58.77 (16)	アサ ^サ 属 34.57 (7)	ムカデ ^ノ リ 26.81 (16)
大阪沖 C-2 (5月27日)	出現種類数	3	8	13
	総湿重量 (g/0.25m ²)	207.05	216.03	249.33
	優占種 第1位	アサ ^サ 属 207.04 (100)	ベ ^ニ スナコ ^コ 150.91 (70)	シタ ^モ ク 172.22 (69)
	第2位	アサ ^サ 属 0.01 (—)	フタ ^ラ ク 37.91 (18)	アサ ^サ 属 43.51 (17)
	第3位	シタ ^モ ク属 + (—)	ツノマタ属 11.00 (5)	スサケベ ^ニ 18.16 (7)
泉大津沖 D-2 (5月23日)	出現種類数	3	9	10
	総湿重量 (g/0.25m ²)	7.60	310.72	392.15
	優占種 第1位	アサ ^サ 属 7.56 (99)	フタ ^ラ ク 214.35 (69)	タチ ^キ ツウ 217.01 (55)
	第2位	アサ ^サ 属 0.02 (—)	ムカデ ^ノ リ 94.67 (30)	ツノマタ属 149.73 (38)
	第3位		アサ ^サ 属 キョウノヒモ 0.79 (—)	フタ ^ラ ク 12.89 (3)
泉大津沖 D-3 (5月23日)	出現種類数	4	8	5
	総湿重量 (g/0.25m ²)	0.29	1.43	0.07
	優占種 第1位	キヌイトフタツカ ^サ ネ 0.18 (62)	タチ ^キ ツウ 0.58 (41)	イトク ^サ 属 0.04 (57)
	第2位	イトク ^サ 属 0.07 (24)	ユモ属 0.55 (38)	フタツカ ^サ ネ属 0.02 (29)
	第3位	アサ ^サ 属 0.03 (10)	アサ ^サ 属 イトク ^サ 属 0.07 (5)	キヌイトフタツカ ^サ ネ 0.01 (14)

注) 表中の () 内の数値は総量に対する占有率を示し、—は1%未満を示す。

② 動物

A. 神戸沖処分場

A-2 では、上層から下層で 37~60 種類が出現し、下層で多く、上層で少なかった。総個体数は 1,552~166,816 個体/0.25m²、総湿重量は 84.97~1282.11 g/0.25m²で、ともに上層で多く、下層で少なかった。

優占種をみると、上層では軟体動物門のムラサキイガイが個体数において全体の 99%、湿重量において全体の 94%を占め最も多かった。中層でもムラサキイガイが個体数において全体の 85%、湿重量において全体の 39%を占めた。下層では、個体数において節足動物門のマルエラワレカラが全体の 25%、湿重量において棘皮動物門のイトマキヒトデが全体の 37%を占めた。

C. 大阪沖処分場

C-2 では、上層から下層で 21~72 種類が出現し、下層で多く、上層で少なかった。総個体数は 2,366~8,379 個体/0.25m²で、上層で多く、中層で少なかった。総湿重量は 94.52~557.06g/0.25m²で、上層で多く、下層で少なかった。

優占種をみると、上層ではムラサキイガイが個体数・湿重量ともに全体の 98%を占め最も多かった。中層では、個体数において環形動物門のエゾカサネカンザシゴカイが全体の 50%、湿重量においてイトマキヒトデが全体の 41%を占めた。下層では個体数においてマルエラワレカラが全体の 42%、湿重量において環形動物門の *Thelepus* sp. が全体の 24%を占めた。

D. 泉大津沖処分場

D-2 では、上層から下層で 19~62 種類が出現し、中層で多く、上層で少なかった。総個体数は 1,112~5,038 個体/0.25m²で、中層で多く、下層で少なかった。総湿重量は 30.77~128.32 g/0.25m²で、上層で多く、下層で少なかった。

優占種をみると、上層では個体数において節足動物門のイワフジツボが全体の 52%、湿重量においてムラサキイガイが全体の 84%を占めた。中層では、個体数においてムラサキイガイが全体の 45%、湿重量において軟体動物門のコシダカガンガラが全体の 23%を占めた。下層では、個体数において軟体動物門のキヌマトイガイと節足動物門のカマキリヨコエビ属が全体の 19%、湿重量においてイトマキヒトデと軟体動物門のムギガイが全体の 24%を占めた。

D-3 では、上層から下層で 26~76 種類が出現し、下層で多く、上層で少なかった。総個体数は 2,662~11,222 個体/0.25m²、総湿重量は 181.28~1994.82 g/0.25m²で、ともに上層で多く、下層で少なかった。

優占種をみると、上層ではムラサキイガイが個体数において全体の 96%、湿重量において全体の 99%を占め最も多かった。中層でもムラサキイガイが個体数において全体の 47%、湿重量において全体の 53%を占め多かった。下層ではエゾカサネカンザシゴカイが個体数において全体の 40%、湿重量において全体の 25%を占めた。

表 2－2－5 枠取り分析結果(動物)

調査地点 (調査日)	層	上 (M. W. L ±0. 0m)	中 (M. W. L-2. 0m)	下 (M. W. L-4. 0m)
神戸沖 A-2 (5月24日)	出現種類数	37	54	60
	総個体数 (個体/0. 25㎡)	166, 816	24, 127	1, 552
	総湿重量 (g/0. 25㎡)	1, 282. 11	262. 98	84. 97
	個体数	第1位 ムラサキイカ ^イ 164, 864 (99)	ムラサキイカ ^イ 20, 597 (85)	マルエヲワレカラ 388 (25)
	からみた	第2位 キヌマトイカ ^イ 1, 089 (—)	マルエヲワレカラ 1, 345 (6)	キヌマトイカ ^イ 176 (11)
	優占種	第3位 マサコ ^コ カイ 292 (—)	ユンホ ^ソ コエビ ^ソ 属 781 (3)	ムギ ^カ イ 149 (10)
	湿重量	第1位 ムラサキイカ ^イ 1, 200. 64 (94)	ムラサキイカ ^イ 101. 44 (39)	イトマキヒトデ ^テ 31. 48 (37)
	からみた	第2位 レイシカ ^イ 36. 10 (3)	イトマキヒトデ ^テ 61. 01 (23)	シマナミカ ^ソ シロモト ^キ 21. 09 (25)
大阪沖 C-2 (5月27日)	優占種	第3位 フサコケムシ 16. 23 (1)	レイシカ ^イ 48. 81 (19)	ムギ ^カ イ 7. 90 (9)
	出現種類数	21	56	72
	総個体数 (個体/0. 25㎡)	8, 379	2, 366	2, 384
	総湿重量 (g/0. 25㎡)	557. 06	123. 44	94. 52
	個体数	第1位 ムラサキイカ ^イ 8, 206 (98)	エゾ ^カ サネカンザ ^ソ カイ 1, 176 (50)	マルエヲワレカラ 1, 004 (42)
	からみた	第2位 クマト ^リ コ ^カ イ 72 (—)	<i>Polydora</i> sp. 156 (7)	カキ ^ノ テワレカラ 292 (12)
	優占種	第3位 マカ ^キ 31 (—)	ユンホ ^ソ コエビ ^ソ 属 152 (6)	エゾ ^カ サネカンザ ^ソ カイ 228 (10)
	湿重量	第1位 ムラサキイカ ^イ 545. 85 (98)	イトマキヒトデ ^テ 50. 12 (41)	<i>Thelepus</i> sp. 22. 64 (24)
泉大津沖 D-2 (5月23日)	からみた	第2位 マカ ^キ 8. 01 (1)	エゾ ^カ サネカンザ ^ソ カイ 30. 24 (24)	ヒバ ^リ カ ^イ 11. 61 (12)
	優占種	第3位 クマト ^リ コ ^カ イ 2. 30 (—)	<i>Thelepus</i> sp. 15. 24 (12)	ムギ ^カ イ 8. 75 (9)
	出現種類数	19	62	55
	総個体数 (個体/0. 25㎡)	3, 396	5, 038	1, 112
	総湿重量 (g/0. 25㎡)	128. 32	73. 56	30. 77
	個体数	第1位 イワフジ ^ツ ホ ^ホ 1, 780 (52)	ムラサキイカ ^イ 2, 287 (45)	キヌマトイカ ^イ 208 (19)
	からみた	第2位 ムラサキイカ ^イ 848 (25)	マルエヲワレカラ 1, 332 (26)	カマクリヨコエビ ^ソ 属 206 (19)
	優占種	第3位 モクス ^ヨ コエビ ^ソ 属 541 (16)	ゼ ^ウ クソ ^リ 属 253 (5)	ムギ ^カ イ 164 (15)
泉大津沖 D-3 (5月23日)	湿重量	第1位 ムラサキイカ ^イ 107. 84 (84)	コシタ ^カ カンガ ^ラ 17. 08 (23)	イトマキヒトデ ^テ 7. 45 (24)
	からみた	第2位 イワフジ ^ツ ホ ^ホ 15. 69 (12)	ムラサキイカ ^イ 14. 80 (20)	ムギ ^カ イ 7. 28 (24)
	優占種	第3位 カラマツカ ^イ 2. 58 (2)	ムギ ^カ イ 10. 82 (15)	キヌマトイカ ^イ 3. 68 (12)
	出現種類数	26	75	76
	総個体数 (個体/0. 25㎡)	11, 222	4, 851	2, 662
	総湿重量 (g/0. 25㎡)	1994. 82	455. 28	181. 28
	個体数	第1位 ムラサキイカ ^イ 10, 816 (96)	ムラサキイカ ^イ 2, 296 (47)	エゾ ^カ サネカンザ ^ソ カイ 1, 068 (40)
	からみた	第2位 イワフジ ^ツ ホ ^ホ 205 (2)	エゾ ^カ サネカンザ ^ソ カイ 956 (20)	キヌマトイカ ^イ 394 (15)
泉大津沖 D-3 (5月23日)	優占種	第3位 コモレビ ^コ カ ^モ カイ 38 (—)	キヌマトイカ ^イ 292 (6)	<i>Ophiiodromus</i> sp. 174 (7)
	湿重量	第1位 ムラサキイカ ^イ 1, 970. 08 (99)	ムラサキイカ ^イ 240. 80 (53)	エゾ ^カ サネカンザ ^ソ カイ 44. 43 (25)
	からみた	第2位 イボ ^ニ シ 9. 02 (—)	エゾ ^カ サネカンザ ^ソ カイ 45. 54 (10)	アミコケムシ科 38. 96 (21)
	優占種	第3位 コモレビ ^コ カ ^モ カイ 8. 33 (—)	シロホ ^ヤ 28. 80 (6)	エホ ^ヤ 20. 60 (11)

注) 表中の () 内の数値は総量に対する占有率を示し、—は1 %未満を示す。

第3章 秋季調査結果

1. 水質調査

(1) 一般観測

一般観測結果を表3-1-1に示した。

① 神戸沖処分場（平成21年11月8日）

天気はくもりのち快晴、雲量は1～9、気温は18.2～23.6℃、風浪階級は1、風速は0.5～2.9m/sで風向は東のち南南西であった。透明度は2.8～3.9m、水色はA-2で海松色、A-4でフォレストグリーン、A-5、7ではオリーブグリーンであった。

② 大阪沖処分場（平成21年11月21日）

天気は晴、雲量は4～5、気温は13.2～14.6℃、風浪階級は1、風速は3.4～4.0m/sで風向は西であった。透明度は3.7～4.0m、水色はすべての調査地点でグラスグリーンであった。

③ 泉大津沖処分場（平成21年11月17日）

天気は雨、雲量は10、気温は9.8～12.8℃、風浪階級は1、風速は1.4～5.0m/sで風向は北東のち東北東であった。透明度は2.5～3.0m、水色はD-2で深緑、D-5、6ではフォレストグリーンであった。

表 3 - 1 - 1 一般観測結果

神戸沖 (11月8日)	調査地点	A - 2	A - 4	A - 5	A - 7
	調査時間	13 : 22 ~ 14 : 00	9 : 30 ~ 10 : 20	10 : 55 ~ 11 : 25	12 : 05 ~ 12 : 35
	天気・雲量	快晴・1	くもり・9	晴・2	快晴・1
	気温	23.6℃	18.2℃	20.6℃	23.6℃
	風浪階級	1	1	1	1
	風速・風向	2.9m/s・南南西	2.8m/s・東	0.5m/s・東	1.4m/s・南
	透明度	2.8m	3.9m	3.4m	3.9m
	水色	海松色 5GY 3/3 	フォレストグリーン 5G 2.4/3 	オリーブグリーン 3GY 3.5/5.0 	オリーブグリーン 3GY 3.5/5.0 
	水深	17.2m	17.5m	16.8m	16.0m
大阪沖 (11月21日)	調査地点	C - 1	C - 2	C - 3	
	調査時間	10 : 30 ~ 11 : 10	13 : 45 ~ 14 : 15	11 : 54 ~ 12 : 20	
	天気・雲量	晴・4	晴・4	晴・5	
	気温	13.2℃	14.6℃	14.0℃	
	風浪階級	1	1	1	
	風速・風向	3.4m/s・西	4.0m/s・西	3.8m/s・西	
	透明度	3.7m	4.0m	3.7m	
	水色	グラスグリーン 10GY 4.5/7 	グラスグリーン 10GY 4.5/7 	グラスグリーン 10GY 4.5/7 	
	水深	14.5m	13.0m	15.3m	
泉大津沖 (11月17日)	調査地点	D - 2	D - 5	D - 6	
	調査時間	10 : 45 ~ 11 : 20	12 : 20 ~ 13 : 00	8 : 25 ~ 9 : 30	
	天気・雲量	雨・10	雨・10	雨・10	
	気温	11.7℃	12.8℃	9.8℃	
	風浪階級	1	1	1	
	風速・風向	5.0m/s・北東	4.0m/s・東北東	1.4m/s・北東	
	透明度	3.0m	2.5m	3.0m	
	水色	深緑 5G 3.5/7 	フォレストグリーン 5G 2.4/3 	フォレストグリーン 5G 2.4/3 	
	水深	12.5m	13.9m	11.0m	

(2) 機器測定

機器測定結果の概要を表3-1-2に、鉛直分布図を図3-1-1(1)～(3)に示した。

① 神戸沖処分場

神戸沖処分場の水温は19.6～21.0℃、塩分は27.7～32.0、DOは6.1～12.5mg/L、相対光量は0.0～85.0%(光量子束密度0.2～520.5 $\mu\text{E}/\text{m}^2/\text{sec}$)の範囲であった。各調査地点の水温、塩分およびDOの範囲には大きな差がみられなかったが、塩分の最低値はA-5でやや低く、DOの最高値はA-7でやや低かった。相対光量は最低値、最高値ともにA-5で高かった。

鉛直分布をみると、水温は4地点とも、ほぼ鉛直混合していた。塩分は4地点とも深くなるにつれて徐々に上昇する傾向がみられたが、A-2では水深4～5mで、A-5では水深0～0.5mでの上昇が顕著であった。DOは4地点とも深くなるにつれて減少する傾向がみられたが、A-2では水深2～4mでの減少が顕著であった。相対光量は4地点とも底層にかけて減少し、A-2では水深6m、A-4では水深8m、A-5、7では水深10mで1%未満となった。

② 大阪沖処分場

大阪沖処分場の水温は16.9～19.9℃、塩分は26.9～32.0、DOは5.7～8.6mg/L、相対光量は0.0～76.6%(光量子束密度0.4～741.4 $\mu\text{E}/\text{m}^2/\text{sec}$)の範囲であった。水温と塩分の最低値はC-2、3で低く、DOの最高値はC-1で低かった。相対光量は最低値、最高値ともにC-1で高かった。

鉛直分布をみると、水温と塩分は3地点とも深くなるにつれて徐々に高くなる傾向がみられたが、C-1ではほぼ鉛直混合していたのに対して、C-2では水深1～2mで、C-3では水深2～3mでの上昇が顕著であった。DOは3地点とも深くなるにつれて徐々に減少する傾向がみられた。相対光量は3地点とも底層にかけて減少したが、C-2、3では水深8mで、C-1では水深12mで1%未満となり、光量の減衰はC-1でやや緩やかであった。

③ 泉大津沖処分場

泉大津沖処分場の水温は17.1～20.0℃、塩分は29.5～31.7、DOは5.6～7.7mg/L、相対光量は0.1～57.9%(光量子束密度0.2～53.7 $\mu\text{E}/\text{m}^2/\text{sec}$)の範囲であった。水温、塩分および相対光量の最低値はD-5でやや低かった。DOの範囲には各調査地点でほとんど差がみられなかった。

鉛直分布をみると、水温と塩分はD-2、6ではほぼ鉛直混合していたが、D-5では水深2～3mでの上昇が顕著であった。DOは3地点とも深くなるにつれて徐々に減少する傾向がみられた。相対光量は3地点とも底層にかけて減少し、D-5では水深9m、D-6では水深10m、D-2では水深11mで1%未満となった。

表 3－1－2 水質測定結果概要表

項目(単位) 調査地点		水温 (℃)	塩分 (－)	D O (mg/L)	相対光量 (%)	光量子束密度 ($\mu\text{E}/\text{m}^2/\text{sec}$)
神戸沖	A－2	20.2 ～ 21.0	28.5 ～ 32.0	6.3 ～ 12.5	0.0 ～ 53.4	0.4 ～ 520.5
	A－4	19.6 ～ 21.0	29.2 ～ 32.0	6.5 ～ 12.2	0.1 ～ 49.1	0.2 ～ 198.7
	A－5	19.8 ～ 20.9	27.7 ～ 31.9	6.6 ～ 11.5	0.3 ～ 85.0	0.4 ～ 112.7
	A－7	20.0 ～ 20.9	29.1 ～ 32.0	6.1 ～ 10.0	0.2 ～ 51.2	1.8 ～ 419.9
大阪沖	C－1	19.6 ～ 19.9	31.2 ～ 32.0	5.7 ～ 7.2	0.3 ～ 76.6	1.3 ～ 306.1
	C－2	17.7 ～ 19.9	28.4 ～ 32.0	5.9 ～ 8.4	0.1 ～ 42.7	2.0 ～ 741.4
	C－3	16.9 ～ 19.9	26.9 ～ 32.0	5.8 ～ 8.6	0.0 ～ 49.7	0.4 ～ 731.0
泉大津沖	D－2	18.9 ～ 19.5	31.2 ～ 31.6	6.4 ～ 7.1	0.9 ～ 50.8	0.2 ～ 13.9
	D－5	17.1 ～ 19.6	29.5 ～ 31.6	6.0 ～ 7.7	0.1 ～ 43.4	0.2 ～ 53.7
	D－6	19.6 ～ 20.0	30.7 ～ 31.7	5.6 ～ 6.8	0.8 ～ 57.9	0.5 ～ 36.1

調査場所：神戸沖処分場
調査日：平成21年11月8日

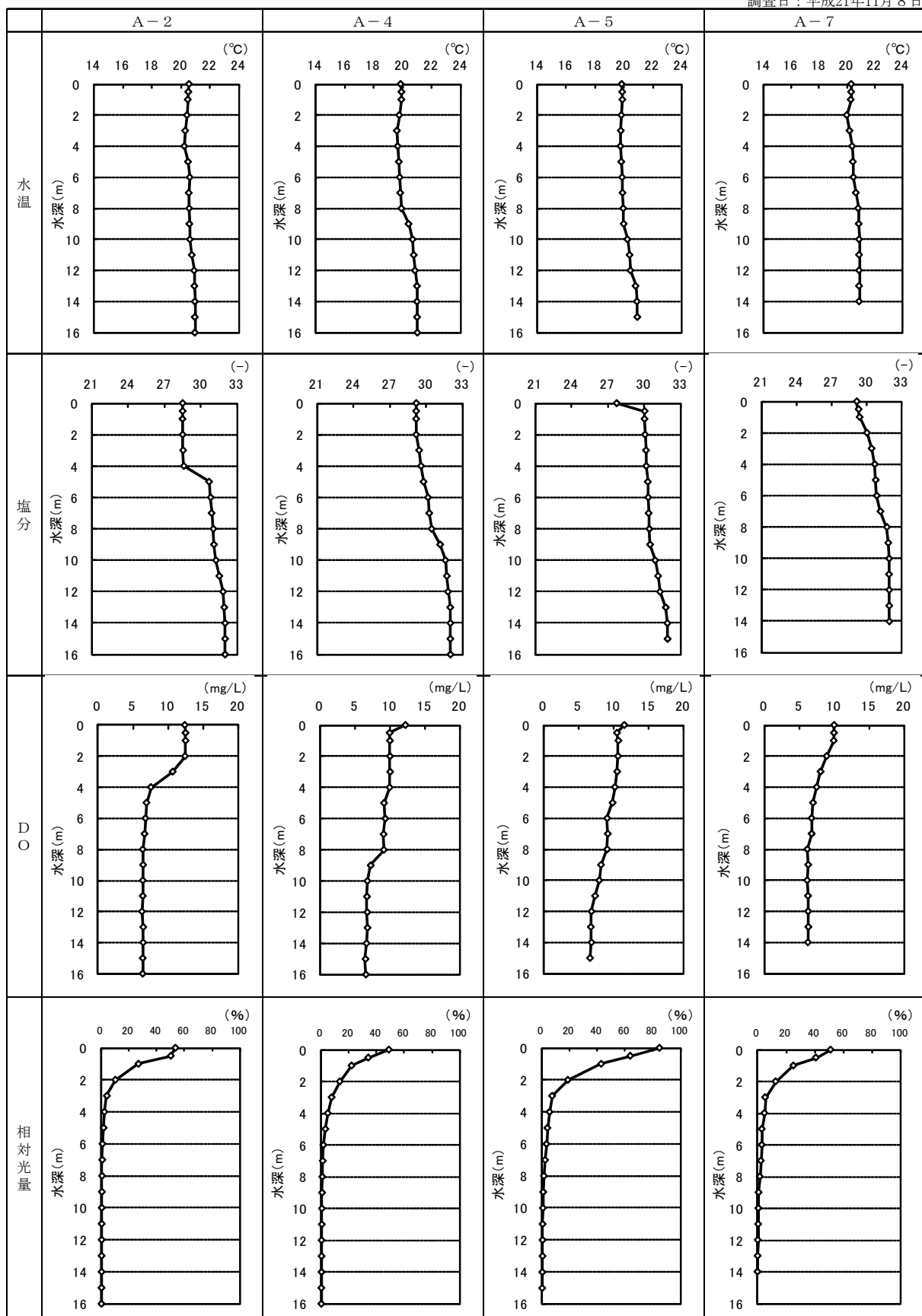


図3-1-1 (1) 水質の鉛直分布

調査場所：大阪沖処分場
調査日：平成21年11月21日

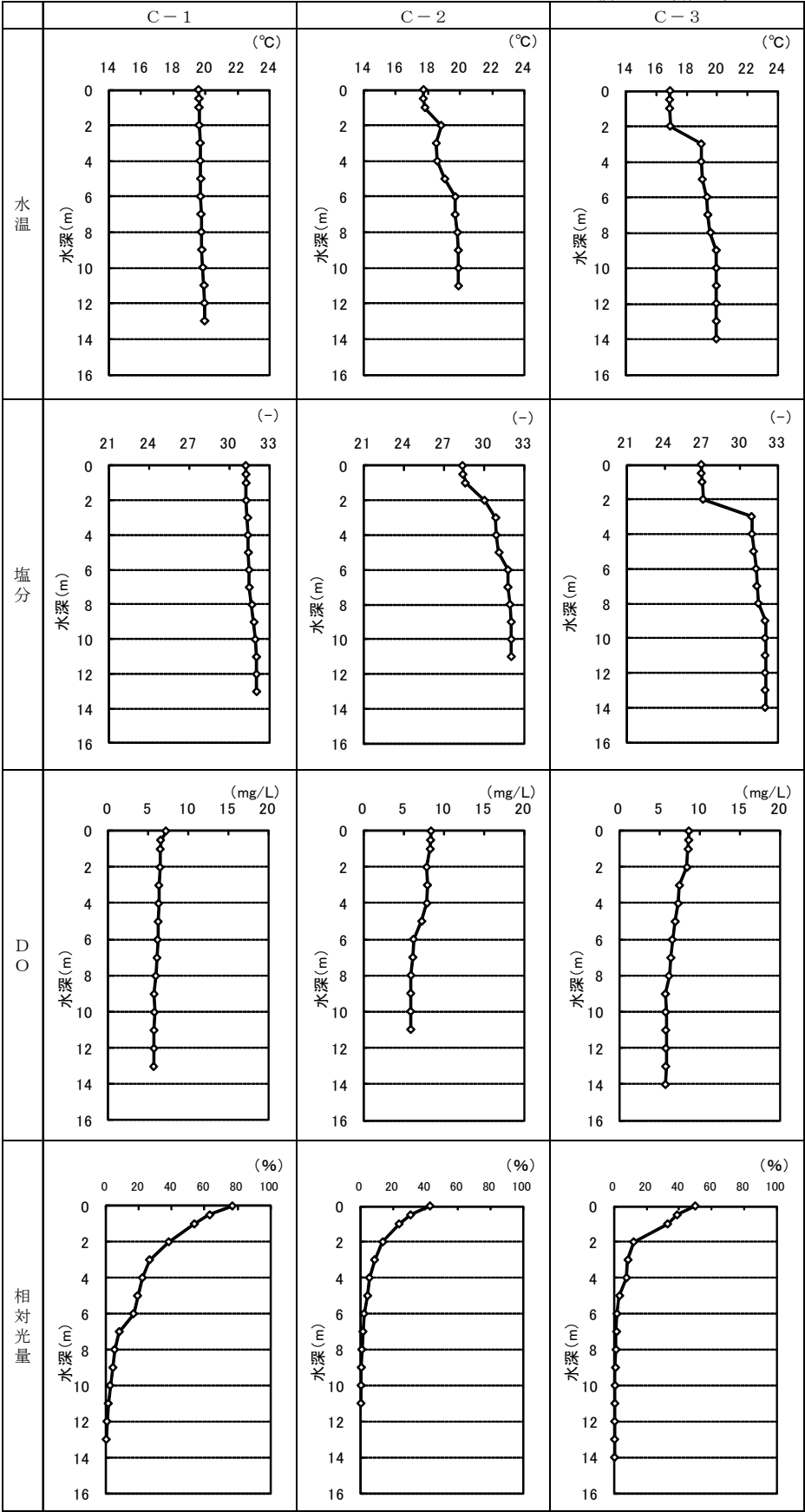


図 3-1-1 (2) 水質の鉛直分布

調査場所：泉大津沖処分場
調査日：平成21年11月17日

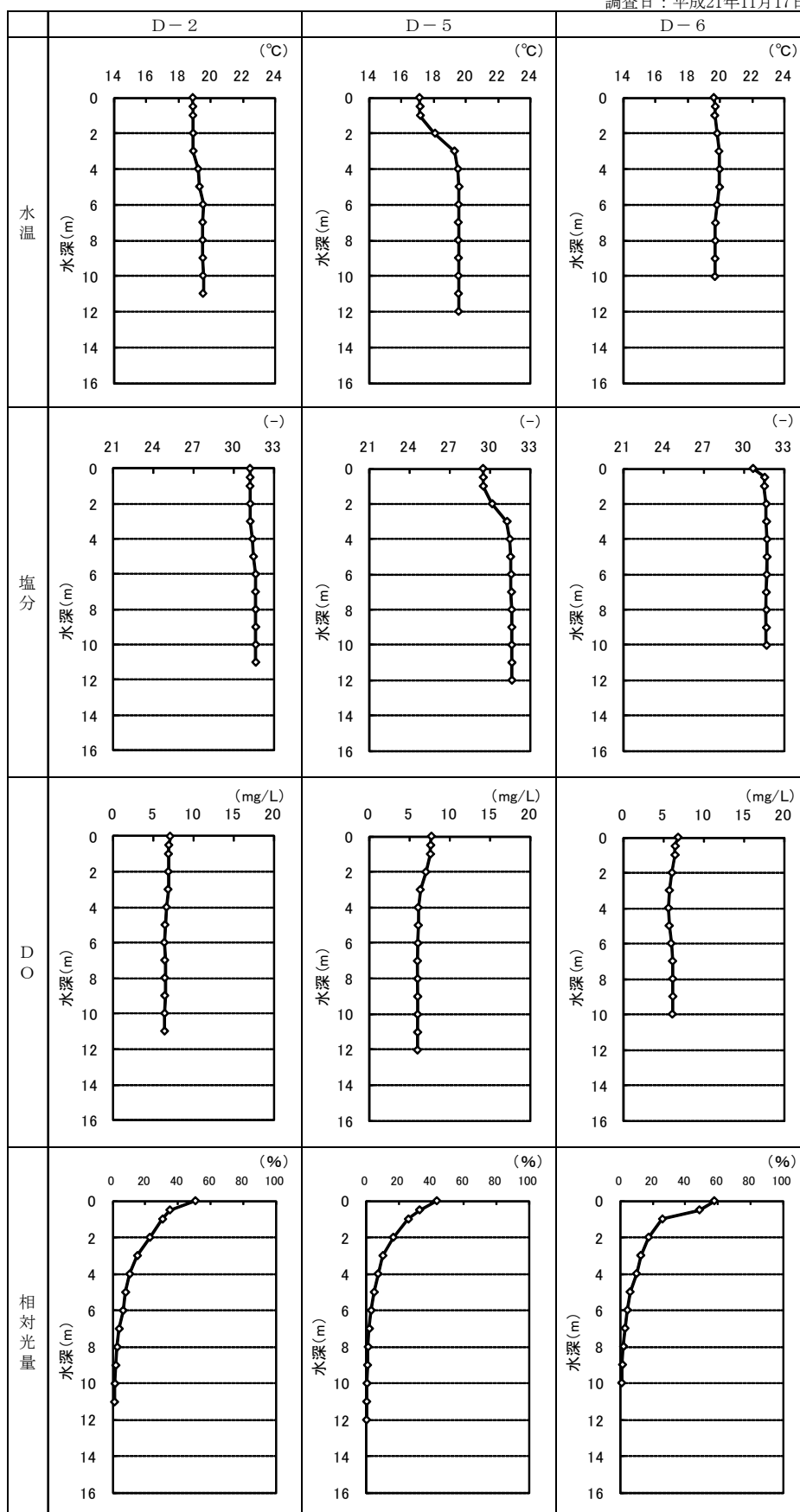


図3-1-1 (3) 水質の鉛直分布

2. 生物調査

(1) 目視観察

① 植物

A. 神戸沖処分場

神戸沖処分場の植物の目視観察結果を表3-2-1(1)～(4)に示した。

調査地点A-2では、平均海面+1～-9mに分布し、17種類が確認された。種類数が多かったのは-1mで8種類であった。被度30%以上の種類は、水深+1mで藍藻綱が30%、±0mで緑藻綱のアオサ属が30%、-3～-4mで紅藻綱のマクサが30%～40%、-4mで紅藻綱のイワノカワ科が30%であった。藻場構成種は-1～-2mで褐藻綱のタマハハキモク、-3mで褐藻綱のシダモクがそれぞれ被度5%未満で確認された。

調査地点A-4では、平均海面±0～-8mに分布し、14種類が確認された。種類数が多かったのは-1～-2mで7種類であった。被度は最も高かった種類でも、-1mのアオサ属で20%であった。藻場構成種は-2mでタマハハキモクが被度5%未満で確認された。

調査地点A-5では、平均海面±0～-9mに分布し、7種類が確認された。種類数が多かったのは-4mで5種類であった。被度30%以上の種類は、±0～-1mで珪藻綱が60～70%であった。藻場構成種は確認されなかった。

調査地点A-7では、平均海面±0m～-1mと-4～-6mに分布し、6種類が確認された。種類数が多かったのは-4～-5mで3種類であった。被度30%以上の種類は、±0mで珪藻綱が30%であった。藻場構成種は確認されなかった。

C. 大阪沖処分場

大阪沖処分場の植物の目視観察結果を表3-2-1(5)～(9)に示した。

調査地点C-1では、平均海面±0～-9mに分布し、14種類が確認された。種類数が多かったのは-4mで9種類であった。被度は最も高い種類でも、-4mの珪藻綱で20%であった。藻場構成種は-4～-6mでシダモクが被度5%未満～15%、-4mでタマハハキモクが被度5%未満で確認された。

調査地点C-2では、平均海面±0～-10mに分布し、14種類が確認された。種類数が多かったのは-2mと-4mで6種類であった。被度30%以上の種類は、±0mでアオサ属が50%、水深-7～-8mでイワノカワ科が30～40%であった。藻場構成種は-2mと-4mでタマハハキモク、-5mでシダモクがそれぞれ被度5%未満で確認された。

調査地点C-3では、平均海面±0～-10mに分布し、15種類が確認された。種類数が多かったのは-2～-4mで6種類であった。被度30%以上の種類は、±0mでアオサ属が65%であった。藻場構成種は-3mでタマハハキモクが被度5%、-4～-5mでシダモクが被度5%未満～20%で確認された。

調査地点C-4では、平均海面±0～-10mに分布し、11種類が確認された。種類数が多かったのは-7mで5種類であった。被度30%以上の種類は、±0～-2mでアオサ属が30～95%、-4mで紅藻綱のカバノリが30%であった。藻場構成種は確認されなかった。

調査地点C-5では、平均海面±0m～-8mに分布し、15種類が確認された。種類数が

多かったのは－3 mで11種類であった。被度30%以上の種類は、－5～7 mで珪藻綱が40～50%であった。藻場構成種は－3～4 mでシダモクが被度10%、－3 mでタマハハキモクが被度5%未満で確認された。

D. 泉大津沖処分場

泉大津沖処分場の植物の目視観察結果を表3-2-1 (10)～(13)に示した。

調査地点D-2では、平均海面±0～－9 mに分布し、10種類が確認された。種類数が多かったのは－1 mで7種類であった。被度30%以上の種類は、±0 mで珪藻綱が60%であった。藻場構成種は確認されなかった。

調査地点D-3では、平均海面±0～－1と－7～8 mに分布し、5種類が確認された。種類数が多かったのは±0～－1 mで3種類であった。被度は最も高い種類でも、±0 mのアオサ属で20%であった。藻場構成種は確認されなかった。

調査地点D-5では、壁面の+1～－1 mに分布し、3種類が確認されたが、遊水室では確認されなかった。種類数が多かったのは、壁面の+1～±0 mで3種類であった。被度30%以上の種類は、壁面の+1 mでアオサ属が50%であった。藻場構成種は確認されなかった。

調査地点D-6では、壁面の+1～－4 mに分布し、4種類が確認されたが、遊水室では確認されなかった。種類数が多かったのは、壁面の+1～±0 mで3種類であった。被度30%以上の種類は、+1～±0 mでアオサ属が30%であった。藻場構成種は確認されなかった。

表3-2-1(1) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場(A-2)

平成21年11月8日

平均海面(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂小礫
種類名	緑藻綱												
	アオサ属		30	+	+	+	+						
	アオリ属		+										
種類名	シオグサ属		10	+	20								
	タマハハキモク			+	+								
	シダモク					+							
種類名	紅藻綱		+										
	コスジフシツナギ		10	+									
	イトグサ属			+									
	フダラク			+	+								
	ムカデノリ属			+	+	+	+						
	イギス科				10	10	+	+	+				
	マクサ					40	30	10	+				
	カバノリ					+	+	+	+	+	+		
	イワノカワ科						30	+	+	+	+	+	
	ススカケベニ						+	+					
	藍藻綱		30										
種類名	珪藻綱		+	10									
	珪藻綱												
	出現種類数(17)	1	6	8	6	6	7	5	4	2	2	1	-

注:数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

表3-2-1(2) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場(A-4)

平成21年11月8日

平均海面(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	砂小礫
種類名	緑藻綱												
	アオサ属		10	20	+	+							
	シオグサ属			+	+	+							
種類名	褐藻綱			+	+								
	フクロノリ												
	タマハハキモク				+								
種類名	紅藻綱		10	+									
	ツノマタ属		+										
	フダラク		+	10	+	+							
	コスジフシツナギ			+									
	イトグサ属			+									
	イギス科				+	+	+						
	サビ亜科						3	10	10	+			
	カバノリ						+	10	+	+	+		
	ススカケベニ							+					
	イワノカワ科							10	+	+			
	珪藻綱		+										
種類名	珪藻綱												
	出現種類数(14)	-	3	7	7	4	3	4	3	3	1	-	-

注:数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

表3-2-1(3) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場(A-5)

平成21年11月8日

平均海面(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	砂大礫
種類名	緑藻綱												
	アオサ属		+	10	+		+	+					
	アオリ属		+										
種類名	紅藻綱			+	+	+	20	20	20	20	+	+	
	サビ亜科						10	10	10	10	+	+	
	イワノカワ科						+						
	オキツノリ						+						
	ススカケベニ						+	+	+	+	+		
種類名	珪藻綱		60	70									
	珪藻綱												
	出現種類数(7)	-	3	3	3	2	5	4	3	3	3	2	-

注:数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

表 3-2-1 (4) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-7)

平成21年11月8日

平均海面(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8
種類名	基質	ケーソン	矢板	矢板	矢板	矢板	小礫砂	小礫砂	小礫砂	小礫砂	小礫砂
	アオサ属		+								
緑藻綱 紅藻綱	サビ亜科						+	+			
	マクサ						+				
	カバノリ						+	+			
	ススカケベニ							+	+		
珪藻綱	珪藻綱		30	10							
出現種類数(6)		-	2	1	-	-	3	3	1	-	-

注: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

表 3-2-1 (5) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-1)

平成21年11月21日

平均海面(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-4	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
	アオサ属		5	+		+	+	+							
緑藻綱 褐藻綱	シダモク							15	5	+	+				
	タマハハキモク							+							
	フダラク			+	+	+		+	+						
	ツノマタ属			+				+							
紅藻綱	サビ亜科				+				+		+			+	
	イワノカワ科				+				5	10	10	10	+	+	
	イギス科					+	+	+	+	+	10	+	+	+	
	ススカケベニ					+	5			+	+	+	+	+	
	イギス属					+									
	ムカデノリ							+							
	ベニスナゴ							+							
	藍藻綱		15												
	珪藻綱				+	10	15	15	20	10					
	出現種類数(14)	-	2	3	4	6	4	9	6	5	5	3	3	2	-

注: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

表 3-2-1 (6) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-2)

平成21年11月21日

平均海面(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
	アオサ属		50	25	+	10	+						
緑藻綱	フトジュズモ					+							
	ミル						+						
褐藻綱	タマハハキモク				+		+						
	シダモク							+					
紅藻綱	フダラク			+	5		+						
	イギス科				+	15							
	イワノカワ科				+		+	15	10	40	30	10	15
	コスジフシツナギ					+							
	ツノマタ属							+					
	ススカケベニ						+		+	+	+	+	+
	サビ亜科								+	+	+	+	+
	出現種類数(14)	-	2	2	6	5	6	3	2	3	3	2	2

注: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

表 3-2-1 (7) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-3)

平成21年11月21日

平均海面(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
	アオサ属		65	+	15	5	+						
緑藻綱	アオリ属				+	+							
褐藻綱	タマハハキモク					5							
	シダモク						20	+					
紅藻綱	コスジフシツナギ		+		+								
	フダラク			+	+	+		+					
	イギス科			+	+	+							
	イギス属				10	5				+			
	ススカケベニ						+		+	+	+	+	+
	カバリ						+		+				
	ツノマタ属						+						
	イワノカワ科						+	5	+		+	+	+
	サビ亜科							+					
	ムカデノリ									+		+	
珪藻綱	珪藻綱			5									
出現種類数(15)		-	2	4	6	6	6	4	3	3	2	3	2

注:数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

表 3-2-1 (8) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-4)

平成21年11月21日

平均海面(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
	アオサ属		95	95	30	+	+						
緑藻綱	アオリ属					+							
紅藻綱	ツノマタ属			+		+							
	マクサ			+									
	イワノカワ科			+				+	+	+	+		
	イギス科				10	+	+		+	+	+		
	カバリ				+	+	30	5	+	+	+		
	イギス属				+								
	フダラク							+					
	ススカケベニ								+	+		+	+
	ムカデノリ									+	+	+	
藍藻綱	藍藻綱		+										
出現種類数(11)		-	2	4	4	4	3	3	3	5	3	2	1

注:数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

表 3-2-1 (9) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-5)

平成21年11月21日

平均海面(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
	アオサ属		15	+		+	+						
緑藻綱	アオリ属		+										
褐藻綱	シダモク					10	10	10					
	タマハハキモク						+						
紅藻綱	イギス科			+	+		+		5				
	ツノマタ属					+	+	+					
	イギス属					+	+						
	イワノカワ科					+	+			+			
	ハイウスバリ属						+						
	フダラク						+	+					
	フシツナギ属						+						
	カバリ							+					
	ススカケベニ									+			
藍藻綱	藍藻綱		5										
珪藻綱	珪藻綱					+	5	10	40	50	40	5	
出現種類数(15)		-	3	2	1	6	11	5	2	3	1	1	-

注:数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

表3-2-1 (10) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-2)

平成21年11月17日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
	アオサ属		20	+	+											
緑藻綱	シオグサ属			+												
	ミル			+												
	フダラク			+	+	+										
	ムカデノリ属			+			+									
	イトグサ属			+	+											
	イギス科					10	20	20	10	+						
	カバノリ						10	10	10	+	+					
	イワノカワ科										+	+				
珪藻綱	珪藻綱		60	+												
出現種類数 (10)		-	2	7	3	2	3	2	2	2	2	1	-	-	-	-

注: 数値は被度 (%) を示し、+ は5%未満を示す。

表3-2-1 (11) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-3)

平成21年11月17日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
	アオサ属		20	+												
緑藻綱	アオノリ属		+													
	ミル			+												
	イギス科									+	+					
紅藻綱	イギス科															
珪藻綱	珪藻綱		10	+												
出現種類数 (5)		-	3	3	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-

注: 数値は被度 (%) を示し、+ は5%未満を示す。

表3-2-1 (12) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-5)

平成21年11月17日

観察場所		エコ岸壁													
平均海面 (m)		壁面								遊水室					
種類名	基質または部位	+1	+1〜±0	±0〜-1	-1〜-2	-2〜-3	-3〜-4	-4〜-5	-5〜-5.5	上室			下室		
	ケーソン	ケーソン	網金網石	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	上面	側面	下面	上面	側面	下面
緑藻綱	アオサ属	50	20	+											
紅藻綱	ムカデノリ		+												
珪藻綱	珪藻綱	+	+												
出現種類数 (3)		2	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注: 数値は被度 (%) を示し、+ は5%未満を示す。

表3-2-1 (13) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-6)

平成21年11月17日

観察場所		エコ岸壁													
平均海面 (m)		+1	+1〜±0	±0〜-1	-1〜-2	-2〜-3	-3〜-4	-4〜-5	-5〜-5.5	上室			下室		
種類名	基質または部位	ケーソン	網金網石	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	上面	側面	下面	上面	側面	下面
	アオサ属		30	10											
緑藻綱	イギス科					+									
藍藻綱	藍藻綱	20	+												
珪藻綱	珪藻綱		+	+	+	+	+								
出現種類数 (4)		1	3	2	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-

注: 数値は被度 (%) を示し、+ は5%未満を示す。

② 動物

A. 神戸沖処分場

神戸沖処分場の動物の目視観察結果を表3-2-2(1)～(4)に示した。

調査地点A-2では、平均海面+1～-9mに分布し、19種類が確認された。種類数が多かったのは-1～4mで6種類であった。被度30%以上の種類は、-2～3mで環形動物門のカンザシゴカイ科が40～60%、-4mと-6～7mで節足動物門のサンカクフジツボが30～60%であった。個体数で一柵(0.25 m²)あたり10個体以上みられた種類は、+1mで軟体動物門のアラレタマキビが26個体、-3mで軟体動物門のムギガイが30個体であった。

調査地点A-4では、平均海面+1～-10mに分布し、26種類が確認された。種類数が多かったのは-2mで11種類であった。被度30%以上の種類は、+1mで節足動物門のイワフジツボが30%、-1mで腔腸動物門のチギレイソギンチャクが30%、-1～4mでカンザシゴカイ科が30%、-3mでサンカクフジツボが30%であった。個体数で一柵あたり10個体以上みられた種類は、+1mでアラレタマキビが120個体であった。

調査地点A-5では、平均海面+1～-10mに分布し、26種類が確認された。種類数が多かったのは-1mで9種類であった。被度30%以上の種類は、-4～6mでサンカクフジツボが30～40%であった。個体数で一柵あたり10個体以上みられた種類は、+1mで軟体動物門のタマキビが12個体、アラレタマキビが36個体、±0mで軟体動物門のヒザラガイが12個体であった。

調査地点A-7では、平均海面+1～-8mに分布し、25種類が確認された。種類数が多かったのは±0mと-2mで10種類であった。被度30%以上の種類は、+1mでイワフジツボが50%、-2～3mでカンザシゴカイ科が30～90%、-3mでサンカクフジツボが30%であった。個体数で一柵あたり10個体以上みられた種類は、+1mでアラレタマキビが48個体、タマキビが20個体、水深-1～3mで棘皮動物門のイトマキヒトデが17～44個体であった。

C. 大阪沖処分場

大阪沖処分場の動物の調査結果を表3-2-2(5)～(9)に示した。

調査地点C-1では、平均海面+1～-10mに分布し、26種類が確認された。種類数が多かったのは-1mと-4mで9種類であった。被度30%以上の種類は、-1～4mでカンザシゴカイ科が40～85%であった。一柵あたりの個体数が最も多かった種類は、+1mのアラレタマキビで8個体であった。

調査地点C-2では、平均海面+1～-10mに分布し、17種類が確認された。種類数が多かったのは-6mで6種類であった。被度30%以上の種類は、-2～5mでカンザシゴカイ科が45～90%、-7～9mでサンカクフジツボが30～60%であった。個体数で一柵あたり10個体以上みられた種類は、+1mでアラレタマキビが82個体であった。

調査地点C-3では、平均海面±0～-10mに分布し、16種類が確認された。種類数が多かったのは-3mで8種類であった。被度30%以上の種類は、-2～5mでカンザシゴカイ科が60～95%、-4mで泥巣が45%、-9mでサンカクフジツボが80%であった。一柵あたりの個体数が最も多かった種類は、-2mの軟体動物門のレイシガイで4個体であった。

調査地点C-4では、平均海面±0～-10mに分布し、18種類が確認された。種類数が多かったのは-6mで8種類であった。被度30%以上の種類は、-3～5mでカンザシゴカイ科が35～90%、-8～9mで泥巣が35～40%であった。一桝あたりの個体数が最も多かった種類は、±0～-1mの節足動物門のヤドカリ科で5個体であった。

調査地点C-5では、平均海面+1～-9mに分布し、22種類が確認された。種類数が多かったのは-2mで9種類であった。被度30%以上の種類は、-1～4mでカンザシゴカイ科が80～100%であった。個体数で一桝あたり10個体以上みられた種類は、+1mでアラレタマキビが55個体であった。

D. 泉大津沖処分場

泉大津沖処分場の動物の調査結果を表3-2-2(10)～(13)に示した。

調査地点D-2では、平均海面+1～-12mに分布し、24種類が確認された。種類数が多かったのは-5mで8種類であった。被度30%以上の種類は、-1～5mでカンザシゴカイ科が30～70%、-3mで触手動物門のコケムシ綱が30%であった。一桝あたりの個体数が最も多かった種類は、+1mのアラレタマキビと軟体動物門のカモガイで9個体であった。

調査地点D-3では、平均海面+1～-12mに分布し、23種類が確認された。種類数が多かったのは±0mと-4mで10種類であった。被度30%以上の種類は、±0mで軟体動物門のムラサキイガイが50%、-2～5mでカンザシゴカイ科が30～70%であった。個体数で一桝あたり10個体以上みられた種類は、+1mでアラレタマキビが220個体であった。

調査地点D-5では、壁面の+1～-5.5m、遊水室の上室および下室に分布し、20種類が確認された。種類数は壁面では20種類、遊水室では上室、下室ともに8種類で、種類数が多かったのは壁面の+1～±0mで12種類であった。被度30%以上の種類は、壁面の+1～-1mと遊水室の下室上面でムラサキイガイが30～40%、壁面の-1～2mでチギレイソギンチャクが30%、壁面の-1～5m、遊水室の上室上面と側面、下室側面でカンザシゴカイ科が30～70%、遊水室の上室上面で原索動物門のシロボヤが30%であった。観察範囲に個体数が10個体以上みられた種類は、壁面では+1mで軟体動物門のイボニシが30個体、+1～-1mでレイシガイが15～30個体であった。遊水室には計数の対象となる種類は出現しなかった。

調査地点D-6では、壁面の+1～-5.5m、遊水室の上室および下室に分布し、17種類が確認された。種類数は壁面では16種類、遊水室では上室、下室ともに7種類で、種類数が多かったのは壁面の±0～-2mで10種類であった。被度30%以上の種類は、壁面の+1mでイワフジツボが60%、壁面の+1～±0mで軟体動物門のマガキが60%、壁面の±0～-5m、遊水室の上室上面と側面、下室上面と側面でカンザシゴカイ科が40～80%であった。観察範囲に個体数が10個体以上見られた種類は、壁面では+1～±0mにイボニシが80個体、±0～-1mにレイシガイが15個体であったが、遊水室では上室上面と下室下面にレイシガイが1個体ずつ出現したのみであった。

表3-2-2 (1) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-2)

平成21年11月8日

平均海面(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂小礫
海綿動物門	海綿動物門		+										
腔腸動物門	ヒドロ虫綱			10	+								
	チギレイソギンチャク			+	+	+							
環形動物門	カンザシゴカイ科		+	20	40	60	10	+	+				
触手動物門	コケムシ綱		+	+	+	+							
軟体動物門	アラレタマキビ	(26)											
	タマキビ	(4)											
	カラマツガイ	(3)											
	イボニシ			(1)									
	レイシガイ				(9)								
	ムギガイ					(30)	(6)						
	コシダカガンガラ					(1)	(2)						
	トゲアメフラシ									(1)			
節足動物門	ヨーロッパフジツボ		+										
	ヤドカリ科			(1)									
	サンカクフジツボ						30	20	60	60	10	+	
棘皮動物門	イトマキヒトデ				(2)		(2)	(2)	(5)	(3)			
	キヒトデ						(7)			(1)			
原索動物門	ホヤ綱(群体性)					+		+					
	出現種類数(19)	3	4	6	6	6	6	4	3	4	1	1	-

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

注2: ()内の数値は個体数を示す。

表3-2-2 (2) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-4)

平成21年11月8日

平均海面(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	砂小礫
海綿動物門	海綿動物門		10	+	+								
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+	+									
	チギレイソギンチャク		10	30	20	+							
	ヒドロ虫綱		+	+	10	10	10						
	イソギンチャク目			+	+								
	ハナギンチャク科												+
環形動物門	カンザシゴカイ科		10	30	30	30	30						
触手動物門	フサコケムシ科		+										
	コケムシ綱		10	+	+	+	+						
軟体動物門	アラレタマキビ	(120)											
	ベッコウガサ	(2)											
	イボニシ	(1)											
	カモガイ	(2)											
	レイシガイ			(3)									
	ミドリイガイ				+								
	ムササキイガイ				+								
	トゲアメフラシ						(2)	(1)					
節足動物門	イワフジツボ	30	+										
	アカフジツボ		+										
	サンカクフジツボ				+	30	10	10	+	+			
棘皮動物門	イトマキヒトデ					(2)	(2)						
	キヒトデ						(1)						
原索動物門	ホヤ綱(群体性)				+	+	+						
	クロマメイタボヤ				20	+	10						
	エボヤ					+	+						
-	泥巢									+	+	+	
	出現種類数(26)	5	9	8	11	9	10	2	1	2	1	1	1

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

注2: ()内の数値は個体数を示す。

表 3-2-2 (3) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-5)

平成21年11月8日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	砂 大礫
腔腸動物門	タテジマインギンチャク		+										
	チギレイソギンチャク		+	+	+	+	+						
	インギンチャク目		+	+				+					
	ヒドロ虫綱		+	+	+					+	+		
	ハナギンチャク科												+
環形動物門	カンザシゴカイ科			10	+	10	10						
触手動物門	コケムシ綱				+								
軟体動物門	カモガイ	(1)											
	タマキビ	(12)											
	カラマツガイ	(1)											
	アラレタマキビ	(36)											
	ユキノカサガイ科		(1)										
	ヒザラガイ		(12)										
	イボニシ		(3)										
	トゲアメフラシ			(1)									
	ムラサキイガイ			+									
	イタボガキ科			+									
	レイシガイ					(4)	(6)	(4)	(1)				
	シマメノウフネガイ						+	+	+				
	コシダカガンガラ						(3)	(2)	(2)				
	カゴメガイ									(1)			
節足動物門	イワフジツボ	+	20										
	サンカクフジツボ			+	10	20	40	40	30	20	+	+	
棘皮動物門	サンショウウニ			(6)	(5)	(8)							
	マナマコ						(1)						
	バフンウニ						(3)						
出現種類数(26)		5	8	9	6	5	8	5	4	3	2	1	1

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

注2: ()内の数値は個体数を示す。

表 3-2-2 (4) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-7)

平成21年11月8日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8
種類名	基質	ケーソン	矢板	矢板	矢板	矢板	小礫 砂	小礫 砂	小礫 砂	小礫 砂	小礫 砂
腔腸動物門	タテジマインギンチャク		+								
	ヒドロ虫綱		10	+	+						
	チギレイソギンチャク				+	+					
	ハナギンチャク科							+	+		
環形動物門	カンザシゴカイ科		+	+	90	30					
触手動物門	コケムシ綱				+	+					
軟体動物門	アラレタマキビ	(48)									
	タマキビ	(20)									
	カモガイ	(2)									
	レイシガイ		(8)	(1)	(4)						
	イボニシ		(1)								
	ミドリイガイ		+	+	+						
	ムラサキイガイ			+	+						
	イワフジツボ	50	10								
節足動物門	シロスジフジツボ	+									
	アカフジツボ		+								
	サンカクフジツボ		+	+		30	+				
	イトマキヒトデ		(9)	(31)	(44)	(17)	(1)	(1)	(1)		(1)
棘皮動物門	サンショウウニ				(1)						
	マナマコ					(1)	(1)				
	キヒトデ					(1)					
	モミジガイ							(1)			
原索動物門	エボヤ				+						
	ホヤ綱(群体性)					+					
-	泥巢					+					
出現種類数(25)		5	10	7	10	9	3	2	2	1	1

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

注2: ()内の数値は個体数を示す。

表3-2-2 (5) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-1)

平成21年11月21日

平均海面(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-4	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
海綿動物門	海綿動物門			+	+	10	10	10	10	5				+	+
腔腸動物門	<i>Anthopleura</i> sp.			+											
	チゲレイソギンチャク			+		+									
	ヒドロ虫綱			+	+	+	+		+						
	タテジマイソギンチャク			+		+									
	シオガマサンゴ											+	+		+
環形動物門	カンザシゴカイ科			80	50	80	85	40	10	10	+	+			
	ミズヒキゴカイ科						+		+	+					
	ウズマキゴカイ科										+				
触手動物門	コケムシ綱			10	5										
軟体動物門	アラレタマキビ	(8)													
	マガキ		+												
	イボニシ		(2)	(2)		(1)									
	クロシタナシウミウシ				(1)									(1)	
	レイシガイ					(1)	(2)								
	カゴメガイ						(1)				(1)				
	コシダカガンガラ								(1)						
	ナミマガシワ										+				
	シマメノウフネガイ												+		
節足動物門	イワフジツボ		20												
	サンカクフジツボ											+			
棘皮動物門	キヒトデ						(1)			(1)	(1)		(2)	(1)	(1)
	ムラサキウニ									(1)					
原索動物門	ホヤ綱(群体性)			5		+	+	+		+					
	コウレイボヤ属						+								
—	泥巢							+			+	+			
	出現種類数(26)	1	3	9	5	8	9	5	5	5	7	4	3	3	3

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

注2: ()内の数値は個体数を示す。

表3-2-2 (6) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-2)

平成21年11月21日

平均海面(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
海綿動物門	海綿動物門						+		+	+	+	+	+
腔腸動物門	ヒドロ虫綱			+		+							
環形動物門	カンザシゴカイ科			+	75	75	90	45	10	+			
触手動物門	コケムシ綱			15		10							
軟体動物門	アラレタマキビ	(82)											
	イボニシ		(5)	(3)									
	クロシタナシウミウシ					(1)	(2)						
	イワガキ						5						
	シマメノウフネガイ							+	+				
	キクザルガイ科							+					
	コシダカガンガラ								(1)				
節足動物門	サンカクフジツボ								+	30	45	60	20
	ヤドカリ科		(1)		(5)							(1)	
	イワフジツボ		+										
棘皮動物門	サンショウウニ								(1)				
原索動物門	ホヤ綱(群体性)			10	+								
—	泥巢				+	+		+					
	出現種類数(17)	1	3	5	4	5	4	4	6	3	2	3	2

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

注2: ()内の数値は個体数を示す。

表 3-2-2 (7) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-3)

平成21年11月21日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
海綿動物門	海綿動物門					5			10	+			
腔腸動物門	ヒドロ虫綱			+	+	+	+						
	シオガマサンゴ									+		+	
環形動物門	カンザシゴカイ科			+	85	95	90	60	15	5	+		
触手動物門	コケムシ綱								+				
軟体動物門	マツバガイ		(3)										
	イボニシ		(1)	(1)	(3)								
	レイシガイ				(4)	(1)						(2)	
	コシダカガンガラ				(1)								
	カゴメガイ							(1)					
節足動物門	ヤドカリ科					(1)	(1)		(1)				
	サンカクフジツボ									+	+	80	+
棘皮動物門	イトマキヒトデ				(2)	(1)		(2)				(1)	
	キヒトデ							(2)	(1)				
原索動物門	ホヤ綱(群体性)					+							
—	泥巢			+	+	20	45	15	15	5			
出現種類数(16)		-	2	4	6	8	5	5	6	5	2	4	1

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

注2: ()内の数値は個体数を示す。

表 3-2-2 (8) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-4)

平成21年11月21日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
腔腸動物門	タテジマインギンチャク		+										
	ヒドロ虫綱				+		+						
	チギレイソギンチャク						+						
	シオガマサンゴ										+	+	+
扁形動物門	ヒラムシ目			(1)									
環形動物門	カンザシゴカイ科			10	25	90	85	35			+		
	ミズヒキゴカイ科								+				
触手動物門	コケムシ綱			+					+	+			
軟体動物門	イボニシ		(2)	(1)									
	コシダカガンガラ			(1)			(2)						
	レイシガイ				(1)				(1)				
	ナミマガシフ						+						
	クロシタナシウミウシ								(1)				
節足動物門	ヤドカリ科		(5)	(5)	(4)	(2)							
	サンカクフジツボ								15		+	+	
棘皮動物門	キヒトデ				(1)	(1)	(1)	(1)	(3)				(1)
	サンショウウニ								(1)				
—	泥巢					+	+	10	+	10	35	40	+
出現種類数(18)		-	3	6	5	4	7	3	8	2	4	3	3

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

注2: ()内の数値は個体数を示す。

表 3-2-2 (9) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-5)

平成21年11月21日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
海綿動物門	海綿動物門			+	5			+					
腔腸動物門	チギレイソギンチャク			+	+	+							
	ヒドロ虫綱				+								
	シオガマサンゴ											+	+
環形動物門	カンザシゴカイ科		+	95	100	80	90	80	+				
	ミズヒキゴカイ科				+					+	+		
	ケヤリ科										+		
触手動物門	コケムシ綱		+	10									
	ホウキムシ科										+	+	+
軟体動物門	アラレタマキビ	(55)											
	マガキ		+										
	イボニシ		(4)	(1)									
	カラマツガイ		(4)										
	レイシガイ			(8)	(2)								
	クロシタナシウミウシ				(1)								
	ナミマガシフ								+				
節足動物門	ヤドカリ科							(1)	(1)				
棘皮動物門	キヒトデ					(1)	(1)		(1)				
原索動物門	ホヤ綱(群体性)			+	+		+		5				
	エウレイボヤ属				+								
	ホヤ綱(群体性)												+
—	泥巢					5	+	10	+	+	+	+	+
出現種類数(22)		1	5	7	9	4	4	4	6	2	4	3	4

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

注2: ()内の数値は個体数を示す。

表3-2-2 (10) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-2)

平均海面(m)		平成21年11月17日														
種類名	基質	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
海綿動物門	海綿動物門		+	+	+											
腔腸動物門	タテジマインギンチャク		+													
	ヒドロ虫綱		+	+												
	チギレイソギンチャク			+	10	+										
	シオガマサンゴ									+	+			+		
環形動物門	カンザシゴカイ科		+	70	40	30	30	30								
触手動物門	コケムシ綱				10	30	10	+	+	10	+	+	+	+	+	
軟体動物門	ベッコウカサガイ	(1)														
	ユキノカサガイ科	(1)														
	アブレタマキビ	(9)														
	マツバガイ	(1)														
	カモガイ	(9)														
	ヒザラガイ		(1)													
	ミドリイガイ			+												
	シマメノウフネガイ						+	+								
節足動物門	イワフジツボ	+	+													
棘皮動物門	サンショウウニ							(1)	(1)	(1)						
	キヒトデ							(1)	(2)	(4)	(1)	(1)	(1)		(1)	
	イトマキヒトデ									(1)			(1)			
原索動物門	シロボヤ				+	10	+	+								
	クロマメイタボヤ				+	+										
	ホヤ綱(群体性)				+			+								
	エボヤ					+										
—	泥巢						+	+								
出現種数(24)		6	6	5	7	6	5	8	3	5	3	2	3	2	2	—

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。
 注2: () 内の数値は個体数を示す。

表3-2-2 (11) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-3)

平均海面(m)		平成21年11月17日														
種類名	基質	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
腔腸動物門	タテジマインギンチャク		+													
	チギレイソギンチャク		+	20	10	10	10	+	+							
	シオガマサンゴ												+	+	+	
環形動物門	カンザシゴカイ科		+	20	30	70	70	40	20							
触手動物門	コケムシ綱		+	+	10	10	+	+	10	+						
	アミコケムシ科									+	+	+	+	+	+	
軟体動物門	アブレタマキビ	(220)														
	イボニシ		(4)													
	カラマツガイ		(2)													
	マガキ		+													
	ミドリイガイ		+	10	+	+	+									
	ムラサキイガイ		50	10	+	+	+									
	イタボガキ科				+											
	レイシガイ					(2)	(3)									
	シマメノウフネガイ								+							
節足動物門	イワフジツボ	+	10													
棘皮動物門	キヒトデ									(1)		(2)	(1)	(1)		
	イトマキヒトデ										(1)	(1)	(2)			
原索動物門	シロボヤ			10	+	+	10	+	+							
	エボヤ			+			+	+	+							
	ホヤ綱(群体性)				+	+	+	+	+							
	ユウレイボヤ属						+	+	+							
—	泥巢								+	+	+	+				
出現種数(23)		2	10	7	8	9	10	7	8	4	3	4	4	3	2	—

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。
 注2: () 内の数値は個体数を示す。

表3-2-2 (12) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-5)

平成21年11月17日

観察場所		エコ岸壁								遊水室					
平均海面 (m)		+1	+1～±0	±0～-1	-1～-2	-2～-3	-3～-4	-4～-5	-5～-5.5	上室			下室		
種類名	基質または部位	ケーソン	網金網石	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	上面	側面	下面	上面	側面	下面
腔腸動物門	タテジマインゲンチャク	+	+												
	チギレイソギンチャク		+	20	30	20	10	+		10	20	+	10	+	
環形動物門	カンザシゴカイ科		+	10	30	30	60	40	+	30	70	+	20	60	+
触手動物門	コクムシ綱		+	20	10	10	10	20	+	+	10		+	20	
	フサコクムシ科		+												
軟体動物門	ケガキ	10	+												
	ヨメガカサ	(1)													
	レイシガイ		(30)	(15)											
	コシダカガンガラ		(5)												
	イボニシ		(30)	(2)											
	ムラサキイガイ		40	40	10	20				10	+		30	+	+
	ミドリイガイ		+	+	+	+	+			+	+		+	+	
	シマメノウフネガイ							+							
節足動物門	イワフジツボ	+													
棘皮動物門	キヒトデ							(2)							
	マナマコ							(2)	(1)						
原索動物門	ホヤ綱(群体性)		+	+	+	+	+			+	+	+	+	+	+
	シロボヤ			+	10	10	+	+	+	30	+		+	+	+
	ユウレイボヤ属				+	+	+	+		+			+	+	+
	エボヤ						+	+							
出現種類数(20)		4	12	9	8	8	8	9	4	8	7	3	8	8	5

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

注2: ()内の数値は個体数を示す。

表3-2-2 (13) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-6)

平成21年11月17日

観察場所		エコ岸壁								遊水室					
平均海面 (m)		+1	+1～±0	±0～-1	-1～-2	-2～-3	-3～-4	-4～-5	-5～-5.5	上室			下室		
種類名	基質または部位	ケーソン	網金網石	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	上面	側面	下面	上面	側面	下面
腔腸動物門	タテジマインゲンチャク		+												
	チギレイソギンチャク			+	+	+	+			+	+	+	+	+	+
	ヒドロ虫綱			+	+										
環形動物門	カンザシゴカイ科		+	70	70	60	60	40	20	60	80	+	40	80	+
触手動物門	コクムシ綱		+	+	+										
軟体動物門	イボニシ	(3)	(80)	(6)											
	マガキ	+	60												
	ミドリイガイ		+	+	+					+	+				
	レイシガイ			(15)	(4)					(1)					(1)
	ナミマガシワ														
節足動物門	イワフジツボ	60	+												+
	ヨーロッパフジツボ			+											
棘皮動物門	イトマキヒトデ						(1)	(1)	(1)						
原索動物門	ユウレイボヤ属			+	+	10	+	+	+		+		+	10	
	シロボヤ			10	20	10	10	+	+	10	+		+	+	
	ホヤ綱(群体性)				+	+	+				+			+	
	泥巢				+	+	10	10	+						
出現種類数(17)		3	7	10	10	6	7	5	4	5	6	2	4	5	4

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

注2: ()内の数値は個体数を示す。

③ 魚類

A. 神戸沖処分場

神戸沖処分場の魚類の目視観察結果を表3-2-3(1)～(4)に示した。

調査地点A-2では10種類が確認され、平均海面-2～4mで7種類と最も多かった。個体数が11個体以上みられた種類はボラで、-2～4mで51個体以上であった。

調査地点A-4では14種類が確認され、-4～6mで12種類と最も多かった。個体数が11個体以上みられた種類は、-2～4mでスズメダイが11～50個体、-4～6mでボラが51個体以上、キュウセンが11～50個体であった。

調査地点A-5では6種類が確認され、-2～4mで6種類すべてが確認された。個体数が最も多かった種類はキュウセン、ササノハベラ、イシダイおよびメバルで、-2～4mで3～10個体であった。

調査地点A-7では5種類が確認され、-4～6mで3種類と最も多かった。個体数が11個体以上みられた種類はキュウセンで、-4～6mで11～50個体であった。

C. 大阪沖処分場

大阪沖処分場の魚類の目視観察結果を表3-2-3(5)～(9)に示した。

調査地点C-1では3種類が確認され、-4～6mで2種類と多かった。個体数が最も多かった種類はメバルで、-4～-6mで3～10個体であった。

調査地点C-2では6種類が確認され、-4～6mで5種類と多かった。個体数が11個体以上みられた種類はスズメダイで、-2～4mで11～50個体であった。

調査地点C-3では5種類が確認され、-2～4mと-6～8mで3種類と多かった。個体数が最も多かった種類は-2～4mではキュウセン、ウミタナゴおよびクロダイ、-4～6mでクロダイ、-6～8mでメバルがそれぞれ3～10個体であった。

調査地点C-4では5種類が確認され、-4～6mで4種類と多かった。個体数が最も多かった種類は、-2～4mでウミタナゴ、-4～6mでオヤビッチャがそれぞれ3～10個体であった。

調査地点C-5では4種類が確認され、-4～6mで4種類すべてが確認された。個体数が11個体以上みられた種類はメバルで、-2～4mで11～50個体であった。

D. 泉大津沖処分場

泉大津沖処分場の魚類の目視観察結果を表3-2-3(10)～(13)に示した。

調査地点D-2では11種類が確認され、-4～6mで11種類すべてが確認された。個体数が11個体以上みられた種類はキュウセンとボラで、-4～6mで11～50個体であった。

調査地点D-3では5種類が確認され、-6～8mでのみ出現した。個体数が11個体以上みられた種類はアイゴとマアジで11～50個体であった。

調査地点D-5では8種類が確認され、エコ岸壁の周辺で7種類と最も多かった。個体数が11個体以上みられた種類は、エコ岸壁の周辺でクロダイ、キュウセン、メバルおよびスズメダイが、遊水室内でメバルが、それぞれ11～50個体であった。

調査地点D-6では4種類が確認され、エコ岸壁の周辺で3種類と多かった。個体数が11個体以上みられた種類はエコ岸壁の周辺でマアジが11～50個体であった。

表 3-2-3 (1) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-2)

平成21年11月8日

平均海面(m)		±0～-2	-2～4	-4～6	-6～8	-8～10
種類名	基質	ブロック	ブロック 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 小礫 砂
	魚類					
	ナベカ(4)	rr				
	キュウセン(5～15)		r			
	メジナ(15～20)		r			
	ボラ(30～35)		cc			
	イシダイ(15～20)		r			
	クロダイ(25～30)		r	r		
	カサゴ(8～15)		rr	rr		
	ウミタナゴ(15～20)		r			
	ササノハベラ(12～15)			r		
	メバル(10～15)			r		
出現種類数(10)		1	7	4	-	-

注1: rr=1～2個体、r=3～10個体、c=11～50個体、cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の()内の数値は全長(cm)を、出現種類数の()内の数値は総種類数を示す。

表 3-2-3 (2) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-4)

平成21年11月8日

平均海面(m)		±0～-2	-2～4	-4～6	-6～8	-8～10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック 砂 小礫
	魚類					
	メジナ(15～22)		r	r		
	スズメダイ(8～12)		c	r		
	イシダイ(15～25)		r	r		
	コモンフグ(12)		rr			
	ウミタナゴ(10～12)					
	アイナメ(30)			rr		
	ボラ(30～35)			cc		
	キュウセン(5～18)			c		
	ササノハベラ(15～18)			r		
	ウマヅラハギ(25)			rr		
	メバル(12～18)			r	rr	
	カワハギ(15)			rr		
	クロダイ(25～35)			r		
	カサゴ(10～20)			r		
出現種類数(14)		-	4	12	1	-

注1: rr=1～2個体、r=3～10個体、c=11～50個体、cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の()内の数値は全長(cm)を、出現種類数の()内の数値は総種類数を示す。

表 3-2-3 (3) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-5)

平成21年11月8日

平均海面(m)		±0～-2	-2～4	-4～6	-6～8	-8～10
種類名		基質	ケーソン	ケーソン 巨礫	巨礫	巨礫 砂 大礫
魚類	キュウセン(5～15)			r	rr	
	ササノハベラ(12～15)			r		
	カワハギ(15)			rr		
	イシダイ(15～18)			r		
	カサゴ(7～12)			rr	rr	
	メバル(8～15)			r		
出現種類数(6)		-	6	2	-	-

注1: rr=1～2個体、r=3～10個体、c=11～50個体、cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の()内の数値は全長(cm)を、出現種類数の()内の数値は総種類数を示す。

表 3-2-3 (4) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-7)

平成21年11月8日

平均海面(m)		±0～-2	-2～4	-4～6	-6～8
種類名		基質	矢板	矢板	小礫 砂
魚類	コモンフグ(12)			rr	
	カサゴ(10)			rr	
	キュウセン(7～12)			c	
	アミメハギ(3)			rr	
	ハゼ科(4～6)			rr	rr
出現種類数(5)		-	2	3	1

注1: rr=1～2個体、r=3～10個体、c=11～50個体、cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の()内の数値は全長(cm)を、出現種類数の()内の数値は総種類数を示す。

表 3-2-3 (5) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-1)

平成21年11月21日

平均海面(m)		±0～-2	-2～4	-4～6	-6～8	-8～10
種類名		基質	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫
魚類	キュウセン(18)				rr	
	メバル(15)				r	
	イシダイ(14)				rr	
出現種類数(3)		-	-	2	1	-

注1: rr=1～2個体、r=3～10個体、c=11～50個体、cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の()内の数値は全長(cm)を、出現種類数の()内の数値は総種類数を示す。

表 3-2-3 (6) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-2)

平成21年11月21日

平均海面 (m)		±0～-2	-2～4	-4～6	-6～8	-8～10
種類名		基質	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫
魚類	スズメダイ (12)		c			
	メバル (14)			r		
	クロダイ (18～25)			r		
	キュウセン (18～20)			r		
	カワハギ (16)			rr		
	イシダイ (15～20)			r		
出現種類数(6)		—	1	5	—	—

注1: rr=1～2個体、r=3～10個体、c=11～50個体、cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 3-2-3 (7) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-3)

平成21年11月21日

平均海面 (m)		±0～-2	-2～4	-4～6	-6～8	-8～10
種類名		基質	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫
魚類	キュウセン(8)		r			
	ウミタナゴ(10)		r			
	クロダイ(18～25)		r	r	rr	
	メバル(8～16)				r	
	イシダイ(15)				rr	
出現種類数(5)		—	3	1	3	—

注1: rr=1～2個体、r=3～10個体、c=11～50個体、cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 3-2-3 (8) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-4)

平成21年11月21日

平均海面 (m)		±0～-2	-2～4	-4～6	-6～8	-8～9
種類名		基質	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫
魚類	ウミタナゴ(10～18)		r			
	スズメダイ(12)			rr		
	イシダイ(16)			rr		
	メバル(15)			rr		
	オヤビッチャ(10)			r		
出現種類数(5)		—	1	4	—	—

注1: rr=1～2個体、r=3～10個体、c=11～50個体、cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 3-2-3 (9) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-5)

平成21年11月21日

平均海面 (m)		±0～-2	-2～4	-4～6	-6～8	-8～9
種類名	基質	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
	魚類					
	イシダイ(17)		rr	rr		
	メバル(13～15)		c	r		
	クロダイ(18～20)		rr	r		
	ウミタナゴ(8～10)			r		
出現種類数(4)		-	3	4	-	-

注1: rr=1～2個体、r=3～10個体、c=11～50個体、cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の()内の数値は全長(cm)を、出現種類数の()内の数値は総種類数を示す。

表 3-2-3 (10) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-2)

平成21年11月17日

平均海面 (m)		±0～-2	-2～4	-4～6	-6～8	-8～10	-10～12	-12～
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 大礫	巨礫 泥
	魚類							
	コモンフグ(12～15)		rr	r				
	ウミタナゴ(12～20)		r	r				
	キチヌ(30)			rr				
	イシダイ(15～20)			r				
	キュウセン(12～18)			c				
	ホンベラ(10～15)			r				
	クロダイ(30～35)			r				
	スズキ(40)			rr				
	カミナリベラ(15)			rr				
	ボラ(30～35)			c				
	ハゼ科(5～7)			r				
出現種類数(11)		-	2	11	-	-	-	-

注1: rr=1～2個体、r=3～10個体、c=11～50個体、cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の()内の数値は全長(cm)を、出現種類数の()内の数値は総種類数を示す。

表 3-2-3 (11) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-3)

平成21年11月17日

平均海面 (m)		±0～-2	-2～4	-4～6	-6～8	-8～10	-10～12	-12～
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 泥
	魚類							
	ニジギンボ(5～7)				r			
	クロダイ(20～30)				r			
	アイゴ(15～18)				c			
	マアジ(12)				c			
	ウミタナゴ(15～20)				r			
出現種類数(5)		-	-	-	5	-	-	-

注1: rr=1～2個体、r=3～10個体、c=11～50個体、cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の()内の数値は全長(cm)を、出現種類数の()内の数値は総種類数を示す。

表 3-2-3 (12) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-5)

平成21年11月17日

観察部位		エコ岸壁		
		遊水室内	周辺	貫通孔
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン
魚類	クロダイ (20~35)	rr	c	
	キュウセン (5~15)		c	
	ウミタナゴ (10~15)	rr	r	
	メバル (8~12)	c	c	r
	スズメダイ (8~12)	rr	c	r
	カサゴ (12)	rr	rr	r
	ニジギンボ (12)		rr	
その他	マダコ			rr
出現種類数 (8)		5	7	4

注 1 : rr=1~2 個体、r=3~10 個体、c=11~50 個体、cc=51 個体以上を示す。

注 2 : 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 3-2-3 (13) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-6)

平成21年11月17日

観察部位		エコ岸壁		
		遊水室内	周辺	貫通孔
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン
魚類	ハオコゼ (4)	rr		rr
	クロダイ (25~30)		r	
	キュウセン (5~12)		r	
	マアジ (10~12)		c	
出現種類数 (4)		1	3	1

注 1 : rr=1~2 個体、r=3~10 個体、c=11~50 個体、cc=51 個体以上を示す。

注 2 : 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

(2) 粹取り採取および分析

神戸沖処分場、大阪沖処分場および泉大津沖処分場において実施した植物の粹取り分析結果を表3-2-4、動物の粹取り分析結果を表3-2-5に示した。

① 植物

A. 神戸沖処分場

A-2では、上層から下層で9~14種類が出現し、総湿重量は9.79~112.28 g /0.25m²であった。種類数は中層で多く、上層で少なかったが、湿重量は上層で多く、中層で少なかった。優占種をみると、上層ではアオサ属が全体の78%、中層では藻場構成種である褐藻綱のタマハハキモクが全体の88%、下層では紅藻綱のマクサが全体の98%を占め、最も多かった。

C. 大阪沖処分場

C-2では、上層から下層で5~15種類が出現し、総湿重量は0.06~36.30 g /0.25m²であった。種類数は下層で多く、上層で少なかったが、湿重量は上層で多く、中層で少なかった。優占種をみると、上層では緑藻綱のアオサ属がほぼ100%を、中層でもアオサ属が全体の27%を占め、最も多かったが、下層では藻場構成種である褐藻綱のアカモクが全体の91%を占め、最も多かった。

D. 泉大津沖処分場

D-2では、上層から下層で7~11種類が出現し、総湿重量は0.47~26.14 g /0.25m²であった。種類数と湿重量はともに上層で多く、中層で少なかった。優占種をみると、上層ではアオサ属が全体の98%を、中層では紅藻綱のイギス科が全体の94%を、下層では紅藻綱のカバノリが全体の68%を占め、最も多かった。

D-3では、上層から下層で1~8種類が出現し、総湿重量は+ (0.01g 未満) ~9.76 g /0.25m²であった。種類数は上層で多く、下層で少なかった。湿重量は上層で多く、中層と下層ではごくわずかであった。優占種をみると、上層ではアオサ属が全体の96%を占め最も多かったが、中層ではアオサ属と紅藻綱のキヌイトフタツガサネが、下層ではアオサ属がわずかに出現したのみであった。

表 3-2-4 枠取り分析結果(植物)

調査地点 (調査日)	層	上 (M. W. L. ±0. 0m)	中 (M. W. L. -2. 0m)	下 (M. W. L. -4. 0m)
神戸沖 A-2 (11月 8日)	出現種類数	9	14	10
	総湿重量 (g/0.25m ²)	112.28	9.79	75.55
	優占種	第1位 アサ属 88.01 (78)	タマハキモク 8.62 (88)	マサ 73.93 (98)
		第2位 ツノマタ属 10.32 (9)	シオガサ属 0.36 (4)	カハノリ 1.42 (2)
		第3位 コスジ フシツナギ 8.76 (8)	アサ属 0.25 (3)	オキツリ 0.10 (-)
大阪沖 C-2 (11月21日)	出現種類数	5	11	15
	総湿重量 (g/0.25m ²)	36.30	0.66	7.88
	優占種	第1位 アサ属 36.24 (100)	アサ属 0.18 (27)	アカモク 7.17 (91)
		第2位 アオリ属 0.03 (-)	シオガサ属 0.12 (18) ツノマタ属 0.12 (18)	ホシタラ属 0.24 (3)
		第3位 <i>Lyngbya</i> sp. 0.02 (-)		珪藻綱 0.15 (2)
泉大津沖 D-2 (11月17日)	出現種類数	11	7	10
	総湿重量 (g/0.25m ²)	26.14	0.47	9.83
	優占種	第1位 アサ属 25.52 (98)	イネス科 0.44 (94)	カハノリ 6.68 (68)
		第2位 アオリ属 0.33 (1)	ツノマタ属 0.02 (4)	ツノマタ属 2.89 (29)
		第3位 シオガサ属 0.16 (1)	シオガサ属 0.01 (2)	イネス科 0.26 (3)
泉大津沖 D-3 (11月17日)	出現種類数	8	2	1
	総湿重量 (g/0.25m ²)	9.76	+	+
	優占種	第1位 アサ属 9.39 (96)	アサ属 + (-) キヌイトフタツカサネ + (-)	アサ属 + (-)
		第2位 アオリ属 0.18 (2)		
		第3位 イトナサ属 0.16 (2)		

注) 表中の+は0.01g未満を示す。また、()内の数値は総量に対する占有率を示し、(-)は1%未満を示す。

② 動物

A. 神戸沖処分場

A-2では、上層から下層で33~68種類が出現し、種類数は中層で多く、上層で少なかった。総個体数は618~2,177個体/0.25m²で、下層で多く、上層で少なかった。総湿重量は25.12~209.88g/0.25m²で、中層で多く、上層で少なかった。

優占種をみると、上層では節足動物門のヒゲナガヨコエビ属が個体数において全体の48%、湿重量において全体の63%を占め最も多かった。中層では個体数において環形動物門のエゾカサネカンザシゴカイが全体の30%、湿重量において棘皮動物門のイトマキヒトデが全体の50%を占め最も多かった。下層では個体数において環形動物門のカンザシゴカイ科が全体の17%、湿重量において軟体動物門のサザエが全体の62%を占め最も多かった。

C. 大阪沖処分場

C-2では、上層から下層で23~70種類が出現し、中層で多く、上層で少なかった。総個体数は401~1,729個体/0.25m²、総湿重量は6.33~340.57g/0.25m²で、ともに中層で多く、上層で少なかった。

優占種をみると、上層では個体数において節足動物門のゼウクソ属が全体の57%、湿重量において節足動物門のケアシホンヤドカリが全体の55%を占め最も多かった。中層では個体数において環形動物門の*Thelepus* sp. が全体の22%、湿重量において軟体動物門のイワガキが全体の64%を占め最も多かった。下層では個体数においてエゾカサネカンザシゴカイが全体の43%、湿重量において*Thelepus* sp. が全体の41%を占め最も多かった。

D. 泉大津沖処分場

D-2では、上層から下層で35~57種類が出現し、下層で多く、上層で少なかった。総個体数は251~1,362個体/0.25m²、総湿重量は3.09~25.79g/0.25m²で、ともに下層で多く、上層で少なかった。

優占種をみると、上層では個体数において環形動物門のクマドリゴカイが全体の21%、湿重量において軟体動物門のウスカラシオツガイが全体の31%を占め最も多かった。中層では個体数において節足動物門のホソヨコエビが全体の44%、湿重量においてウスカラシオツガイが全体の20%を占め最も多かった。下層では個体数において環形動物門の*Polydora* sp. が全体の19%、湿重量において軟体動物門のイボニシが全体の28%を占め最も多かった。

D-3では、上層から下層で51~74種類が出現し、下層で多く、上層で少なかった。総個体数は1,245~3,386個体/0.25m²で、中層で多く、上層で少なかった。総湿重量は123.29~1,249.61g/0.25m²で、上層で多く、下層で少なかった。

優占種をみると、上層では軟体動物門のムラサキイガイが個体数において全体の31%、湿重量において全体の89%を占め最も多かった。中層では個体数において棘皮動物門のクサイロチビクモヒトデが全体の31%、湿重量においてムラサキイガイが全体の70%を占め最も多かった。下層では個体数においてエゾカサネカンザシゴカイが全体の19%、湿重量において軟体動物門のミドリイガイが全体の14%を占め最も多かった。

表 3 - 2 - 5 枠取り分析結果(動物)

調査地点 (調査日)	層	上 (M. W. L ± 0. 0m)	中 (M. W. L -2. 0m)	下 (M. W. L -4. 0m)
神戸沖 A-2 (11月8日)	出現種類数	33	68	65
	総個体数 (個体/0. 25㎡)	618	2, 016	2, 177
	総湿重量 (g / 0. 25㎡)	25. 12	209. 88	199. 49
	個体数			
	からみた			
	優占種			
	湿重量			
	からみた			
	優占種			
大阪沖 C-2 (11月21日)	出現種類数	23	70	61
	総個体数 (個体/0. 25㎡)	401	1, 729	1, 444
	総湿重量 (g / 0. 25㎡)	6. 33	340. 57	86. 10
	個体数			
	からみた			
	優占種			
	湿重量			
	からみた			
	優占種			
泉大津沖 D-2 (11月17日)	出現種類数	35	55	57
	総個体数 (個体/0. 25㎡)	251	1, 191	1, 362
	総湿重量 (g / 0. 25㎡)	3. 09	7. 02	25. 79
	個体数			
	からみた			
	優占種			
	湿重量			
	からみた			
	優占種			
泉大津沖 D-3 (11月17日)	出現種類数	51	54	74
	総個体数 (個体/0. 25㎡)	1, 245	3, 386	2, 135
	総湿重量 (g / 0. 25㎡)	1249. 61	499. 93	123. 29
	個体数			
	からみた			
	優占種			
	湿重量			
	からみた			
	優占種			

注) 表中の () 内の数値は総量に対する占有率を示し、「-」は1%未満を示す。

第4章 考察

1. 水質と付着生物の分布

水質と付着生物の分布の対応を検討するため、水質と付着生物の両方を調査した地点を対象に、以下の条件を満たす水質の水深帯と付着生物の分布水深を表4-1に整理した。

〔水質条件〕

海藻：相対光量1%以上（杉本・坂本編「海洋環境工学」（1985）の藻類生育条件）

動物：DO4.3mg/L以上（水産用水基準「水産用水基準（2005年版）」の内湾（夏季）の基準値）

〔生物条件〕

以下の生物分布のデータは除くこととした

共通：平均水面上および被度5%未満の分布

海藻：藍藻綱および珪藻綱

動物：泥巢

(1) 相対光量と海藻の分布

① 神戸沖

藻類の生育可能な光条件を満たした水深帯は、春季および秋季に共通して、A-2では5m以浅、A-4では7m以浅、A-5およびA-7では9m以浅であり、A-2は海藻の分布水深帯と同じであったが、その他の地点は海藻の分布水深帯より深かった。

② 大阪沖

藻類の生育可能な光条件を満たした水深帯は、春季および秋季に共通して、C-1では8m以浅、C-2およびC-3では7m以浅であり、C-2は海藻の分布水深帯より浅かったが、その他の地点は海藻の分布水深帯より深かった。

③ 泉大津沖

藻類の生育可能な光条件を満たした水深帯は、春季および秋季に共通して、D-2では9m以浅、D-5では8m以浅、D-6では7m以浅であり、全地点とも海藻の分布水深帯より深かった。

(2) DOと付着動物の分布

① 神戸沖

DOにおいて水産用水基準を満たした水深帯は、春季および秋季に共通して、A-2では12m以浅、A-4では15m以浅、A-5では11m以浅、A-7では9m以浅であり、全地点とも付着動物の分布水深帯より深かった。

② 大阪沖

DOにおいて水産用水基準を満たした水深帯は、春季および秋季に共通して、C-1では12m以浅、C-2では11m以浅、C-3では10m以浅であり、全地点とも付着動物の分布水深帯より深かった。

③ 泉大津沖

DOにおいて水産用水基準を満たした水深帯は、春季および秋季に共通して、D-2およびD-5では8m以浅、D-6では5m以浅であり、D-2は付着動物の分布水深帯より浅く、D-5は付着動物の分布水深帯より深く、D-6は付着動物の分布水深帯と概ね同じであった。

表 4 - 1 付着生物の分布条件を満たす水深帯と付着生物の分布水深 (m)

調査場所	調査地点	調査時期	海藻		付着動物	
			生育条件 ¹⁾	分布水深 ³⁾	生息条件 ²⁾	分布水深 ³⁾
神戸沖	A-2	春季	0~10	0~7	0~12	0~10(海底)
		秋季	0~5	0~5	0~16(海底)	1~8
		2季	0~5	0~5	0~12	1~8
	A-4	春季	0~10	1~8	0~15(海底)	0~9
		秋季	0~7	0~6	0~16(海底)	0~5
		2季	0~7	1~6	0~15(海底)	0~5
	A-5	春季	0~10	1~8	0~11(海底)	0~10(海底)
		秋季	0~9	1~7	0~15(海底)	0~7
		周年	0~9	1~7	0~11(海底)	0~7
	A-7	春季	0~9(海底)	0~6	0~9(海底)	0~7
		秋季	0~9	出現なし	0~14(海底)	0~8(海底)
		2季	0~9	出現なし	0~9(海底)	0~7
大阪沖	C-1	春季	0~8	1~9	0~12(海底)	0~10(海底)
		秋季	0~11	0~7	0~13(海底)	0~10(海底)
		2季	0~8	1~7	0~12(海底)	0~10(海底)
	C-2	春季	0~9	0~9	0~13(海底)	0~10(海底)
		秋季	0~7	0~10(海底)	0~11(海底)	0~10(海底)
		2季	0~7	0~9	0~11(海底)	0~10(海底)
	C-3	春季	0~10(海底)	0~9	0~10(海底)	0~10(海底)
		秋季	0~7	0~5	0~14(海底)	0~9
		2季	0~7	0~5	0~10(海底)	0~9
泉大津沖	D-2	春季	0~9	0~8	0~8	0~12
		秋季	0~10	0~6	0~11(海底)	0~12
		2季	0~9	0~6	0~8	0~12
	D-5	春季	0~9	出現なし	0~8	0~5.5(海底)
		秋季	0~8	出現なし	0~12(海底)	0~5.5(海底)
		2季	0~8	出現なし	0~8	0~5.5(海底)
	D-6	春季	0~7	出現なし	0~5	0~5.5(海底)
		秋季	0~9	0~1	0~10(海底)	0~5.5(海底)
		2季	0~7	出現なし	0~5	0~5.5(海底)

※ 水質測定の水深は海面基準、目視観察の水深は平均水面基準

条件1) 海面到達光量が1%以上(杉本・坂本編「海洋環境工学」(1985)の藻類生育条件より)

2) DOの値が4.3mg/L以上(水産用水基準(「水産用水基準(2005年版)」の内湾(夏季)の基準値より)

3) 平均水面上、被度5%未満の分布、藍藻綱・珪藻綱・泥巢は除く

2. 生物調査結果に基づく総合評価

当生物調査のうち、定量分析の結果に基づき、各処分場護岸の生物分布について総合評価を行った。

(1) 評価対象

処分場護岸の生物分布を評価するため、海藻および付着動物の2生物群、並びに両者を合わせた付着生物全体を評価対象とした。

(2) 評価項目

海藻は種類数および湿重量、付着動物は種類数、個体数および湿重量、付着生物全体は種類数および湿重量を評価項目とした。

(3) 評価方法

護岸付近の海域環境が異なることから、総合評価は各処分場毎で行うこととした。

評価方法は、評価対象毎に各評価項目のデータを3つの水深帯（上層：平均水面、中層：平均水面下2 m、下層：平均水面下4 m）および調査時期（春季および秋季）別に集計（小数第1位を四捨五入）した。

また、次頁以降の表中の最下欄の「平均」（2つの季節を通じた3水深帯の平均値）を基準とし、この値の120%以上を示すデータを生物分布が豊富であると判断し、色（海藻は緑、動物は青、付着生物全体は赤）で塗りつぶしを施した。

(4) 評価結果

次頁以降に各処分場護岸毎に評価結果を示した。

① 神戸沖

神戸沖処分場護岸の付着生物定量分析結果総括表を表4-2-1に示した。

海藻は、種類数では中層が多く、湿重量では春季の上・中層で多い傾向がみられた。また、付着動物は、種類数では秋季の中・下層で多く、個体数および湿重量とも、春季の上層で多い傾向がみられた。付着生物全体では、種類数では秋季の中層で多く、湿重量では春季の上・中層で多い傾向がみられた。

表4-2-1 神戸沖処分場護岸（A-2）の付着生物定量分析結果総括表

評価対象		海藻		付着動物			付着生物全体	
評価項目		種類数	湿重量	種類数	個体数	湿重量	種類数	湿重量
水深帯	時期	種類	g/0.25m ²	種類	個体/0.25m ²	g/0.25m ²	種類	g/0.25m ²
上層	夏季	8	371	37	166,816	1,282	45	1,653
	秋季	9	112	33	618	25	42	137
	平均	9	242	35	83,717	654	44	895
中層	夏季	9	525	54	24,127	263	63	788
	秋季	14	10	68	2,016	210	82	220
	平均	12	268	61	13,072	236	73	504
下層	夏季	12	166	60	1,552	85	72	251
	秋季	10	76	65	2,177	199	75	275
	平均	11	121	63	1,865	142	74	263
3層平均	夏季	10	354	50	64,165	543	60	898
	秋季	11	66	55	1,604	145	66	211
	平均	10	210	53	32,884	344	63	554

注) 色で塗りつぶしの箇所は生物分布が多い(3層平均の平均値の120%以上)ことを示す。

② 大阪沖

大阪沖処分場護岸の付着生物定量分析結果総括表を表4-2-2に示した。

海藻は、種類数では下層に多く、湿重量は、各層とも、春季に多い傾向がみられた。また、付着動物は、種類数では中・下層に多く、個体数および湿重量では春季の上層で多い傾向がみられた。付着生物全体では、付着動物が多くを占めるため、その傾向は付着動物と概ね同様であった。

表4-2-2 大阪沖処分場護岸（C-2）の付着生物定量分析結果総括表

評価対象		海藻		付着動物			付着生物全体	
評価項目		種類数	湿重量	種類数	個体数	湿重量	種類数	湿重量
水深帯	時期	種類	g/0.25m ²	種類	個体/0.25m ²	g/0.25m ²	種類	g/0.25m ²
上層	夏季	3	207	21	8,379	557	24	764
	秋季	5	36	23	401	6	28	43
	平均	4	122	22	4,390	282	26	403
中層	夏季	8	216	56	2,366	123	64	339
	秋季	11	1	70	1,729	341	81	341
	平均	10	108	63	2,048	232	73	340
下層	夏季	13	249	72	2,384	95	85	344
	秋季	15	8	61	1,444	86	76	94
	平均	14	129	67	1,914	90	81	219
3層平均	夏季	8	224	50	4,376	258	58	482
	秋季	10	15	51	1,191	144	62	159
	平均	9	120	51	2,784	201	60	321

注) 色で塗りつぶしの箇所は生物分布が多い(3層平均の平均値の120%以上)ことを示す。

③ 泉大津沖

泉大津沖処分場護岸の付着生物定量分析結果総括表を表4-2-3および表4-2-4にそれぞれ示した。

1) 傾斜護岸 (D-2)

D-2において、海藻は、種類数では下層で多い傾向がみられ、湿重量では春季の中・下層に多い傾向がみられた。また、付着動物は、種類数では上層が少なく、個体数および湿重量では春季の上・中層で多い傾向がみられた。付着生物全体では、種類数では上層が少なく、湿重量では春季の中・下層に多い傾向がみられた。

表4-2-3 泉大津沖処分場護岸 (D-2) の付着生物定量分析結果総括表

評価対象		海藻		付着動物			付着生物全体	
評価項目		種類数	湿重量	種類数	個体数	湿重量	種類数	湿重量
水深帯	時期	種類	g/0.25m ²	種類	個体/0.25m ²	g/0.25m ²	種類	g/0.25m ²
上層	春季	3	8	19	3,396	128	22	136
	秋季	11	26	35	251	3	46	29
	平均	7	17	27	1,824	66	34	83
中層	春季	9	311	62	5,038	74	71	384
	秋季	7	0	55	1,191	7	62	7
	平均	8	156	59	3,115	40	67	196
下層	春季	10	392	55	1,112	31	65	423
	秋季	10	10	57	1,362	26	67	36
	平均	10	201	56	1,237	28	66	229
3層平均	春季	7	237	45	3,182	78	53	314
	秋季	9	12	49	935	12	58	24
	平均	8	124	47	2,058	45	56	169

注) 0 は 0.5g/0.25m²未満を示す。

色で塗りつぶしの箇所は生物分布が多い(3層平均の平均値の120%以上)ことを示す。

2) 直立護岸 (D-3)

D-3において、海藻は、種類数では下層が少なく、湿重量は秋季の上層で多い傾向がみられた。また、付着動物は、種類数は上層が少なく、個体数および湿重量では春季の上層で多い傾向がみられた。付着生物全体では、付着動物が多くを占めるため、その傾向も付着動物と概ね同様であった。

3) 護岸構造による比較

D-2 (傾斜護岸) と D-3 (直立護岸) を比較すると、海藻は D-2 の方が多く、付着動物は D-3 の方が多い傾向がみられた。付着生物全体では、種類数および湿重量とも、D-3 の方が多かったが、D-2 の湿重量は海藻が多くを占めており、付着動物 (特にムラサキイガイ) が多くを占める D-3 とは傾向が異なった。

表 4-2-4 泉大津沖処分場護岸 (D-3) の付着生物定量分析結果総括表

評価対象		海藻		付着動物			付着生物全体	
評価項目		種類数	湿重量	種類数	個体数	湿重量	種類数	湿重量
水深帯	時期	種類	g/0.25m ²	種類	個体/0.25m ²	g/0.25m ²	種類	g/0.25m ²
上層	春季	4	0	26	11,222	1,995	30	1,995
	秋季	8	10	51	1,245	1,250	59	1,259
	平均	6	5	39	6,234	1,622	45	1,627
中層	春季	8	1	75	4,851	455	83	457
	秋季	2	+	54	3,386	500	56	500
	平均	5	1	65	4,119	478	70	478
下層	春季	5	+	76	2,662	181	81	181
	秋季	1	+	74	2,135	123	75	123
	平均	3	+	75	2,399	152	78	152
3層平均	春季	6	1	59	6,245	877	65	878
	秋季	4	3	60	2,255	624	63	627
	平均	5	2	59	4,250	751	64	753

注) 0 は 0.5g/0.25m²未満を、+ は 0.01g/0.25m²未満を示す。

色で塗りつぶしの箇所は生物分布が多い(3層平均の平均値の120%以上)ことを示す。

3. まとめ

(1) 水質と付着生物

- ① 相対光量と海藻分布の対応を検討した結果、護岸構造に関係なく、神戸沖、大阪沖および泉大津沖の海藻の分布水深帯は、藻類の生育に必要な水中光量を満たす水深帯より概ね浅い傾向がみられた。
- ② 水産用水基準を参考に、DOと付着動物分布の対応を検討した結果、泉大津沖（D-2）を除き、付着動物の分布水深帯は、内湾（夏季）の基準値を満たす水深帯より概ね浅い傾向がみられた。

(2) 総合評価

- ① 神戸沖（緩傾斜護岸）の付着生物は、海藻の湿重量と付着動物の個体数・湿重量は春季に多く、全体の種類数が42～82種類（2季3層平均63種類）みられるのが特徴と考えられた。
- ② 大阪沖（傾斜護岸）の付着生物は、海藻の湿重量と付着動物の個体数・湿重量は春季に多く、全体の種類数は24～85種類（2季3層平均60種類）みられ、神戸沖（緩傾斜護岸）と同じ水準であることが特徴と考えられた。
- ③ 泉大津沖（傾斜護岸）の付着生物は、海藻の湿重量と付着動物の個体数・湿重量は春季に多く、全体の種類数は22～71種類（2季3層平均56種類）みられ、神戸沖および大阪沖よりやや少ないのが特徴と考えられた。また、護岸構造の比較では、傾斜護岸は海藻が多く、直立護岸は付着動物が多い傾向がみられ、付着生物全体の種類数および湿重量は直立護岸の方が多かった。

(3) 全体評価

各処分場護岸の付着生物定量分析結果総括表を表4-3-1に示した。

春季および秋季の4地点3層の平均値を基準値とし、種類数、湿重量および個体数の各項目で基準値を上回る箇所に緑（海藻）、青（付着動物）、赤（付着生物全体）の網掛けを施して表示した。

調査地点毎に2季3層平均をみると、神戸沖（緩傾斜護岸）では全ての項目が多い傾向にあり、大阪沖（傾斜護岸）では海藻が多い傾向にあり、泉大津沖（傾斜護岸）では海藻の湿重量のみが多い傾向にあった。これに対して、泉大津沖（直立護岸）では海藻が少なく、付着動物および付着生物全体の種類数および湿重量が多い傾向にあった。これらのことは、各処分場及び護岸形状による特徴が示されているものと考えられた。

表4-3-1 各処分場護岸における付着生物定量分析結果総括表

区分			神戸沖処分場			大阪沖処分場			泉大津沖処分場						4地点 平均
			A-2(緩傾斜護岸)			C-2(傾斜護岸)			D-2(傾斜護岸)			D-3(直立護岸)			
評価項目 (単位)	評価対象	水深帯	夏季	秋季	2季 平均	夏季	秋季	2季 平均	春季	秋季	2季 平均	春季	秋季	2季 平均	2季 平均
種類数 (種類)	海藻	上層	8	9	9	3	5	4	3	11	7	4	8	6	6
		中層	9	14	12	8	11	10	9	7	8	8	2	5	9
		下層	12	10	11	13	15	14	10	10	10	5	1	3	10
		3層平均	10	11	10	8	10	9	7	9	8	6	4	5	8
	付着動物	上層	37	33	35	21	23	22	19	35	27	26	51	39	31
		中層	54	68	61	56	70	63	62	55	59	75	54	65	62
		下層	60	65	63	72	61	67	55	57	56	76	74	75	65
		3層平均	50	55	53	50	51	51	45	49	47	59	60	59	52
	付着生物 全体	上層	45	42	44	24	28	26	22	46	34	30	59	45	37
		中層	63	82	73	64	81	73	71	62	67	83	56	70	70
		下層	72	75	74	85	76	81	65	67	66	81	75	78	75
		3層平均	60	66	63	58	62	60	53	58	56	65	63	64	61
湿重量 (g/0.25㎡)	海藻	上層	371	112	242	207	36	122	8	26	17	0	10	5	96
		中層	525	10	268	216	1	108	311	0	156	1	+	1	133
		下層	166	76	121	249	8	129	392	10	201	+	+	+	113
		3層平均	354	66	210	224	15	120	237	12	124	1	3	2	114
	付着動物	上層	1,282	25	654	557	6	282	128	3	66	1,995	1,250	1,622	656
		中層	263	210	236	123	341	232	74	7	40	455	500	478	247
		下層	85	199	142	95	86	90	31	26	28	181	123	152	103
		3層平均	543	145	344	258	144	201	78	12	45	877	624	751	335
	付着生物 全体	上層	1,653	137	895	764	43	403	136	29	83	1,995	1,259	1,627	752
		中層	788	220	504	339	341	340	384	7	196	457	500	479	380
		下層	251	275	263	344	94	219	423	36	229	181	123	152	216
		3層平均	898	211	554	482	159	321	314	24	169	878	628	753	449
個体数 (個体/0.25㎡)	付着動物	上層	166,816	618	83,717	8,379	401	4,390	3,396	251	1,824	11,222	1,245	6,234	24,041
		中層	24,127	2,016	13,072	2,366	1,729	2,048	5,038	1,191	3,115	4,851	3,386	4,119	5,588
		下層	1,552	2,177	1,865	2,384	1,444	1,914	1,112	1,362	1,237	2,662	2,135	2,399	1,854
		3層平均	64,165	1,604	32,884	4,376	1,191	2,784	3,182	935	2,058	6,245	2,255	4,250	10,494

注) 湿重量の0は0.5g/0.25㎡未満を、+は0.01g/0.25㎡未満を示す。

緑・青・赤色の塗りつぶし箇所は春季・秋季の4地点3層の平均(二重線枠内の値)を超えていることを示す。

資料編

粹取り分析結果

1. 粹取り分析結果（植物）

(1) 神戸沖処分場；A-2

春季調査（平成 21 年 5 月 24 日）

単位：g / 0.25m²

			調査地点	A-2		
No.	綱	種名	地点	上層	中層	下層
1	緑藻	アサ属		136.64	34.57	0.47
2		アオリ属				0.05
3		シオ ^ク サ属		0.02		
4	褐藻	タマハキモク		21.19		
5	紅藻	マクサ			0.29	45.90
6		ススカケヘ ^ニ			4.88	81.19
7		ツノマタ属				0.80
8		フタ ^ラ ク		154.53	38.99	1.48
9		ムカデ ^ノ リ			1.16	26.81
10		ツルツル			20.53	3.37
11		ヘ ^ニ スナコ ^ク		58.77	424.89	5.50
12		コスジ ^フ ツツナギ ^キ		0.09		
13		キヌイトク ^サ 属				+
14		キヌイトフタツカ ^サ ネ		+	0.04	
15		フタツカ ^サ ネ属				0.03
16		イトク ^サ 属		0.13	0.12	0.21
出現種類数				8	9	12
総湿重量				371.37	525.47	165.81

注) 表中の「+」は0.01 g 未満を示す。

神戸沖処分場；A-2

秋季調査（平成 21 年 11 月 8 日）

単位：g / 0.25m²

No.	綱	種名	調査地点	A-2		
			地点	上層	中層	下層
1	緑藻	アオサ属		88.01	0.25	0.03
2		アオリ属		0.92	+	
3		シオグサ属		3.69	0.36	0.04
4	褐藻	クロガシラ属		0.02		
5		タマハキモク			8.62	
6	紅藻	オージユイネヲ属			+	+
7		モサズキ属			+	
8		マクサ			0.01	73.93
9		ススカケハニ			0.04	
10		ツノマタ属		10.32		
11		フタラク		0.48		
12		ムカデノリ		0.07		
13		オキツノリ				0.10
14		ヘニスナコ			0.13	
15		カハノリ				1.42
16		コスジフシツナギ		8.76	0.03	
17		キヌイトフタツカサネ			0.23	0.03
18	藍藻	イギス属			+	+
19		イトクサ属			0.12	
20	藍藻	<i>Lyngbya</i> sp.		0.01	+	+
21	珪藻	珪藻綱				+
出現種類数				9	14	10
総湿重量				112.28	9.79	75.55

注) 表中の「+」は0.01 g 未満を示す。

(2)大阪沖処分場；C-2

春季調査（平成 21 年 5 月 27 日）

単位：g / 0.25m²

No.	綱	種名	調査地点	C-2		
			地点	上層	中層	下層
1	緑藻	アオサ属		207.04	1.07	
2		アオリ属		0.01		
3		シオグサ属		+		+
4	褐藻	フクロリ				0.31
5		シダモク				172.22
6		タマハキモク			4.12	
7	紅藻	アマリ属				43.51
8		ススカベニ				18.16
9		ツノマタ属			11.00	
10		ムカデノリ			10.67	
11		フダラク			37.91	1.16
12		ベニスナゴ			150.91	10.09
13		キヌイトクサ属				
14		キヌイトフツカサネ			0.01	0.02
15		イグス属				+
16		イグス科				+
17		タシア属				0.10
18		イトクサ属				0.18
19		ヒメコサネモ			0.34	3.58
出現種類数				3	8	13
総湿重量				207.05	216.03	249.33

注) 表中の「+」は0.01 g 未満を示す。

大阪沖処分場；C-2

秋季調査（平成 21 年 11 月 21 日）

単位：g / 0.25m²

No.	綱	種名	調査地点	C-2		
			地点	上層	中層	下層
1	緑藻	アオサ属		36.24	0.18	0.04
2		アオリ属		0.03	0.04	
3		シオグサ属			0.12	+
4	褐藻	アカモク				7.17
5		タマハキモク				0.02
6		ホンダワラ属				0.24
7	紅藻	アマリ属		+		
8		ツノマタ属			0.12	0.05
9		イワナリ科				-
10		カハノリ				0.03
11		タオヤギソウ				0.01
12		コスジフツナギ		0.01	0.04	
13		キヌイトフツカサネ			0.03	0.01
14		フツカサネ属			+	+
15		イグス属			0.01	+
16		イトクサ属			0.02	+
17		ヒメコサネモ			0.08	0.06
18	藍藻	<i>Lyngbya</i> sp.		0.02		
19	珪藻	珪藻綱			0.02	0.15
出現種類数				5	11	15
総湿重量				36.30	0.66	7.78

注) 表中の「+」は0.01 g 未満を示す。

(3) 泉大津沖処分場 ; D-2

春季調査 (平成 21 年 5 月 23 日)

単位 : g / 0.25m²

		調査地点	D-2		
No.	綱	種名 地点	上層	中層	下層
1	緑藻	アオリ属	0.02	0.05	+
2		アサ属	7.56	0.79	0.03
3		シグサ属	0.02	+	
4	紅藻	スサケヘニ			0.20
5		ツノマタ属			149.73
6		フダラク		214.35	12.89
7		タヤギソウ			217.01
8		ムカデノリ		94.67	10.36
9		キョウノヒモ		0.79	
10		ヘニヌコ			1.22
11		キヌイトフツカサネ		+	
12		イギス科		0.03	0.68
13		イトケサ属		0.04	0.03
出現種類数			3	9	10
総湿重量			7.60	310.72	392.15

注) 表中の「+」は0.01 g 未満を示す。

泉大津沖処分場 ; D-2

秋季調査 (平成 21 年 11 月 17 日)

単位 : g / 0.25m²

No.	綱	種名	調査地点	D-2		
			地点	上層	中層	下層
1	緑藻	アオリ属		0.33		+
2		アサ属		25.52	+	+
3		シグサ属		0.16	0.01	
4	紅藻	オージユイネラ属		+		+
5		無節サンゴモ類				-
6		ヒメテンクサ		0.08		
7		ツノマタ属			0.02	2.89
8		カハノリ				6.68
9		キヌイトフツカサネ			+	+
10		フツカサネ属		+		
11		イギス科		+	0.44	0.26
12	藍藻	イトケサ属		0.05		
13		<i>Lyngbya</i> sp.		+		
14		<i>Melosira</i> sp.			+	+
15		<i>Navicula</i> sp.		+	+	
16	珪藻綱			+		+
出現種類数				11	7	10
総湿重量				26.14	0.47	9.83

注1) 表中の「+」は0.01 g 未満を示す。

注2) 表中の「-」は定量できなかったことを示す。

(4) 泉大津沖処分場；D-3

春季調査（平成 21 年 5 月 23 日）

単位：g / 0.25m²

No.	綱	種名	調査地点	D-3		
			地点	上層	中層	下層
1	緑藻	アオリ属		0.01		
2		アサ属		0.03	0.07	
3		ミル				+
4		ハネ			0.01	
5	紅藻	タヤギソウ			0.58	
6		キヌイトクサ属			0.06	
7		キヌイトフツカサネ		0.18	0.05	0.01
8		フツカサネ属			0.04	0.02
9		イギス科				+
10		イトクサ属		0.07	0.07	0.04
11	藍藻	ユレモ属			0.55	
出現種類数				4	8	5
総湿重量				0.29	1.43	0.07

注) 表中の「+」は0.01 g 未満を示す。

泉大津沖処分場；D-3

秋季調査（平成 21 年 11 月 17 日）

単位：g / 0.25m²

単位: g/0.20 m²

No.	綱	種名	調査地点	D-3		
			地点	上層	中層	下層
1	緑藻	アオリ属		0.18		
2		アサ属		9.39	+	+
3		シオクサ属		+		
4	紅藻	キヌイトフツカサネ		0.03	+	
5		イギス科		+		
6		イトクサ属		0.16		
7	珪藻	<i>Melosira</i> sp.		+		
8		<i>Navicula</i> sp.		+		
出現種類数				8	2	1
総湿重量				9.76	+	+

注) 表中の「+」は0.01 g 未満を示す。

2. 杓取り分析結果（動物）

（1）神戸沖処分場；A-2

春季調査（平成21年5月24日）-1

単位：個体数；個体/0.25㎡，湿重量；g/0.25㎡

No.	調査地点					A-2					
						上層		中層		下層	
						個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	海綿動物	尋常海綿	-	-	尋常海綿綱	-	-	-	0.02	-	-
2	腔腸動物	花虫	イソギンチャク	-	イソギンチャク目	4	0.55	-	-	2	0.03
3	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目	116	1.56	24	0.53	10	0.09
4	紐形動物	無針	異紐虫	リネウス	リネウス科	42	0.37	6	0.02	2	0.04
5		有針	針紐虫	アンフィボールス	マダラヒモムシ	-	-	1	0.01	1	0.01
6				テトラステマ	メノコヒモムシ	3	0.02	6	0.01	6	0.01
7	環形動物	多毛	遊在	クロコムシ	サンハチウロコムシ	-	-	-	-	2	0.03
8					<i>Lepidonotus</i> sp.	8	0.18	-	-	1	0.01
9					マダラウロコムシ	1	+	60	0.43	53	0.26
10					ミロクウロコムシ	4	0.33	10	0.28	4	0.04
11				サシハコカイ	アケノサシハ	-	-	-	-	1	+
12					サミトリサシハ	4	0.09	7	0.22	-	-
13					<i>Eulalia</i> sp.	-	-	1	0.02	1	+
14					マダラサシハ	-	-	1	0.05	2	0.05
15				オトヒメコカイ	<i>Ophiodromus</i> sp.	-	-	6	0.05	12	0.04
16				シリシ	シロマダラシリシ	5	0.06	-	-	3	0.01
17					<i>Typosyllis</i> sp.	78	0.92	9	0.15	14	0.10
18					<i>Autolytus</i> sp.	-	-	1	+	1	+
19				コカイ	イソツルヒガコカイ	5	0.07	1	0.04	-	-
20					タマドリコカイ	1	0.05	-	-	-	-
21					ヒメコカイ	-	-	-	-	2	+
22					マサココカイ	292	3.12	12	0.11	-	-
23				チロリ	<i>Glycera</i> sp.	1	+	-	-	9	0.05
24				イソメ	<i>Eunice</i> sp.	-	-	1	0.02	8	0.45
25				セクロイソメ	<i>Arabella</i> sp.	-	-	1	0.13	-	-
26				スピオ	<i>Polydora</i> sp.	13	0.02	7	0.04	31	0.12
27				ミスヒキコカイ	<i>Dodecaceria</i> sp.	-	-	1	+	23	0.07
28					ミスヒキコカイ	-	-	28	1.18	30	1.76
29				フサコカイ	<i>Thelepus</i> sp.	-	-	7	0.76	18	1.98
30					<i>Lanice</i> sp.	-	-	2	0.04	-	-
31				カンサシコカイ	エゾカサネカンサシコカイ	37	1.24	164	4.72	26	0.98
32					<i>Hydroides</i> sp.	2	0.04	-	-	-	-
33					イハラカンサシコカイ	-	-	-	-	1	0.06
34	触手動物	帚虫	帚虫	ホウキムシ	<i>Phoronis</i> sp.	-	-	8	0.02	4	0.01
35		苔虫	唇口	トケイタケムシ	<i>Callopora</i> sp.	-	-	-	+	-	-
36				フサコケムシ	フサコケムシ	-	16.23	-	-	-	-
37				ヒラコケムシ	チコケムシ	-	1.36	-	0.06	-	-
38	軟体動物	多板	新ヒザラカイ	ケハダヒザラカイ	ケハダヒザラカイ属	7	0.73	-	-	-	-
39		盤足	カリハカサカイ	シマメノウフネカイ	シマメノウフネカイ	1	5.28	3	0.75	4	0.05
40		新腹足	アツキカイ	カコメカイ	カコメカイ	-	-	-	-	1	0.70
41				レイシカイ	レイシカイ	7	36.10	21	48.81	1	3.44
42				フトコロカイ	ムキカイ	26	1.66	218	14.39	149	7.90
43					ノミナモトキ	-	-	-	-	11	0.07
44		翼舌	ミツクチキリ	ミツクチキリ	ミツクチキリ科	-	-	-	-	1	+
45		異旋	トリカダカイ	イトカケチキレ	イトカケチキレ属	-	-	2	+	-	-
46					イトカケチキレ	-	-	-	-	5	0.02
47		ミノウミシ	-	ミノウミシ	ミノウミシ目	-	-	-	-	4	0.04
48		基眼	カマツカイ	カマツカイ	カマツカイ	2	0.03	-	-	-	-
49		二枚貝	フネカイ	フネカイ	コヘルトフネカイ	-	-	1	0.22	11	2.37
50			イカイ	イカイ	ムラサキイカイ	164,864	1,200.64	20,597	101.44	38	0.14
51					ヒバカリカイ	1	0.01	1	0.16	2	0.06
52					タマエカイ	13	0.11	5	0.15	1	0.01
53					イシマテ	-	-	-	-	2	0.03
54		カキ	ナミマカシワ	シマナミマカシワ	シマナミマカシワモドキ	-	-	-	-	1	21.09
55		マルスタレカイ	マルスタレカイ	アサリ	アサリ	-	-	2	0.07	-	-
56		オノカイ	キヌマトイカイ	キヌマトイカイ	キヌマトイカイ	1,089	10.64	212	3.08	176	2.88
57	節足動物	顎脚	無柄	イワフシツボ	イワフシツボ	-	-	-	-	-	-
58				フシツボ	ヨーロッパフシツボ	1	0.02	-	-	-	-
59					サンカクフシツボ	-	-	-	-	8	0.17
60		軟甲	タナイス	タナイス	ゼウツリ属	-	-	16	0.03	112	0.04
61		等脚	ウミナフシ	ウミナフシ	ウミナフシ属	-	-	1	+	-	-
62				ウミミスミシ	ウミミスミシ	9	0.01	309	0.16	-	-

注) 個体数の「-」は計測不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

神戸沖処分場；A-2

春季調査（平成 21 年 5 月 24 日）-2

単位：個体数；個体/0.25㎡，湿重量；g/0.25㎡

No.	調査地点					A-2					
						上層		中層		下層	
						個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
門	綱	目	科	種名	項目						
63	節足動物	甲殻	端脚	タテソコエビ	タテソコエビ属			44	0.06		
64				メリタヨコエビ	メリタヨコエビ属	14	0.03	2	0.02	2	+
65				イソヨコエビ	イソヨコエビ属	7	0.02	8	0.03	1	+
66				ユンボソコエビ	ユンボソコエビ属	10	0.01	781	0.36	122	0.09
67				ヒケナガヨコエビ	ヒケナガヨコエビ属	24	0.14	73	0.64		
68				カマキリヨコエビ	カマキリヨコエビ属	8	+	4	+		
69				トノクダムシ	ホソヨコエビ			4	0.01	46	0.09
70					ウエノトノクダムシ			44	0.04	13	0.02
71				ワレカラ	トケワレカラ			44	0.19	128	0.63
72					オサデワレカラ					12	0.06
73					クヒナガワレカラ			1	+		
74					マルエワワレカラ	106	0.47	1,345	13.77	388	0.98
75			十脚	モエビ	モエビ科					16	0.07
76				ヤトカリ	ケフカヒメヨコハサミ					2	0.50
77				ホンヤトカリ	ユヒナガホンヤトカリ					1	0.33
78					ホンヤトカリ属					3	0.06
79				クモカニ	ヨツハモカニ					5	0.01
80				ワタリカニ	フタハベニツカイ					1	+
81				オウギカニ	ヒメクワカニ					3	0.03
82		昆虫	ハエ	ユスリカ科	ユスリカ科幼虫	11	+				
83	棘皮動物	ヒトデ	キヒトデ	キヒトデ	キヒトデ			19	8.60	10	5.41
84			ヒメヒトデ	イトマキヒトデ	イトマキヒトデ			5	61.01	5	31.48
85		ウニ	ホンウニ	サンショウウニ	コデマリウニ			1	0.01		
86	-	-	-	-	卵塊			-	0.07		
出現種類数						37		54		60	
合計						166,816	1,282.11	24,127	262.98	1,552	84.97

注) 個体数の「-」は計測不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

神戸沖処分場；A-2

秋季調査（平成21年11月8日）-1

単位：個体数；個体/0.25㎡，湿重量；g/0.25㎡

No.	調査地点					A-2						
	門	綱	目	科	種名	項目	上層		中層		下層	
							個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	海綿動物	石灰海綿	-	-	石灰海綿綱		-	+	-	+		
2		尋常海綿	-	-	尋常海綿綱		-	0.02			-	0.16
3	腔腸動物	ヒドロ虫	軟クラゲ	ウミサカツキカヤ	ウミサカツキカヤ科		-	+			-	+
4				ウミシハ	ウミシハ科				-	0.03		
5		花虫	-	-	イソギンチャク目		10	0.12	18	0.31	5	0.09
6	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目				13	0.16		
7	紐形動物	無針	古紐虫	ツブナス	ツブナス科				1	0.01		
8			異紐虫	リネウス	リネウス科		11	0.04	3	0.09	4	0.05
9		有針	針紐虫	アンフィボールス	マダラヒモムシ				3	0.06	1	0.01
10				テトラステマ	メノヒモムシ				2	0.01	1	+
11	星口動物	星虫	星虫	ホシムシ	サメハタホシムシ						1	0.02
12	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	Lepidonotus sp.		1	+	20	0.27	1	0.08
13					マダラウロコムシ				7	0.24	14	0.33
14					ミロクウロコムシ				4	0.16		
15					サシハゴカイ	アケノサシハ			1	0.01		
16						サミドリサシハ			27	0.57	1	0.01
17						マダラサシハ			1	0.01		
18					オトヒメゴカイ	Ophiodromus sp.	1	+	70	0.59	21	0.11
19						オトヒメゴカイ科			1	+		
20					シリス	シロマダラシリス	10	0.04	1	0.03	5	0.05
21						Typosyllis sp.	3	0.01	24	0.14	9	0.04
22						Autolytus sp.			12	0.09	1	+
23					ゴカイ	ツルヒゲゴカイ					9	0.34
24						イソツルヒゲゴカイ			2	0.02	6	0.03
25						クマトリゴカイ	68	4.97	1	+		
26						アシナカゴカイ	10	0.04	1	0.01	1	0.04
27						ヒメゴカイ			1	+	1	+
28						マサゴゴカイ	4	0.01				
29					イソメ	Eunice sp.			4	0.27	9	0.40
30					セクロイソメ	Arabella sp.						
31					定在	スピオ			392	1.76	21	0.08
32						Misshikigokai					1	0.01
33						Misshikigokai			72	4.48	56	1.00
34						Thelepus sp.			29	2.80	24	1.32
35						Nicolea sp.					6	0.92
36						Lanice sp.			7	0.33		
37						Sabella sp.			18	1.14	4	0.07
38						Branchiomma sp.					1	0.16
39					カンザシゴカイ	Ezo-Kaneshikonigokai			613	7.93	1	0.01
40						Kaneshikonigokai科					360	10.80
41	触手動物	筍虫	筍虫	ホウキムシ	Phoronis sp.				21	0.11		
42		苔虫	櫛口	フクロコケムシ	フクロコケムシ科				-	0.21		
43			唇口	フサコケムシ	フサコケムシ		-	0.01	-	0.01	-	+
44				ヒラコケムシ	チコケムシ				-	0.16		
45				モンクチコケムシ	モンクチコケムシ科		-	0.02	-	0.06		
46	軟体動物	腹足	古腹足	ニシキウスガイ	コシダカカシコラ						3	11.68
47				リュウテン	ササエ						1	123.54
48			盤足	カリハカサガイ	シマメノウフネガイ						3	0.07
49			新腹足	アツキガイ	レイシガイ				32	57.12	4	6.92
50					イボニシ		1	0.83				
51				フトコロガイ	ムキガイ				188	10.84	248	10.44
52					ノミナモドキ						11	0.08
53			異旋	トウカタガイ	イトカケチキレ属						1	+
54					クサズレクチキレ						2	0.01
55			頭楯	フトウガイ	フトウガイ				3	0.04		
56			裸鰓	トリス	トリス科				1	0.01		
57			ミノミウシ	-	ミノミウシ目				1	0.04		
58			基眼	カラマツガイ	カラマツガイ		19	1.10				
59		二枚貝	フネガイ	フネガイ	コベルトフネガイ						3	3.98
60			イカガイ	イカガイ	ムラサキイカガイ				3	0.26		
61					ヒバリガイ		1	+	1	0.04	2	0.03
62					コウロエンカリヒバリガイ		80	0.65				
63					タマエガイ						1	0.03
64					ホトキス		1	+	1	+		
65			カキ	イタボカキ	マカキ		3	0.31				
66			マルスタレガイ	コハクノツユ	コハクノツユ属						2	0.01
67				マルスタレガイ	ハネマツカゼ						1	0.01
68				イワホリガイ	ウスカサシツガイ		31	0.53	10	0.42	17	0.55
69			オオノガイ	キヌマトイガイ	キヌマトイガイ						66	1.65

注) 個体数の「-」は計測不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

神戸沖処分場；A－2

秋季調査（平成 21 年 11 月 8 日）-2

単位：個体数；個体/0.25㎡，湿重量；g/0.25㎡

No.	門	綱	目	科	種名	調査地点		A-2					
						項目	上層		中層		下層		
							個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	
70	節足動物	顎脚	無柄	フシツボ	タテマフシツボ	1	0.03						
71					ヨーロッパフシツボ	1	0.19						
72					サンカクフシツボ	3	0.13	136	3.76	14	1.24		
73			軟甲	タナイス	タナイス	ゼウクソ属	1	+	4	+	2	+	
74					ウミナフシ	ウミナフシ属			6	0.01			
75					ウミミズムシ	ウミミズムシ			55	0.03			
76					コツブムシ	シリケンウミミ	14	0.06					
77				端脚	タテソコエビ	タテソコエビ属	2	+	22	0.01			
78					メリタコエビ	メリタコエビ属			8	0.02			
79						イソコエビ属			3	+			
80						コンボソコエビ	コンボソコエビ属			107	0.04		
81					ヒゲナカヨコエビ	ヒゲナカヨコエビ属	298	15.92				1	0.02
82					トクタムシ	ホソコエビ						296	0.36
83						ウエノトクタムシ				4	+		
84						トクタムシ属				3	+		
85			ワレカラ		トケワレカラ		1	+	4	0.01	312	0.62	
86					オサテワレカラ						333	0.42	
87				クヒナカワレカラ				9	0.01	13	0.01		
88				マルエワレカラ		8	0.05	6	0.01	211	0.38		
89		十脚		テッポウエビ	テッポウエビ属			15	0.51	5	0.11		
90				モエビ	Eualus sp.					2	0.02		
91				ヤトカリ	ケブカヒメコバサミ			1	0.04	1	0.36		
92				カニタマシ	コブカニタマシ			1	0.01	2	+		
93				クモカニ	イッカククモカニ					1	0.03		
94					ヨツハモカニ					5	0.45		
95				カサミ	フタバヘニツケカニ			1	0.01	1	0.06		
96				オウギカニ	シロオウギカニ			3	0.06				
97					ケブカアワツツカニ					1	0.02		
98					スヘスヘオウギカニ			6	1.11				
99					ヒメケブカカニ			6	0.07	40	0.67		
100					-	短尾下目メダカ期幼生	1	+					
101				昆虫	ハエ	ユスリカ	ユスリカ科幼虫	34	0.02				
102	棘皮動物	ヒトデ	キヒトデ			キヒトデ			2	7.43	1	0.28	
103			ヒメヒトデ	ヒメキヒトデ			4	105.87	5	19.22			
104	原索動物	尾索	腸性	キオナ	カクユレイダヤ			1	0.02	1	0.07		
105			壁性	スチエラ	フタスジホヤ					1	0.02		
106			-	-	-	卵塊	-	0.02	-	0.01			
出現種類数						33		68		65			
合計						618	25.12	2,016	209.88	2,177	199.49		

注）個体数の「－」は計測不能を、湿重量の「＋」は0.01 g 未満を示す。

(2) 大阪沖処分場 ; C-2

春季調査 (平成 21 年 5 月 27 日) -1

単位 : 個体数 ; 個体/0.25m², 湿重量 ; g/0.25m²

No.	門綱目科種名				調査地点	A-2								
					層	上層		中層		下層				
					項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量			
1	海綿動物	尋常海綿	-	-	尋常海綿綱	-		3.79	-		0.78			
2	腔腸動物	花虫	イソギンチャク	-	イソギンチャク目	2	+	2	0.02					
3	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目	1	+	2	0.02					
4	紐形動物	無針	異紐虫	リネウス	リネウス科	8	0.06	6	0.13	4	0.06			
5	星口動物	サメハダホシムシ	サメハダホシムシ	サメハダホシムシ	サメハダホシムシ					2	0.12			
6	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	マダラウロコムシ			13	0.19	33	0.24			
ミロクウロコムシ							5	0.20	2	0.02				
アケノサシハ							1	+						
サミト					リサシハ			9	0.26	1	0.01			
マダラ					ラサシハ			1	0.07	1	0.07			
オトヒメコカイ					Ophiodromus sp.			30	0.41	74	0.77			
					Hesione sp.					1	0.57			
シリ					シロマダラシリ	9	0.12	1	+					
					Typosyllis sp.	2	0.01	13	0.09					
				Autolytus sp.			1	+						
ゴカイ				ウルヒゴカイ			5	0.66						
				イソウルヒゴカイ						3	0.04			
				クマトリゴカイ	72	2.30	13	0.39	3	0.17				
				ヒメゴカイ			4	0.03	1	+				
				マサココカイ	1	+	61	0.95	29	1.37				
				チロリ	Glycera sp.					1	0.04			
				イソメ	Eunice sp.			1	0.17	2	0.10			
セクロイソメ				Arabella sp.			3	0.32						
定在				スピオ	Polydora sp.			156	0.76					
					スピオ科					1	+			
				ミスヒキゴカイ	Dodecaceria sp.			48	0.09					
					ミスヒキゴカイ			13	0.43	24	0.54			
					オフェリアゴカイ	カスリオフェリア	2	0.01	13	0.09				
				フサゴカイ	Thelepus sp.			148	15.24	164	22.64			
					Lanice sp.			5	1.02					
				ケヤリ	Sabella sp.					1	0.01			
					Branchiomma sp.					2	0.15			
					カンザシゴカイ	エゾカンザシゴカイ			1,176	30.24	228	8.02		
					イバカンザシゴカイ			8	0.32	1	0.05			
				35	触手動物	苔虫	円口	クダコケムシ	クダコケムシ科				-	+
				唇口			ヒラコケムシ	ヒラコケムシ科				-	0.02	
				37				アミコケムシ	アミコケムシ科				-	0.01
38				軟体動物	多板	新ヒサラカイ	ケハダヒサラカイ	ケハダヒサラカイ属	1	0.06	7	0.64	1	0.07
腹足	古腹足	ニシキウスカイ	コシダカカンガラ							1	4.99			
		リュウテン	ササエ				1	0.04						
	盤足	カリバカサカイ	シメノウフネカイ				1	0.01	5	3.27				
	新腹足	アツキカイ	レイシカイ				5	0.33	5	0.32				
		フトコロカイ	ムキカイ				138	10.38	137	8.75				
	翼舌	ミツクチキリオレ	キリオレ				2	0.02	5	0.05				
			ミツクチキリオレ科				2	0.01	2	0.01				
	異旋	トウカタカイ	イトカケチキレ属				1	+	3	0.01				
			クサシクチキレ							2	0.02			
			ヨイトカケシリ属							1	+			
頭楯	ブトウカイ	ブトウカイ				4	0.09							
	ミノウミシ	-	ミノウミシ目				1	0.02						
51	二枚貝	基眼	カラマツカイ		カラマツカイ		1	0.49						
フネカイ			コベルトフネカイ				8	3.86	13	7.69				
イカイ			イカイ		ムラサキイカイ		8,206	545.85	24	0.08				
					ヒバリカイ						3	11.61		
					コウロンカヒバリカイ		3	0.01						
					タマエカイ						1	0.04		
					イシマテ						2	0.03		
ミノカイ			ミノカイ		ユキミノ属			3	0.09	1	0.05			
カキ			ナミナカシワ		ナミナカシワ					1	4.85			
			イタボカキ		マカキ		31	8.01						
61			マルダレカイ		キクザル	キクザル属					1	5.39		
					イワホリカイ	ウスカラシオツカイ		1	+					
オノカイ					キヌマトイカイ	キヌマトイカイ			3	0.06	8	0.08		

注) 個体数の「-」は計測不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

大阪沖処分場；C-2

春季調査（平成21年5月27日）-2

単位：個体数；個体/0.25㎡，湿重量；g/0.25㎡

No.	調査地点					A-2					
						上層		中層		下層	
						個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
門	綱	目	科	種名	層	項目					
64	節足動物	顎脚	無柄	フジツボ						2	0.55
65		軟甲	タナイス	タナイス						5	+
66			等脚	ウミナナフシ				4	0.01	2	0.01
67				ウミミスミシ				36	0.02	7	+
68				コツツミシ		2	0.02				
69			端脚	タテソコエビ						5	+
70				メリタヨコエビ				6	0.06		
71				モクスヨコエビ		12	0.04	6	+		
72				ユンボソコエビ				152	0.08	12	0.01
73				ヒゲナカヨコエビ		12	0.06			5	0.03
74				カマギリヨコエビ		1	+	16	0.03	121	0.11
75				トノクダムシ				1	+	1	+
76				ウエノトノクダムシ				92	0.14	7	0.01
77				トノクダムシ属						1	+
78			ワレカラ	トゲワレカラ		1	+	17	0.11	36	0.16
79				オサテワレカラ						32	0.04
80				カキノテワレカラ						292	1.32
81				マルエテワレカラ		7	0.01	94	0.39	1,004	3.80
82			十脚	テッポウウエビ				5	0.25	7	0.63
83				モエビ						3	0.06
84				ヤトカリ						3	0.01
85				ホンヤトカリ						1	0.01
86				カニタマシ						2	0.04
87				クモカニ				1	0.40	2	0.43
88				オウギカニ				5	0.38	44	1.68
89		昆虫	ハエ	カガクンボ		2	0.01				
90				ユスリカ		4	0.01				
91	棘皮動物	クモヒトデ	クモヒトデ	トゲクモヒトデ						2	0.05
92		ヒトデ	ヒメヒトデ	イトマキヒトデ				3	50.12	1	0.10
93		ナマコ	樹手	スクレロタクティラ						1	1.06
94	原索動物	尾索	腸性	ジゲムニ						-	0.06
95				アスキシア						2	1.12
96			壁性	シロホヤ				1	0.01		
97				フタスシホヤ						1	0.11
出現種類数						21		56		72	
合計						8,379	557.06	2,366	123.44	2,384	94.52

注) 個体数の「-」は計測不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

大阪沖処分場；C－2

秋季調査（平成21年11月21日）-1

単位：個体数：個体/0.25㎡，湿重量：g/0.25㎡

No.	門	綱	目	科	種名	調査地点		C-2						
						層	項目	上層		中層		下層		
								個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	
1	海綿動物	石灰海綿	-	-	石灰海綿綱			-	0.04	-	+			
2		尋常海綿	-	-	尋常海綿綱			-	27.84	-	2.93			
3	腔腸動物	ヒドロ虫	軟クラゲ	ウミサカヅキカヤ	ウミサカヅキカヤ科			-	0.04					
ウミシハ				ウミシハ科			-	0.52						
5		花虫	イソギンチャク	タテシマイソギンチャク		5	0.04	36	0.59					
6			-	イソギンチャク目		11	0.04							
7	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目	8	0.03	13	0.18	1	0.15			
8	紐形動物	無針	古紐虫	ツブナス	ツブナス科			4	0.04					
9			異紐虫	リネウス	リネウス科	1	+	1	0.01	1	+			
10		有針	針紐虫	テトラステマ	メノコヒモシ			8	0.04	1	+			
11	星口動物	星虫	星虫	ホシムシ	サメハダホシムシ					2	0.08			
12	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	<i>Lepidonotus</i> sp.			18	0.36	4	0.34			
13					マダラウロコムシ			31	0.45	14	0.18			
14					ミロクウロコムシ			9	0.48	9	0.71			
15					サシハゴカイ	アケノサシハ		2	0.03					
16						サミトリサシハ		17	0.35					
17					オトヒメゴカイ	<i>Ophiiodromus</i> sp.		123	0.58	73	0.41			
18						<i>Hesione</i> sp.				1	0.01			
19						シリス	シロマダラシリス		16	0.12	1	0.01		
20							<i>Typosyllis</i> sp.	1	0.01	49	0.35	1	0.01	
21							<i>Autolytus</i> sp.			8	0.07	7	0.03	
22						ゴカイ	ツルヒゲゴカイ	1	+			2	0.09	
23							イソツルヒゲゴカイ					1	0.01	
24							クマトリゴカイ	7	0.10			2	0.26	
25							アシナガゴカイ	1	0.01					
26							ヒメゴカイ			2	+	2	0.02	
27							マサコゴカイ	3	0.01			2	0.02	
28							イソメ	<i>Eunice</i> sp.					11	1.77
29							セグロイソメ	<i>Arabella</i> sp.			12	0.83	1	0.07
30						定在	スピオ	<i>Polydora</i> sp.			97	0.32	15	0.07
31								<i>Pseudopolydora</i> sp.					1	0.01
32							ミスヒキゴカイ	<i>Dodecaceria</i> sp.			112	0.08	1	+
33								ミスヒキゴカイ			15	1.90	54	3.36
34							オフェリアゴカイ	カスリオフェリア			16	0.03	2	+
35							アサコカイ	<i>Thelepus</i> sp.			385	33.91	369	35.22
36								<i>Lanice</i> sp.					1	0.48
37							ケヤリ	<i>Sabella</i> sp.			9	0.33	1	0.07
38								<i>Branchiomma</i> sp.					4	0.26
39							カンサシゴカイ	エゾカンサシゴカイ			205	6.63	625	17.32
40					<i>Hydroides</i> sp.			2	0.05					
41	触手動物	筍虫	筍虫	ホウキムシ	<i>Phoronis</i> sp.			17	0.07					
42		苔虫	櫛口	フクロコムシ	フクロコムシ科	-	+							
43			唇口	フサコムシ	フサコムシ	-	0.10	-	0.52					
44				ヒラコムシ	チココムシ			-	2.34					
45				コフコムシ	コフコムシ科			-	1.80	-	0.16			
46	軟体動物	多板	新ヒサラカイ	ケハダヒサラカイ	ケハダヒサラカイ属			1	+	1	0.03			
47			腹足	盤足	タマキビ	タマキビ属	1	+						
48				リソツボ	タマツボ					1	+			
49			新腹足	アツキカイ	レイシカイ			10	9.09	2	0.49			
50					イボニシ		3	2.08						
51				フトロカイ	ムギカイ		1	0.10	36	4.22	66	5.74		
52					バミナ				1	+	1	+		
53			翼舌	ミツチキリホ	ミツチキリホ科					1	0.01			
54			フシエラカイ	フシエラカイ	ウミフクロウ			1	1.64					
55			ミノミウシ	-	ミノミウシ目					2	0.07			
56			基眼	カラマツカイ	カラマツカイ	1	0.01							
57			二枚貝	フネカイ	フネカイ	コベルトフネカイ					2	0.94		
58				イカ	イカ	ミドリイカ			2	1.01				
59						ヒバリカイ			1	+				
60				カキ	イタボガキ	イワガキ			1	218.38				
61			マルスタレカイ	マルスタレカイ	マルスタレカイ科					1	0.06			
62					イワホリカイ	チヂミイワホリカイ					1	0.67		
63						ウスカラシオツカイ			1	0.01				
64		頭足	八腕	マダコ	マダコ科					1	0.13			

注）個体数の「－」は計測不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

大阪沖処分場；C－2
秋季調査（平成21年11月21日）-2

単位：個体数；個体/0.25㎡，湿重量；g/0.25㎡

No.	調査地点				C - 2						
					層	上層		中層		下層	
						項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数
65	節足動物	顎脚 軟甲	無柄	フシツボ	サンカクフシツボ			3	0.27		
66			タナイス	タナイス	ゼウクソ属	228	0.04			1	+
67			等脚	ウミナナフシ	ウミナナフシ属	1	+	15	0.04	4	0.01
68				ウミミズムシ	ウミミズムシ			3		3	+
69				コツブムシ	シリケンウミセミ	12	0.07				
70			端脚	タテソコエビ	タテソコエビ属			4	+	1	+
71				メリタヨコエビ	メリタヨコエビ属			1	0.01		
72					イソコエビ属			202	0.51	5	0.01
73				モクスココエビ	モクスココエビ属	27	0.07				
74				ユンボソコエビ	ユンボソコエビ属	1	+	6	0.01	1	+
75				ヒケナカココエビ	ヒケナカココエビ属	79	0.14				
76				トノクダムシ	ホソコエビ			5	0.01	4	+
77					トノクダムシ属			13	0.02	2	+
78				ワレカラ	トケワレカラ			1	+	9	0.02
79					オサテワレカラ					17	0.01
80					クビナカワレカラ			14	0.01		
81					マルエワワレカラ			2	0.01		
82			十脚	テッポウエビ	テッポウエビ属			16	1.07	18	1.40
83				モエビ	イソモエビ			1	0.07		
84					ナカレモエビ			2	0.04		
85				ロウソクエビ	ハヤシロウソクエビ					15	0.19
86				ホンヤトカリ	ケアシホンヤトカリ	8	3.48				
87				カニタマシ	コブカニタマシ			52	7.58		
88					フトゲネジレカニタマシ			1	0.62		
89				クモガニ	ヨツハマガニ			4	0.18	4	0.14
90				ガサミ	フタハネニツケガニ			2	0.04	7	0.31
91				オウキガニ	ケブカアワガニ			2	0.06		
92					スヘスヘオウキガニ			3	7.24		
93					ヒメケブカガニ			110	3.82	52	1.65
94	棘皮動物	クモヒトデ	閉蛇尾	チビクモヒトデ	クサイロチビクモヒトデ		1	+			
95					ナカトケクモヒトデ			2	0.37	4	0.57
96	原索動物	ナマコ	樹手	スクレロクテリ	イシコ属				1	0.03	
97		尾索		腸性	ジデムニ	ウスボヤ属		-	0.03		
98						ネエキボヤ		-	0.27		
99					アスキシア	マメボヤ		-	0.03		
100						スジキレボヤ		1	0.12		
101						ナツメボヤ		3	2.87	8	9.57
102	-	-	-	-	卵塊		-	0.02			
出現種類数						23		70	61		
合計						401	6.33	1,729	340.57	1,444	86.10

注) 個体数の「-」は計測不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

(3) 泉大津沖処分場 ; D-2

春季調査 (平成 21 年 5 月 23 日) -1

単位 : 個体数 ; 個体/0.25m², 湿重量 ; g/0.25m²

No.	門綱目科種名				調査地点						
					層	上層		中層		下層	
						項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数
1	腔腸動物	花虫	イギンチャク	-	イギンチャク目			16	0.19	1	+
2	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目			17	0.16	3	0.02
3	紐形動物	無針	異紐虫	リネウス	リネウス科	4	0.04			1	+
4		有針	針紐虫	テトラステマ	メノヒモムシ			11	0.03	3	0.01
5	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	Lepidonotus sp.			2	0.02		
6					マダラウロコムシ			61	0.38	28	0.06
7					ミロクウロコムシ					1	+
8				オトヒメコカイ	Ophiodromus sp.			28	0.16	6	0.02
9					Hesione sp.					1	+
10				シリス	ムラサキシマシリス					1	+
11					シロマダラシリス	7	0.03	1	+		
12					Typosyllis sp.			64	0.47	21	0.11
13					Autolytus sp.			1	0.01	2	0.02
14				コカイ	ツルヒゲコカイ			5	0.30		
15					イソツルヒゲコカイ			3	0.25	4	0.06
16					クマトリコカイ	8	0.15	1	0.09	2	0.08
17					アジナガコカイ			2	0.09		
18					ヒメコカイ			5	0.02		
19					マサココカイ			68	1.50	4	0.08
20				チロリ	Glycera sp.					2	0.02
21			定在	スピオ	Polydora sp.			87	0.23	72	0.23
22				ミスヒキコカイ	Dodecaceria sp.			2	+		
23					チクサミスヒキ					1	+
24					ミスヒキコカイ			11	0.22	1	+
25				フサコカイ	Thelepus sp.					1	0.02
26				カンザシコカイ	エゾカンザネカンザシコカイ			10	0.21	1	0.02
27	触手動物	筈虫	筈虫	ホウキムシ	Phoronis sp.			2	0.01		
28		苔虫	唇口	トゲイタクケムシ	トゲイタクケムシ科			-	0.04		
29				フサコケムシ	フサコケムシ			-	0.87		
30				ヒラコケムシ	チコケムシ			-	0.02		
31					ヒラコケムシ科	-	0.02			-	1.58
32				モンクチコケムシ	モンクチコケムシ科			-	+		
33				イタコフコケムシ	イタコフコケムシ科			-	0.07	-	0.03
34				コブコケムシ	コブコケムシ科			-	0.03		
35				アミコケムシ	アミコケムシ科			-	0.03	-	0.02
36	軟体動物	多板	新ヒサラガイ	ケハダヒサラガイ	ケハダヒサラガイ属	1	0.06				
37		腹足	古腹足	ユキノカサ	コモレヒコカモガイ	6	0.12				
38				ニシキウスガイ	コシダカガシラ			3	17.08		
39			盤足	タマキヒガイ	タマキヒ	22	0.08				
40					コヒトウラウスガイ	24	0.05				
41				カリハカサガイ	シマメノウフネガイ			20	0.42	30	3.43
42			新腹足	アツキガイ	カコメガイ					1	0.18
43					レイシガイ			78	6.33	2	0.05
44				フトコロガイ	ムギガイ	3	0.15	194	10.82	164	7.28
45					ノミナモトギ					5	0.01
46			翼舌	イトカケガイ	ヒメネジガイ			3	0.02		
47				ナリメケルマ	クリイロナリメケルマ			1	0.03	8	0.40
48			異旋	トウカタガイ	クチキレモドキ属					4	0.03
49					イトカケクチキレ属					1	+
50					クサズリクチキレ					2	0.01
51					イトカケギリ属			1	+		
52			頭楯	ブトウガイ	ブトウガイ			9	0.14		
53			フシエラガイ	フシエラガイ	ウミフクロウ			1	0.98	1	0.53
54			基眼	カラムツガイ	カラムツガイ	4	2.58				
55		二枚貝	フネガイ	フネガイ	コヘルトフネガイ					1	0.33
56			イガイ	イガイ	ムラサキイガイ	848	107.84	2,287	14.80	2	0.01
57					ヒバリガイ			5	0.42		
58					タマエガイ			9	0.13	3	0.03
59			マルスターガイ	イワホリガイ	ウスカラシオツガイ			59	6.78	4	0.22
60				キヌマトイガイ	キヌマトイガイ			117	2.57	208	3.68

注) 個体数の「-」は計測不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

泉大津沖処分場；D-2

春季調査（平成 21 年 5 月 23 日）-2

単位：個体数；個体/0.25㎡，湿重量；g/0.25㎡

No.	門	綱	目	科	種 名	調査地点							
						層	上層		中層		下層		
							項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
61	節足動物	ウミヅモ	皆脚	イソウミヅモ	イソウミヅモ科			1	0.01				
62				顎脚	無柄	イワフシヅホ	イワフシヅホ	1,780	15.69				
63		軟甲	タナイス	等脚	フシヅホ	サシカクフシヅホ					1	1.18	
64					セウツソ属			253	0.11	108	0.04		
65					コツツムシ	ニホンコツツムシ			3	0.03	4	0.03	
66						シリケンウミセミ	5	0.03					
67					端脚	アコナカヨコエビ	アコナカヨコエビ属					1	+
68						メリタヨコエビ	イソヨコエビ属			1	+		
69						エンマヨコエビ	トゲホホヨコエビ属			1	+		
70						モクスヨコエビ	モクスヨコエビ属	541	1.12	1	0.01		
71						コンボソコエビ	コンボソコエビ属			1	+		
72						クタオソコエビ	ソコエビ属					2	0.01
73						ヒゲナカヨコエビ	ヒゲナカヨコエビ属			114	1.09	4	0.09
74						カマキリヨコエビ	カマキリヨコエビ属	18	0.02	28	0.03	206	0.09
75		トロクダムシ	アリアケトロクダムシ						46	0.03			
76			トンガリトロクダムシ				64	0.08					
77		ワレカラ	トゲワレカラ						48	0.04			
78		十脚	マルエワワレカラ	2		+	1,332	1.87	70	0.09			
79			ホンヤトカリ	ヤマトホンヤトカリ			1	0.05					
80				ホンヤトカリ属			2	0.01	7	0.02			
81			クモカニ	イッカククモカニ			3	0.57	8	0.56			
82				ヨツハモカニ			2	0.01					
83			ワタリカニ	フタハハニツケカニ			1	0.02					
84			オウギカニ	ヒメケフカカニ			3	0.08	2	0.03			
85			昆虫	ハエ	ユスリカ	ユスリカ科幼虫	122	0.28					
86	棘皮動物		クモヒトデ	クモヒトデ	チビクモヒトデ	クサイロチビクモヒトデ	4	0.01					
87			ヒトデ	キヒトデ	キヒトデ	キヒトデ	1	0.03	32	3.21			
88				ヒメヒトデ	イトマキヒトデ	イトマキヒトデ			1	7.45			
89			ウニ	ホンウニ	サンショウウニ	サンショウウニ	7	0.43	1	0.02			
90		-	-	-	-	卵塊	-	0.03	-	0.02			
出現種類数						19		62		55			
合計						3,396	128.32	5,038	73.56	1,112	30.77		

注) 個体数の「-」は計測不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

泉大津沖処分場；D-2

秋季調査（平成21年11月17日）-1

単位：個体数；個体/0.25㎡，湿重量；g/0.25㎡

No.	門	綱	目	科	種名	調査地点	D-2					
						層	上層		中層		下層	
						項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	腔腸動物	ヒドロ虫	軟クラゲ	ウミサヅキガイ	ウミサヅキガイ科				-	+	-	+
2				ウミシハ	ウミシハ科						-	+
3		花虫	イソギンチャク	-	イソギンチャク目				47	0.66	176	1.63
4	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目	5	0.01	18	0.13	6	0.03	
5	紐形動物	無針	異紐虫	リネウス	リネウス科	5	0.01	2	0.04	1	+	
6		有針	針紐虫	テトラステマ	メノコヒモムシ			11	0.04			
7	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	Lepidonotus sp.	4	0.02					
8					マダラウロコムシ			4	0.03	13	0.29	
9				サシハコカイ	サシハコカイ	1	+					
10					マダラサシハ					1	+	
11				オトヒメコカイ	Ophiodromus sp.			33	0.09	191	0.60	
12				シリス	シロマダラシリス	1	+					
13					Typosyllis sp.	10	0.03	25	0.08	14	0.04	
14					Autolytus sp.			6	0.02	8	0.03	
15				ゴカイ	ウルヒゲゴカイ	5	0.01	5	0.07	2	0.03	
16					イソウルヒゲゴカイ	6	0.03					
17					クマトリコカイ	52	0.54	1	0.01			
18					アシナカコカイ	7	0.03	2	0.01	1	+	
19					ヒメコカイ			7	0.05	9	0.03	
20					マサココカイ	41	0.11	3	0.01	1	0.01	
21					Nereis sp.					1	0.02	
22				イソメ	Eunice sp.					1	0.01	
23			定在	スピオ	Polydora sp.			45	0.05	265	0.27	
24					Pseudopolydora sp.					4	0.02	
25				ミスヒキコカイ	ミスヒキコカイ			7	0.04	111	0.47	
26				オフェリアコカイ	カスリオフェリア			2	+			
27				イトコカイ	イトコカイ科					2	+	
28				フサコカイ	Thelepus sp.			2	0.04	4	0.17	
29				ケヤリ	Sabella sp.	4	0.02	30	0.31	11	0.22	
30				カンザシコカイ	エゾカンザシコカイ	5	0.02	22	0.16	76	0.36	
31					Hydroides sp.			4	0.05	9	0.06	
32	触手動物	簪虫	簪虫	ホウキムシ	Phoronis sp.			1	+			
33		苔虫	櫛口	フクロコケムシ	フクロコケムシ科	-	+					
34			田口	サラコケムシ	サラコケムシ科					-	+	
35			唇口	フサコケムシ	フサコケムシ	-	0.02					
36				ヒラコケムシ	チコケムシ				-	0.02		
37					ヒラコケムシ科					-	0.27	
38				モンクチコケムシ	モンクチコケムシ科	-	0.01		-	1.26		
39				トゲイタコケムシ	Callopora sp.				-	0.01		
40				コブコケムシ	コブコケムシ科			-	0.04	-	0.16	
41	軟体動物	多板	新ヒサラガイ	ヒゲヒサラガイ	ハバカセ			1	0.15			
42				ケハタヒサラガイ	ケハタヒサラガイ属	5	0.04					
43		腹足	盤足	リソツボ	タマツボ			1	+			
44			新腹足	アツキガイ	カコメガイ			1	0.01			
45					ヒメヨウラク					1	0.06	
46					レイシガイ	1	0.01	5	0.16	23	5.53	
47					イボニシ					18	7.34	
48				フトコロガイ	ムギカイ			16	0.29	22	0.38	
49					ノミナ			1	+			
50					ノミナモトギ			3	0.01			
51		異旋	ナリメケルマ	クリイロナリメケルマ						1	+	
52		異旋	トウカタガイ	クチキレモトギ属						2	0.01	
53					イトカケクチキレ属					3	0.01	
54					クサズリクチキレ					4	0.02	
55		頭楯	ブトウガイ	ブトウガイ				5	0.03	28	0.44	
56		裸鰓	トリス	トリス科				2	0.02	1	+	
57			ミノウミシ	-	ミノウミシ目			1	0.02			
58		基眼	カラムツガイ	カラムツガイ		4	0.55					
59		二枚貝	フネガイ	フネガイ	エガイ			1	0.02			
60			イガイ	イガイ	ムササギイガイ	3	0.22	2	0.01	1	+	
61					ミドリイガイ	1	0.02					
62					タマエガイ	5	0.11	1	0.01	1	+	
63			マルスターレガイ	イワホリガイ	ウスカヲシウツガイ	28	0.96	17	1.41	39	0.84	

注) 個体数の「-」は計測不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

泉大津沖処分場；D－2

秋季調査（平成21年11月17日）-2

単位：個体数；個体/0.25㎡，湿重量；g/0.25㎡

						調査地点		D-2						
						層		上層		中層		下層		
No.	門	綱	目	科	種名	項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量		
64	節足動物	ウミクモ	皆脚	イソウミクモ	クダトゲイソウミクモ		1	0.01						
65					イソウミクモ科						1	+		
66			軟甲	タナイス	タナイス	セウクツ属		3	+	13	0.01	48	0.01	
67						コツブムシ	シリケンウミセミ		4	0.02				
68			端脚			ツノウミセミ				33	0.61	11	0.15	
69						タテソコエビ	タテソコエビ属			28	0.03	7	+	
70						メリタヨコエビ	イソヨコエビ属		1	+	108	0.12	2	+
71						モクスヨコエビ	モクスヨコエビ属		6	0.04				
72						ヒゲナカヨコエビ	ヒゲナカヨコエビ属		31	0.21				
73						カマキリヨコエビ	カマキリヨコエビ属		2	+				
74						トノクダムシ	ホソヨコエビ		1	+	528	0.16	81	0.04
75							アリアケトノクダムシ				36	0.04	105	0.05
76							トノクダムシ属				28	0.04	1	+
77							トノソコエビ属		1	+				
78						ワレカラ	トゲワレカラ				6	0.02	1	+
79							クビナカワレカラ				3	+		
80							マルエラワレカラ		2	+				
81			十脚			ロウソクエビ	ハヤシロウソクエビ					1	0.01	
82						クモガニ	イッカククモガニ					14	0.84	
83							ヨツハモガニ				2	0.14	6	0.25
84						ガサミ	フタハネツツガニ					4	0.04	
85						オウギガニ	ヒメケバガニ				41	0.30	22	0.12
86	棘皮動物	クモヒトデ	閉蛇尾	チビクモヒトデ	クサイロチビクモヒトデ		2	0.01	19	0.05	4	0.02		
87					ナカトゲクモヒトデ				2	0.02				
88	原索動物	尾索	腸性	アスキシア	スシキレホヤ		4	0.03	1	0.01	2	0.08		
89					ナツメホヤ				9	0.11				
90			壁性	スチエラ	エホヤ							1	4.83	
出現種類数							35		55		57			
合計							251	3.09	1,191	7.02	1,362	25.79		

注) 個体数の「－」は計測不能を、湿重量の「＋」は0.01g未満を示す。

(4) 泉大津沖処分場 ; D-3

春季調査 (平成 21 年 5 月 23 日) -1

単位 : 個体数 ; 個体/0.25m², 湿重量 ; g/0.25m²

No.	門 綱 目 科 種 名				調査地点		D-3				
					層	上層	中層		下層		
					項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	海綿動物	尋常海綿綱	—	—	尋常海綿綱			—	4.64		
2	腔腸動物	ヒドロ虫	軟クラゲ	ウシハ	ウシハ科					—	+
3		花虫	イソギンチャク	—	イソギンチャク目	12	0.27	172	4.38	8	0.07
4	扁形動物	渦虫	多岐腸	—	多岐腸目	8	0.91	45	1.98	35	0.57
5	紐形動物	無針	古紐虫	ツブナス	ツブナス科	1	+	1	0.02		
6			異紐虫	リネウス	リネウス科	27	0.46	7	0.20	3	0.02
7		有針	針紐虫	アンフィボールス	マダラヒモムシ					1	0.01
8				テトラステマ	メノコヒモムシ			5	0.03	3	0.02
9	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	Lepidonotus sp.	4	0.09	6	0.10	28	0.92
10					マダラウロコムシ			49	0.32	75	0.34
11					ミロクウロコムシ			16	0.89	14	0.68
12				サシハゴカイ	サミトリサシハ	3	0.04	3	0.08		
13				オトヒメゴカイ	Ophiodromus sp.			136	0.96	174	0.75
14				シリシ	ムササキシマシリシ	2	+				
15					シロマダラシリシ	23	0.46				
16					Typosyllis sp.	9	0.02	5	0.02	11	0.04
17					Autolytus sp.			15	0.09	6	0.02
18				ゴカイ	クマドリゴカイ	12	0.88				
19					ヒメゴカイ			16	0.12	10	0.06
20					マサゴカイ	8	0.13	254	9.79	88	3.29
21				イソメ	Eunice sp.			42	3.28	96	4.58
22				セクロイソメ	Arabella sp.			1	0.15		
23			定在	スビオ	Polydora sp.			81	0.31	113	0.35
24				ミスヒキゴカイ	Dodecaceria sp.			6	0.01	4	+
25					ミスヒキゴカイ			21	0.93	95	2.53
26				フサゴカイ	Lanice sp.			2	0.81	4	0.50
27				ケヤリ	Sabella sp.			2	0.11	1	+
28				カンザシゴカイ	エゾカンザシゴカイ			956	45.54	1,068	44.43
29					カンザシゴカイ科					1	0.03
30	触手動物	箒虫	箒虫	ホウキムシ	Phoronis sp.			55	0.37	47	0.23
31		苔虫	唇口	トゲイタクコムシ	トゲイタクコムシ科						
32				フサコムシ	フサコムシ			—	1.07	—	7.15
33				ヒロコムシ	ヒロコムシ科			—	0.20	—	0.39
34				モンクチコムシ	モンクチコムシ科	—	0.36	—	0.52	—	+
35				イタクブコムシ	イタクブコムシ科			—	0.60	—	14.09
36				コブコムシ	コブコムシ科			—	1.96	—	1.44
37				アミコムシ	アミコムシ科			—	0.36	—	38.96
38		腕足	頂殻	盤殻	Discinisca sp.			6	0.25	1	0.06
39	軟体動物	多板	新ヒサラガイ	ケハダヒサラガイ	ケハダヒサラガイ属	6	0.56				
40		腹足	古腹足	ユキノカサ	コモレヒコガモガイ	38	8.33				
41			盤足	タマキヒガイ	アラレタマキヒ	5	0.19				
42					タマキヒ	3	0.03				
43					コヒトウラウスガイ	3	0.01				
44				リソツホ	タマツホ					7	0.02
45				カリハカサガイ	シマメノウフネガイ			4	2.65	9	2.67
46				シラタマガイ	サクロガイ			13	1.13	1	0.08
47				アッキガイ	カコメガイ			1	0.65		
48					レイシガイ			19	2.87	29	2.51
49					イボニシ	18	9.02	2	0.51	5	0.97
50				フトコロガイ	ムギガイ			2	0.21	29	2.01
51					ノミナモトキ					19	0.05
52		翼舌	ナワメグルマ	クリイロナワメグルマ						4	0.10
53			ミツクチキリオレ	キリオレ						2	0.02
54		異旋	トウカダガイ	クチキレモドキ属						1	+
55					イトカケチキレ属					7	0.01
56					クサズリクチキレ					3	0.01
57					イトマキクチキレモドキ属					2	+
58					イトカケギリ属					1	+
59		基眼	カラムツガイ	カラムツガイ		11	1.98				
60					キクノハガイ	1	0.33				

注) 個体数の「—」は計測不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

泉大津沖処分場；D-3

春季調査（平成 21 年 5 月 23 日）-2

単位：個体数；個体/0.25㎡，湿重量；g/0.25㎡

No.	門	綱	目	科	種 名	調査地点		D-3					
						層	項目	上層		中層		下層	
								個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
61	軟体動物	二枚貝	フナガイ	フナガイ	コヘルトフナガイ							2	0.23
62					ムササギガイ			10,816	1,970.08	2,296	240.80	46	1.35
63					ヒバカリガイ					3	0.53		
64			ウケイスガイ	ミノガイ	タマエガイ					10	0.23	2	0.04
65					ユキミノ属							2	0.11
66					ナミカシロ					1	1.03		
67			マルスターレガイ	イロホリガイ	ウスカテシオツガイ					60	10.46		
68					キヌマトイガイ					292	4.38	394	8.90
69		頭足	八腕足	マダコ	マダコ					1	0.75		
70		節足動物	顎脚	無柄	イワフシツボ			205	0.64				
71					フシツボ					8	0.99		
72			軟甲	タナイス	セウクソ属					2	+	9	0.01
73					等脚			2	+				
74			端脚	コツブムシ	シリケンウミセミ					1	0.02	3	0.08
75					ウミミスムシ					2	+		
76					タテソコエビ					2	+		
77				イソコエビ属	メリタヨコエビ					4	0.01	10	0.07
78					モクスヨコエビ			4	+				
79					ユンボソコエビ					10	0.01	7	0.01
80					カマギリヨコエビ							3	0.01
81				トノクダムシ	ホソヨコエビ					1	+	4	0.01
82					アリアケトノクダムシ					26	0.02	59	0.04
83					クレカラ					6	0.01		
84				十脚	マルエラクレカラ					58	0.07		
85					テッポウエビ					2	0.25	7	0.25
86					ロウソクエビ					13	0.04	17	0.04
87					ホンヤカリ属					3	0.04	19	0.18
88					カニダマシ							3	0.03
89					フトウデネシレカニダマシ					3	0.23	3	0.18
90					クモカニ					13	0.72	5	0.30
91					ヨツハモカニ					9	0.81	1	0.01
92					ワタリカニ							1	0.04
93					オウキカニ							1	0.02
94					シワオウキカニ					5	3.72		
95					ケブカアワツブカニ					16	6.74	3	0.08
96					スヘスヘオウキカニ					41	3.23	40	0.88
97					ヒライソカニ			1	0.01				
98	棘皮動物	クモヒトデ	クモヒトデ	チビクモヒトデ	クサイロチビクモヒトデ					1	+	1	+
99					キヒトデ					1	0.10	1	0.07
100					ヒメヒトデ					2	25.26	3	0.76
101		ウニ	ホンウニ	サンショウウニ	サンショウウニ							1	1.44
102	原索動物	尾索	腸性	ジゲムニ	ネンエキボヤ					-	18.89		
103					キオナ					1	3.83		
104					アスキギア					1	6.27		
105					ナツメボヤ					1	0.60	1	0.84
106			壁性	スチエラ	シロボヤ					1	28.80	2	12.64
107					フタスジボヤ					11	6.40	6	1.79
108					エボヤ					1	0.79	1	20.60
109	-	-	-	-	卵塊			-	0.02	-	1.14	-	0.29
出現種類数								26		75		76	
合計								11,222	1,994.82	4,851	455.28	2,662	181.28

注) 個体数の「-」は計測不能を、湿重量の「+」は0.01 g 未満を示す。

泉大津沖処分場；D-3

秋季調査（平成21年11月17日）-1

単位：個体数；個体/0.25㎡，湿重量；g/0.25㎡

No.	門	綱	目	科	種名	調査地点	D-3							
						層	上層		中層		下層			
						項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量		
1	海綿動物	尋常海綿	-	-	尋常海綿綱			-	0.02					
2	腔腸動物	ヒドロ虫	軟クダケ	ウミサカツキカヤ	ウミサカツキカヤ科					-	+			
ウミシバ				ウミシバ科			-	0.65	-	0.14				
花虫		イソギンチャク	タテシマイソギンチャク	タテシマイソギンチャク	1	0.01			1	0.01				
		-	イソギンチャク目		12	0.21	771	16.60	378	9.01				
扁形動物		渦虫	多岐腸	-	多岐腸目	16	2.56	15	1.18	14	0.66			
7	紐形動物	無針	古紐虫	ツブナス	ツブナス科	3	0.02	5	0.03	1	0.01			
異紐虫			リネウス	リネウス科	20	0.21								
9		有針	針紐虫	アンフィボールス	マダラヒモムシ	1	0.05			9	0.09			
10				テトラステマ	メノヒモムシ	18	0.44			1	+			
11	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	<i>Lepidonotus</i> sp.	137	2.27			1	0.11			
				マダラウロコムシ				3	0.03	13	0.22			
				ミロクウロコムシ	2	0.50	7	1.04	38	1.33				
				サシバゴカイ	アケノサシバ	25	1.14							
					サシバ	40	0.65							
				ウミケムシ	ウミケムシ科					1	+			
17					オトヒメゴカイ	<i>Ophiodromus</i> sp.	39	0.12	199	0.46	230	0.87		
18					シリス	カキモトシリス	2	+						
19						<i>Typosyllis</i> sp.	18	0.05	3	+	4	0.01		
20						<i>Autolytus</i> sp.	18	0.11	133	0.92	68	0.42		
21						ゴカイ	イソツルヒゲゴカイ	1	+					
22							クマトリゴカイ	7	0.01	1	0.06			
23							アシナガゴカイ	2	0.13					
24							ヒメゴカイ					24	0.18	
25							マサゴゴカイ	6	0.05	1	+	1	+	
26							イソメ	<i>Eunice</i> sp.			1	0.08	71	10.78
27							セグロイソメ	<i>Arabella</i> sp.	3	0.79	1	0.25		
28						定在	スピオ	<i>Polydora</i> sp.	1	+	3	0.01	6	0.02
29								<i>Pseudopolydora</i> sp.					1	+
30							ミスヒゲゴカイ	<i>Dodecaceria</i> sp.					20	0.02
31								ミスヒゲゴカイ	7	0.06	97	0.31	42	2.16
32							オフエリアゴカイ	カスリオフエリア	2	0.01				
33							フサゴカイ	<i>Thelepus</i> sp.			3	0.15	25	1.52
34								<i>Lanice</i> sp.					1	0.17
35							ケヤリ	<i>Sabella</i> sp.	4	0.04	2	0.03	69	1.51
36							カンザシゴカイ	ヤッコカンザシゴカイ	2	0.02				
37								エゾカサネカンザシゴカイ	1	+	276	1.48	396	9.16
38								<i>Hydroides</i> sp.			4	0.01		
39				触手動物	箴虫	箴虫	ホウキムシ	<i>Phoronis</i> sp.			4	0.01	71	0.19
40					苔虫	唇口	アミメコケムシ	アミメコケムシ科	-	0.04	-	0.56		
41	フサコケムシ	フサコケムシ	-				+	-	0.05	-	0.02			
42	ヒラコケムシ	ヒラコケムシ科								-	0.08			
43	モンクコケムシ	モンクコケムシ科	-				0.06	-	1.67	-	3.31			
44	イタコフコケムシ	イタコフコケムシ科						-	0.38	-	0.23			
45	コブコケムシ	コブコケムシ科	-				0.01			-	0.24			
46	アミコケムシ	アミコケムシ科								-	0.48			
47	腕足	頂殻	盤殻		<i>Discinisca</i> sp.					1	0.02			
48	軟体動物	多板	新ヒザラガイ		ウスヒザラガイ	ウスヒザラガイ属	1	+						
49			ケハタヒザラガイ		ケハタヒザラガイ属	17	3.38							
50		腹足	盤足		リソツボ	タマツボ					1	+		
51					オニノツノガイ	チビカニモリ属					2	+		
52					カリバカサガイ	シマメノウフネガイ			2	0.47	3	0.76		
53			新腹足		アッキガイ	レイシガイ			32	11.97	23	10.49		
54					イボニシ			2	1.71					
55					アッキガイ科					2	0.03			
56				フトロコガイ	ムギガイ	77	6.02	72	5.26	24	1.57			
57			翼舌	ミツチキリオレ	キリオレ					1	+			
58			異旋	トウカクガイ	ヨコイトカケリ属					1	+			
59			裸鰓	トールス	トールス科	1	0.01			1	0.03			
60				ミノウミシ	-	ミノウミシ目			1	0.03				

注) 個体数の「-」は計測不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

泉大津沖処分場；D-3

秋季調査（平成21年11月17日）-2

単位：個体数；個体/0.25㎡，湿重量；g/0.25㎡

No.	門	綱	目	科	種名	調査地点	D-3										
						層	上層		中層		下層						
						項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量					
61	軟体動物	二枚貝	イカ	イカ	ムササギイカ		384	1,118.08	96	348.52	4	12.64					
62					ミドリイカ		104	95.80	7	8.82	17	17.32					
63					ヒバカリイカ		1	0.02			1	0.01					
64					タマエカ						2	0.07					
65					イシマテ						1	+					
66				カキ	イタホカキ	マカキ		1	3.22								
67					イワカキ				1	76.94							
68				マルスタレカ	マルスタレカ	オキナマツカセ				1	0.11						
69					イワホリカ	チチミイワホリカ				4	2.21						
70						ウスカワシオウカ		23	4.96	77	12.21	69	4.13				
71	節足動物	ウミクモ	節足動物	オオノカ	キヌマトイカ	キヌマトイカ			1	0.01	39	1.29					
72				皆脚	イソウミクモ	クダトゲイソウミクモ		11	0.11	2	+						
73						イソウミクモ科		1	+								
74				顎脚 軟甲	無柄	フシツボ	サンカクフシツボ						16	0.24			
75					タナイス	セウクソ属				2	+						
76					等脚	コツブムシ	ツノオウミセミ				7	0.08	1	0.03			
77					端脚	タテソコエビ	タテソコエビ属		2	+	16	0.01	9	+			
78							メリカヨコエビ	イソヨコエビ属		15	0.06	269	0.48	53	0.09		
79							モクスヨコエビ	モクスヨコエビ属		17	0.08						
80						ヒゲナカヨコエビ	ヒゲナカヨコエビ属		1	0.01							
81						トノクダムシ	ホソヨコエビ		1	+	178	0.12	59	0.02			
82							アリアケトノクダムシ						22	0.02			
83							トノクダムシ属				6	0.01					
84						ワレカラ	マルエテワレカラ		25	0.03							
85				十脚	テッポウエビ	テッポウエビ属							2	0.14			
86					ロウソクエビ	ハヤシロウソクエビ							1	0.01			
87					カニダマシ	コフカニダマシ					9	0.14	56	0.95			
88						フトウデネシレカニダマシ							1	0.38			
89						クモガニ	イッカククモガニ				4	0.40	1	0.08			
90							ヨツハマガニ				3	0.92	16	3.07			
91						オウキガニ	シロオウキガニ				2	0.07	20	4.38			
92							スヘスヘオウキガニ		6	4.05	10	0.93	11	3.52			
93							ヒメケブカガニ				17	0.61	18	0.69			
94						カクレガニ	オオシロビノ		1	0.01							
95				棘皮動物	クモヒトデ	閉蛇尾	イワガニ	ヒメベシケイガニ		161	4.17						
96								チビクモヒトデ	クサイロチビクモヒトデ		7	0.03	1,033	1.52	149	1.16	
97									ナカトゲクモヒトデ						2	0.23	
98								ヒトデ	ヒメヒトデ	イトマキヒトデ						1	1.19
99								ナマコ	樹手	スクレタケティラ	イシコ属					1	0.06
100				原索動物	尾索	腸性	シゲムニ	ネンエキボヤ					-	0.17			
101								キオナ	カタユウレイボヤ			1	0.34	2	2.76		
102								アスキシア	ナツメボヤ					11	2.35		
103							壁性	シロボヤ						2	10.22		
104									フタスジボヤ		1	0.02			3	0.22	
105				脊椎動物	硬骨魚	スズキ	イソギンボ	イソギンボ				1	0.05				
						出現種類数	51		54		74						
						合計	1,245	1,249.61	3,386	499.93	2,135	123.29					

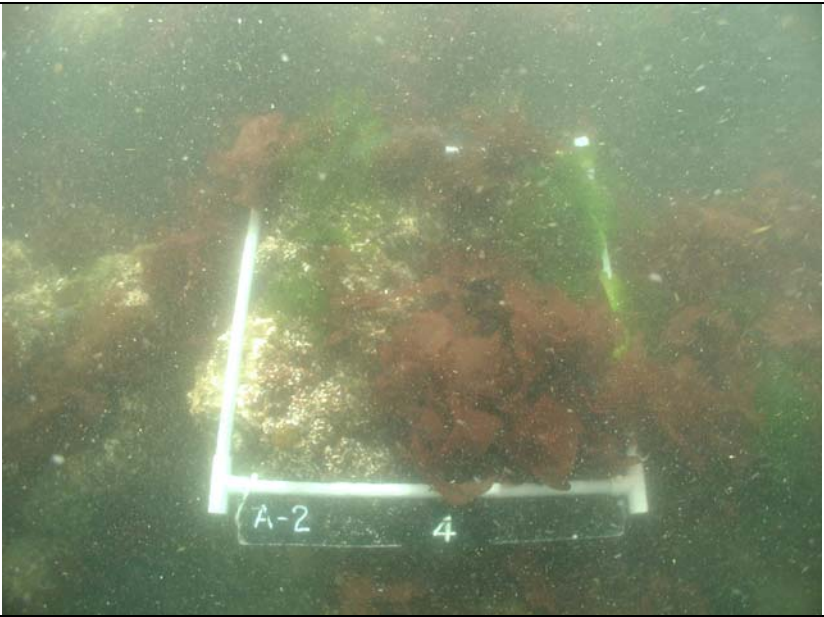
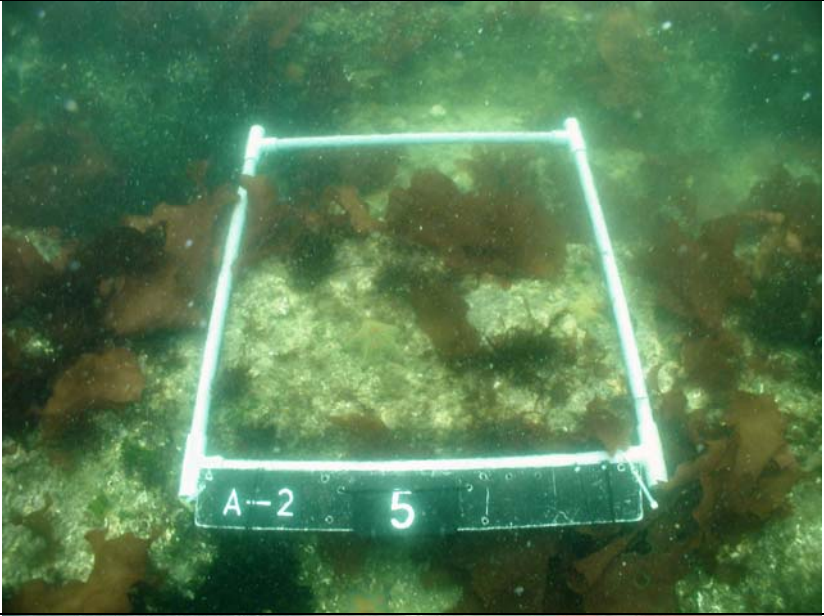
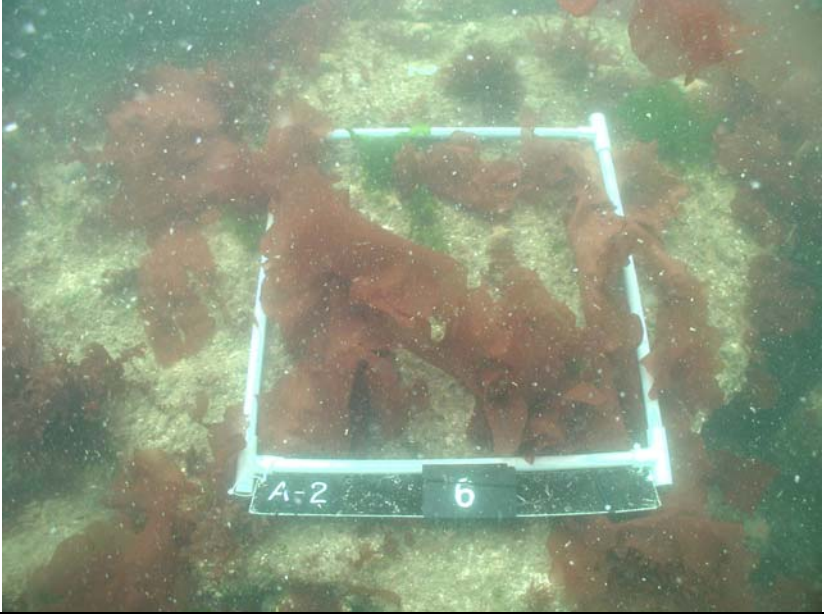
注) 個体数の「-」は計測不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

写真集

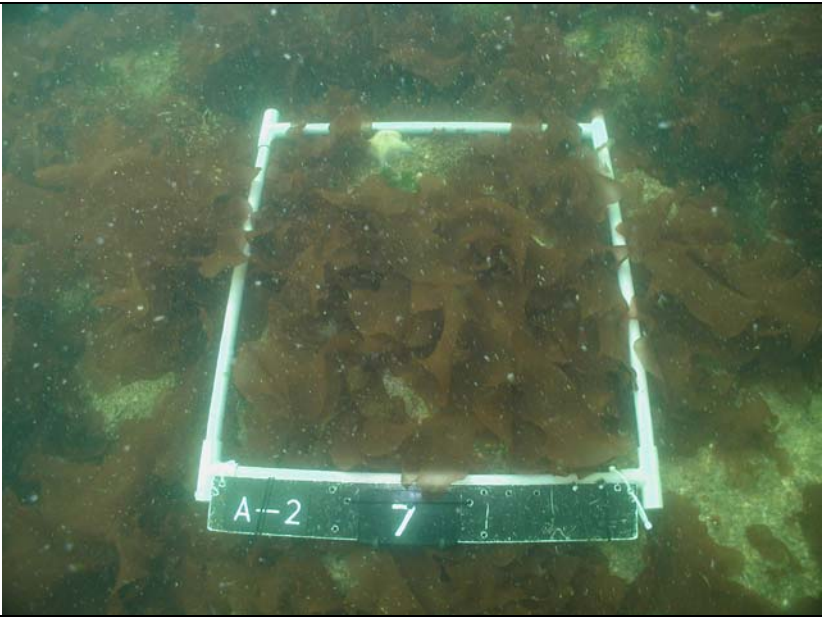
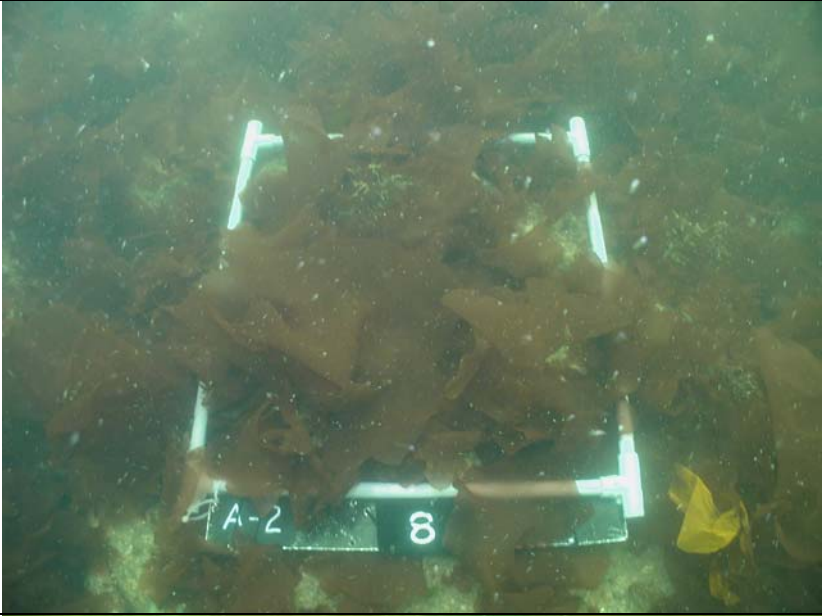
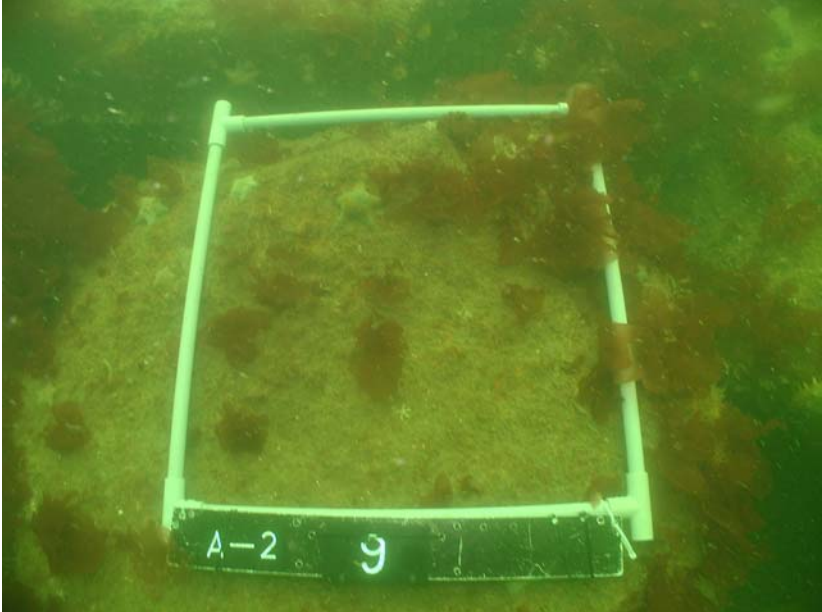
A. 神戸沖処分場
春季調査
(平成 21 年 5 月 24 日)

	生物調査 調査点 A - 2 M. W. L. +1.0m
	生物調査 調査点 A - 2 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点 A - 2 M. W. L. -1.0m

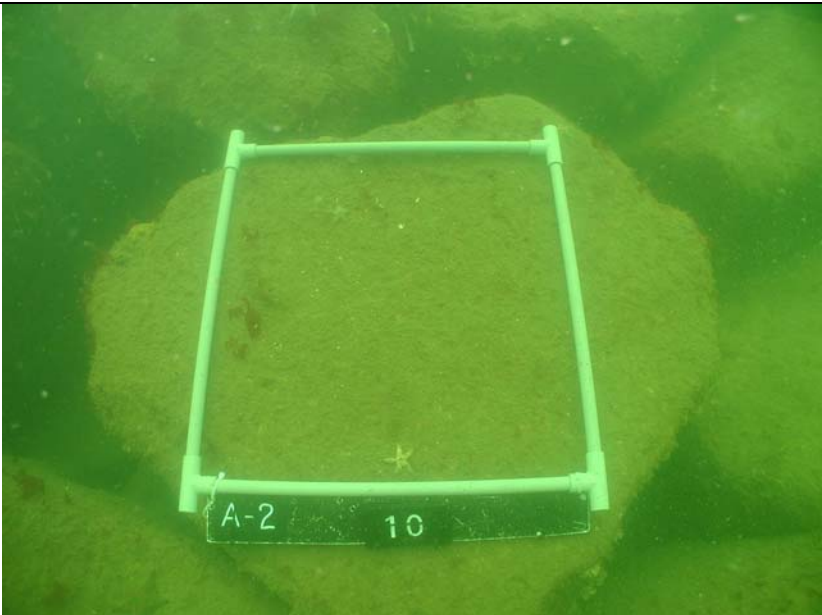
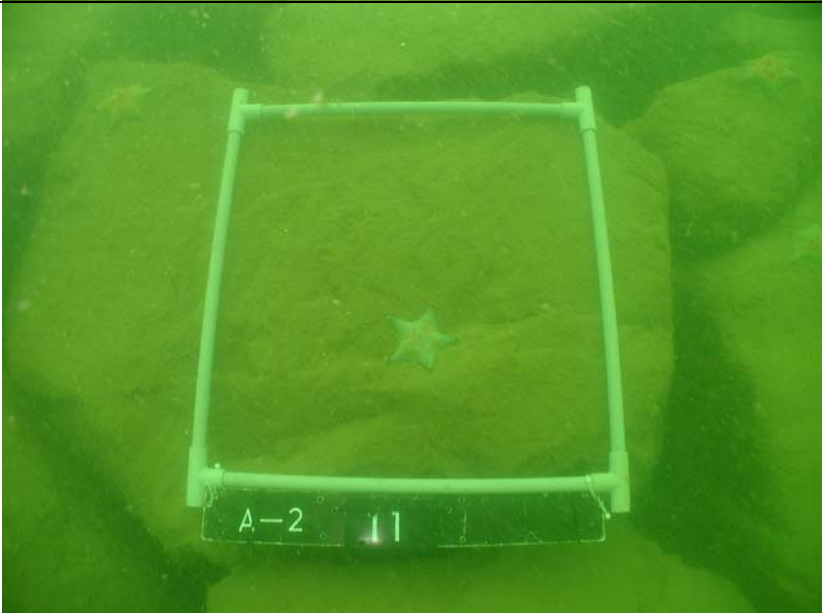
調査日：平成 21 年 5 月 24 日

	生物調査 調査点 A - 2 M. W. L. -2.0m
	生物調査 調査点 A - 2 M. W. L. -3.0m
	生物調査 調査点 A - 2 M. W. L. -4.0m

調査日：平成 21 年 5 月 24 日

	生物調査 調査点 A - 2 M. W. L. -5.0m
	生物調査 調査点 A - 2 M. W. L. -6.0m
	生物調査 調査点 A - 2 M. W. L. -7.0m

調査日：平成 21 年 5 月 24 日

		生物調査 調査点 A - 2 M. W. L. -8.0m
		生物調査 調査点 A - 2 M. W. L. -9.0m
		生物調査 調査点 A - 2 M. W. L. -10.0m

調査日：平成 21 年 5 月 24 日

	生物調査 調査点 A－2 アオサ属
	生物調査 調査点 A－2 カバノリ
	生物調査 調査点 A－2 カンザシゴカイ科

調査日：平成 21 年 5 月 24 日

		生物調査 調査点 A－2 ススカケベニ
		生物調査 調査点 A－2 タマハハキモク
		生物調査 調査点 A－2 ベニスナゴ

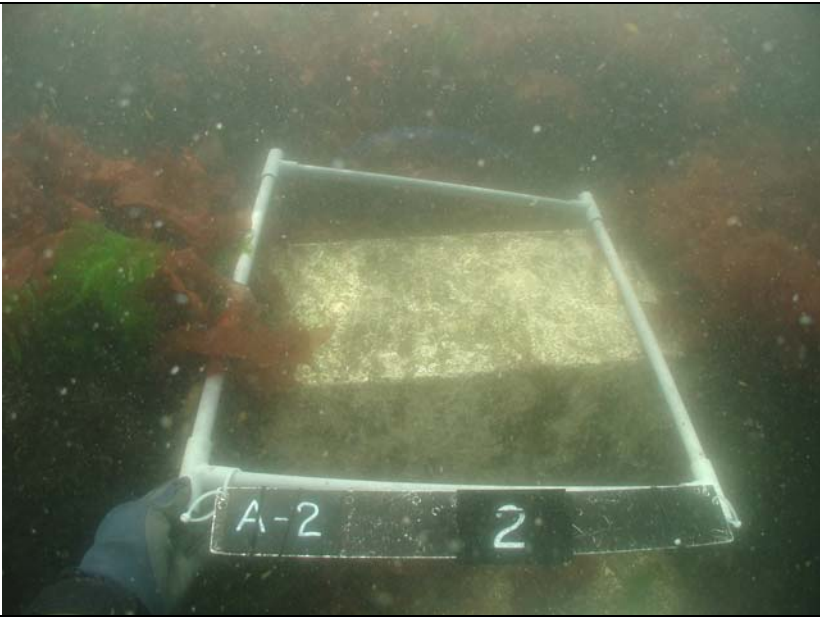
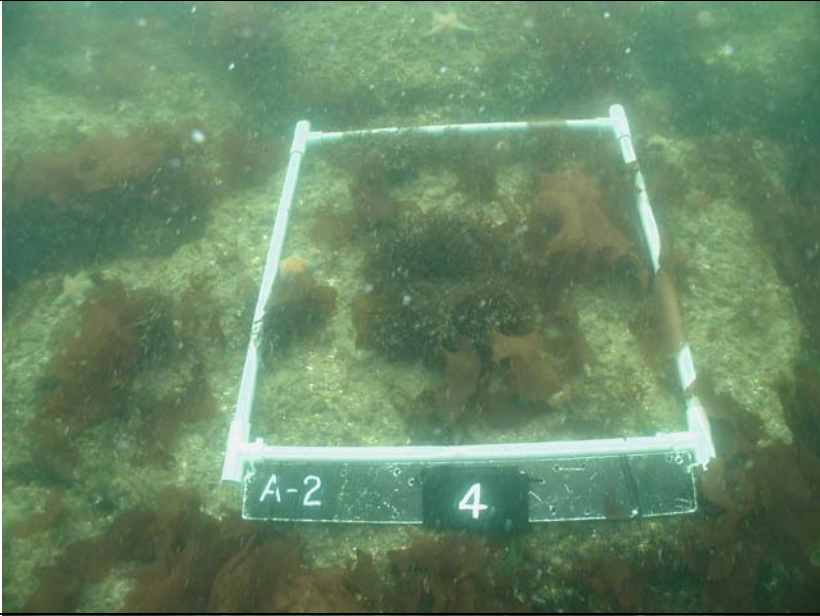
調査日：平成 21 年 5 月 24 日

	生物調査 調査点 A-2 ムカデノリ
	生物調査 調査点 A-2 ムラサキイガイ
	生物調査 調査点 A-2 メバル

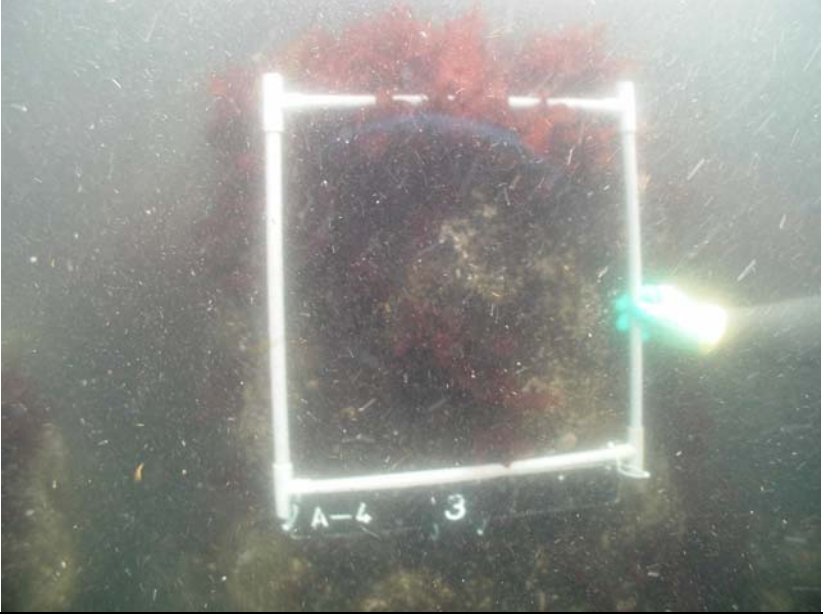
調査日：平成 21 年 5 月 24 日

	生物調査 調査点 A-2 上層 枠取り前 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点 A-2 上層 枠取り後 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点 A-2 中層 枠取り前 M. W. L. -2.0m

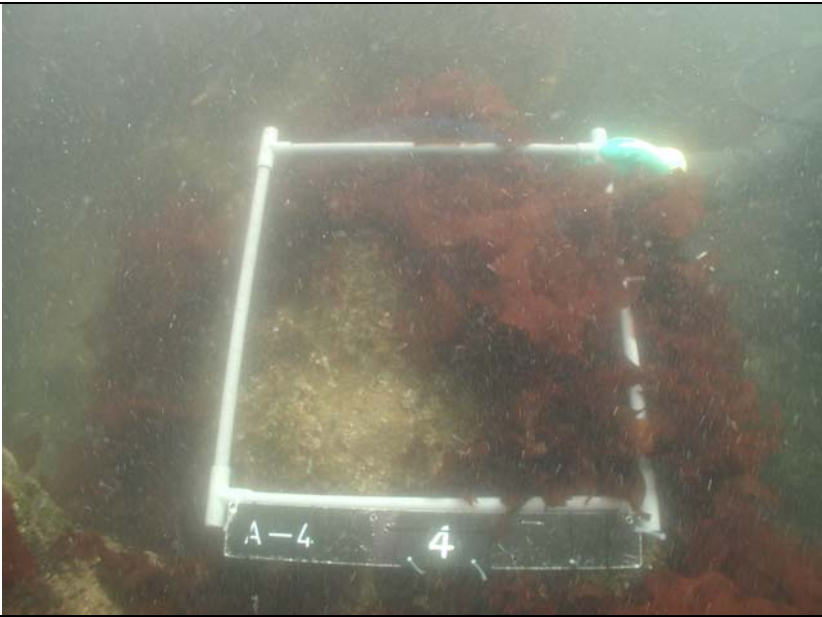
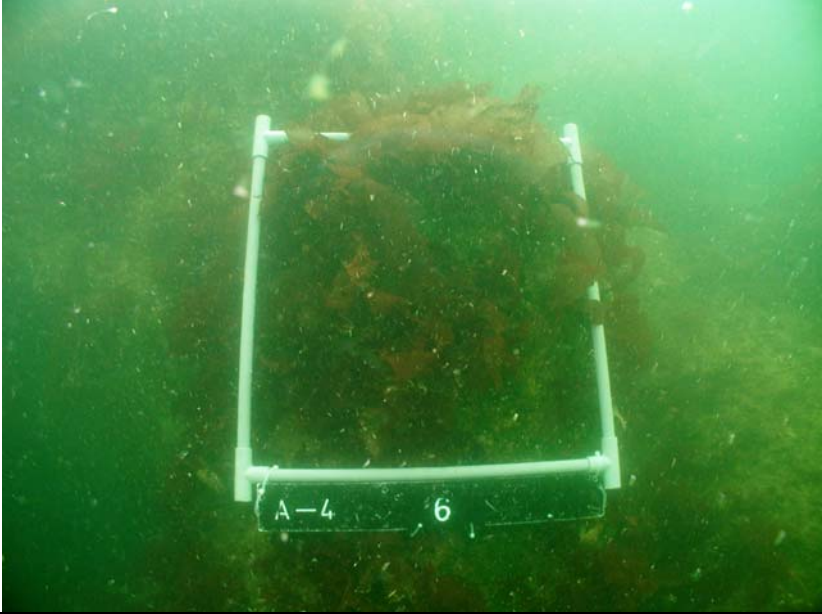
調査日：平成 21 年 5 月 24 日

	生物調査 調査点 A-2 中層 枠取り後 M. W. L. -2.0m
	生物調査 調査点 A-2 下層 枠取り前 M. W. L. -4.0m
	生物調査 調査点 A-2 下層 枠取り後 M. W. L. -4.0m

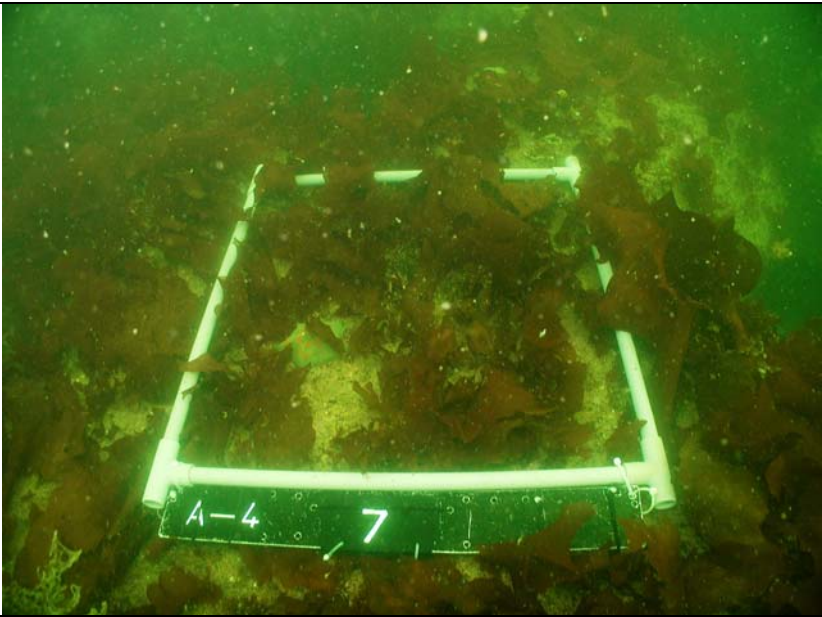
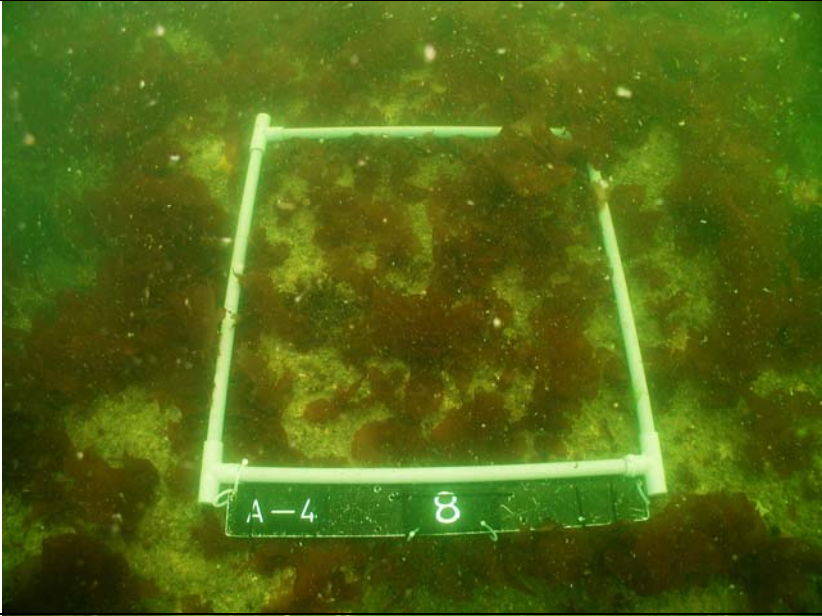
調査日：平成 21 年 5 月 24 日

	生物調査 調査点 A - 4 M. W. L. +1.0m
	生物調査 調査点 A - 4 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点 A - 4 M. W. L. -1.0m

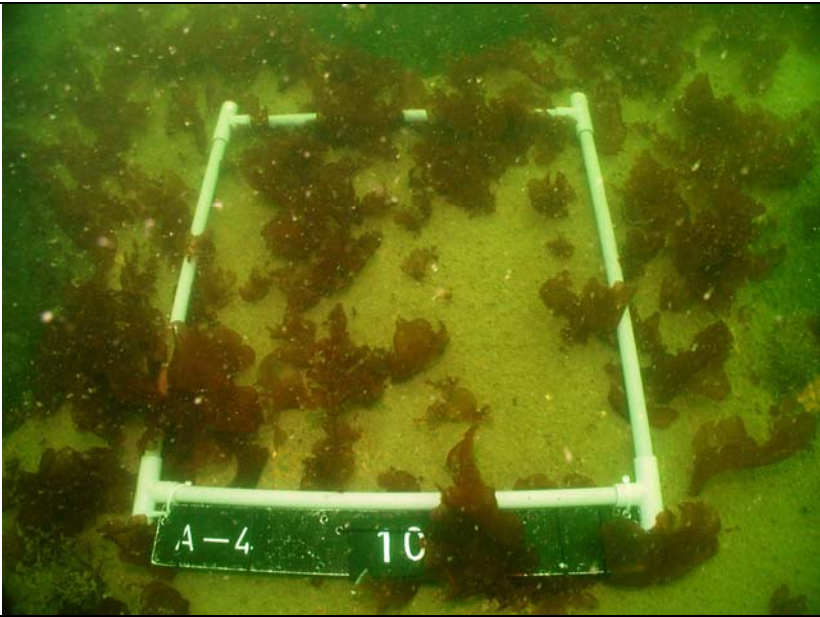
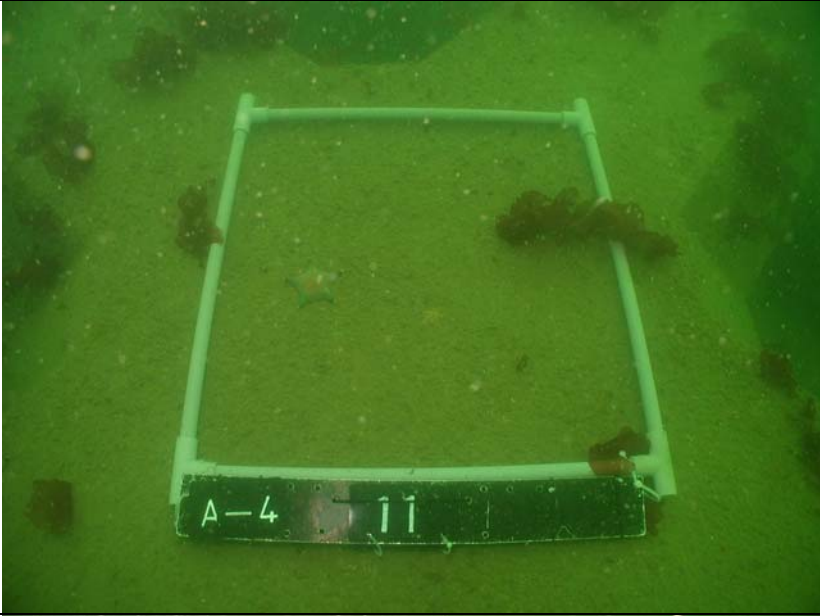
調査日：平成 21 年 5 月 24 日

		生物調査 調査点 A - 4 M. W. L. -2.0m
		生物調査 調査点 A - 4 M. W. L. -3.0m
		生物調査 調査点 A - 4 M. W. L. -4.0m

調査日：平成 21 年 5 月 24 日

	生物調査 調査点 A - 4 M. W. L. -5.0m
	生物調査 調査点 A - 4 M. W. L. -6.0m
	生物調査 調査点 A - 4 M. W. L. -7.0m

調査日：平成 21 年 5 月 24 日

	生物調査 調査点 A - 4 M. W. L. -8.0m
	生物調査 調査点 A - 4 M. W. L. -9.0m
	生物調査 調査点 A - 4 M. W. L. -10.0m

調査日：平成 21 年 5 月 24 日

		生物調査 調査点 A－4 カンザシゴカイ科
		生物調査 調査点 A－4 ススカケベニ
		生物調査 調査点 A－4 スズメダイ

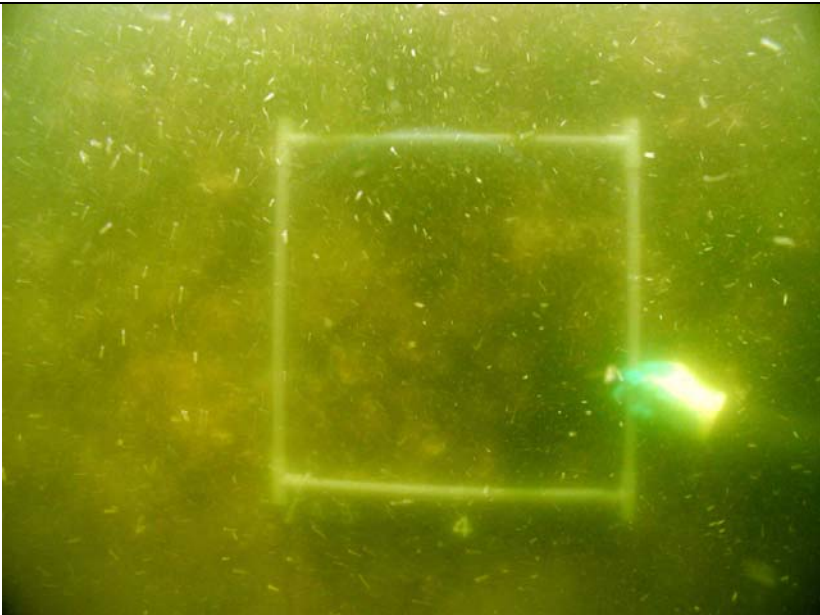
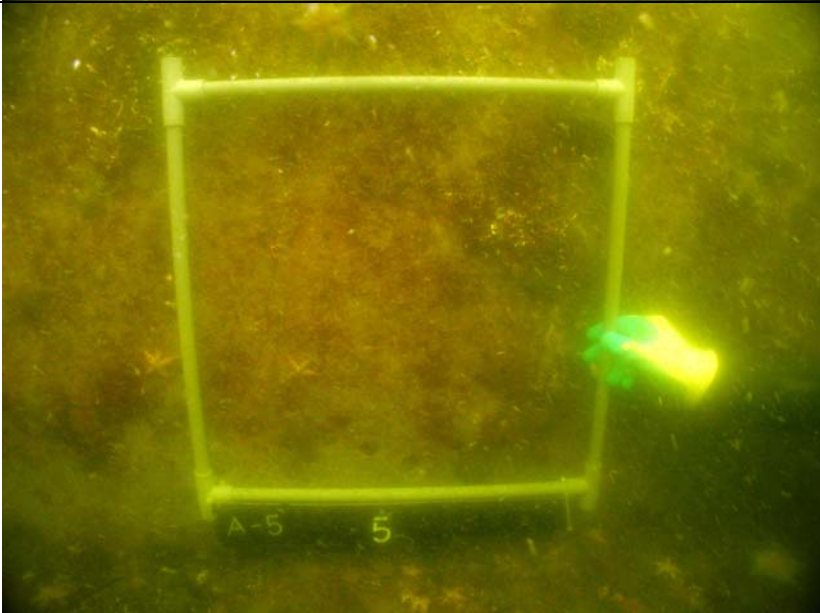
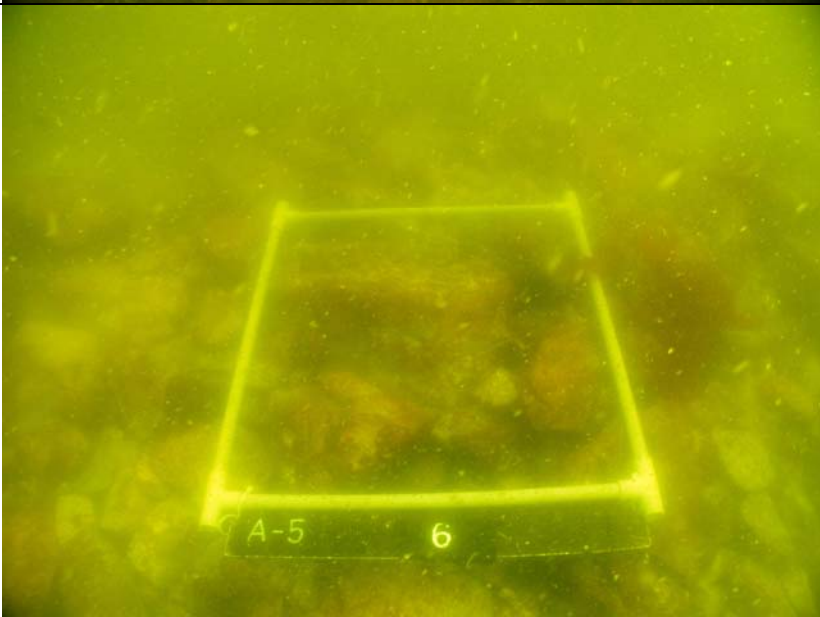
調査日：平成 21 年 5 月 24 日

		生物調査 調査点 A-4 タマハハキモク
		生物調査 調査点 A-4 ベニスナゴ
		生物調査 調査点 A-4 メバル

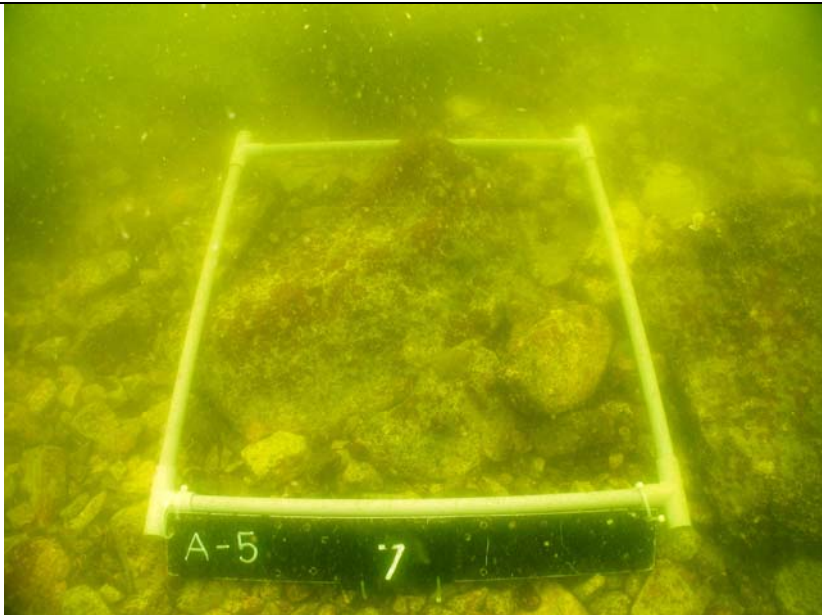
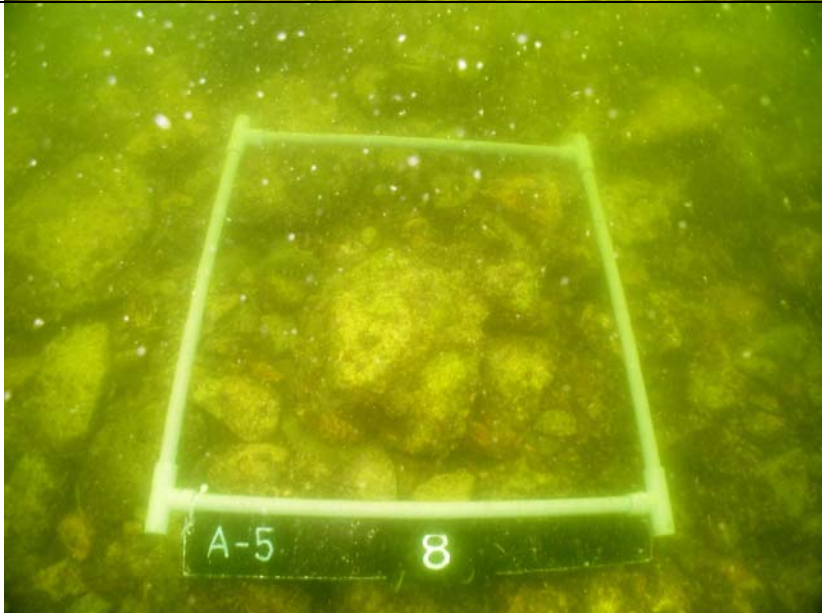
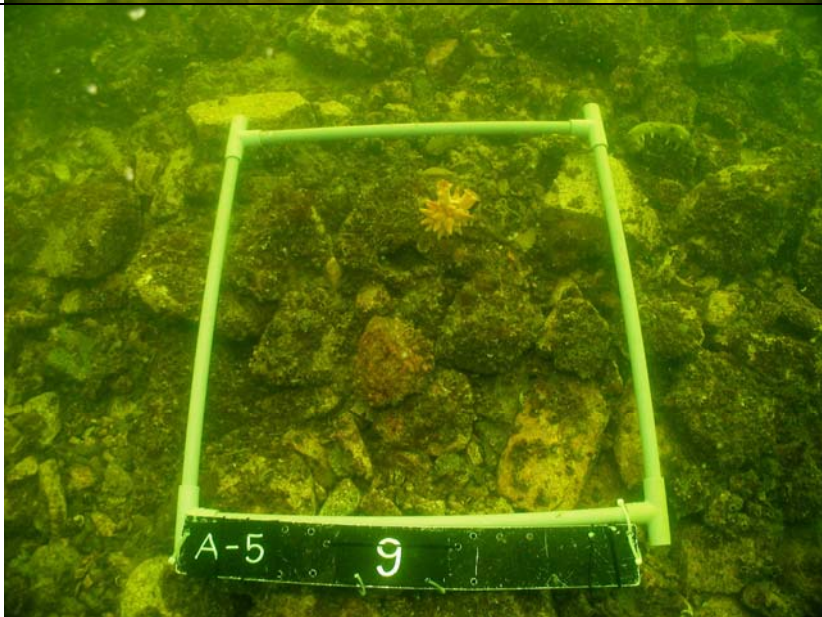
調査日：平成 21 年 5 月 24 日

	生物調査 調査点 A - 5 M. W. L. +1.0m
	生物調査 調査点 A - 5 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点 A - 5 M. W. L. -1.0m

調査日：平成 21 年 5 月 24 日

		生物調査 調査点 A－5 M. W. L. －2.0m
		生物調査 調査点 A－5 M. W. L. －3.0m
		生物調査 調査点 A－5 M. W. L. －4.0m

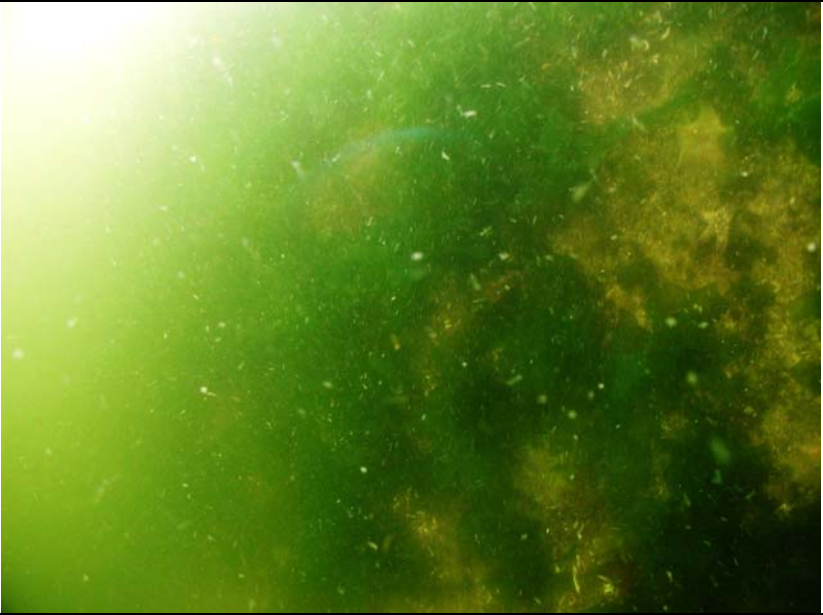
調査日：平成 21 年 5 月 24 日

		生物調査 調査点 A－5 M. W. L. －5.0m
		生物調査 調査点 A－5 M. W. L. －6.0m
		生物調査 調査点 A－5 M. W. L. －7.0m

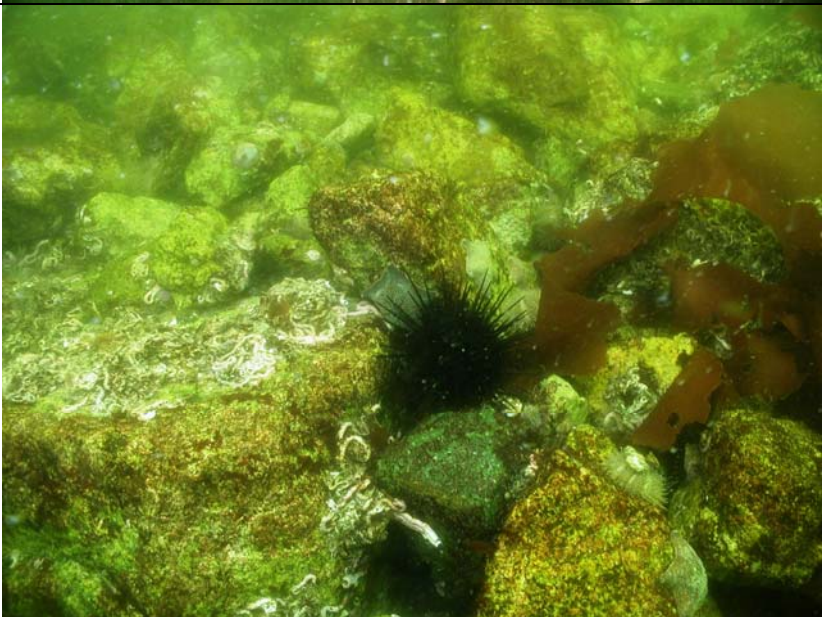
調査日：平成 21 年 5 月 24 日

	生物調査 調査点 A－5 M. W. L. －8.0m
	生物調査 調査点 A－5 M. W. L. －9.0m
	生物調査 調査点 A－5 M. W. L. －10.0m

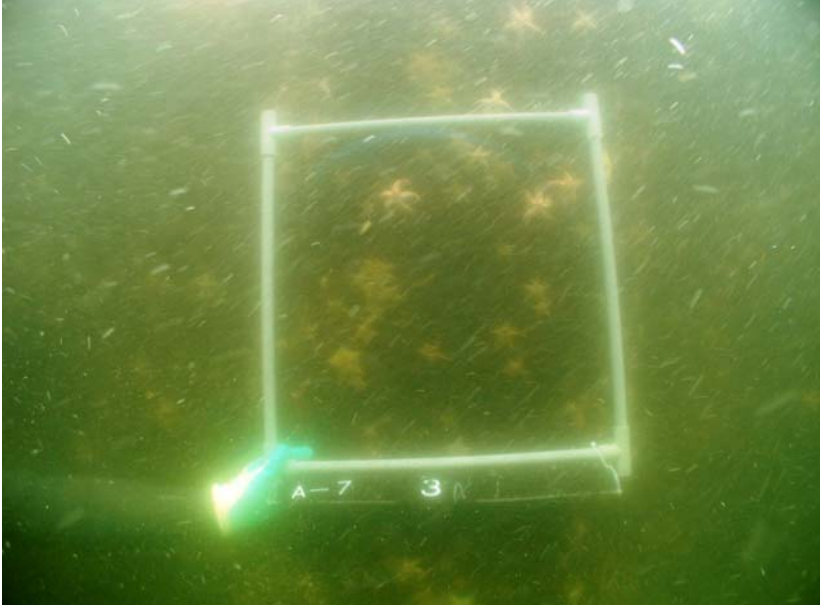
調査日：平成 21 年 5 月 24 日

	生物調査 調査点 A－5 アオサ属
	生物調査 調査点 A－5 サザエ
	生物調査 調査点 A－5 ベニスナゴ

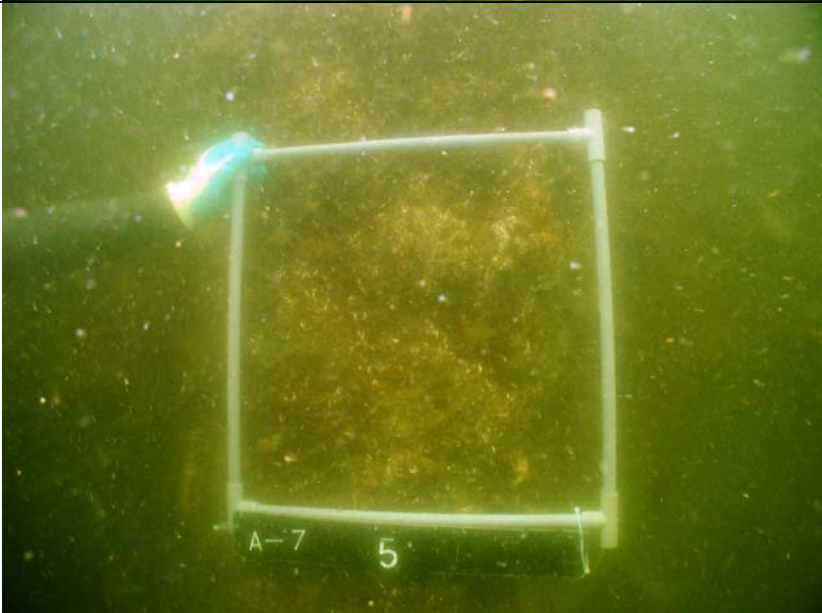
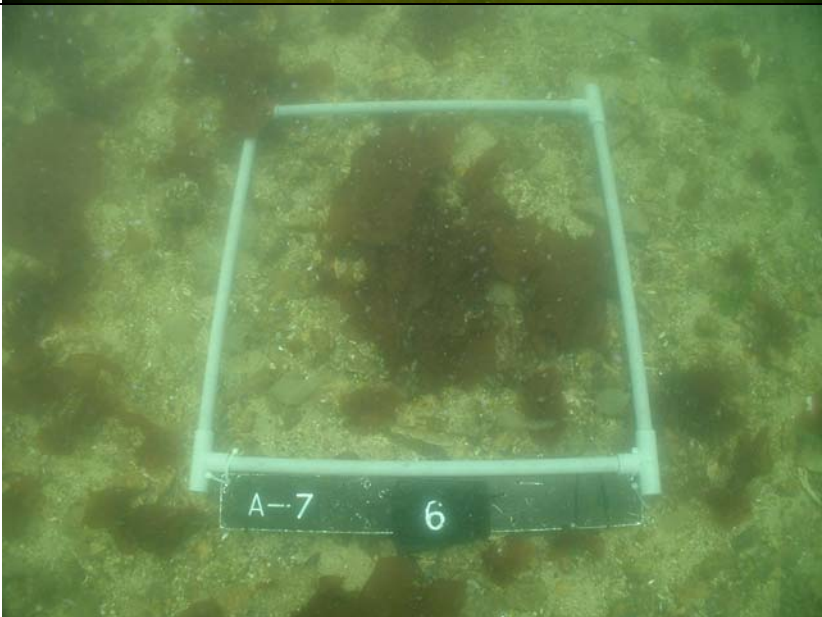
調査日：平成 21 年 5 月 24 日

		生物調査 調査点 A-5 マナマコ
		生物調査 調査点 A-5 ムラサキイガイ
		生物調査 調査点 A-5 ムラサキウニ

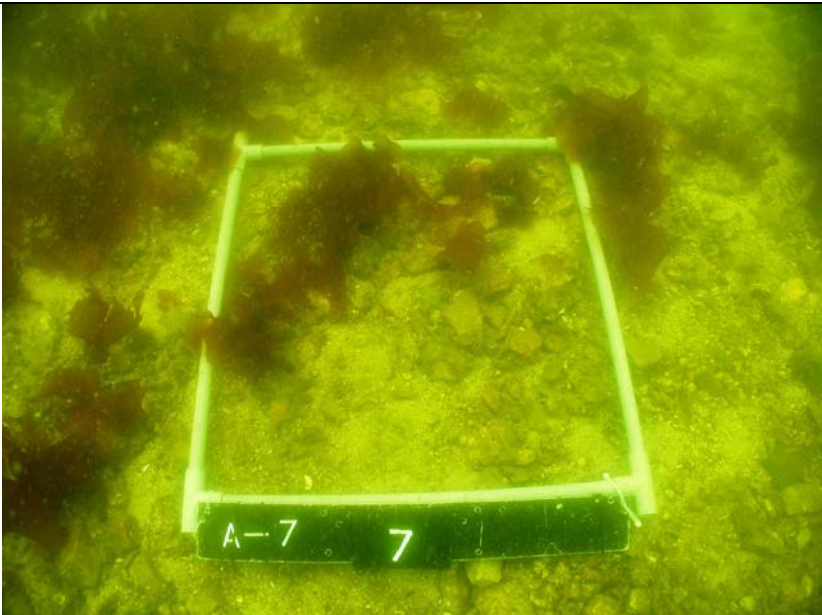
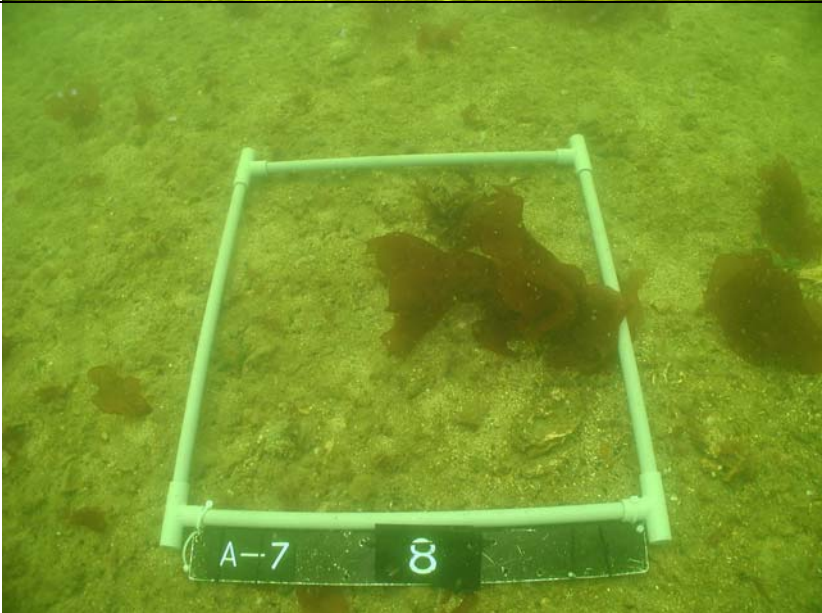
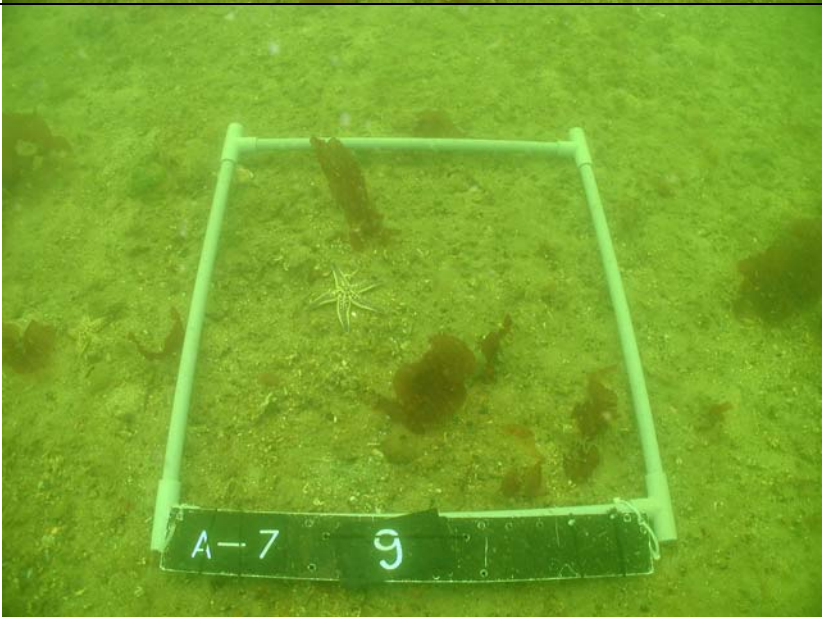
調査日：平成 21 年 5 月 24 日

	生物調査 調査点 A－7 M. W. L. +1.0m
	生物調査 調査点 A－7 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点 A－7 M. W. L. -1.0m

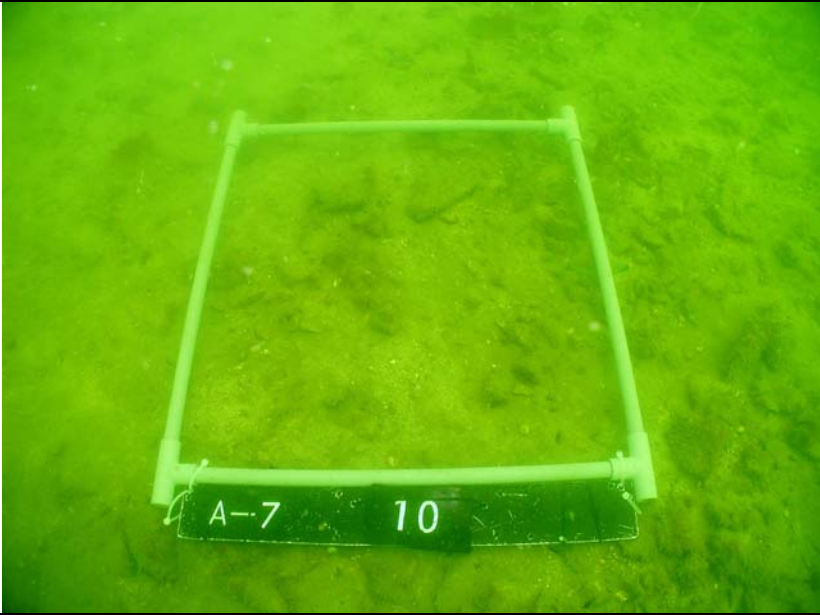
調査日：平成 21 年 5 月 24 日

		生物調査 調査点 A-7 M. W. L. -2.0m
		生物調査 調査点 A-7 M. W. L. -3.0m
		生物調査 調査点 A-7 M. W. L. -4.0m

調査日：平成 21 年 5 月 24 日

		生物調査 調査点 A-7 M. W. L. -5.0m
		生物調査 調査点 A-7 M. W. L. -6.0m
		生物調査 調査点 A-7 M. W. L. -7.0m

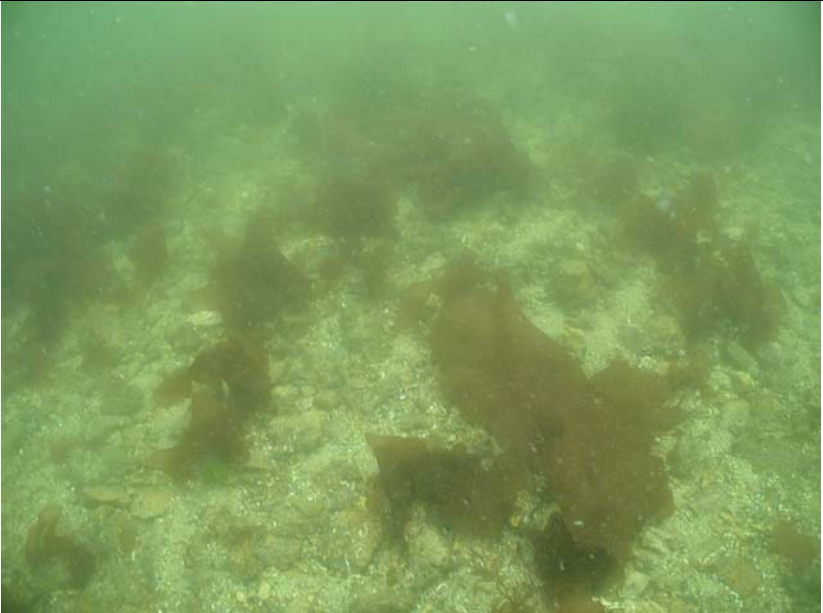
調査日：平成 21 年 5 月 24 日

	生物調査 調査点 A-7 M. W. L. -8.0m
	生物調査 調査点 A-7 カバノリ
	生物調査 調査点 A-7 カンザシゴカイ科

調査日：平成 21 年 5 月 24 日

		生物調査 調査点 A-7 キュウセン
		生物調査 調査点 A-7 キュウセン
		生物調査 調査点 A-7 ススカケベニ

調査日：平成 21 年 5 月 24 日

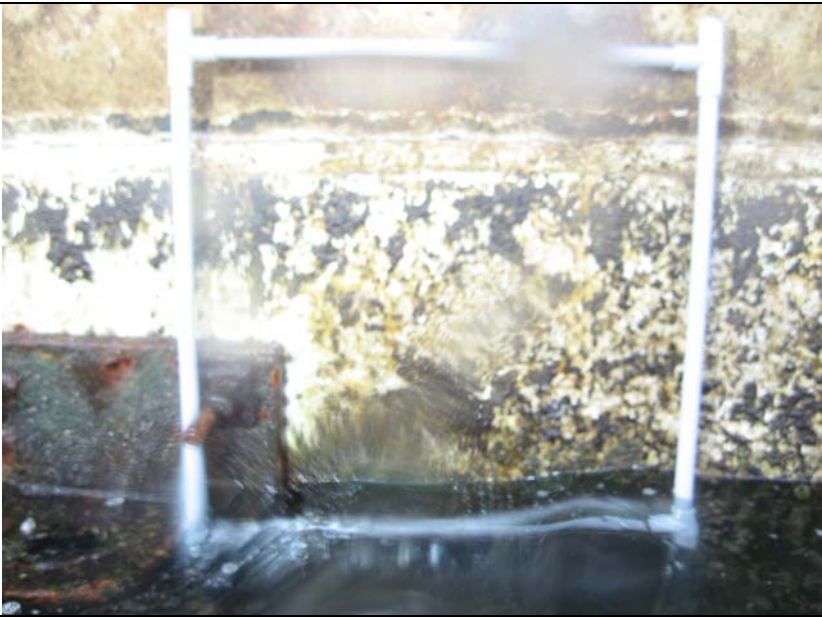
	生物調査 調査点 A-7 ベニスナゴ
	生物調査 調査点 A-7 ベニスナゴ
	生物調査 調査点 A-7 マダコ

調査日：平成 21 年 5 月 24 日

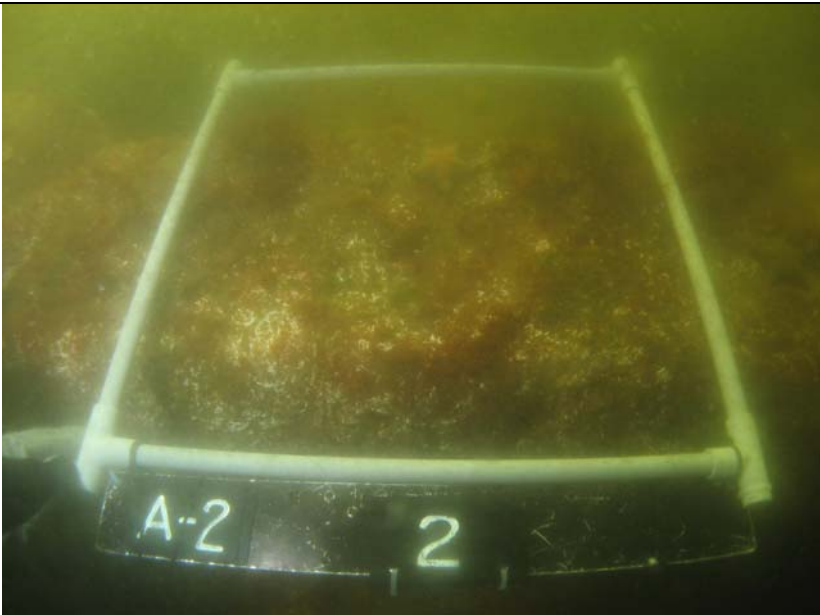
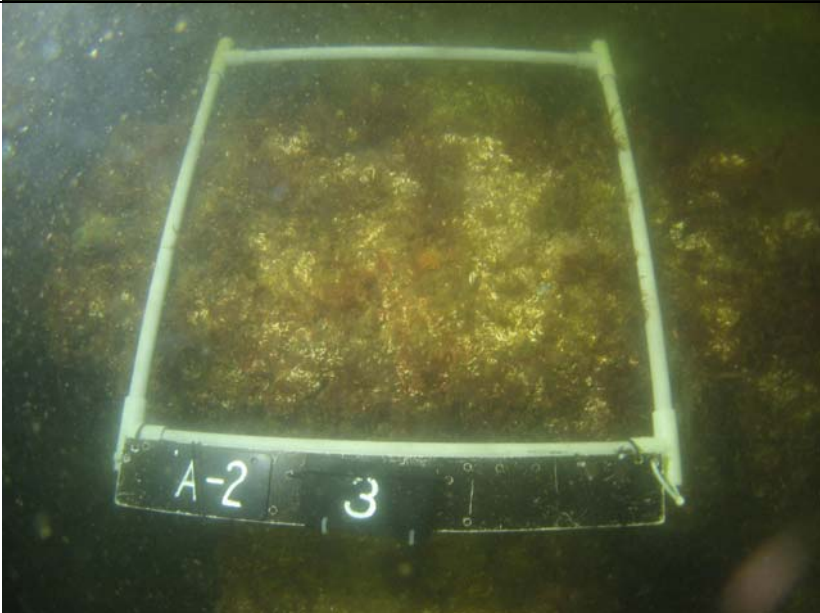
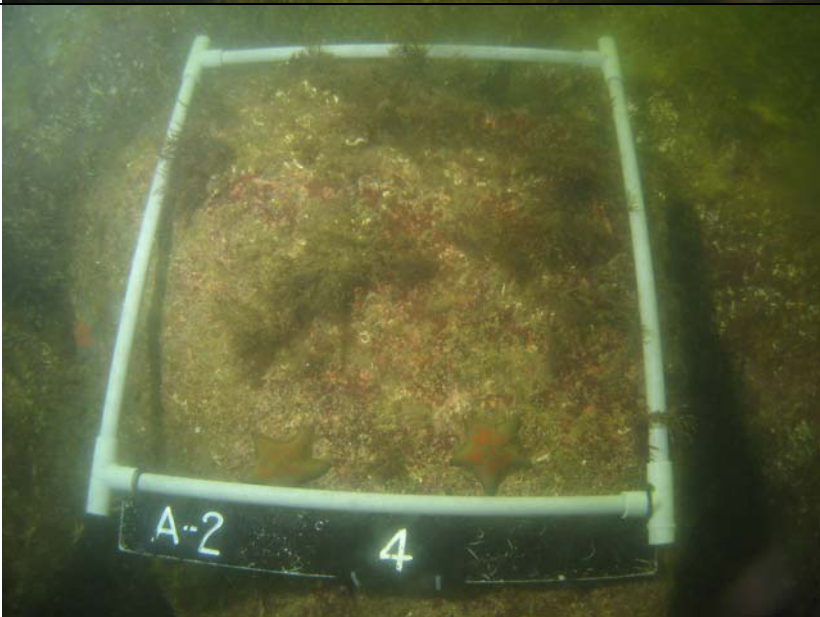
		生物調査 調査点 A-7 マナマコ
		生物調査 調査点 A-7 ミリン
		生物調査 調査点 A-7 ムラサキイガイ マヒトデ

調査日：平成 21 年 5 月 24 日

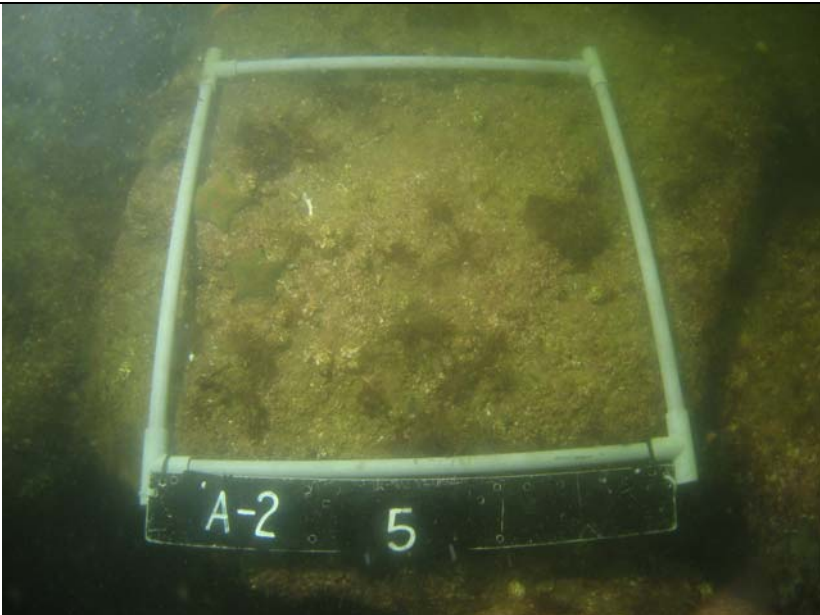
A. 神戸沖処分場
秋季調査
(平成 21 年 11 月 8 日)

	生物調査 調査点 A-2 M. W. L. +1.0m
	生物調査 調査点 A-2 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点 A-2 M. W. L. -1.0m

調査日：平成 21 年 11 月 8 日

		生物調査 調査点 A - 2 M. W. L. -2.0m
		生物調査 調査点 A - 2 M. W. L. -3.0m
		生物調査 調査点 A - 2 M. W. L. -4.0m

調査日：平成 21 年 11 月 8 日

		生物調査 調査点 A - 2 M. W. L. -5.0m
		生物調査 調査点 A - 2 M. W. L. -6.0m
		生物調査 調査点 A - 2 M. W. L. -7.0m

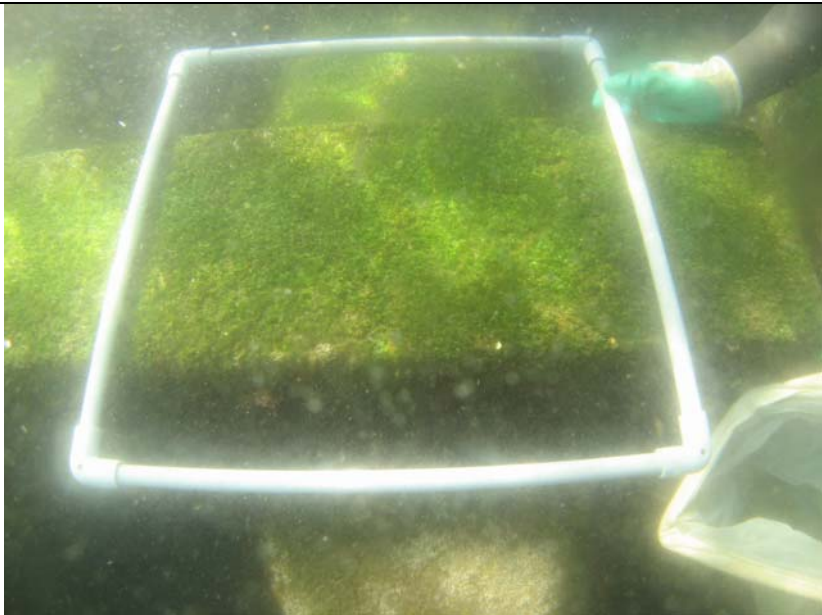
調査日：平成 21 年 11 月 8 日

		生物調査 調査点 A - 2 M. W. L. -8.0m
		生物調査 調査点 A - 2 M. W. L. -9.0m
		生物調査 調査点 A - 2 M. W. L. -10.0m

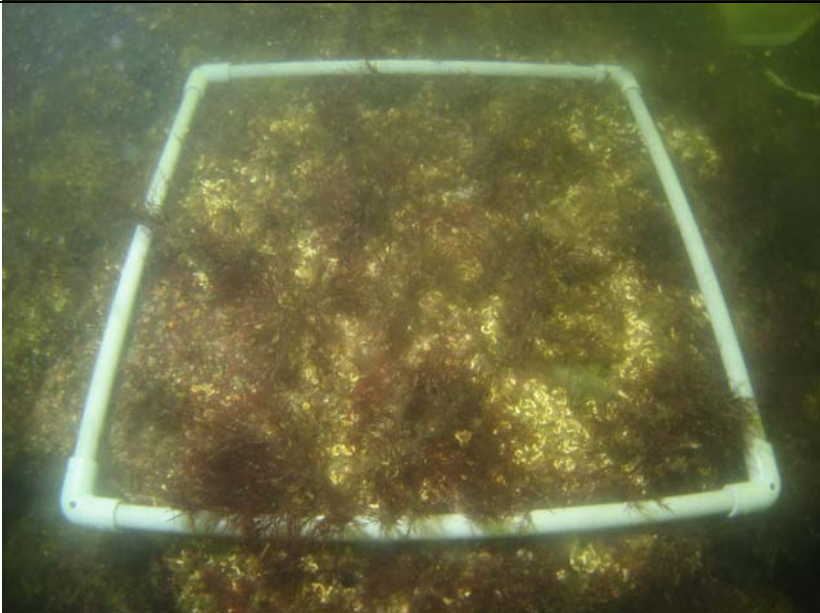
調査日：平成 21 年 11 月 8 日

		生物調査 調査点 A-2 M. W. L. -1.0m 付近 タマハハキモク
		生物調査 調査点 A-2 M. W. L. -3.0m 付近 シダモク
		生物調査 調査点 A-2 M. W. L. -3.0m 付近 ボラ

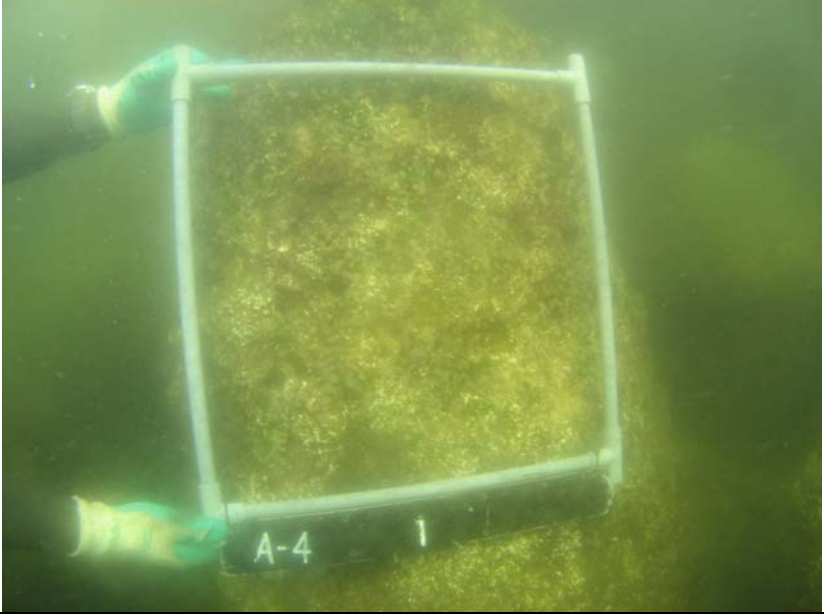
調査日：平成 21 年 11 月 8 日

		生物調査 調査点 A-2 上層 枠取り前 M. W. L. ±0.0m
		生物調査 調査点 A-2 上層 枠取り後 M. W. L. ±0.0m
		生物調査 調査点 A-2 中層 枠取り前 M. W. L. -2.0m

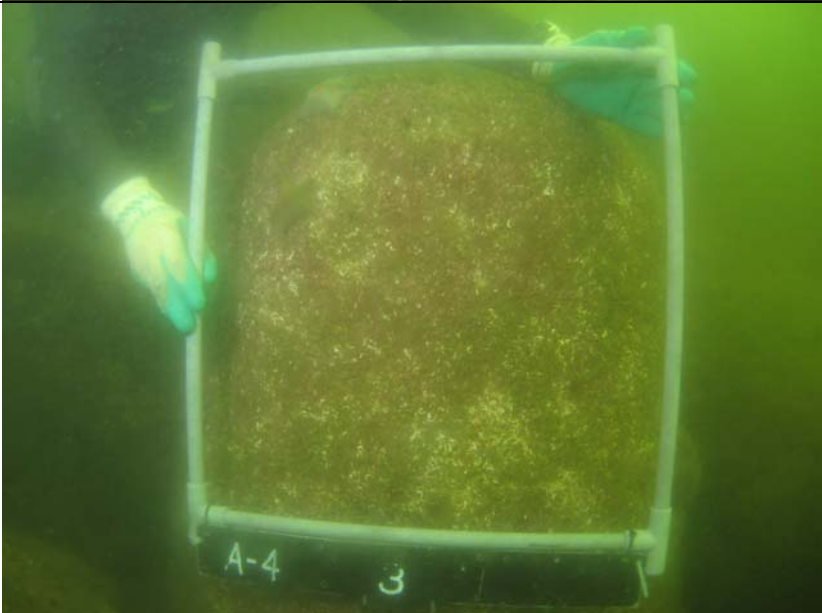
調査日：平成 21 年 11 月 8 日

		生物調査 調査点 A－2 中層 粹取り後 M. W. L. －2. 0m
		生物調査 調査点 A－2 下層 粹取り前 M. W. L. －4. 0m
		生物調査 調査点 A－2 下層 粹取り後 M. W. L. －4. 0m

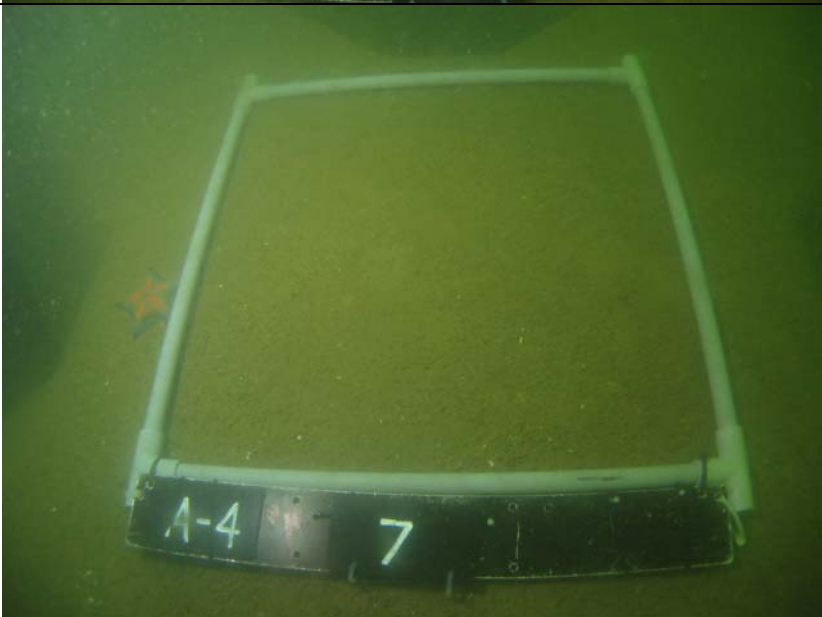
調査日：平成 21 年 11 月 8 日

	生物調査 調査点 A - 4 M. W. L. +1.0m
	生物調査 調査点 A - 4 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点 A - 4 M. W. L. -1.0m

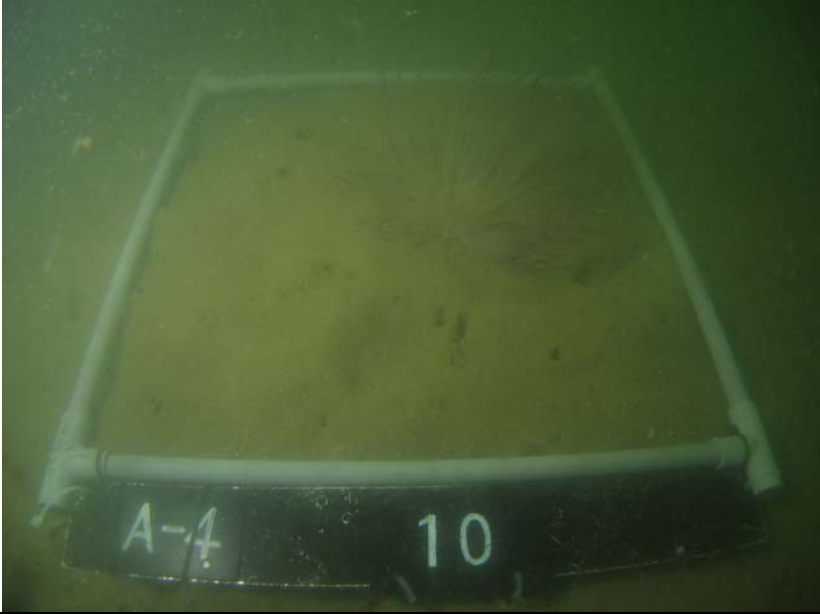
調査日：平成 21 年 11 月 8 日

		生物調査 調査点 A - 4 M. W. L. -2.0m
		生物調査 調査点 A - 4 M. W. L. -3.0m
		生物調査 調査点 A - 4 M. W. L. -4.0m

調査日：平成 21 年 11 月 8 日

		生物調査 調査点 A - 4 M. W. L. -5.0m
		生物調査 調査点 A - 4 M. W. L. -6.0m
		生物調査 調査点 A - 4 M. W. L. -7.0m

調査日：平成 21 年 11 月 8 日

		生物調査 調査点 A - 4 M. W. L. -8.0m
		生物調査 調査点 A - 4 M. W. L. -9.0m
		生物調査 調査点 A - 4 M. W. L. -10.0m

調査日：平成 21 年 11 月 8 日

	生物調査 調査点 A-4 M. W. L. -2.0m 付近 ムラサキウニ
	生物調査 調査点 A-4 M. W. L. -3.0m 付近 シダモク
	生物調査 調査点 A-4 M. W. L. -4.0m 付近 イシダイ

調査日：平成 21 年 11 月 8 日

		生物調査 調査点 A-4 M. W. L. -4.0m 付近 ウマヅラハギ
		生物調査 調査点 A-4 M. W. L. -4.0m 付近 サザエ
		生物調査 調査点 A-4 M. W. L. -5.0m 付近 アイナメ

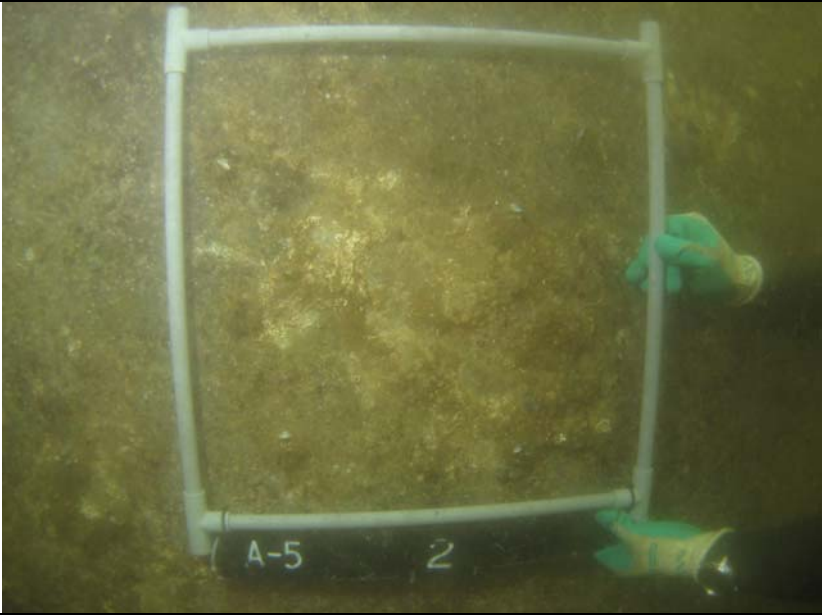
調査日：平成 21 年 11 月 8 日

	生物調査 調査点 A-4 M. W. L. -5.0m 付近 マクサ
	生物調査 調査点 A-4 M. W. L. -6.0m 付近 メバル
	生物調査 調査点 A-4 M. W. L. -10.0m 付近 ハナギンチャク科

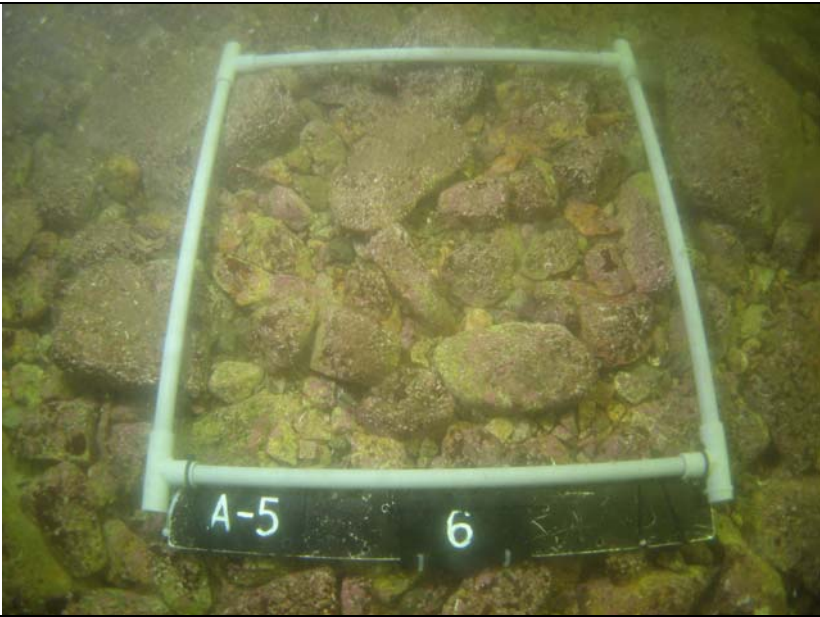
調査日：平成 21 年 11 月 8 日

	生物調査 調査点 A - 5 M. W. L. +1.0m
	生物調査 調査点 A - 5 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点 A - 5 M. W. L. -1.0m

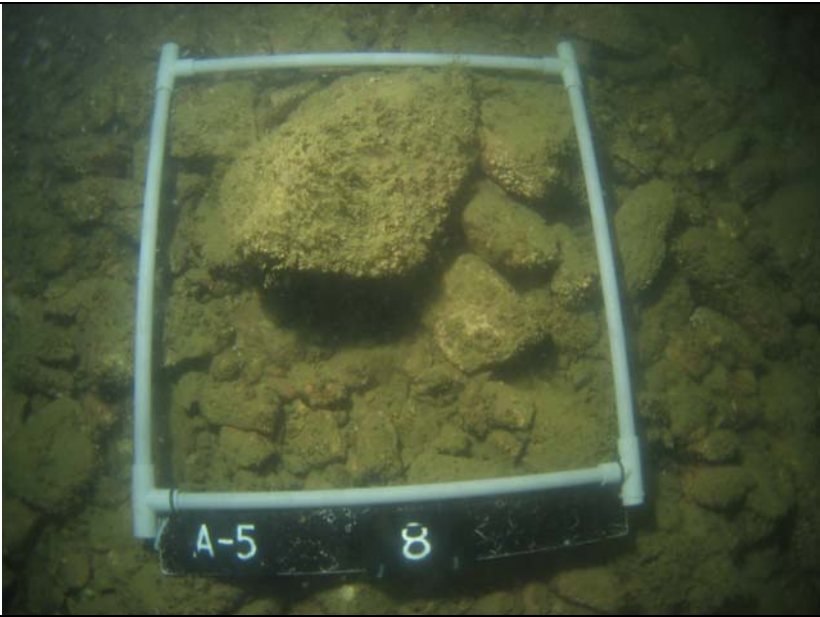
調査日：平成 21 年 11 月 8 日

	生物調査 調査点 A－5 M. W. L. －2.0m
	生物調査 調査点 A－5 M. W. L. －3.0m
	生物調査 調査点 A－5 M. W. L. －4.0m

調査日：平成 21 年 11 月 8 日

	生物調査 調査点 A－5 M. W. L. －5.0m
	生物調査 調査点 A－5 M. W. L. －6.0m
	生物調査 調査点 A－5 M. W. L. －7.0m

調査日：平成 21 年 11 月 8 日

	生物調査 調査点 A－5 M. W. L. －8.0m
	生物調査 調査点 A－5 M. W. L. －9.0m
	生物調査 調査点 A－5 M. W. L. －10.0m

調査日：平成 21 年 11 月 8 日

		生物調査 調査点 A－5 M. W. L. ±0.0m 付近 タデシマイソギンチャク
		生物調査 調査点 A－5 M. W. L. -3.0m 付近 サンショウウニ
		生物調査 調査点 A－5 M. W. L. -4.0m 付近 イシダイ

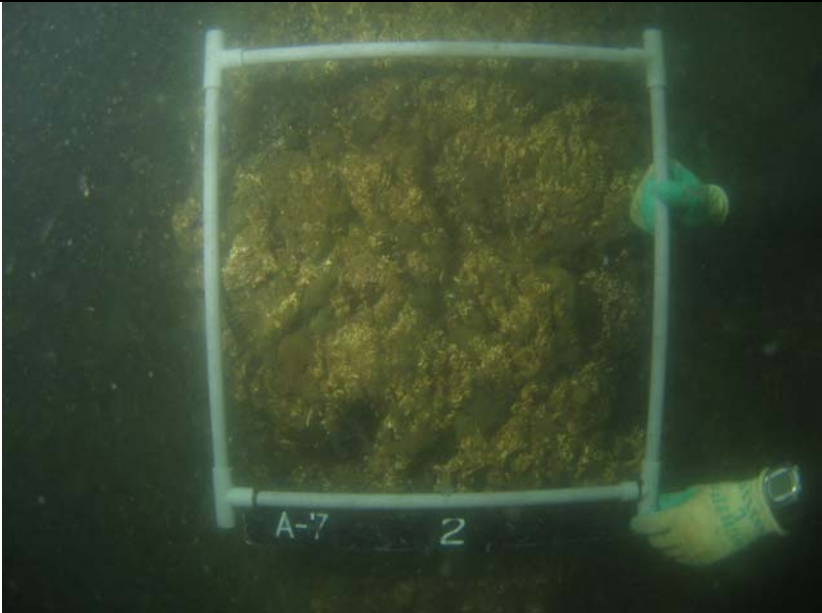
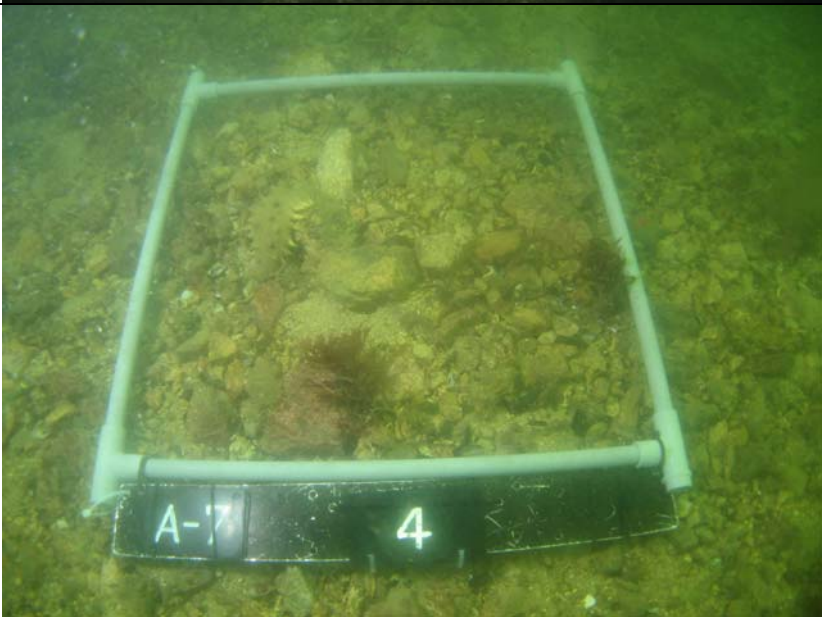
調査日：平成 21 年 11 月 8 日

	生物調査 調査点 A－5 M. W. L. －4. 0m 付近 メバル
	生物調査 調査点 A－5 M. W. L. －5. 0m 付近 カサゴ
	生物調査 調査点 A－5 M. W. L. －5. 0m 付近 サザエ

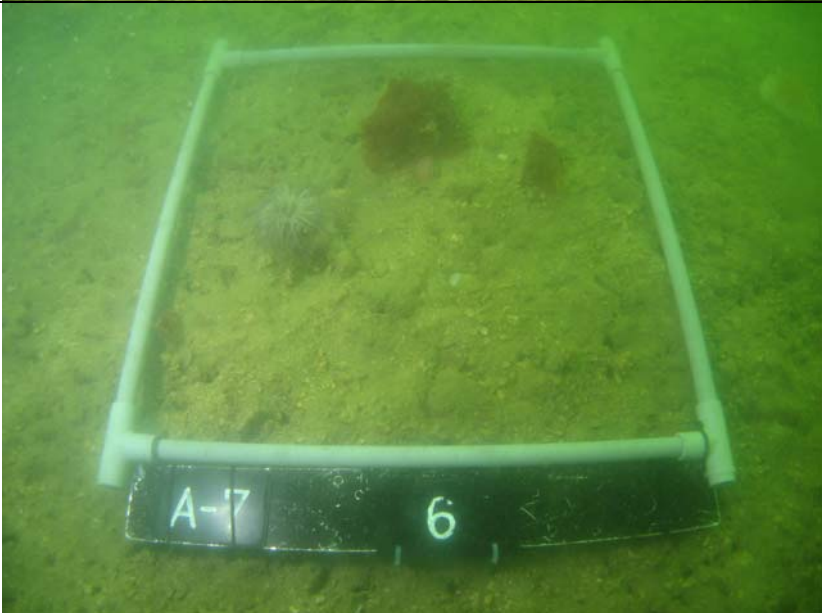
調査日：平成 21 年 11 月 8 日

	生物調査 調査点 A-7 M. W. L. +1.0m
	生物調査 調査点 A-7 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点 A-7 M. W. L. -1.0m

調査日：平成 21 年 11 月 8 日

		生物調査 調査点 A-7 M. W. L. -2.0m
		生物調査 調査点 A-7 M. W. L. -3.0m
		生物調査 調査点 A-7 M. W. L. -4.0m

調査日：平成 21 年 11 月 8 日

		生物調査 調査点 A－7 M. W. L. －5.0m
		生物調査 調査点 A－7 M. W. L. －6.0m
		生物調査 調査点 A－7 M. W. L. －7.0m

調査日：平成 21 年 11 月 8 日

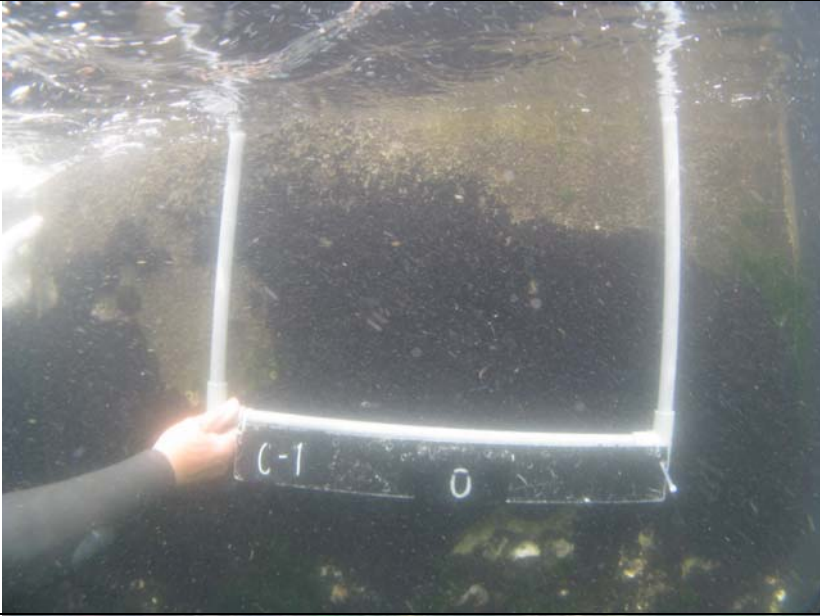
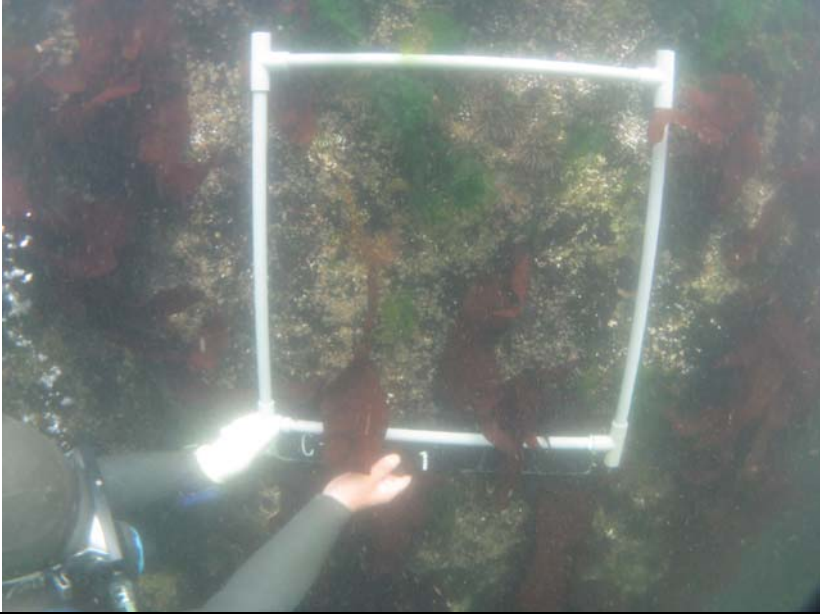
		生物調査 調査点 A-7 M. W. L. -8.0m
		生物調査 調査点 A-7 M. W. L. -3.0m 付近 カサゴ
		生物調査 調査点 A-7 M. W. L. -3.0m 付近 コモンフグ

調査日：平成 21 年 11 月 8 日

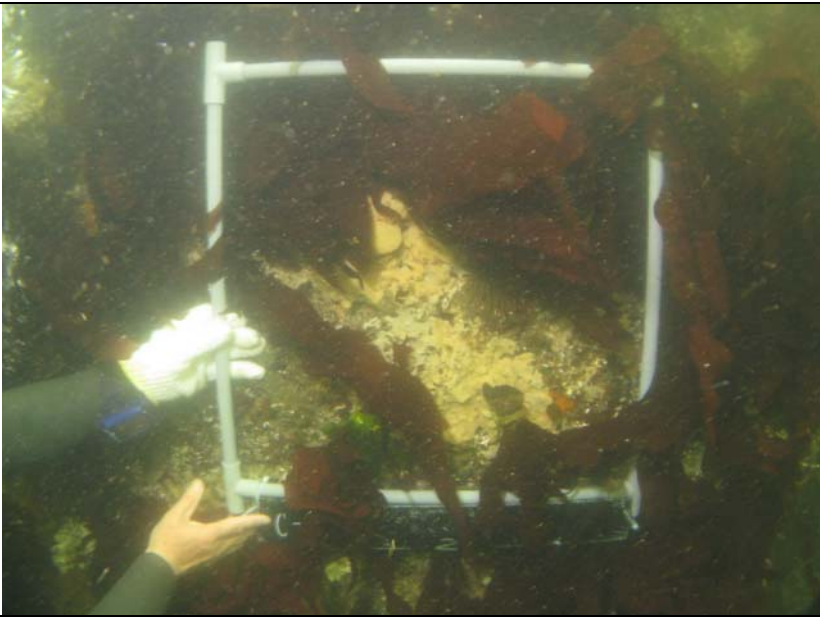
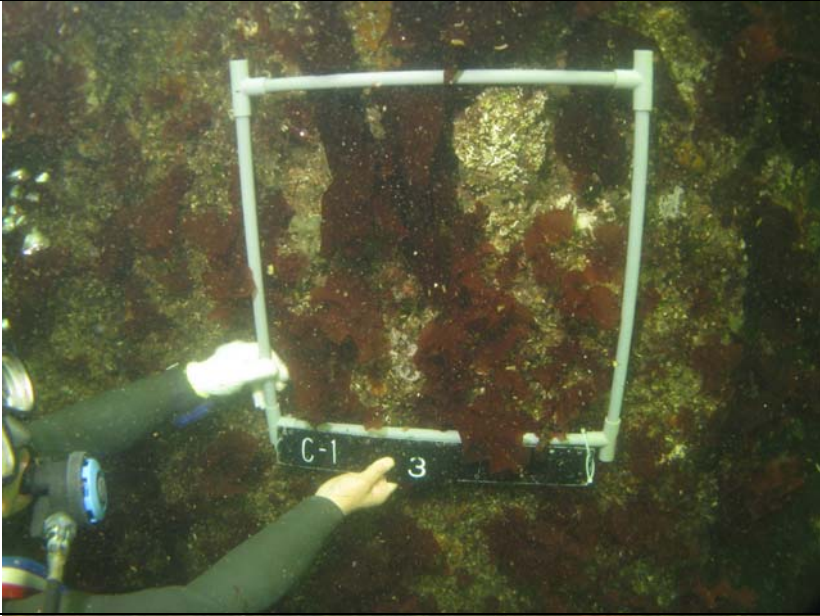
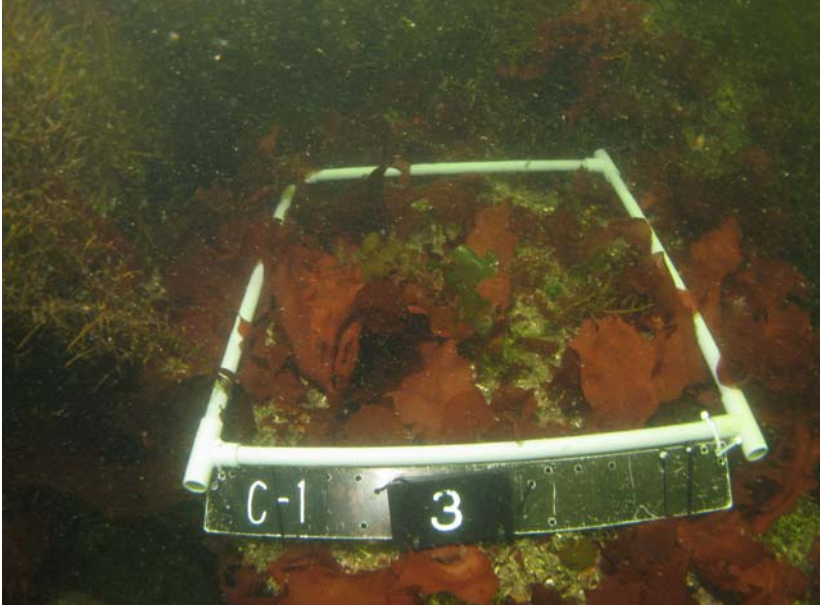
		生物調査 調査点 A-7 M. W. L. -3.0m 付近 マナマコ
		生物調査 調査点 A-7 M. W. L. -4.0m 付近 キュウセン
		生物調査 調査点 A-7 M. W. L. -5.0m 付近 カバノリ

調査日：平成 21 年 11 月 8 日

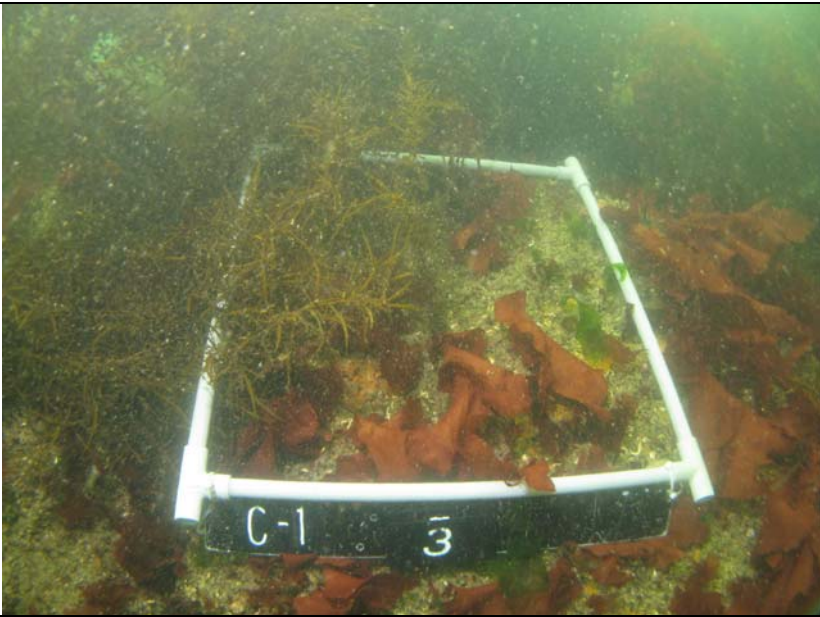
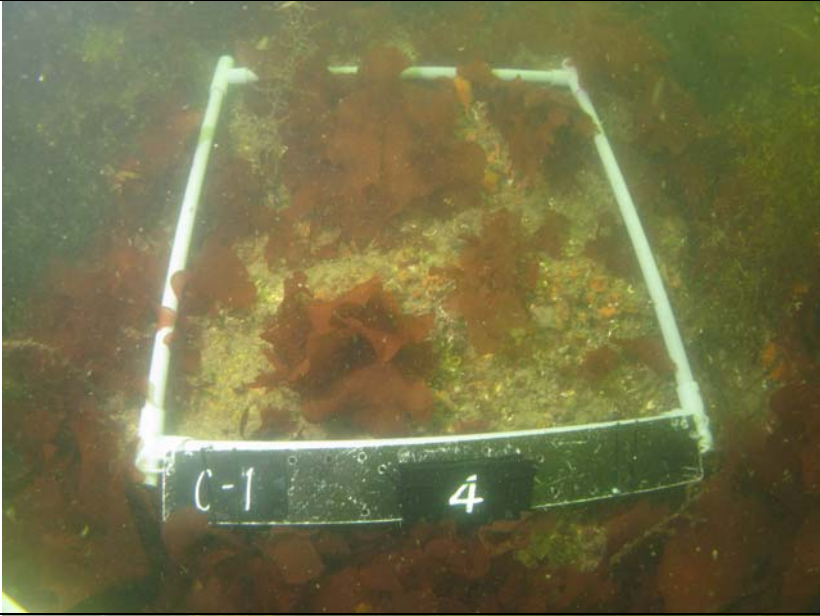
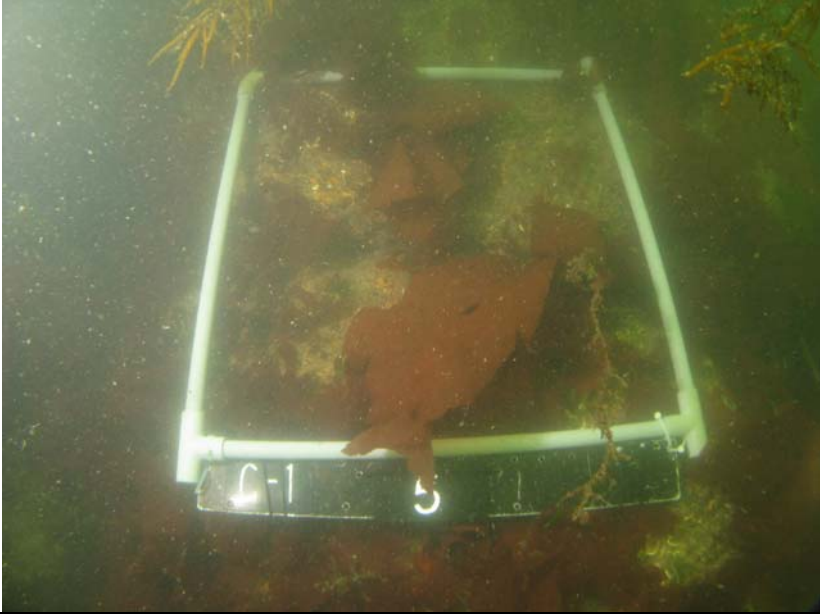
C. 大阪沖処分場
春季調査
(平成 21 年 5 月 21 日)

	生物調査 調査点 C-1 M. W. L. +1.0m
	生物調査 調査点 C-1 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点 C-1 M. W. L. -1.0m

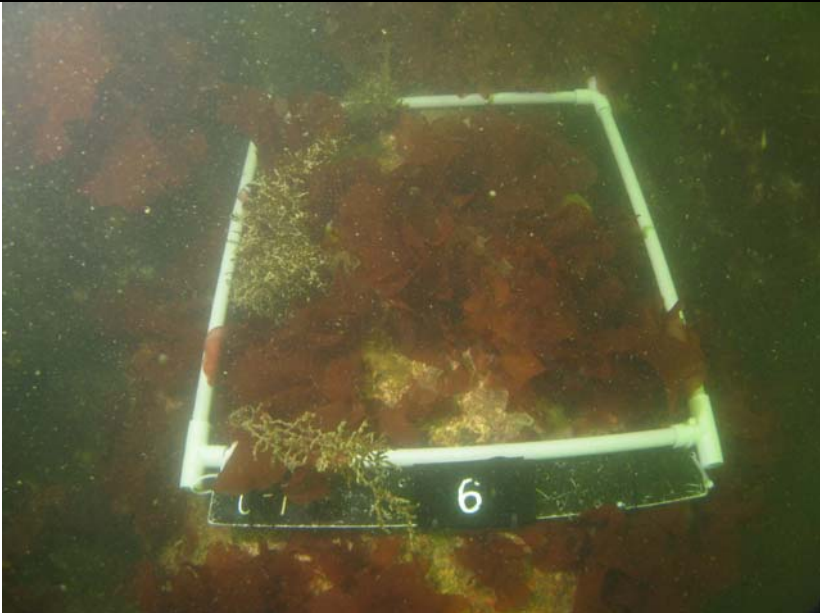
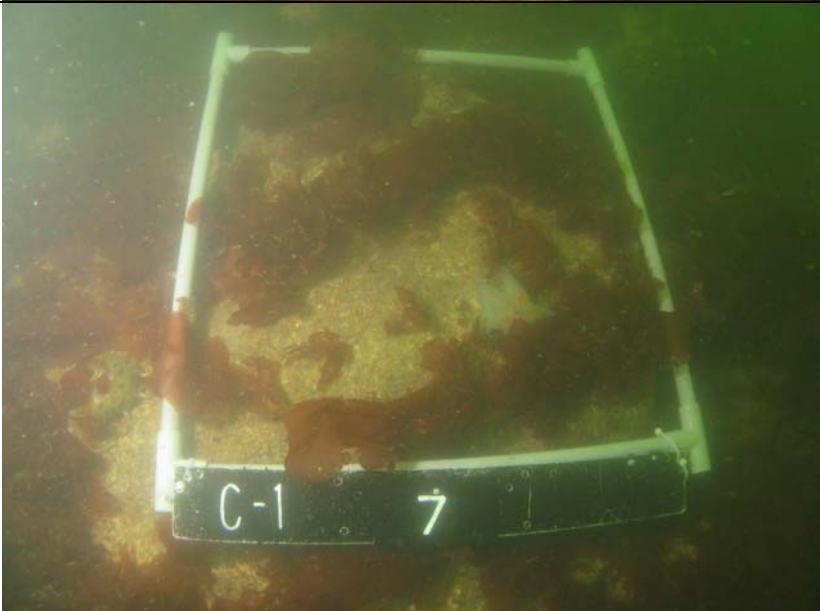
調査日：平成 21 年 5 月 21 日

	生物調査 調査点 C-1 M. W. L. -2.0m
	生物調査 調査点 C-1 M. W. L. -3.0m
	生物調査 調査点 C-1 M. W. L. -3.0m

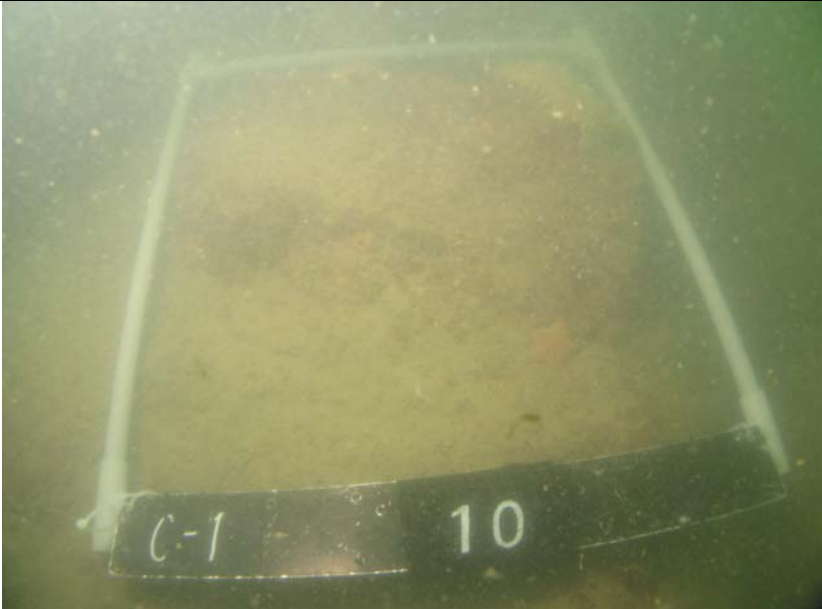
調査日：平成 21 年 5 月 21 日

	生物調査 調査点 C-1 M. W. L. -3.0m
	生物調査 調査点 C-1 M. W. L. -4.0m
	生物調査 調査点 C-1 M. W. L. -5.0m

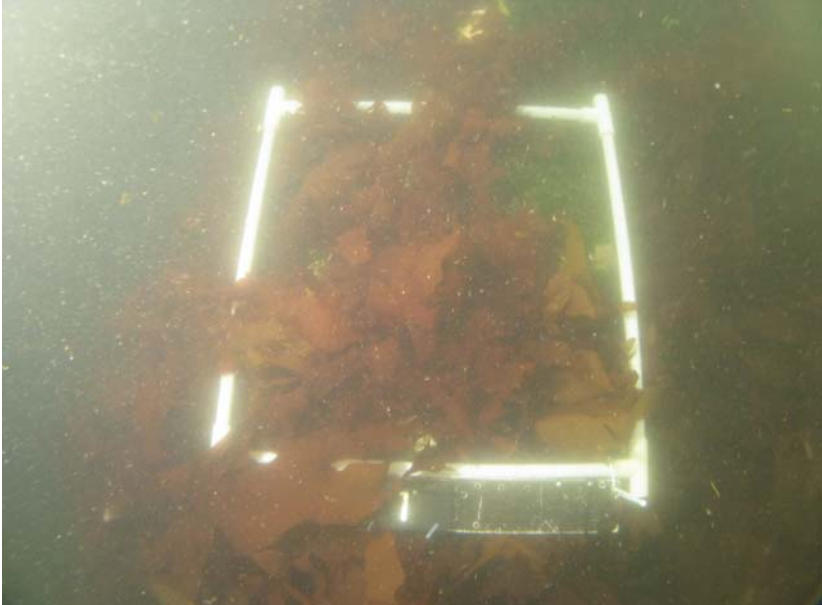
調査日：平成 21 年 5 月 21 日

		生物調査 調査点 C-1 M. W. L. -6.0m
		生物調査 調査点 C-1 M. W. L. -7.0m
		生物調査 調査点 C-1 M. W. L. -8.0m

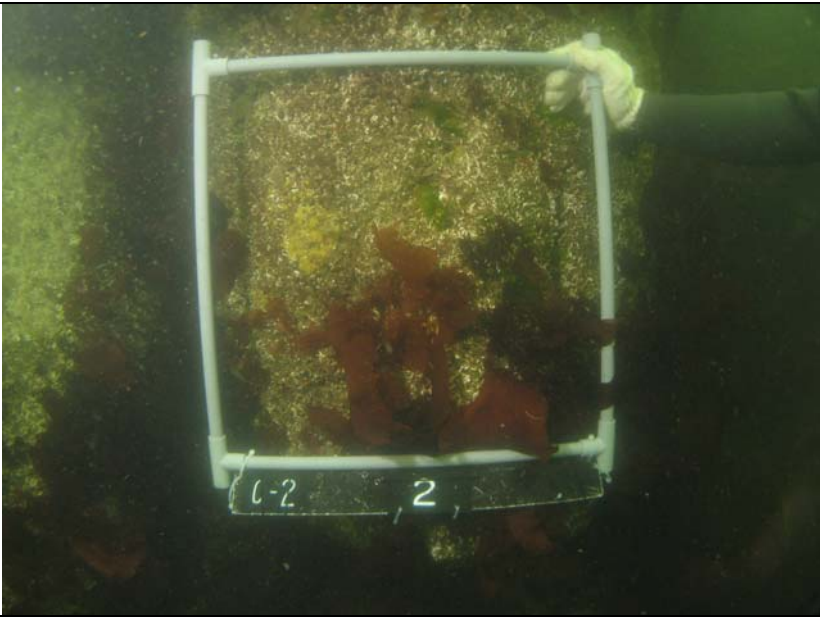
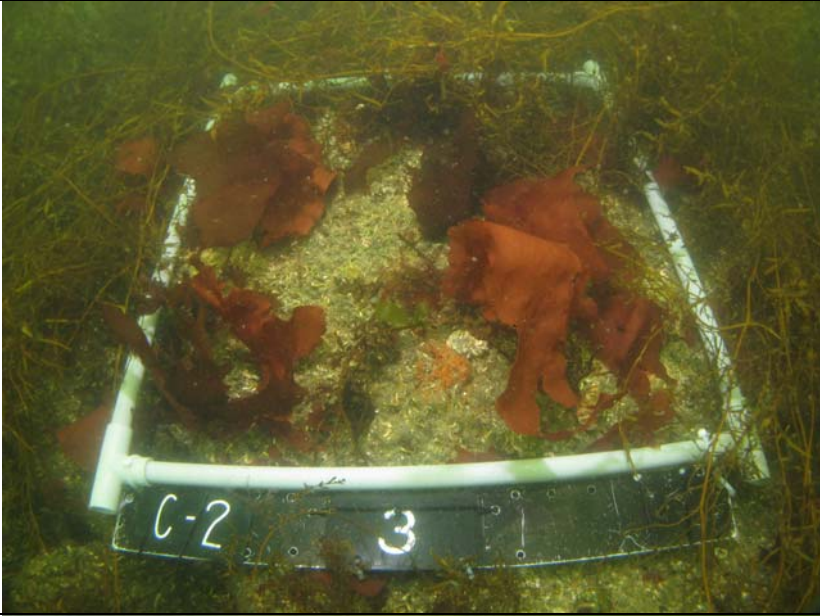
調査日：平成 21 年 5 月 21 日

		生物調査 調査点 C－1 M. W. L. －9.0m
		生物調査 調査点 C－1 M. W. L. －10.0m

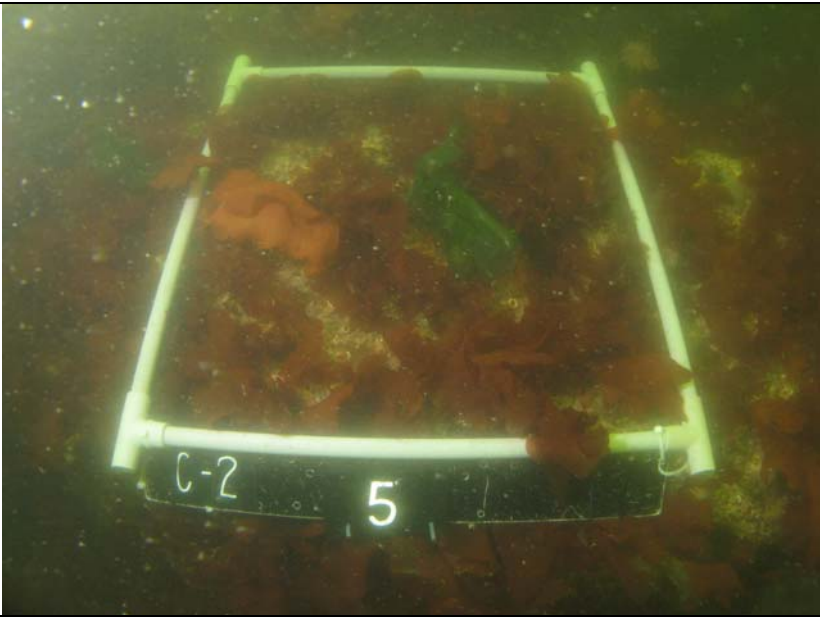
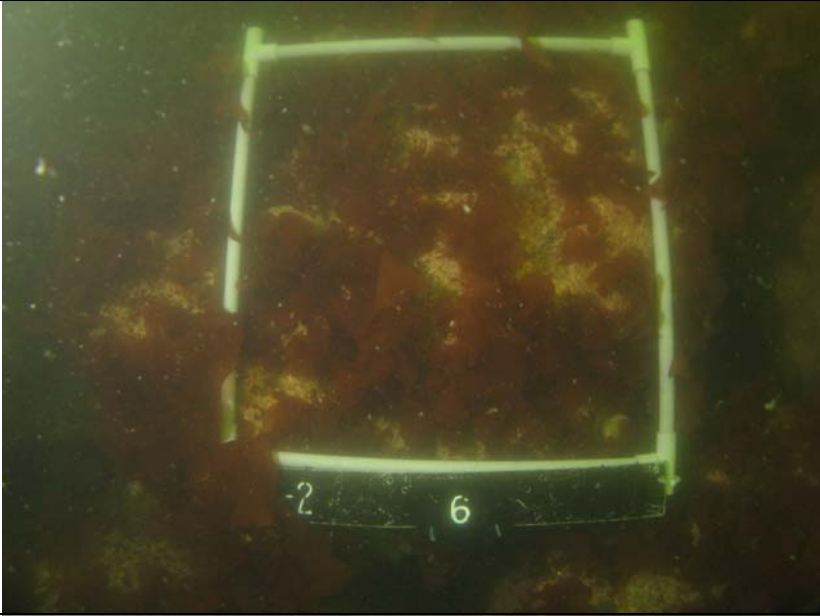
調査日：平成 21 年 5 月 21 日

	生物調査 調査点 C-2 M. W. L. +1.0m
	生物調査 調査点 C-2 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点 C-2 M. W. L. -1.0m

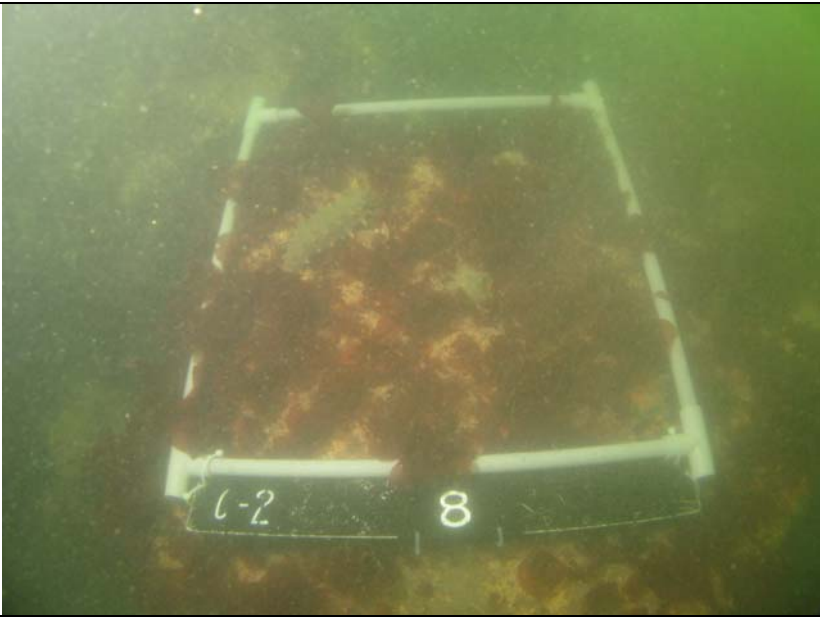
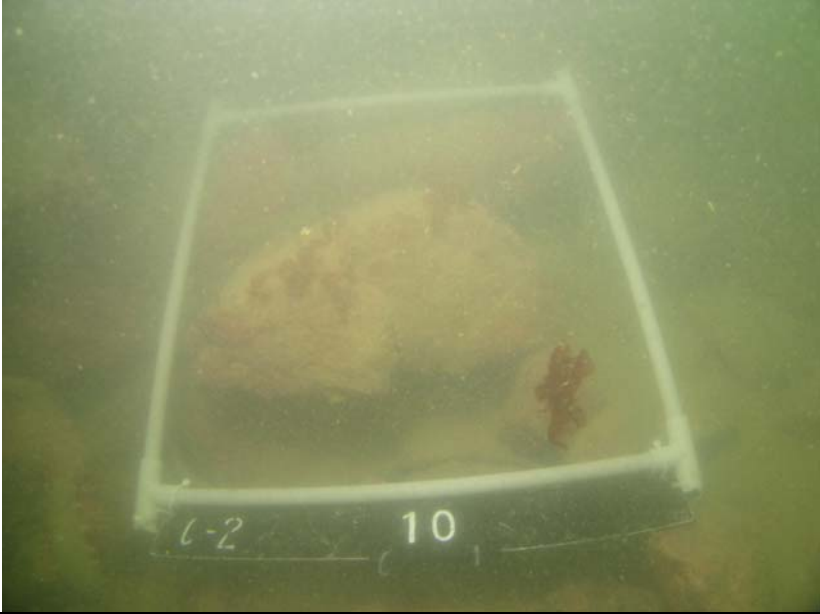
調査日：平成 21 年 5 月 21 日

	生物調査 調査点 C-2 M. W. L. -2.0m
	生物調査 調査点 C-2 M. W. L. -3.0m
	生物調査 調査点 C-2 M. W. L. -4.0m

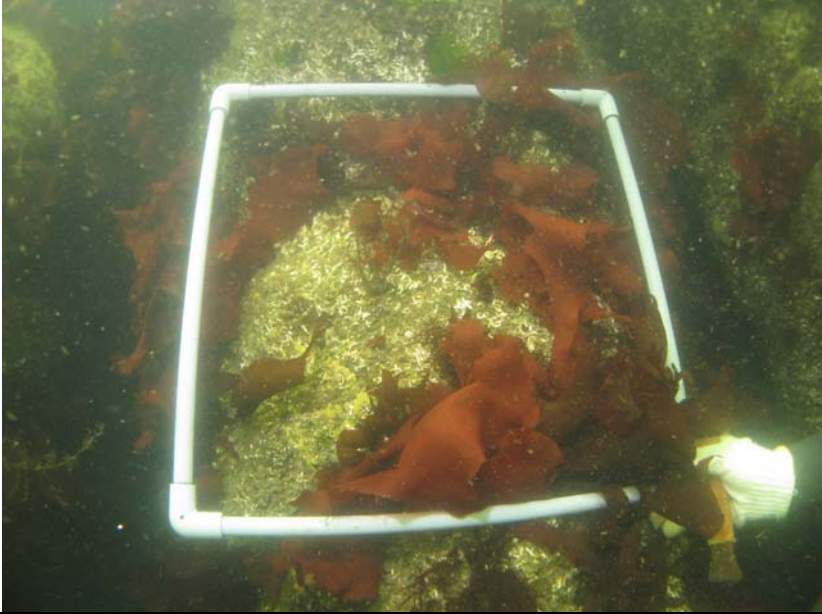
調査日：平成 21 年 5 月 21 日

	生物調査 調査点 C-2 M. W. L. -5.0m
	生物調査 調査点 C-2 M. W. L. -6.0m
	生物調査 調査点 C-2 M. W. L. -7.0m

調査日：平成 21 年 5 月 21 日

		生物調査 調査点 C-2 M. W. L. -8.0m
		生物調査 調査点 C-2 M. W. L. -9.0m
		生物調査 調査点 C-2 M. W. L. -10.0m

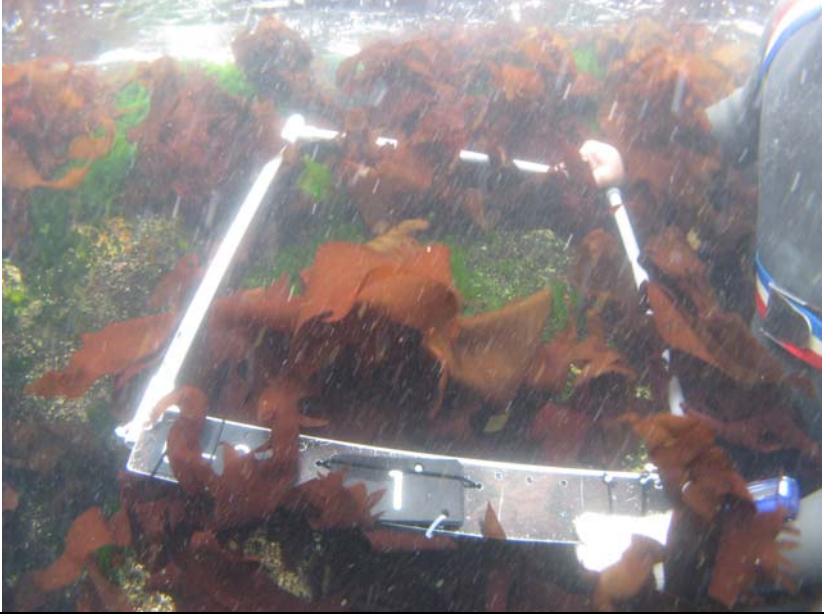
調査日：平成 21 年 5 月 21 日

	生物調査 調査点 C-2 上層 枠取り前 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点 C-2 上層 枠取り後 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点 C-2 中層 枠取り前 M. W. L. -2.0m

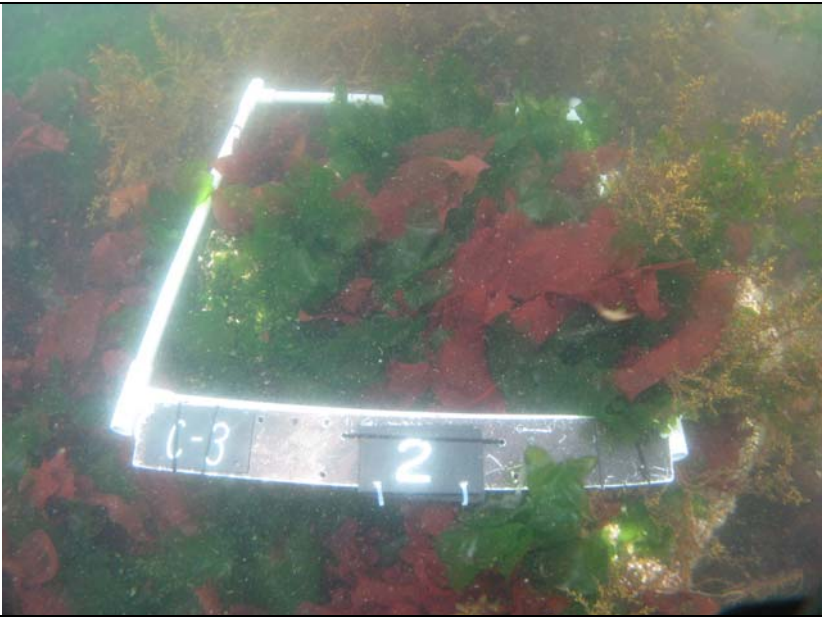
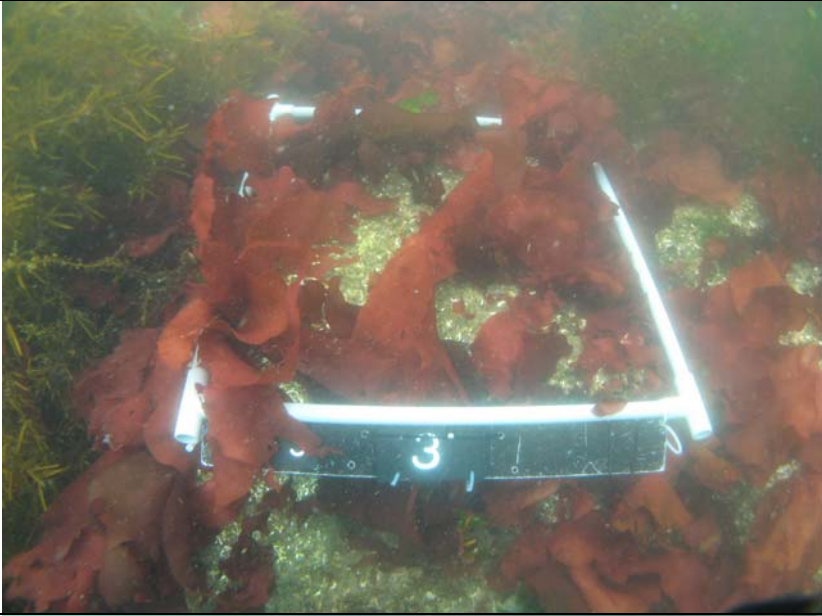
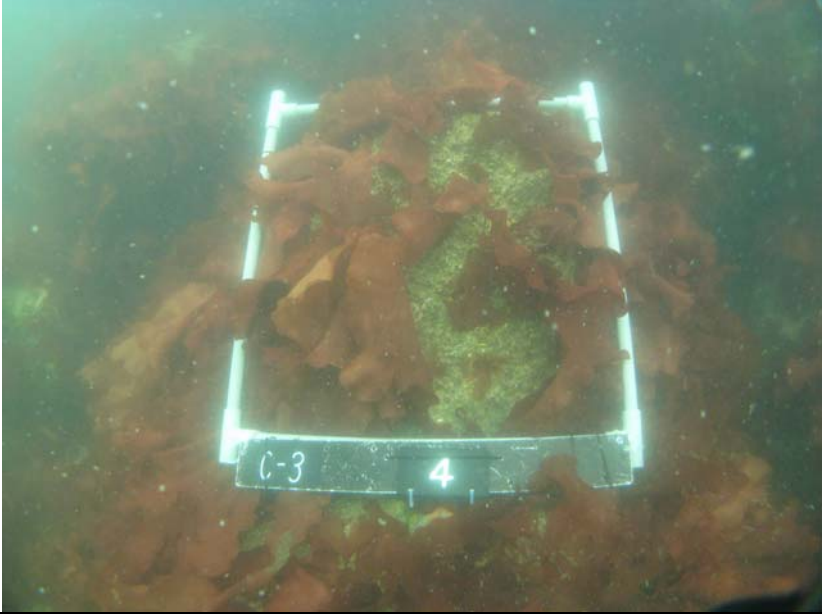
調査日：平成 21 年 5 月 21 日

		生物調査 調査点 C-2 中層 枠取り後 M. W. L. -2.0m
		生物調査 調査点 C-2 下層 枠取り前 M. W. L. -4.0m
		生物調査 調査点 C-2 下層 枠取り後 M. W. L. -4.0m

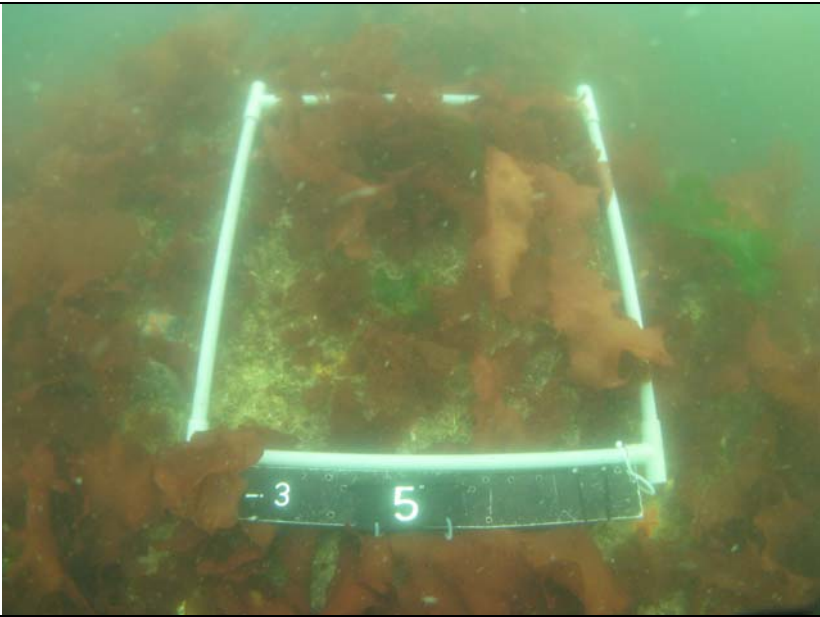
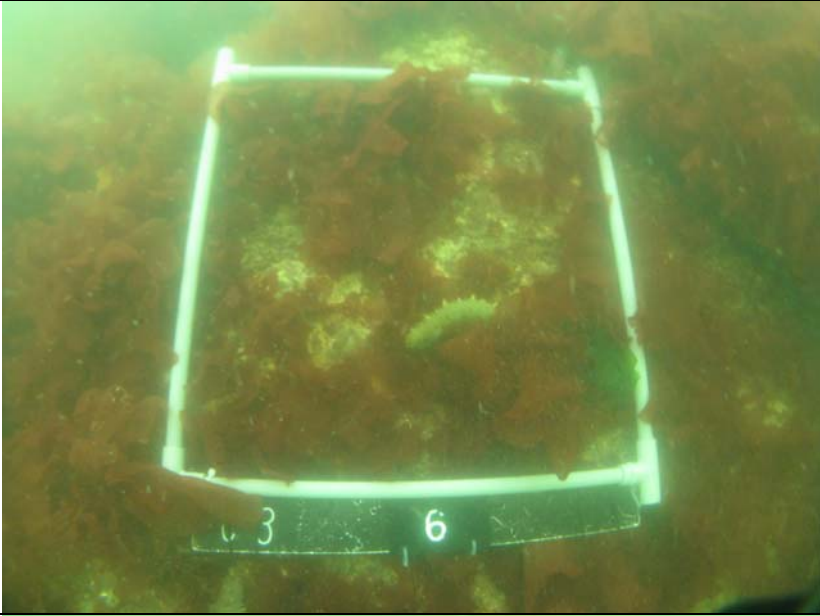
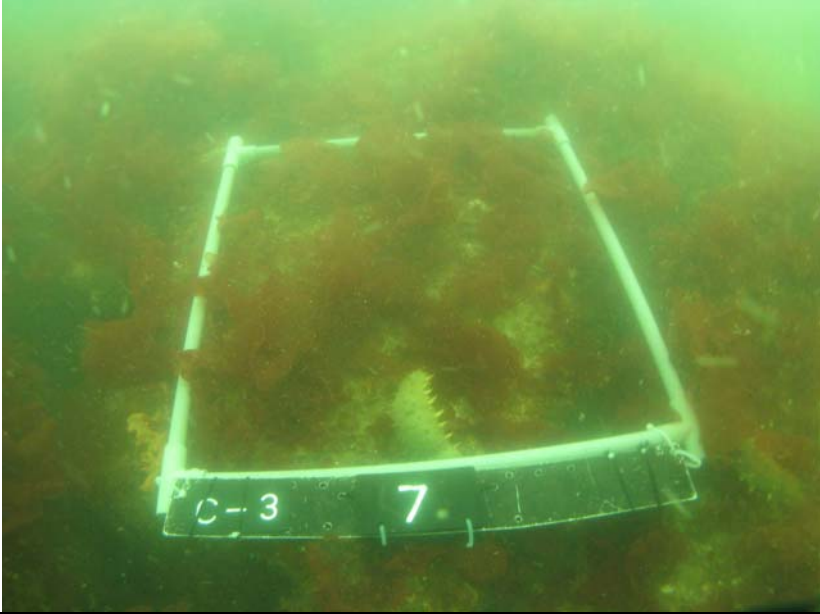
調査日：平成 21 年 5 月 21 日

	生物調査 調査点 C-3 M. W. L. +1.0m
	生物調査 調査点 C-3 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点 C-3 M. W. L. -1.0m

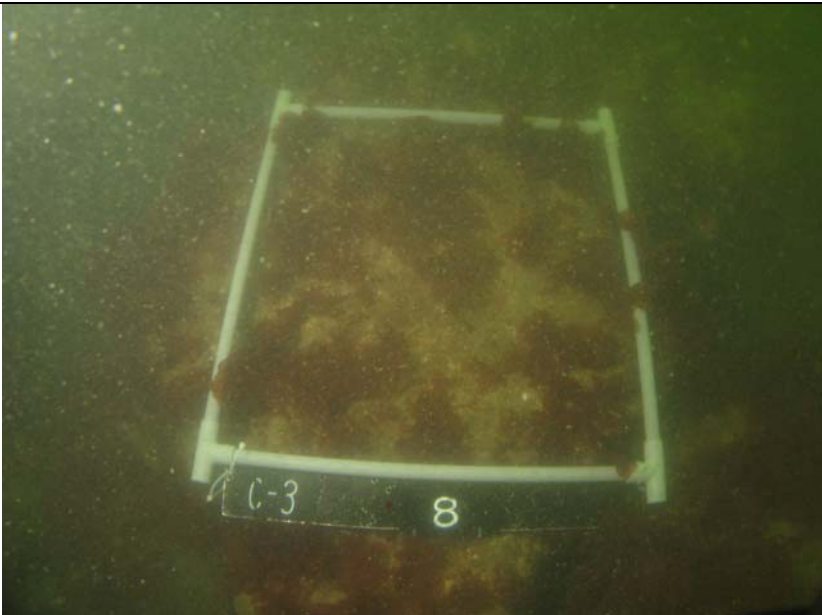
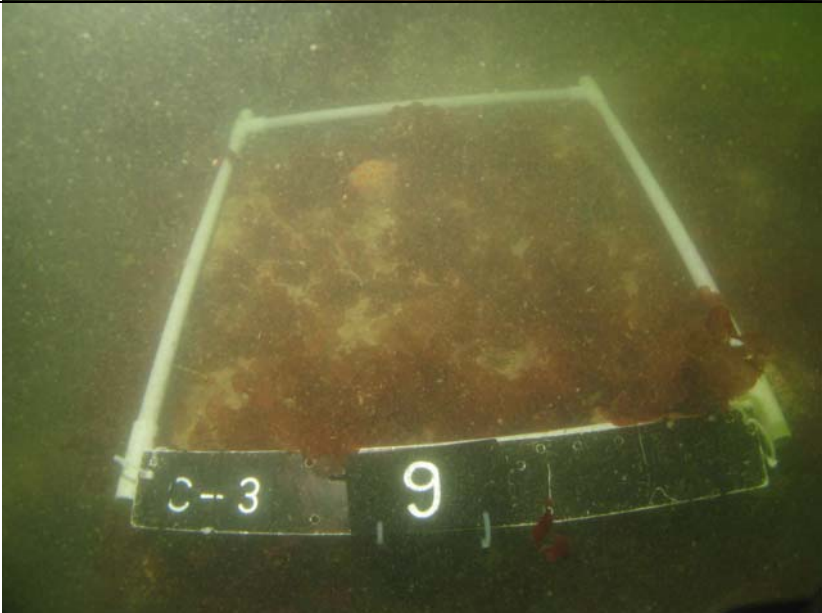
調査日：平成 21 年 5 月 21 日

	生物調査 調査点 C-3 M. W. L. -2.0m
	生物調査 調査点 C-3 M. W. L. -3.0m
	生物調査 調査点 C-3 M. W. L. -4.0m

調査日：平成 21 年 5 月 21 日

	生物調査 調査点 C-3 M. W. L. -5.0m
	生物調査 調査点 C-3 M. W. L. -6.0m
	生物調査 調査点 C-3 M. W. L. -7.0m

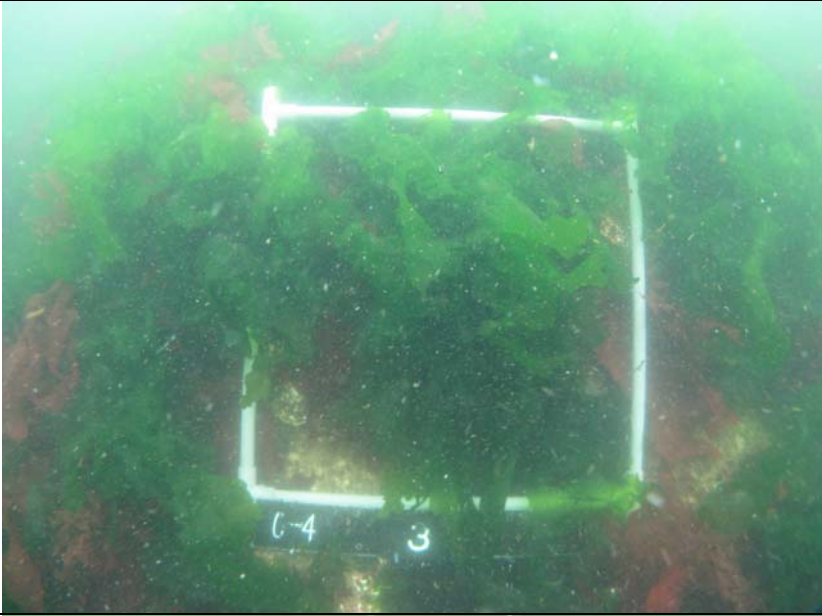
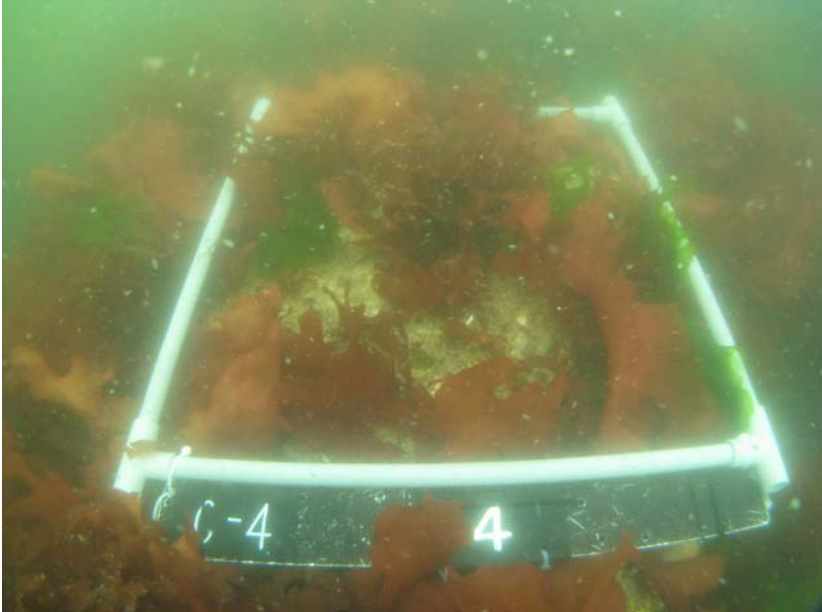
調査日：平成 21 年 5 月 21 日

		生物調査 調査点 C-3 M. W. L. -8.0m
		生物調査 調査点 C-3 M. W. L. -9.0m
		生物調査 調査点 C-3 M. W. L. -10.0m

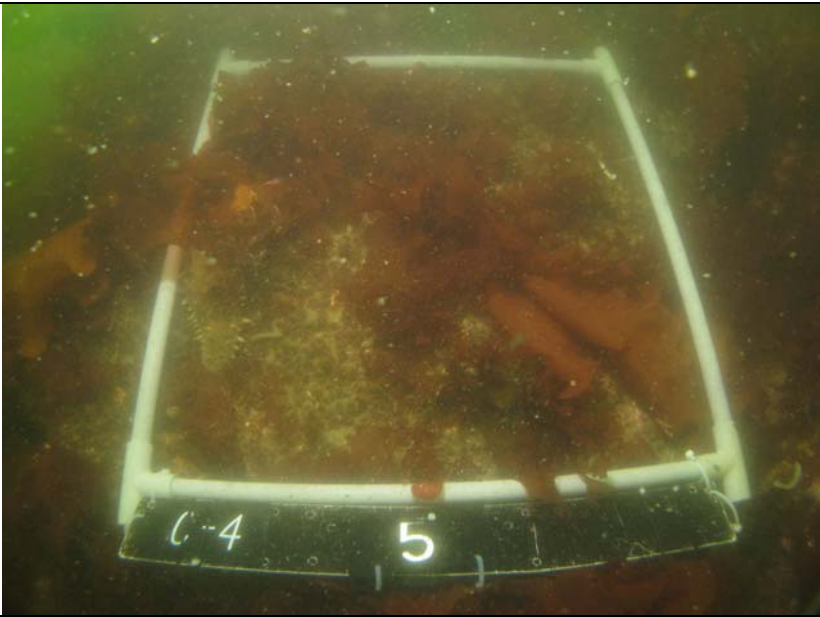
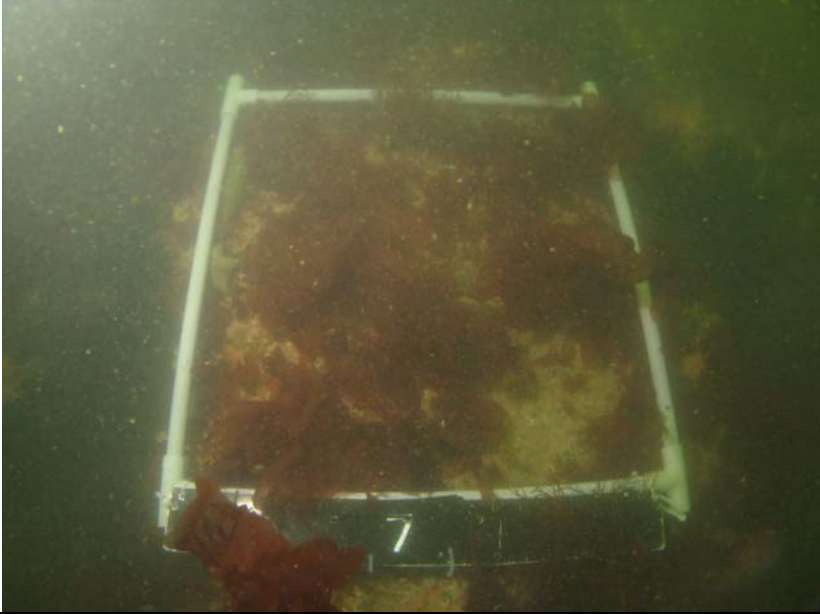
調査日：平成 21 年 5 月 21 日

	生物調査 調査点 C-4 M. W. L. +1.0m
	生物調査 調査点 C-4 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点 C-4 M. W. L. -1.0m

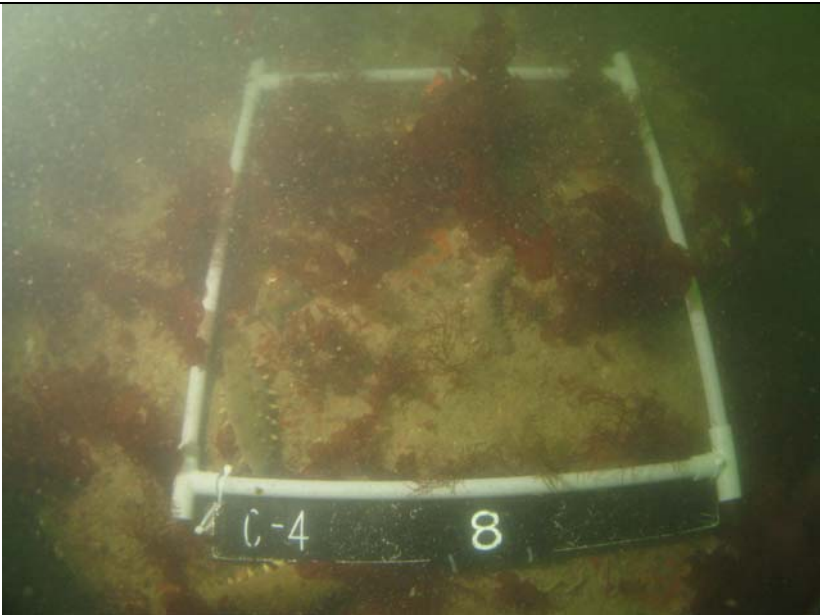
調査日：平成 21 年 5 月 21 日

	生物調査 調査点 C-4 M. W. L. -2.0m
	生物調査 調査点 C-4 M. W. L. -3.0m
	生物調査 調査点 C-4 M. W. L. -4.0m

調査日：平成 21 年 5 月 21 日

	生物調査 調査点 C-4 M. W. L. -5.0m
	生物調査 調査点 C-4 M. W. L. -6.0m
	生物調査 調査点 C-4 M. W. L. -7.0m

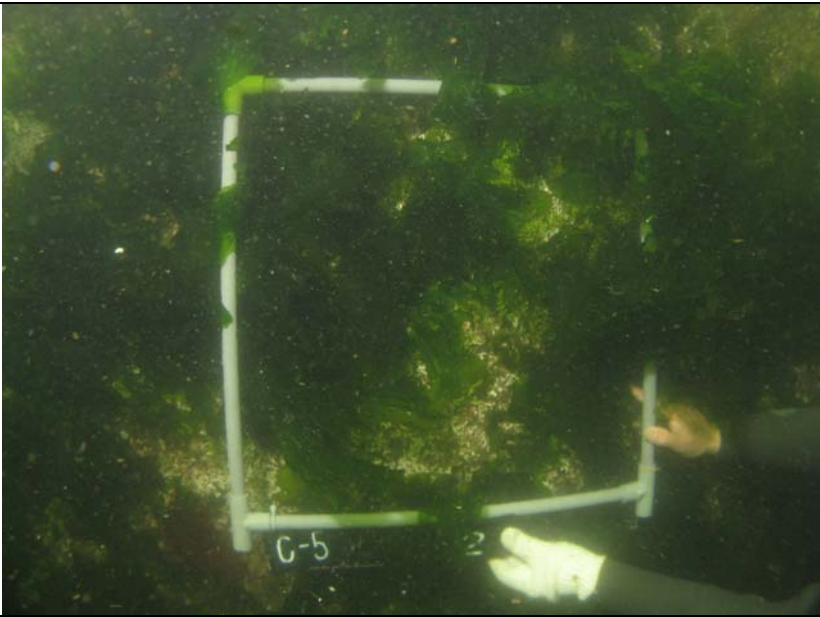
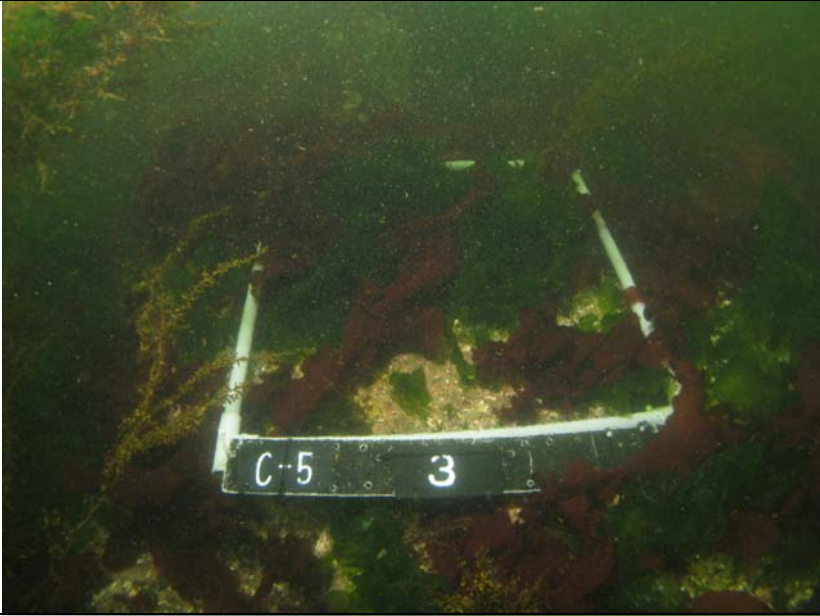
調査日：平成 21 年 5 月 21 日

		生物調査 調査点 C-4 M. W. L. -8.0m
		生物調査 調査点 C-4 M. W. L. -9.0m
		生物調査 調査点 C-4 M. W. L. -10.0m

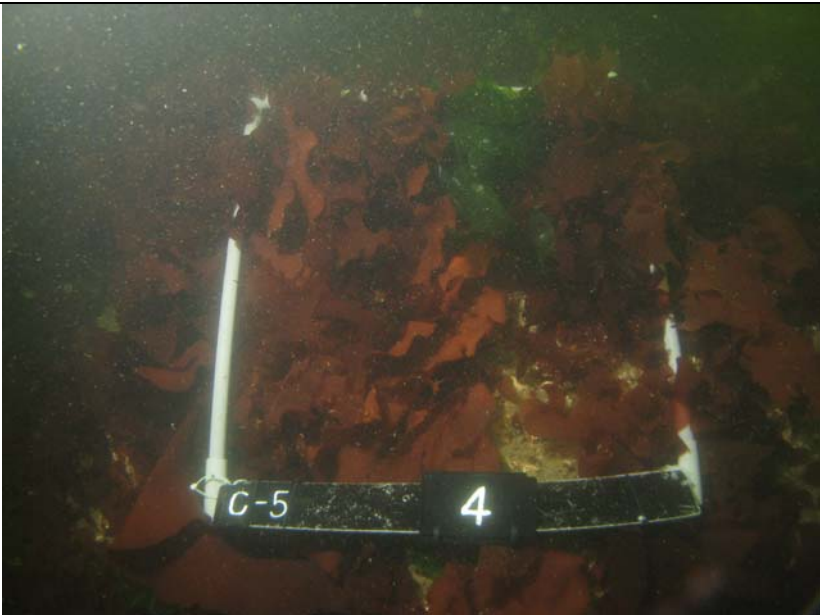
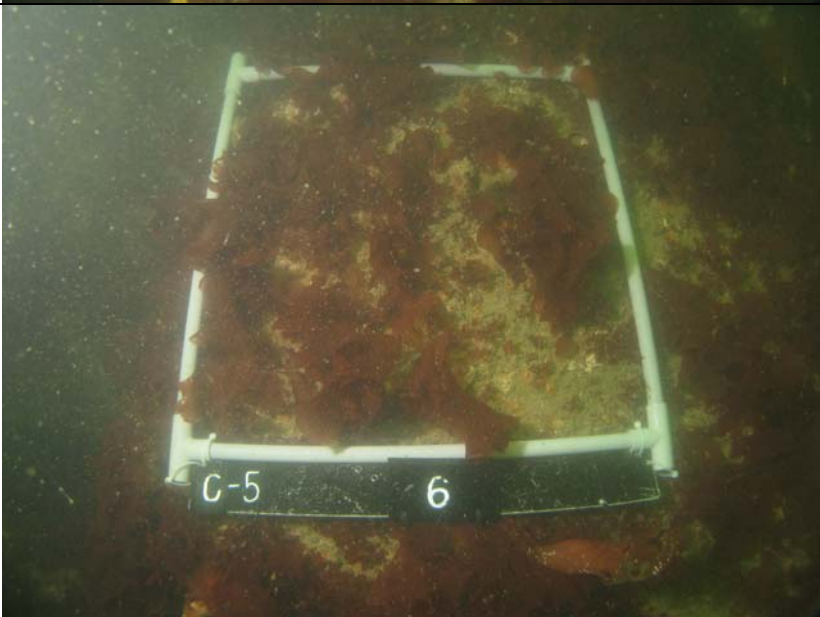
調査日：平成 21 年 5 月 21 日

	生物調査 調査点 C-5 M. W. L. +1.0m
	生物調査 調査点 C-5 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点 C-5 M. W. L. -1.0m

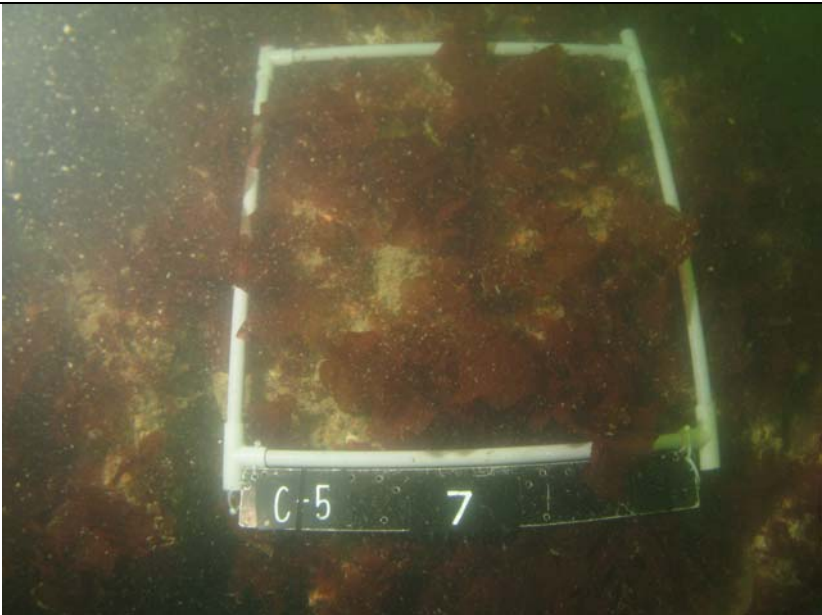
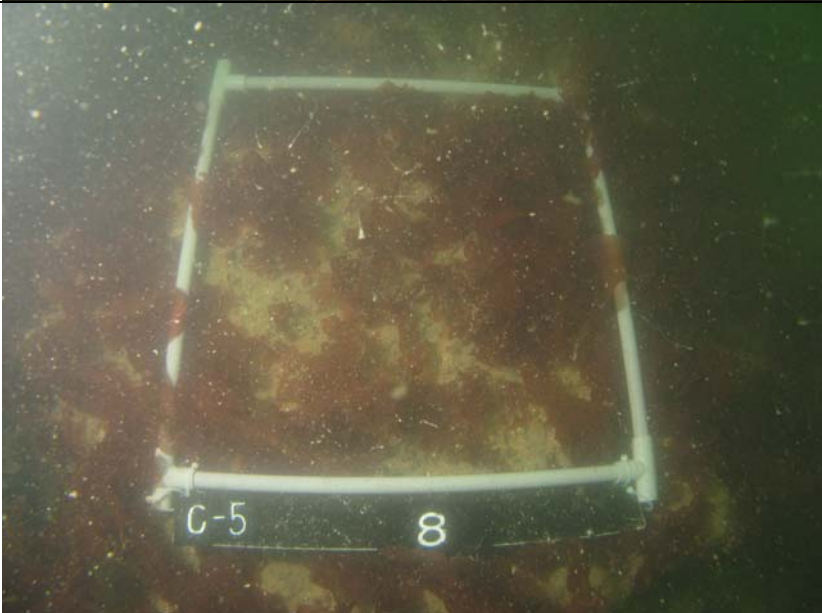
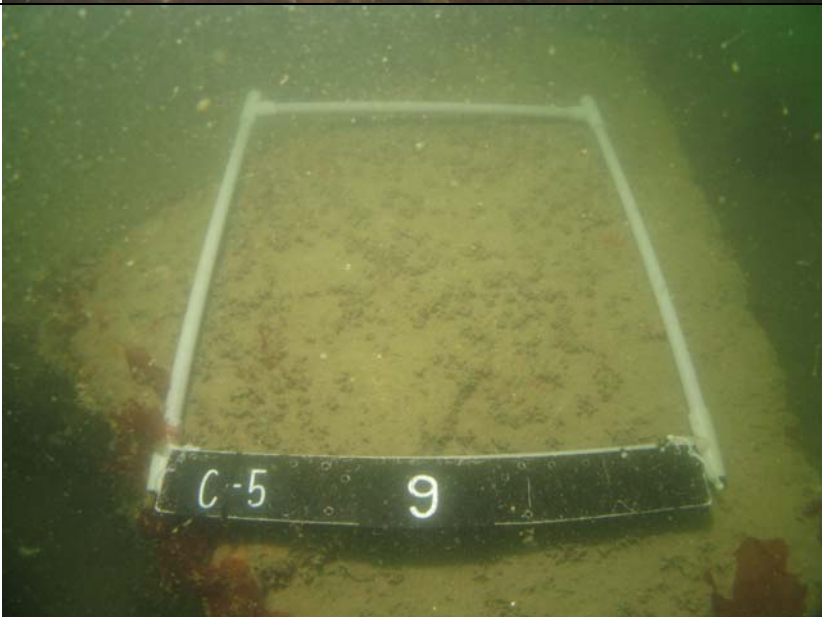
調査日：平成 21 年 5 月 21 日

	生物調査 調査点 C-5 M. W. L. -2.0m
	生物調査 調査点 C-5 M. W. L. -3.0m
	生物調査 調査点 C-5 M. W. L. -3.0m

調査日：平成 21 年 5 月 21 日

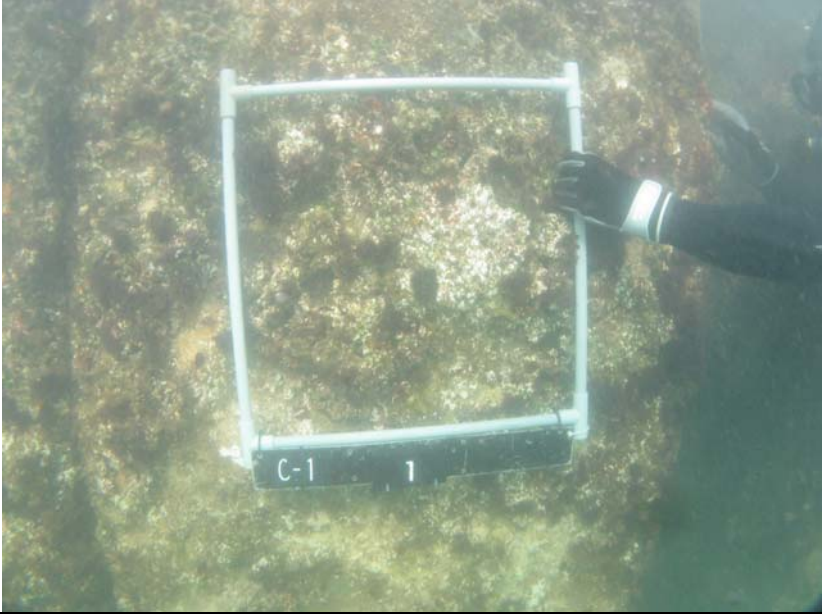
		生物調査 調査点 C－5 M. W. L. －4.0m
		生物調査 調査点 C－5 M. W. L. －5.0m
		生物調査 調査点 C－5 M. W. L. －6.0m

調査日：平成 21 年 5 月 21 日

		生物調査 調査点 C-5 M. W. L. -7.0m
		生物調査 調査点 C-5 M. W. L. -8.0m
		生物調査 調査点 C-5 M. W. L. -9.0m

調査日：平成 21 年 5 月 21 日

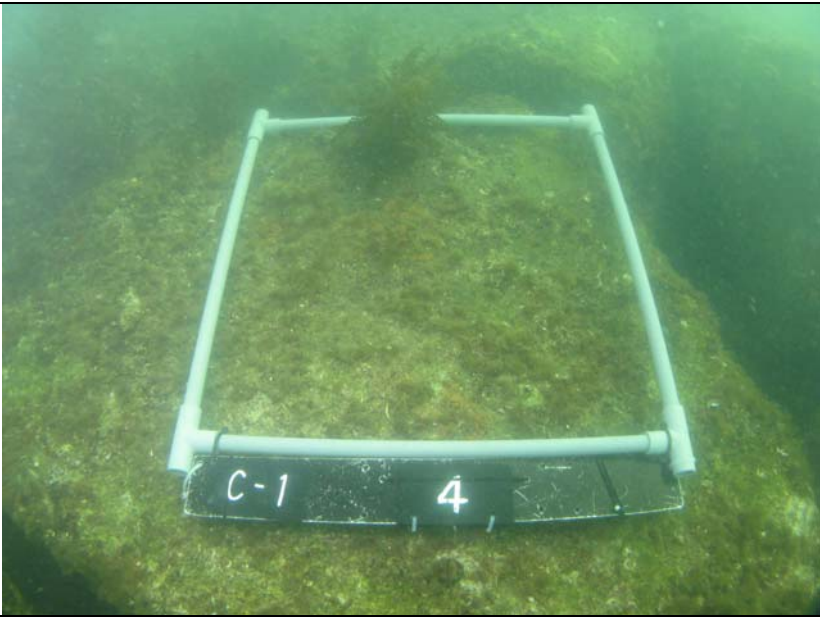
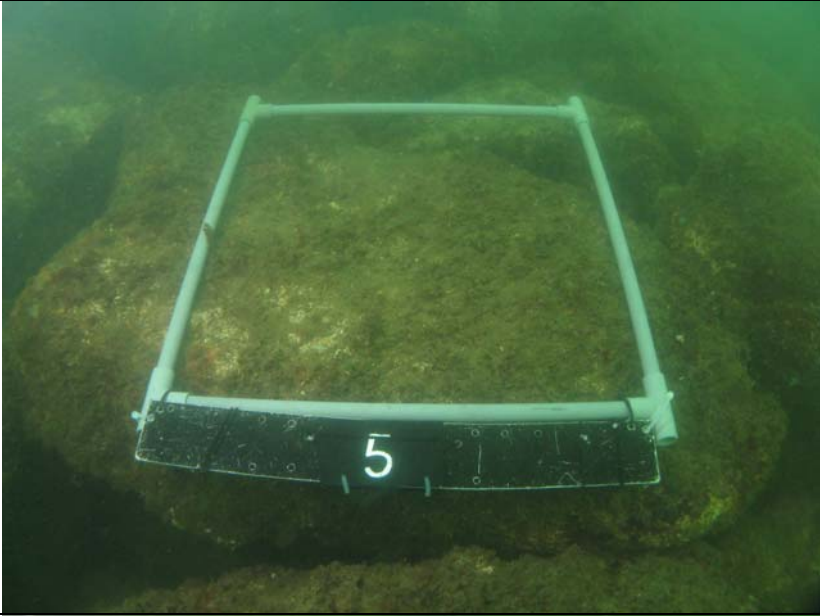
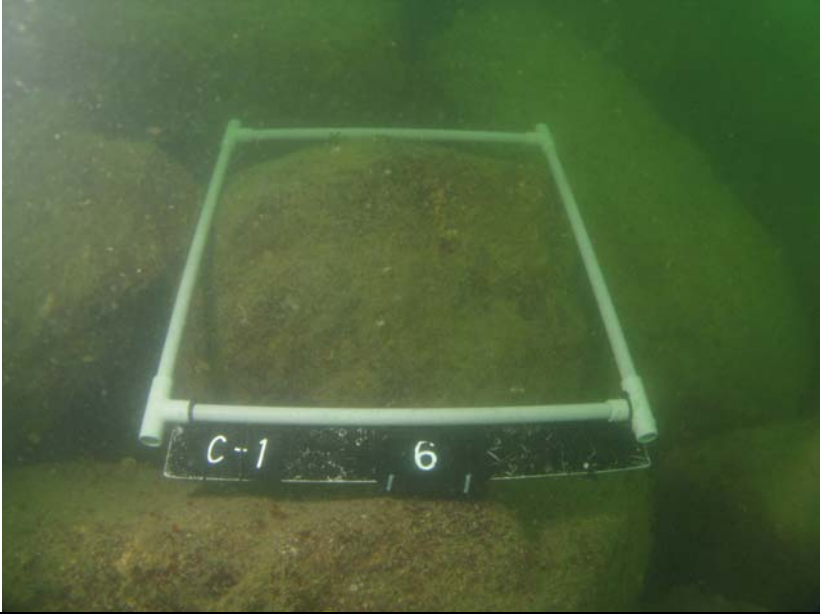
C. 大阪沖処分場
秋季調査
(平成 21 年 11 月 21 日)

	生物調査 調査点 C-1 M. W. L. +1.0m
	生物調査 調査点 C-1 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点 C-1 M. W. L. -1.0m

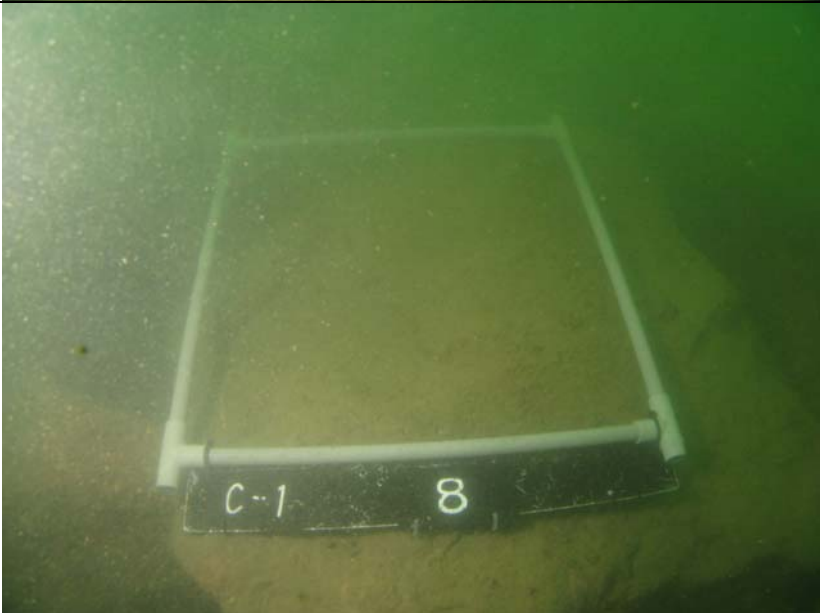
調査日：平成 21 年 11 月 21 日

	生物調査 調査点 C-1 M. W. L. -2.0m
	生物調査 調査点 C-1 M. W. L. -3.0m
	生物調査 調査点 C-1 M. W. L. -4.0m

調査日：平成 21 年 11 月 21 日

	生物調査 調査点 C-1 M. W. L. -4.0m
	生物調査 調査点 C-1 M. W. L. -5.0m
	生物調査 調査点 C-1 M. W. L. -6.0m

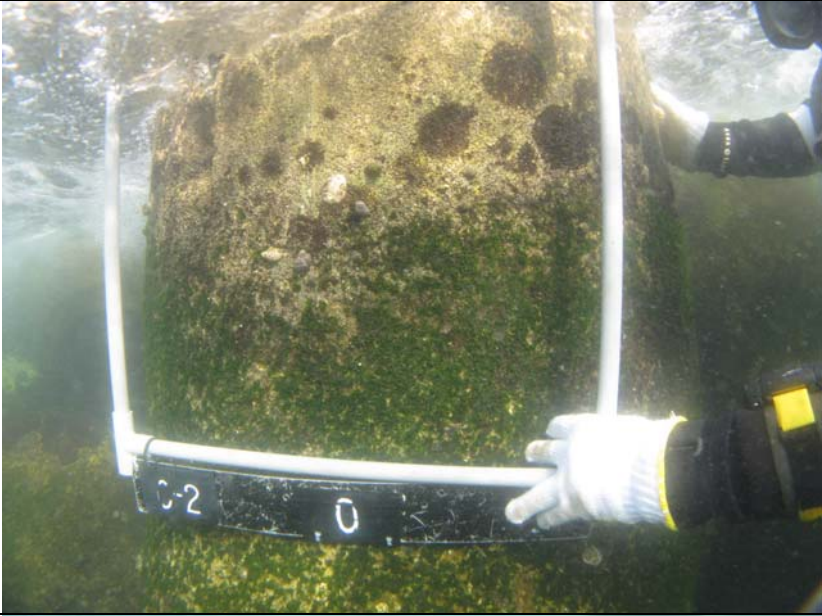
調査日：平成 21 年 11 月 21 日

		生物調査 調査点 C-1 M. W. L. -7.0m
		生物調査 調査点 C-1 M. W. L. -8.0m
		生物調査 調査点 C-1 M. W. L. -9.0m

調査日：平成 21 年 11 月 21 日

	生物調査 調査点 C－1 M. W. L. －10.0m

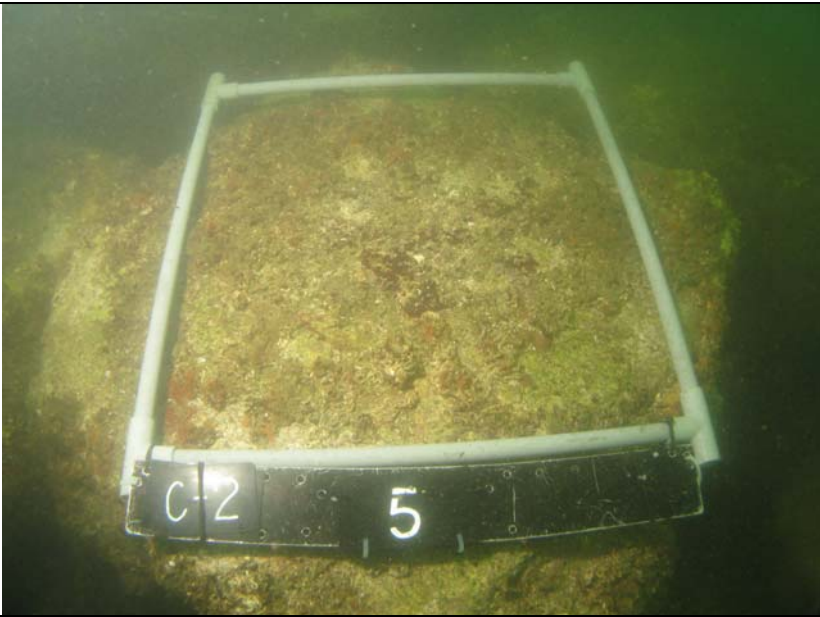
調査日：平成 21 年 11 月 21 日

	生物調査 調査点 C-2 M. W. L. +1.0m
	生物調査 調査点 C-2 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点 C-2 M. W. L. -1.0m

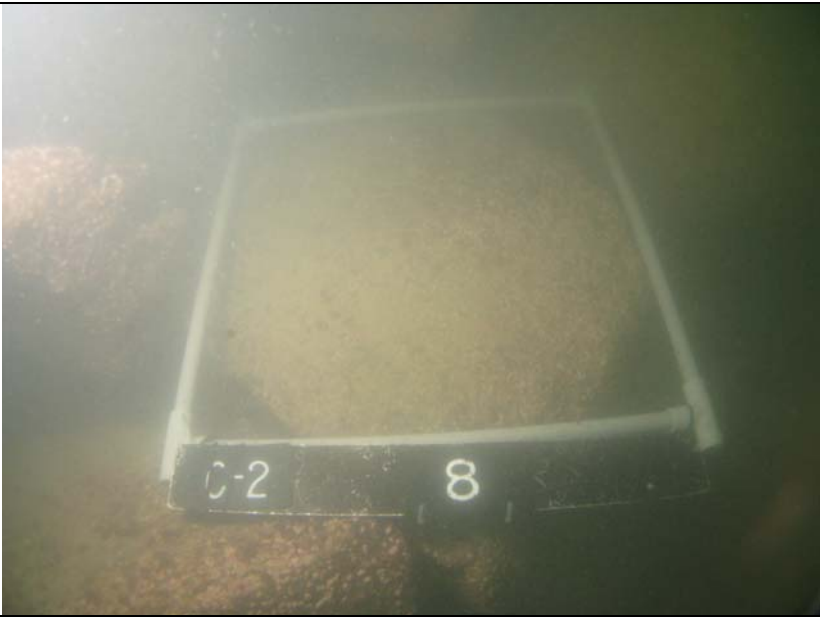
調査日：平成 21 年 11 月 21 日

	生物調査 調査点 C-2 M. W. L. -2.0m
	生物調査 調査点 C-2 M. W. L. -3.0m
	生物調査 調査点 C-2 M. W. L. -4.0m

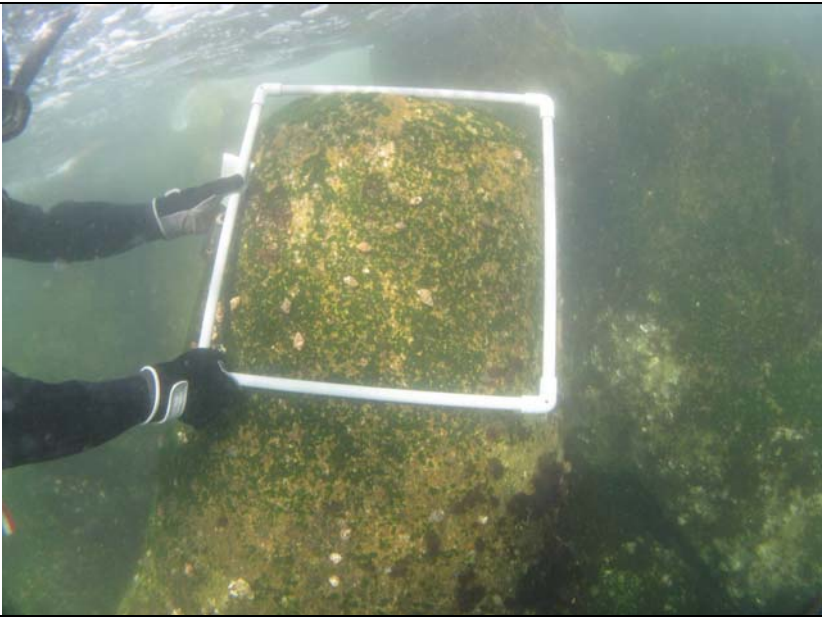
調査日：平成 21 年 11 月 21 日

		生物調査 調査点 C-2 M. W. L. -5.0m
		生物調査 調査点 C-2 M. W. L. -6.0m
		生物調査 調査点 C-2 M. W. L. -7.0m

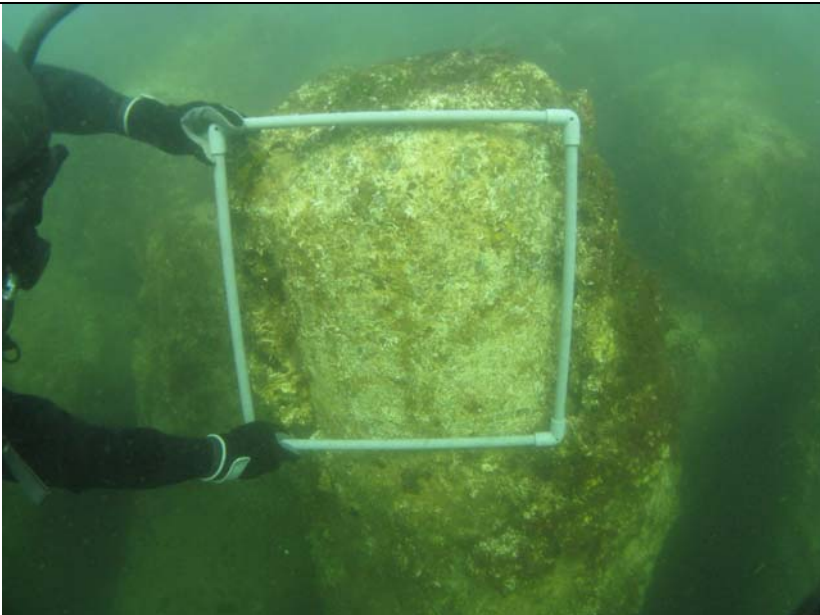
調査日：平成 21 年 11 月 21 日

		生物調査 調査点 C-2 M. W. L. -8.0m
		生物調査 調査点 C-2 M. W. L. -9.0m
		生物調査 調査点 C-2 M. W. L. -10.0m

調査日：平成 21 年 11 月 21 日

	生物調査 調査点 C-2 上層 枠取り前 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点 C-2 上層 枠取り後 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点 C-2 中層 枠取り前 M. W. L. -2.0m

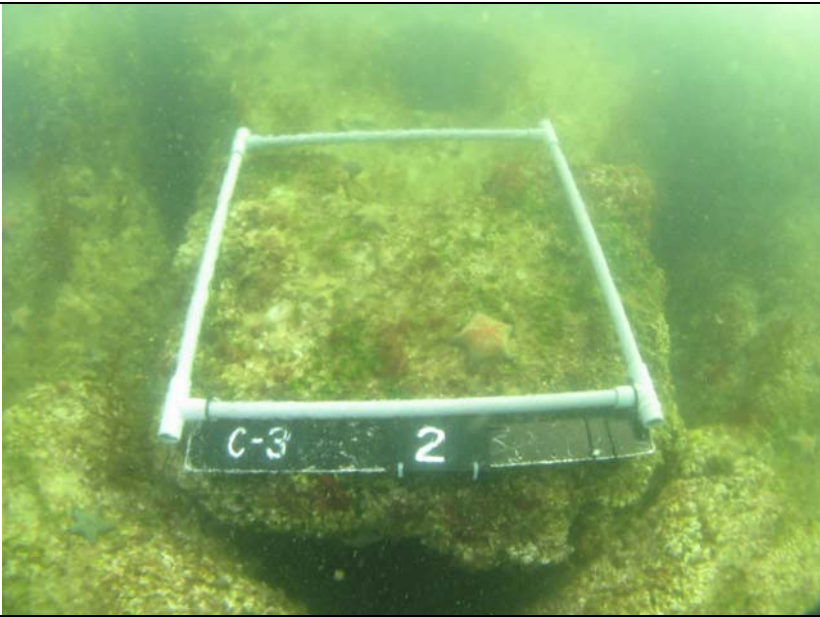
調査日：平成 21 年 11 月 21 日

		生物調査 調査点 C-2 中層 枠取り後 M. W. L. -2.0m
		生物調査 調査点 C-2 下層 枠取り前 M. W. L. -4.0m
		生物調査 調査点 C-2 下層 枠取り後 M. W. L. -4.0m

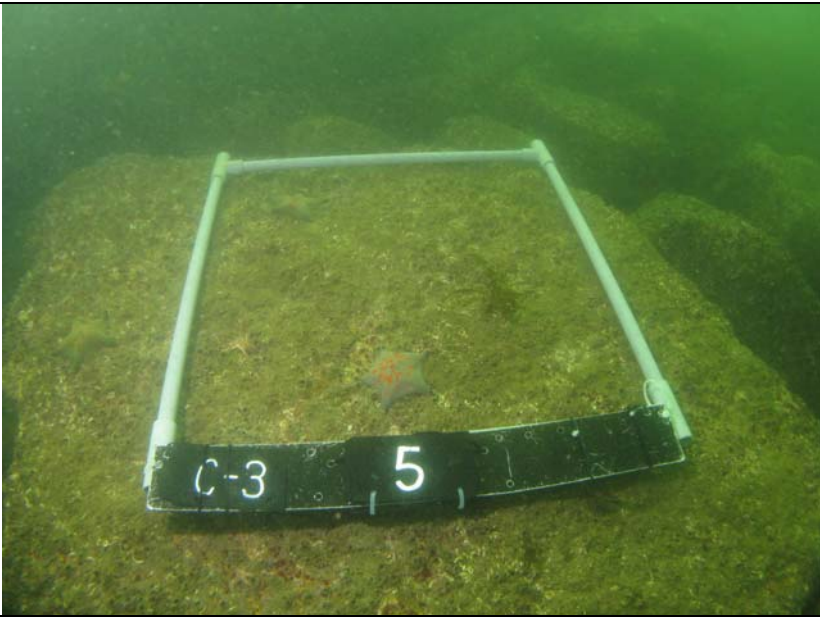
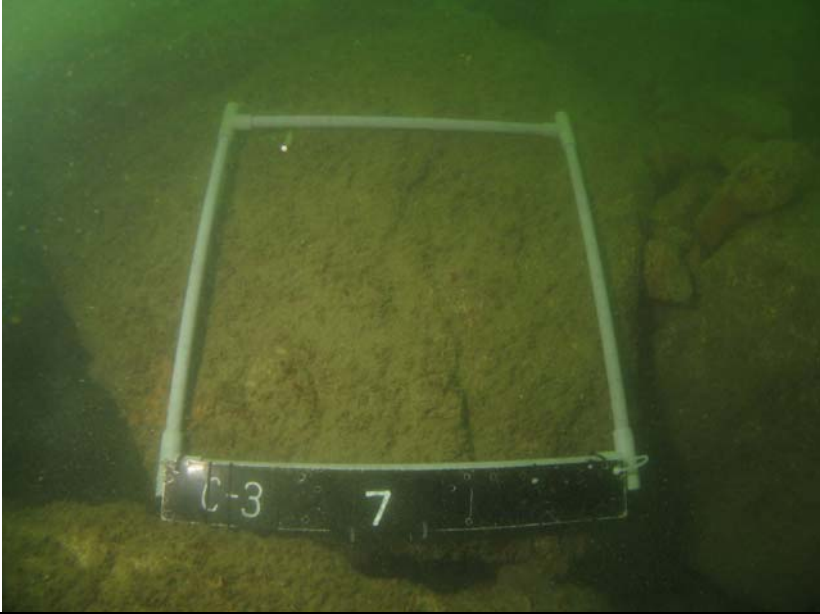
調査日：平成 21 年 11 月 21 日

	生物調査 調査点 C-3 M. W. L. +1.0m
	生物調査 調査点 C-3 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点 C-3 M. W. L. -1.0m

調査日：平成 21 年 11 月 21 日

	生物調査 調査点 C-3 M. W. L. -2.0m
	生物調査 調査点 C-3 M. W. L. -3.0m
	生物調査 調査点 C-3 M. W. L. -4.0m

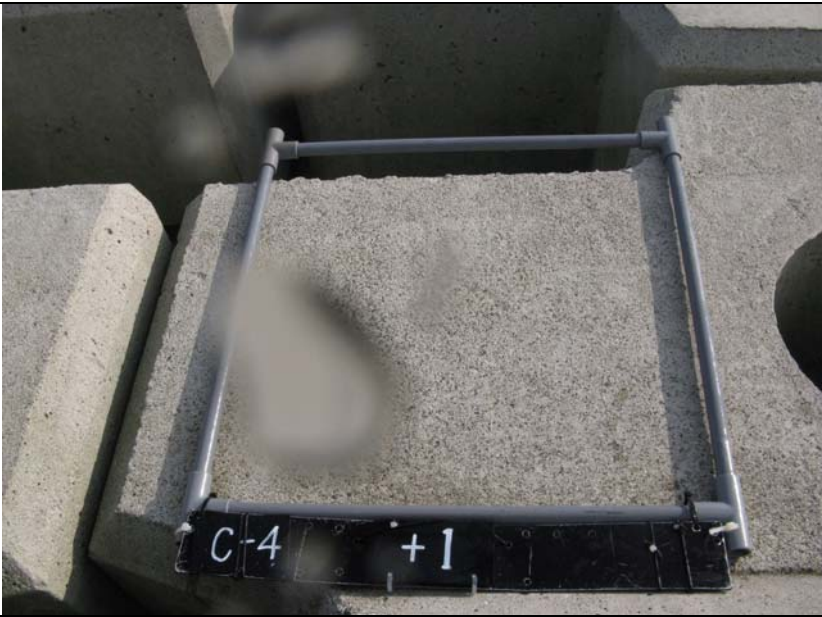
調査日：平成 21 年 11 月 21 日

		生物調査 調査点 C-3 M. W. L. -5.0m
		生物調査 調査点 C-3 M. W. L. -6.0m
		生物調査 調査点 C-3 M. W. L. -7.0m

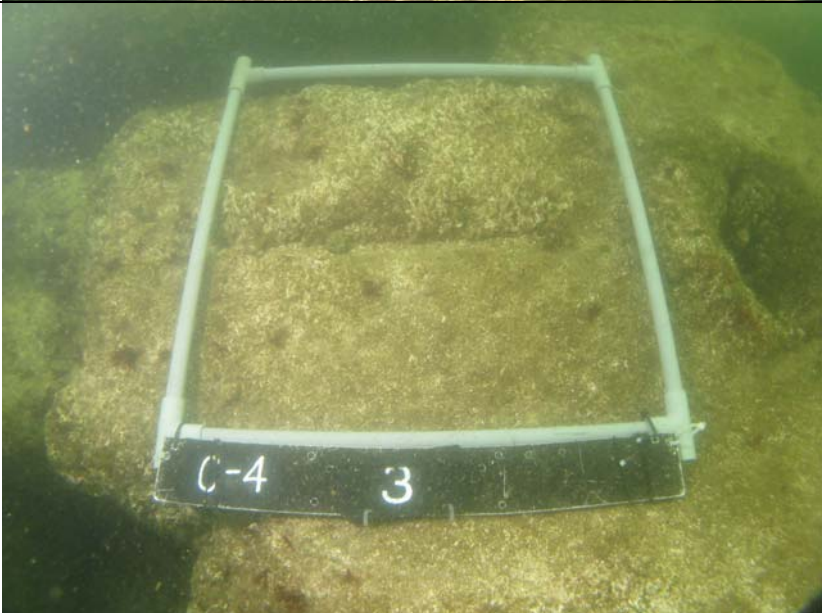
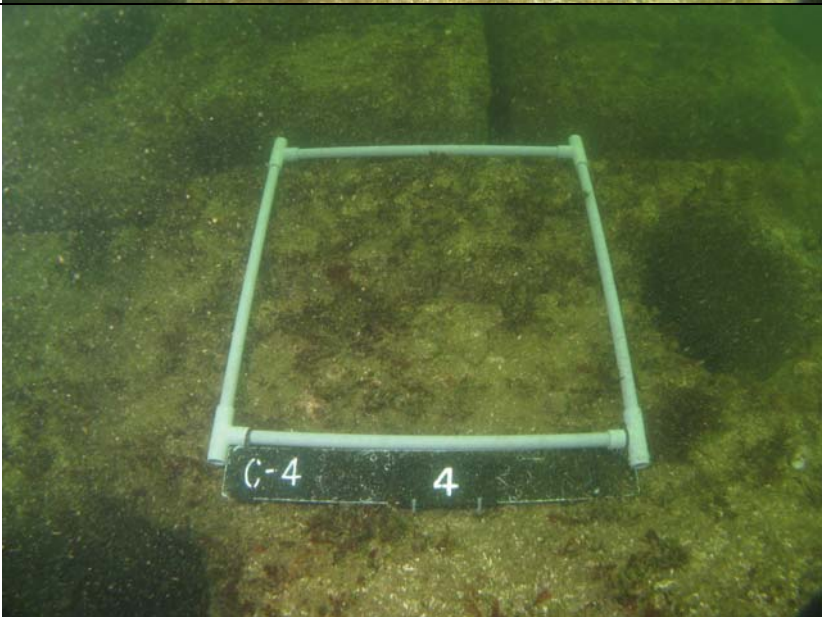
調査日：平成 21 年 11 月 21 日

		生物調査 調査点 C-3 M. W. L. -8.0m
		生物調査 調査点 C-3 M. W. L. -9.0m
		生物調査 調査点 C-3 M. W. L. -10.0m

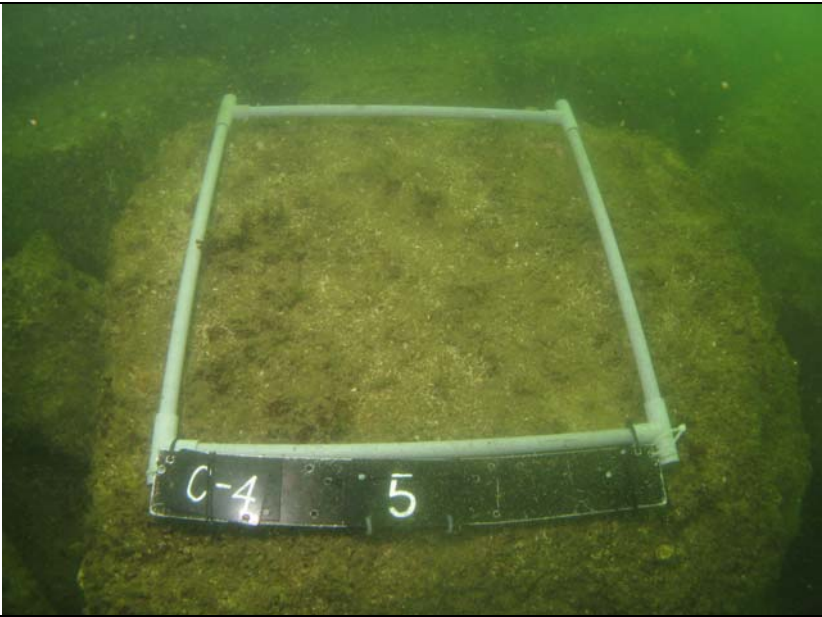
調査日：平成 21 年 11 月 21 日

	生物調査 調査点 C-4 M. W. L. +1.0m
	生物調査 調査点 C-4 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点 C-4 M. W. L. -1.0m

調査日：平成 21 年 11 月 21 日

		生物調査 調査点 C-4 M. W. L. -2.0m
		生物調査 調査点 C-4 M. W. L. -3.0m
		生物調査 調査点 C-4 M. W. L. -4.0m

調査日：平成 21 年 11 月 21 日

		生物調査 調査点 C-4 M. W. L. -5.0m
		生物調査 調査点 C-4 M. W. L. -6.0m
		生物調査 調査点 C-4 M. W. L. -7.0m

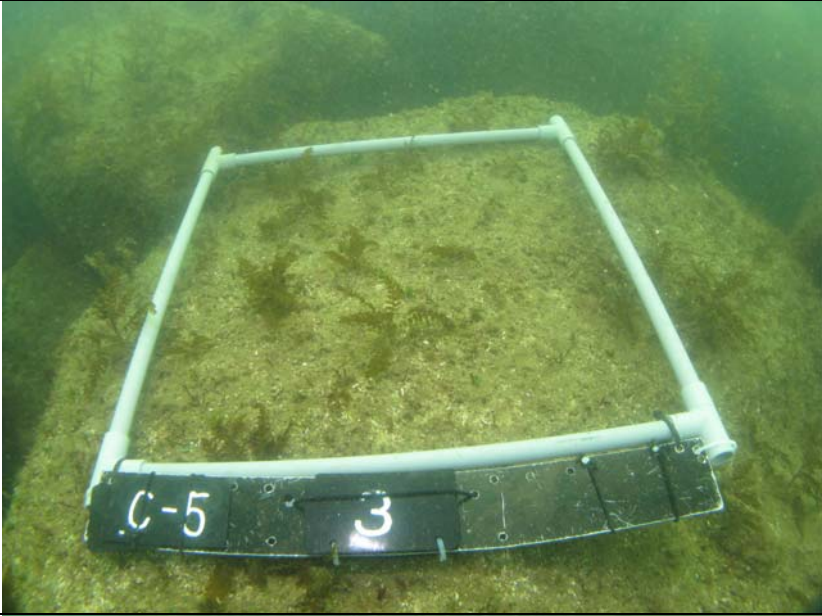
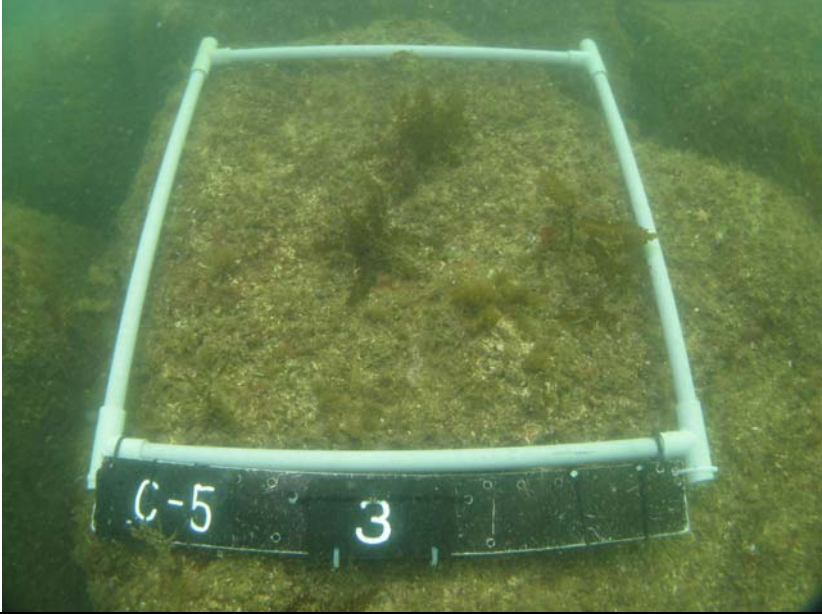
調査日：平成 21 年 11 月 21 日

		生物調査 調査点 C-4 M. W. L. -8.0m
		生物調査 調査点 C-4 M. W. L. -9.0m
		生物調査 調査点 C-4 M. W. L. -10.0m

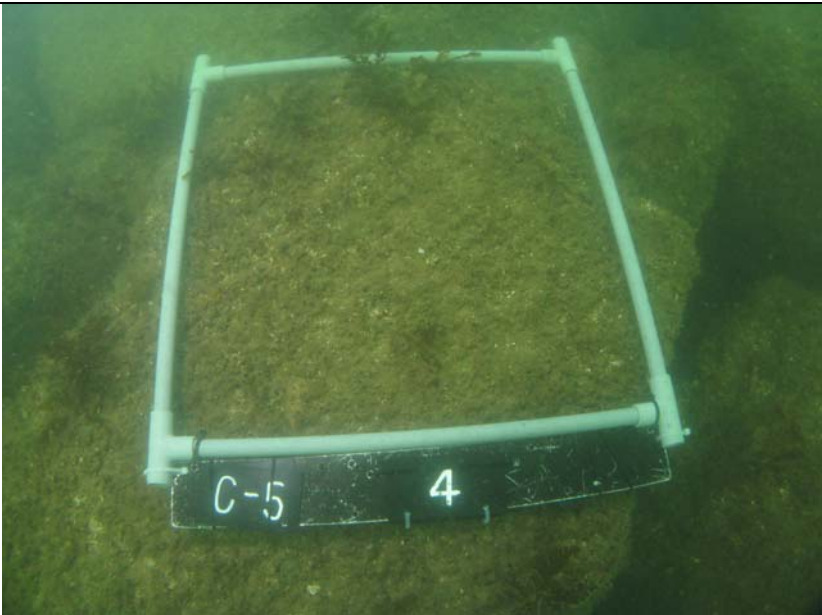
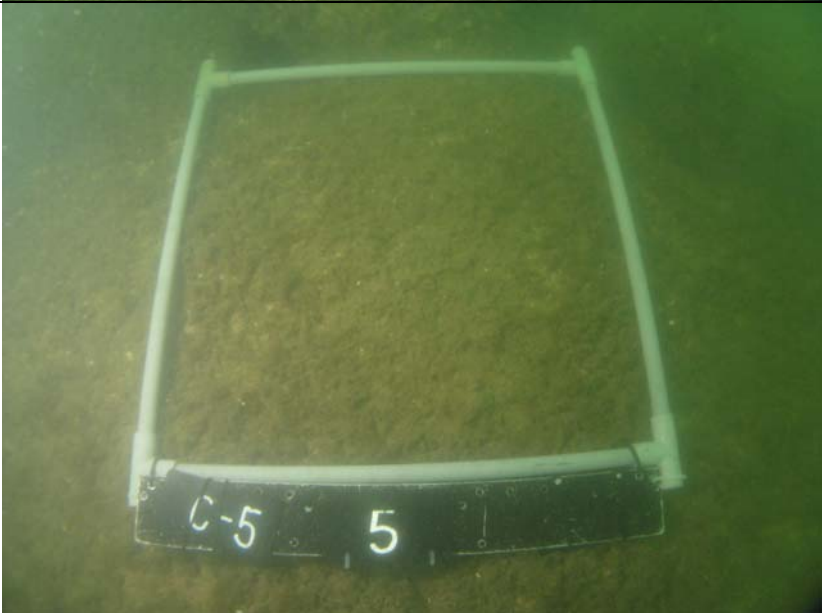
調査日：平成 21 年 11 月 21 日

	生物調査 調査点 C-5 M. W. L. +1.0m
	生物調査 調査点 C-5 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点 C-5 M. W. L. -1.0m

調査日：平成 21 年 11 月 21 日

	生物調査 調査点 C-5 M. W. L. -2.0m
	生物調査 調査点 C-5 M. W. L. -3.0m
	生物調査 調査点 C-5 M. W. L. -3.0m

調査日：平成 21 年 11 月 21 日

		生物調査 調査点 C-5 M. W. L. -4.0m
		生物調査 調査点 C-5 M. W. L. -5.0m
		生物調査 調査点 C-5 M. W. L. -6.0m

調査日：平成 21 年 11 月 21 日

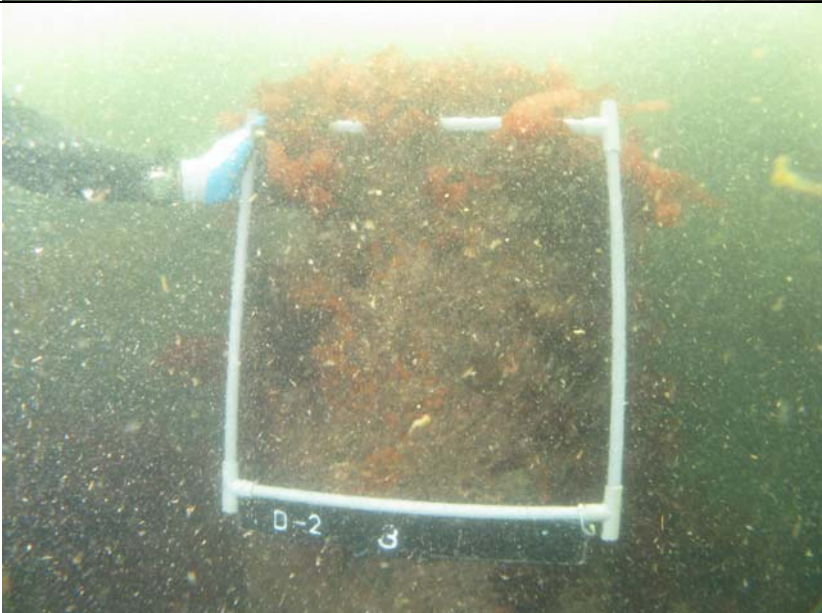
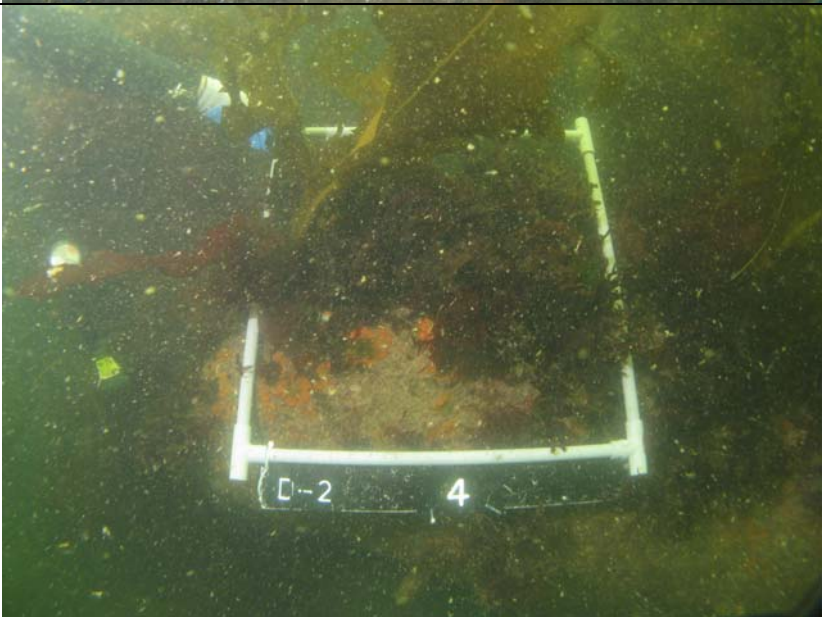
		生物調査 調査点 C-5 M. W. L. -7.0m
		生物調査 調査点 C-5 M. W. L. -8.0m
		生物調査 調査点 C-5 M. W. L. -9.0m

調査日：平成 21 年 11 月 21 日

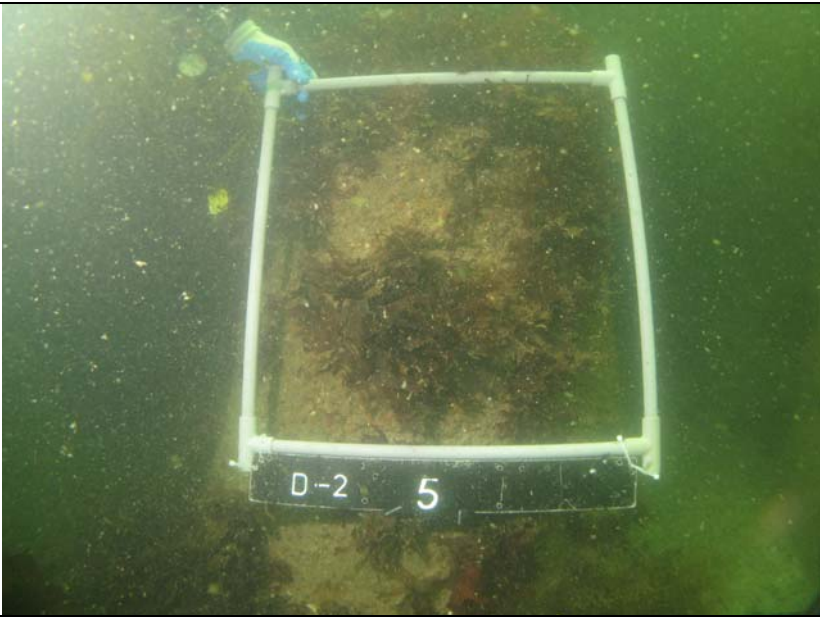
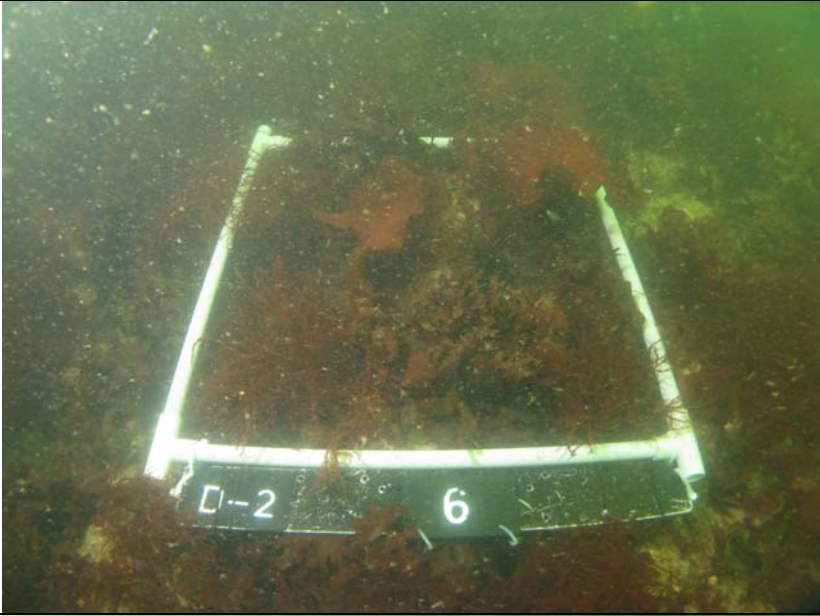
D. 泉大津沖処分場
春季調査
(平成 21 年 5 月 23 日)

	生物調査 調査点 D-2 M. W. L. +1.0m
	生物調査 調査点 D-2 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点 D-2 M. W. L. -1.0m

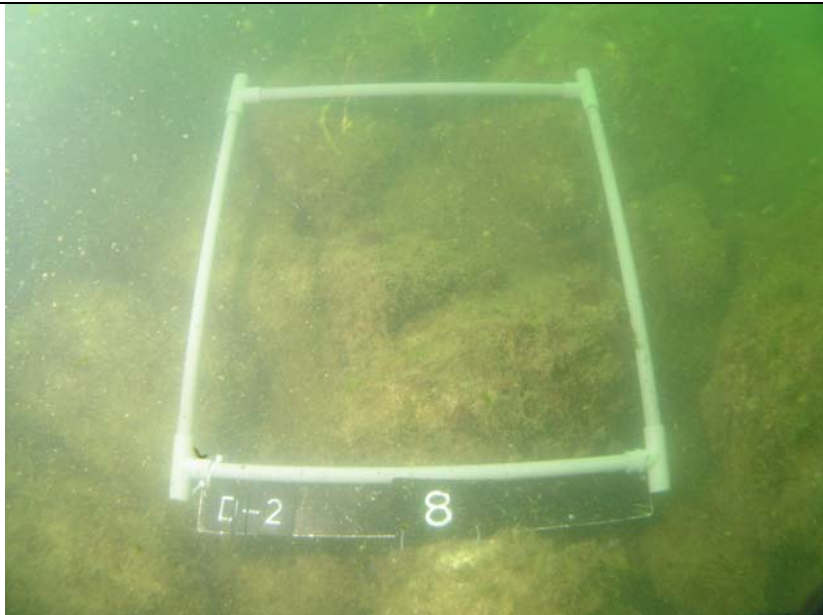
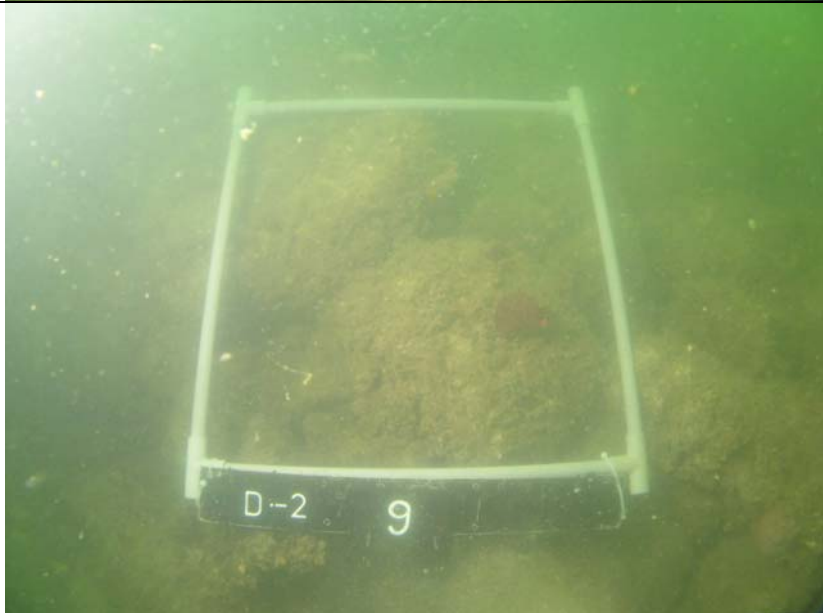
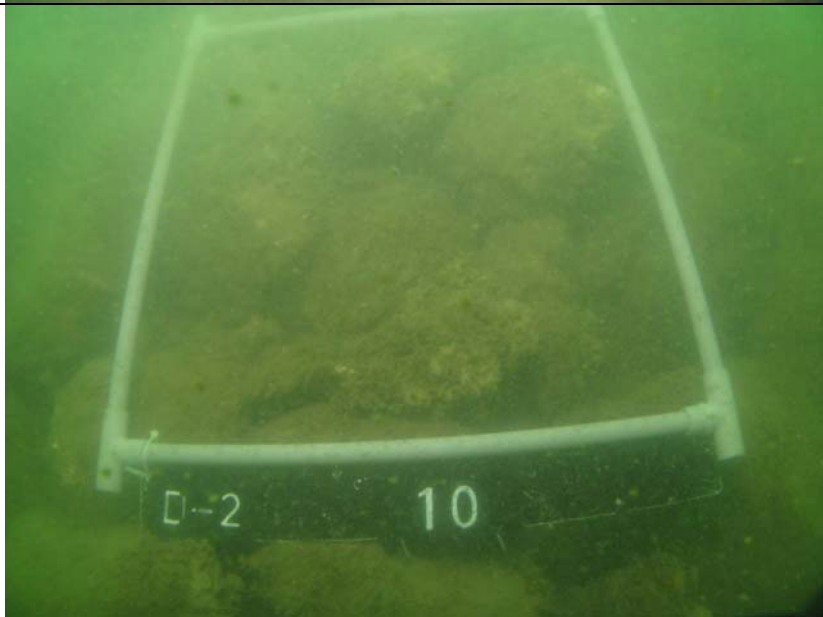
調査日：平成 21 年 5 月 23 日

		生物調査 調査点 D-2 M. W. L. -2.0m
		生物調査 調査点 D-2 M. W. L. -3.0m
		生物調査 調査点 D-2 M. W. L. -4.0m

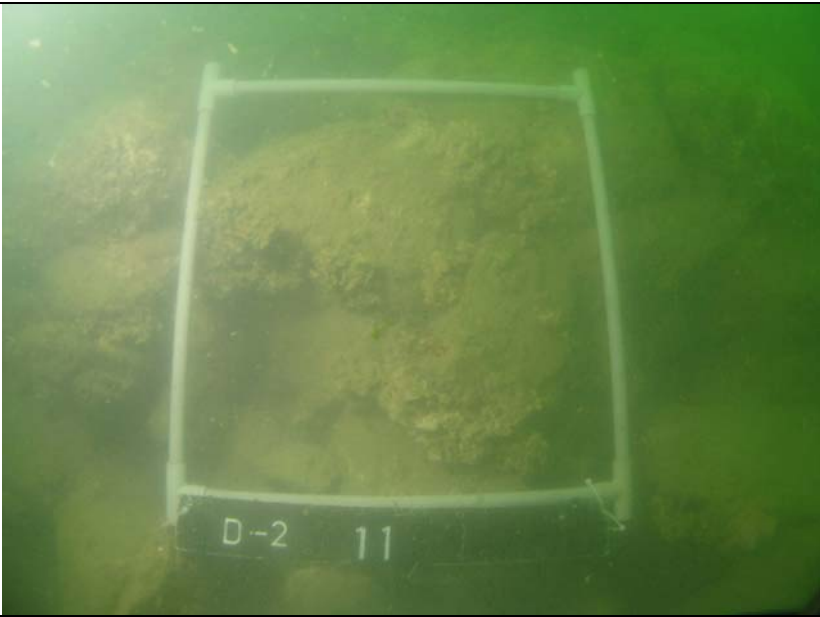
調査日：平成 21 年 5 月 23 日

	生物調査 調査点 D-2 M. W. L. -5.0m
	生物調査 調査点 D-2 M. W. L. -6.0m
	生物調査 調査点 D-2 M. W. L. -7.0m

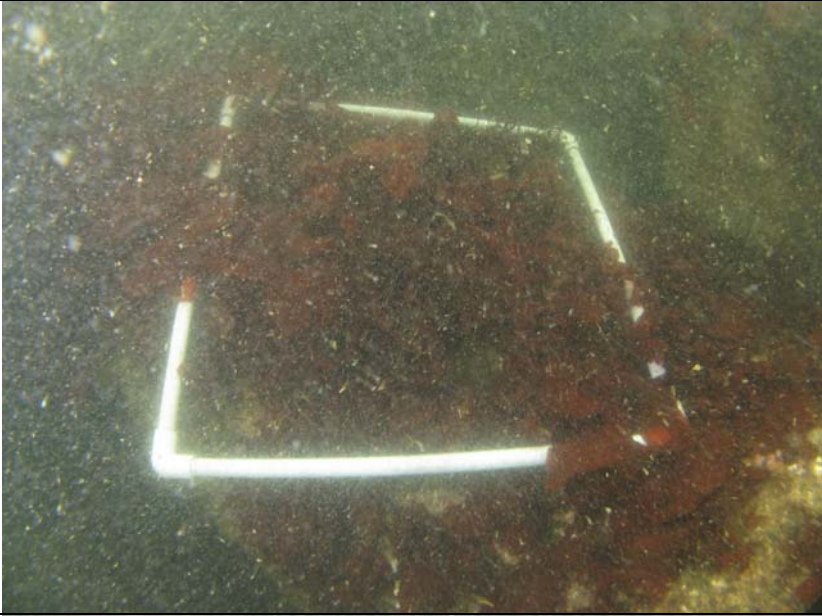
調査日：平成 21 年 5 月 23 日

		生物調査 調査点 D-2 M. W. L. -8.0m
		生物調査 調査点 D-2 M. W. L. -9.0m
		生物調査 調査点 D-2 M. W. L. -10.0m

調査日：平成 21 年 5 月 23 日

	生物調査 調査点 D-2 M. W. L. -11.0m
	生物調査 調査点 D-2 M. W. L. -13.0m
	生物調査 調査点 D-2 上層 枠取り前 M. W. L. ±0.0m

調査日：平成 21 年 5 月 23 日

	生物調査 調査点 D-2 上層 枠取り後 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点 D-2 中層 枠取り前 M. W. L. -2.0m
	生物調査 調査点 D-2 中層 枠取り後 M. W. L. -2.0m

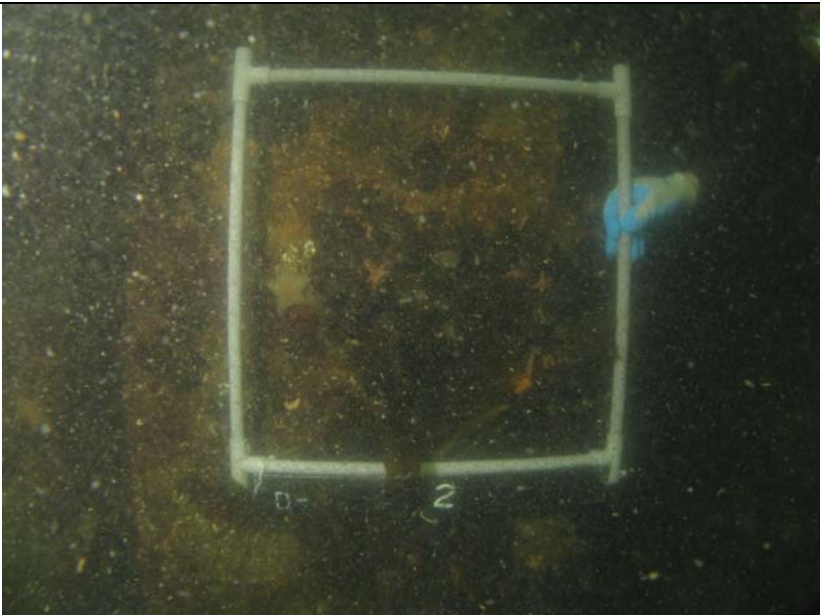
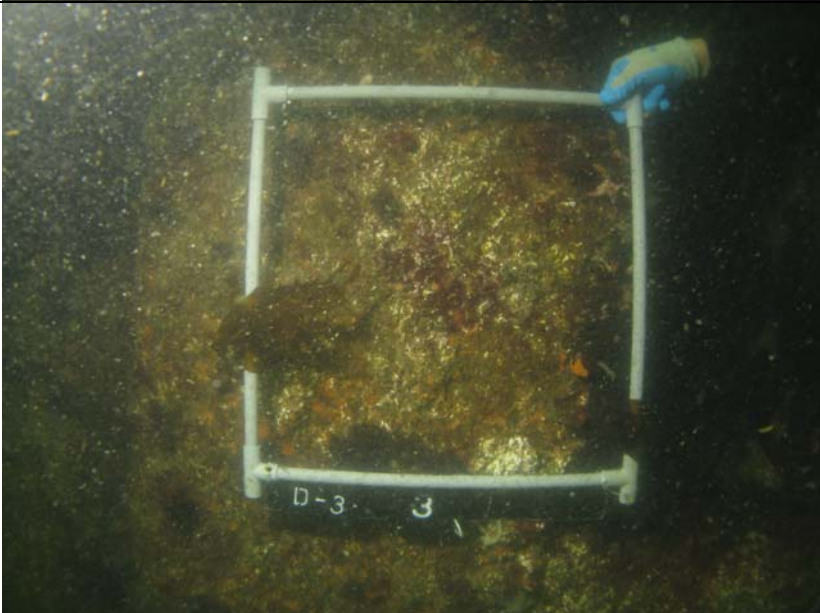
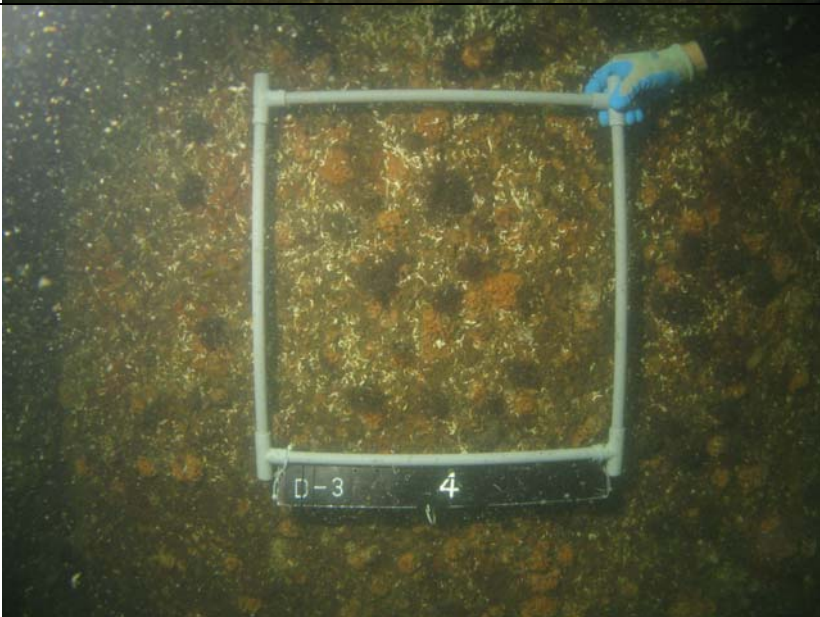
調査日：平成 21 年 5 月 23 日

		生物調査 調査点D-2 下層 枠取り前 M. W. L. -4.0m
		生物調査 調査点D-2 下層 枠取り後 M. W. L. -4.0m

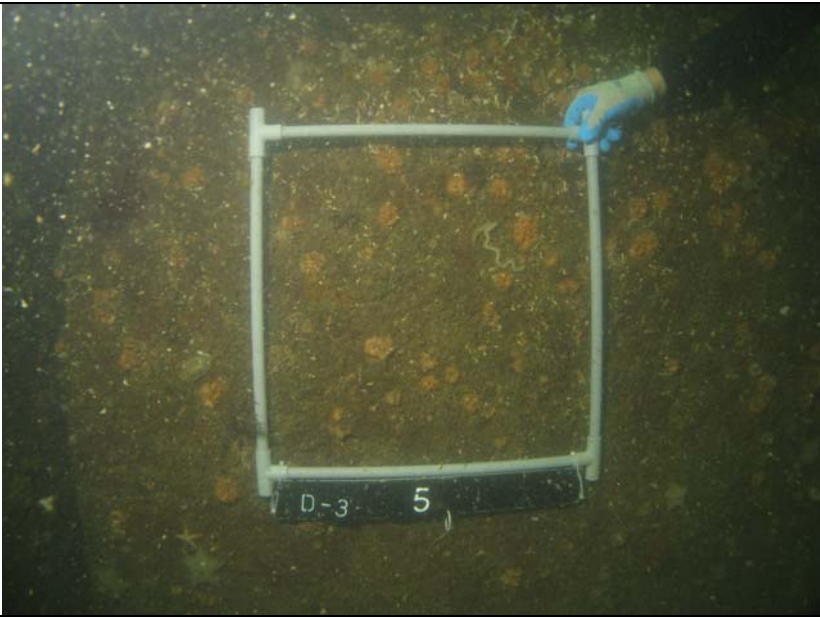
調査日：平成 21 年 5 月 23 日

	生物調査 調査点 D-3 M. W. L. +1.0m
	生物調査 調査点 D-3 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点 D-3 M. W. L. -1.0m

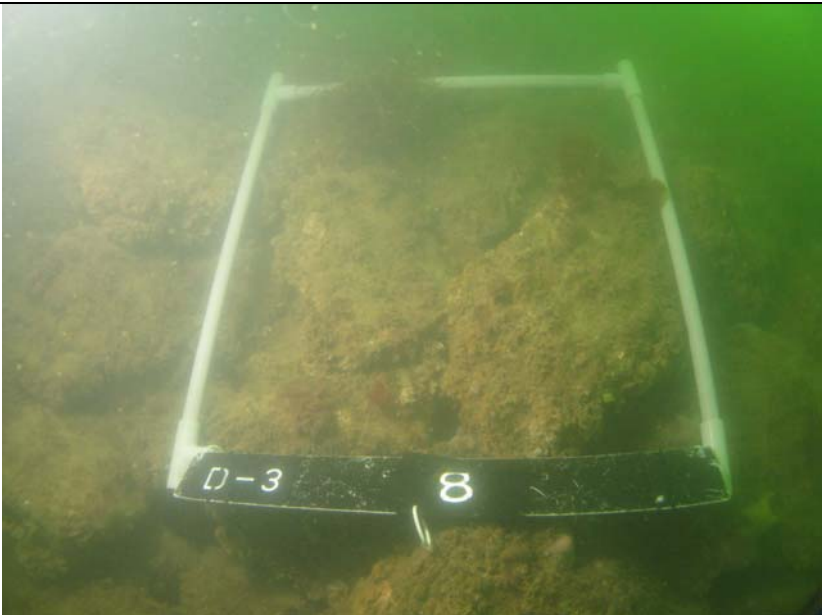
調査日：平成 21 年 5 月 23 日

		生物調査 調査点 D-3 M. W. L. -2.0m
		生物調査 調査点 D-3 M. W. L. -3.0m
		生物調査 調査点 D-3 M. W. L. -4.0m

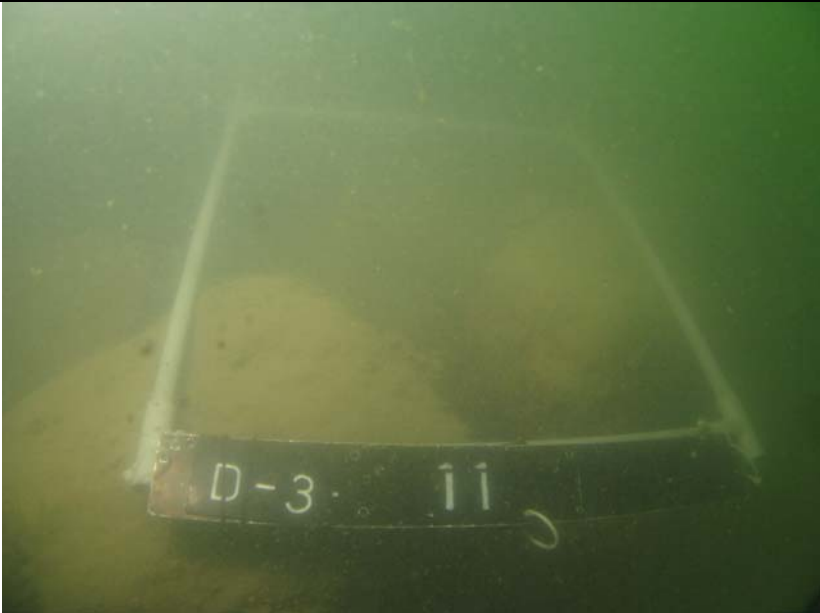
調査日：平成 21 年 5 月 23 日

	生物調査 調査点 D-3 M. W. L. -5.0m
	生物調査 調査点 D-3 M. W. L. -6.0m
	生物調査 調査点 D-3 M. W. L. -7.0m

調査日：平成 21 年 5 月 23 日

		生物調査 調査点 D-3 M. W. L. -8.0m
		生物調査 調査点 D-3 M. W. L. -9.0m
		生物調査 調査点 D-3 M. W. L. -10.0m

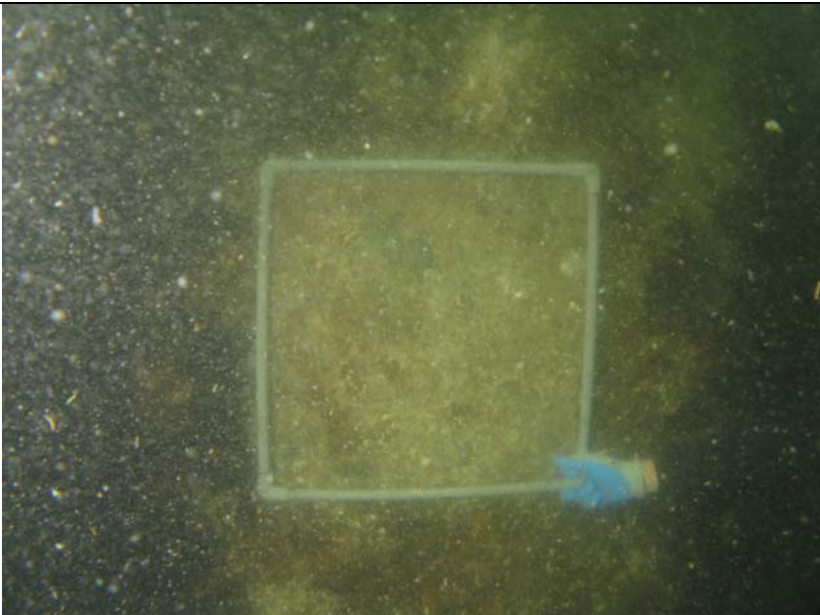
調査日：平成 21 年 5 月 23 日

		生物調査 調査点 D-3 M. W. L. -11.0m
		生物調査 調査点 D-3 M. W. L. -12.0m
		生物調査 調査点 D-3 M. W. L. -13.0m

調査日：平成 21 年 5 月 23 日

	生物調査 調査点 D-3 上層 枠取り前 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点 D-3 上層 枠取り後 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点 D-3 中層 枠取り前 M. W. L. -2.0m

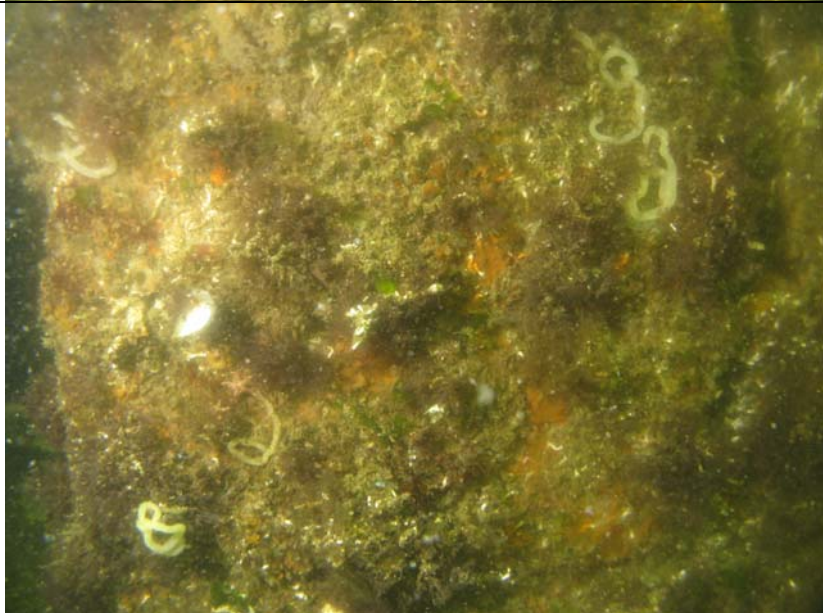
調査日：平成 21 年 5 月 23 日

		生物調査 調査点 D-3 中層 枠取り後 M. W. L. -2.0m
		生物調査 調査点 D-3 下層 枠取り前 M. W. L. -4.0m
		生物調査 調査点 D-3 下層 枠取り後 M. W. L. -4.0m

調査日：平成 21 年 5 月 23 日

	生物調査 調査点 D-5 エコ岸壁 M. W. L. +1.0m
	生物調査 調査点 D-5 エコ岸壁 M. W. L. +1.0~±0.0m
	生物調査 調査点 D-5 エコ岸壁 M. W. L. ±0.0~-1.0m

調査日：平成 21 年 5 月 23 日

		生物調査 調査点 D-5 エコ岸壁 M. W. L. -1.0~-2.0m
		生物調査 調査点 D-5 エコ岸壁 M. W. L. -2.0~-3.0m
		生物調査 調査点 D-5 エコ岸壁 M. W. L. -3.0~-4.0m

調査日：平成 21 年 5 月 23 日

		生物調査 調査点 D-5 エコ岸壁 M. W. L. -4.0~-5.0m
		生物調査 調査点 D-5 エコ岸壁 M. W. L. -5.0~-5.5m
		生物調査 調査点 D-5 遊水室 上室・下面

調査日：平成 21 年 5 月 23 日

		生物調査 調査点 D－5 遊水室 上室・上面
		生物調査 調査点 D－5 遊水室 上室・側面
		生物調査 調査点 D－5 遊水室 下室

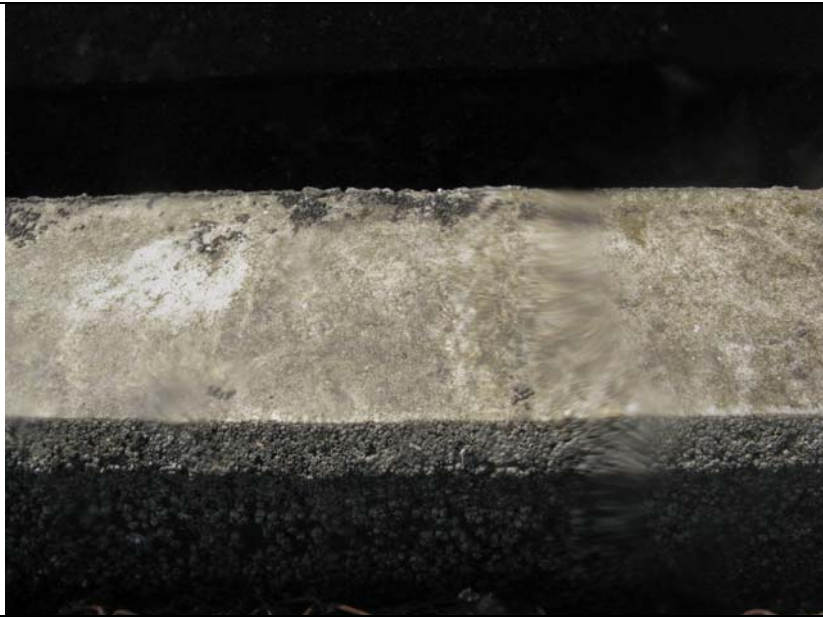
調査日：平成 21 年 5 月 23 日

	生物調査 調査点 D－5 遊水室 下室 クロダイ
	生物調査 調査点 D－5 遊水室 下室・上面
	生物調査 調査点 D－5 遊水室 下室・側面

調査日：平成 21 年 5 月 23 日

	生物調査 調査点 D-5 エコ岸壁 貫通孔 マダコ
	生物調査 調査点 D-5 キュウセン
	生物調査 調査点 D-5 メバル

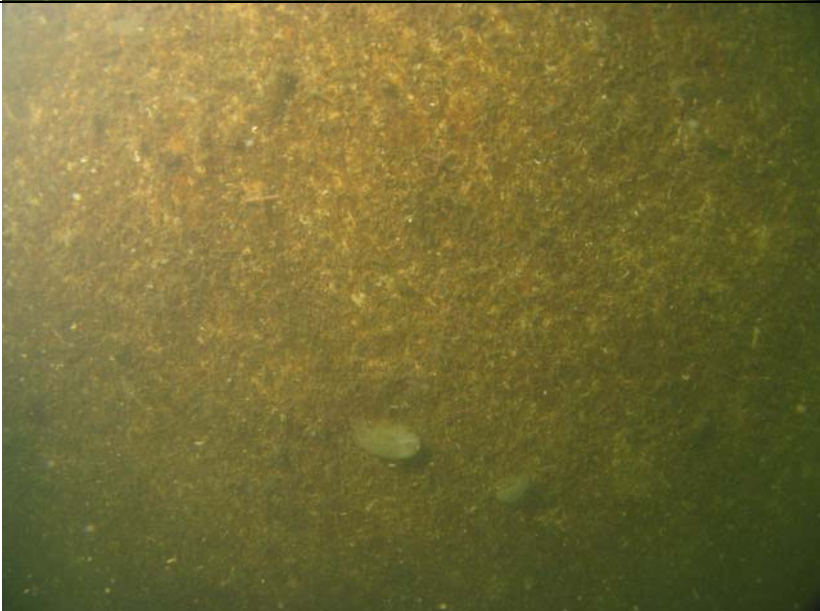
調査日：平成 21 年 5 月 23 日

		生物調査 調査点 D-6 エコ岸壁 M. W. L. +1.0m
		生物調査 調査点 D-6 エコ岸壁 M. W. L. +1.0~±0.0m
		生物調査 調査点 D-6 エコ岸壁 M. W. L. ±0.0~-1.0m

調査日：平成 21 年 5 月 23 日

		生物調査 調査点 D-6 エコ岸壁 M. W. L. -1.0~-2.0m
		生物調査 調査点 D-6 エコ岸壁 M. W. L. -2.0~-3.0m
		生物調査 調査点 D-6 エコ岸壁 M. W. L. -3.0~-4.0m

調査日：平成 21 年 5 月 23 日

		生物調査 調査点 D-6 エコ岸壁 M. W. L. -4.0~-5.0m
		生物調査 調査点 D-6 エコ岸壁 M. W. L. -5.0~-5.5m
		生物調査 調査点 D-6 遊水室 上室・下面

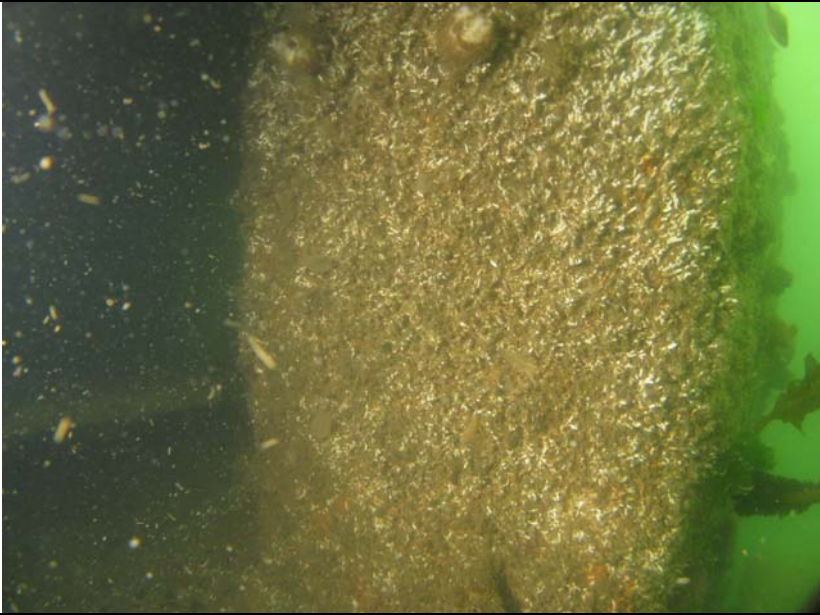
調査日：平成 21 年 5 月 23 日

	生物調査 調査点 D－6 遊水室 上室・上面
	生物調査 調査点 D－6 遊水室 上室
	生物調査 調査点 D－6 遊水室 上室・側面

調査日：平成 21 年 5 月 23 日

		生物調査 調査点 D－6 エコ岸壁 下室
		生物調査 調査点 D－6 エコ岸壁 下室・下面
		生物調査 調査点 D－6 エコ岸壁 下室・下面

調査日：平成 21 年 5 月 23 日

	生物調査 調査点 D-6 エコ岸壁 下室・側面
	生物調査 調査点 D-6 プラント 貫通孔 マナマコ
	生物調査 調査点 D-6 護岸 ワカメ

調査日：平成 21 年 5 月 23 日

		生物調査 調査点D－6 周辺 ワカメ
		生物調査 調査点D－6 水中撮影作業

D. 泉大津沖処分場
秋季調査
(平成 21 年 11 月 17 日)

	生物調査 調査点 D-2 M. W. L. +1.0m
	生物調査 調査点 D-2 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点 D-2 M. W. L. -1.0m

調査日：平成 21 年 11 月 17 日

	生物調査 調査点 D-2 M. W. L. -2.0m
	生物調査 調査点 D-2 M. W. L. -3.0m
	生物調査 調査点 D-2 M. W. L. -4.0m

調査日：平成 21 年 11 月 17 日

		生物調査 調査点 D-2 M. W. L. -5.0m
		生物調査 調査点 D-2 M. W. L. -6.0m
		生物調査 調査点 D-2 M. W. L. -7.0m

調査日：平成 21 年 11 月 17 日

		生物調査 調査点 D-2 M. W. L. -8.0m
		生物調査 調査点 D-2 M. W. L. -9.0m
		生物調査 調査点 D-2 M. W. L. -10.0m

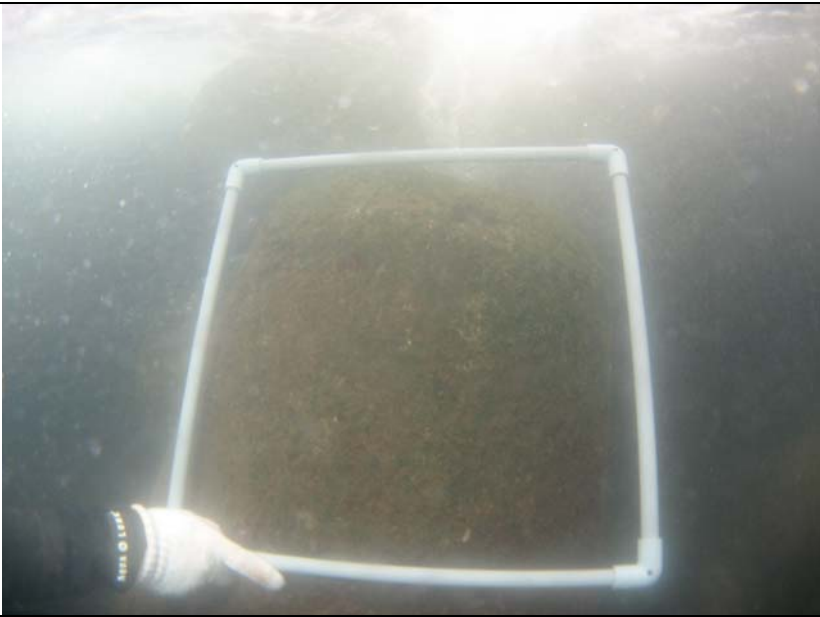
調査日：平成 21 年 11 月 17 日

		生物調査 調査点 D-2 M. W. L. -11.0m
		生物調査 調査点 D-2 M. W. L. -12.0m
		生物調査 調査点 D-2 M. W. L. -13.0m

調査日：平成 21 年 11 月 17 日

		生物調査 調査点 D-2 M. W. L. -3.0m 付近 ウミタナゴ
		生物調査 調査点 D-2 M. W. L. -6.0m 付近 カバノリ
		生物調査 調査点 D-2 M. W. L. -6.0m 付近 サンショウウニ

調査日：平成 21 年 11 月 17 日

	生物調査 調査点D-2 上層 枠取り前 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点D-2 上層 枠取り後 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点D-2 中層 枠取り前 M. W. L. -2.0m

調査日：平成21年11月17日

		生物調査 調査点 D-2 中層 枠取り後 M. W. L. -2.0m
		生物調査 調査点 D-2 下層 枠取り前 M. W. L. -4.0m
		生物調査 調査点 D-2 下層 枠取り後 M. W. L. -4.0m

調査日：平成 21 年 11 月 17 日

	生物調査 調査点 D-3 M. W. L. +1.0m
	生物調査 調査点 D-3 M. W. L. ±0.0m
	生物調査 調査点 D-3 M. W. L. -1.0m

調査日：平成 21 年 11 月 17 日

		生物調査 調査点 D-3 M. W. L. -2.0m
		生物調査 調査点 D-3 M. W. L. -3.0m
		生物調査 調査点 D-3 M. W. L. -4.0m

調査日：平成 21 年 11 月 17 日

	生物調査 調査点 D-3 M. W. L. -5.0m
	生物調査 調査点 D-3 M. W. L. -6.0m
	生物調査 調査点 D-3 M. W. L. -7.0m

調査日：平成 21 年 11 月 17 日

		生物調査 調査点 D-3 M. W. L. -8.0m
		生物調査 調査点 D-3 M. W. L. -9.0m
		生物調査 調査点 D-3 M. W. L. -10.0m

調査日：平成 21 年 11 月 17 日

		生物調査 調査点 D-3 M. W. L. -11.0m
		生物調査 調査点 D-3 M. W. L. -12.0m
		生物調査 調査点 D-3 M. W. L. -13.0m

調査日：平成 21 年 11 月 17 日

		生物調査 調査点D-3 M. W. L. -1.0m 付近 ミドリイガイ
		生物調査 調査点D-3 M. W. L. -4.0m 付近 シロボヤ
		生物調査 調査点D-3 M. W. L. -6.0m 付近 アイゴ

調査日：平成21年11月17日

		生物調査 調査点D-3 上層 採取前 M. W. L. ±0.0m
		生物調査 調査点D-3 上層 採取後 M. W. L. ±0.0m
		生物調査 調査点D-3 中層 採取前 M. W. L. -2.0m

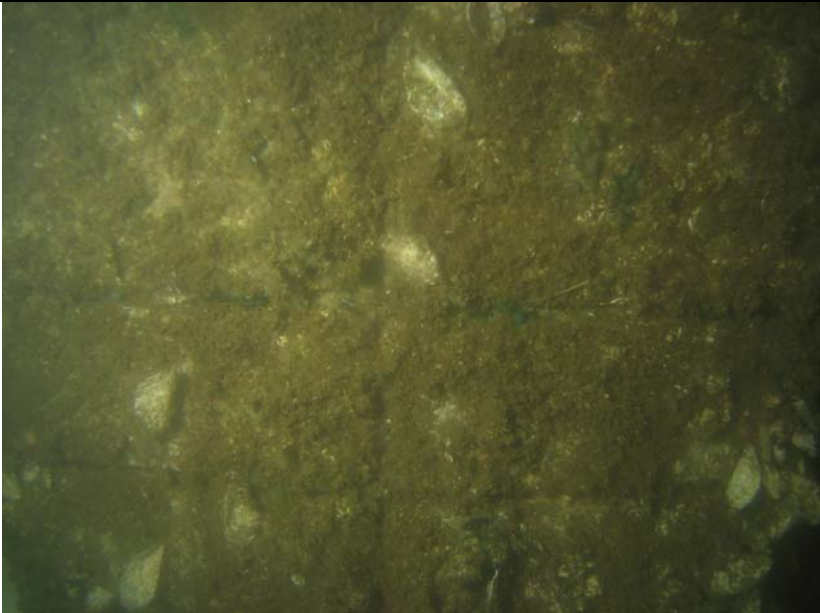
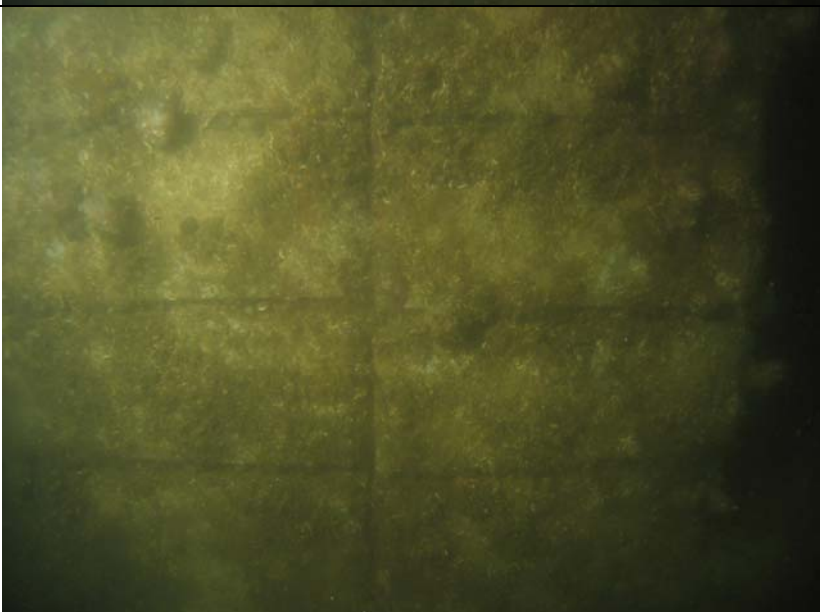
調査日：平成21年11月17日

		生物調査 調査点 D-3 中層 枠取り後 M. W. L. -2.0m
		生物調査 調査点 D-3 下層 枠取り前 M. W. L. -4.0m
		生物調査 調査点 D-3 下層 枠取り後 M. W. L. -4.0m

調査日：平成 21 年 11 月 17 日

		生物調査 調査点 D-5 エコ岸壁 M. W. L. +1.0m
		生物調査 調査点 D-5 エコ岸壁 M. W. L. +1.0~±0.0m
		生物調査 調査点 D-5 エコ岸壁 M. W. L. ±0.0~-1.0m

調査日：平成 21 年 11 月 17 日

		生物調査 調査点 D-5 エコ岸壁 M. W. L. -1.0~-2.0m
		生物調査 調査点 D-5 エコ岸壁 M. W. L. -2.0~-3.0m
		生物調査 調査点 D-5 エコ岸壁 M. W. L. -3.0~-4.0m

調査日：平成 21 年 11 月 17 日

		生物調査 調査点 D-5 エコ岸壁 M. W. L. -4.0~-5.0m
		生物調査 調査点 D-5 エコ岸壁 M. W. L. -5.0~-5.5m
		生物調査 調査点 D-5 遊水室 上室・下面

調査日：平成 21 年 11 月 17 日

		生物調査 調査点 D-5 遊水室 上室・側面
		生物調査 調査点 D-5 遊水室 上室・人工海藻
		生物調査 調査点 D-5 遊水室 下室・下面

調査日：平成 21 年 11 月 17 日

		生物調査 調査点 D－5 遊水室 下室・上面
		生物調査 調査点 D－5 遊水室 下室・側面
		生物調査 調査点 D－5 エコ岸壁 遊水室 メバル

調査日：平成 21 年 11 月 17 日

		生物調査 調査点 D-5 エコ岸壁 貫通孔 マダコ
		生物調査 調査点 D-5 エコ岸壁 周辺 クロダイ
		生物調査 調査点 D-6 エコ岸壁 M. W. L. +1.0m

調査日：平成 21 年 11 月 17 日

		生物調査 調査点 D-6 エコ岸壁 M. W. L. +1.0~±0.0m
		生物調査 調査点 D-6 エコ岸壁 M. W. L. ±0.0~-1.0m
		生物調査 調査点 D-6 エコ岸壁 M. W. L. -1.0~-2.0m

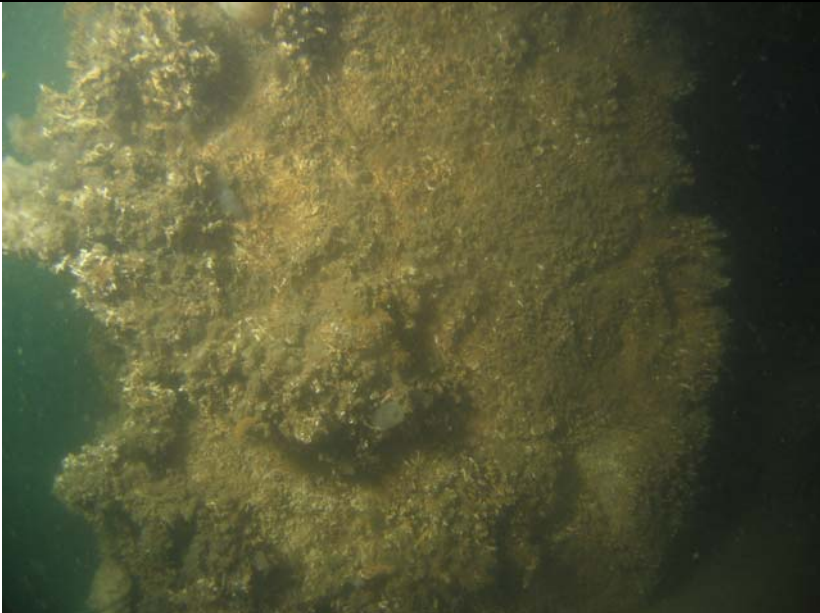
調査日：平成 21 年 11 月 17 日

			生物調査 調査点 D-6 エコ岸壁 M. W. L. -2.0~-3.0m
			生物調査 調査点 D-6 エコ岸壁 M. W. L. -3.0~-4.0m
			生物調査 調査点 D-6 エコ岸壁 M. W. L. -4.0~-5.0m

調査日：平成 21 年 11 月 17 日

		生物調査 調査点 D-6 エコ岸壁 M. W. L. -5.0~-5.5m
		生物調査 調査点 D-6 遊水室 上室・下面
		生物調査 調査点 D-6 遊水室 上室・上面

調査日：平成 21 年 11 月 17 日

		生物調査 調査点 D－6 遊水室 上室・側面
		生物調査 調査点 D－6 遊水室 上室・人工海藻
		生物調査 調査点 D－6 エコ岸壁 下室

調査日：平成 21 年 11 月 17 日

		生物調査 調査点D-6 エコ岸壁 下室
		生物調査 調査点D-6 エコ岸壁 下室 イシガニ

